

4. 自由記述

宮城県

- 東北大は地方国立大として地域社会とのより深い交流を図って、地域の人々に広く門戸を開放すべきだし、地域の企業・学校等と協同し、研究・開発をしなければならぬ反面、全国的な、さらには国際的な視野に立った学問・研究・開発にとり組まなければならないという、あい入れ難い教育・研究の課題を解決しなければならないと思う。地域と世界という二つの間のバランスをうまく調整してさらなる発展・活躍を期待したい。(政治)
- 東北大学の国政への要望を受けるなど、関係強化について努力したい。東北大学が地域社会に貢献するよう、またなによりも人類の進歩のために学問の府として大きく発展されることを切に望んでいます。(政治)
- 問13は難しい設問です。両面を持たざるを得ないのが、今日の大学のおかれている現実なのでしょう。(政治)
- 宮城県、東北地方にとって、東北大学の存在は大変大きいものがある。インテリジェント・コスモス構想の具体的な展開はもとより、今後一層、地域社会に貢献してほしと願っている。(政治)
- 国立大学は国益のため人材を育成し、学研の独創性を堅持すべきと考えます。が、研究のための研究であってはならないと言われてきました。戦後日本経済は発展してきましたが、逆にひずみも生じ現在様々な問題を抱えています。国立大学は政治的にもシンクタンク、オピニオンリーダーとして重要視、期待される存在でなければなりません。そのためには、それぞれの大学が地域社会との交流を通じて、地域住民国民の意識行動がどう変化し、何を求め、どうあるべきかを把握していくことは大切なことと考えます。日本の国民性を信頼し、伝統・文化を尊重する国づくりに、国立大学に期待する大なるものがあります。(政治)
- 東北大学は、学問的なレベル・教職員・学生の質の面で、決して他の国立大学に劣っているとは思わない。しかし宮城・東北の地域性か、東北大学全体の伝統・雰囲気なのか、地味でPR下手。開放感・積極性に欠ける。結局、真の意味の学を修めた者の信念が感じられない。社会正義・公益の実現の為に物事を変革してゆこうとする迫力が感じられないのだ。(政治)
- 東北大学内にも教育部門では地域との交流を教員も含め積極的にすすめるべきと考える。但し研究所所員は世界に通用するような基礎的研究を進めるべきであり、専門家集団として世界的な交流をすべきと考える。(政治)
- 昔は東北大を卒業しても東北に職場がなく、卒業生は関東や関西方面に職を求めて行った。最近では大学も多くなり、東北大の卒業生も多くなり、仙台市にも東北大出身者が多くなりました。東北大は国家的人材養成機関としての流れから地方との関わりがうすかったのですが、現在は県庁・市役所等をはじめ卒業生が幹部として活躍するようになり、又、地方行政と東北大との関わり方も密接になってきております。(政治)
- 私自身関わりが薄く具体的な考え方は特に要領を得ませんが、地域が積極的関わりを持つという事は難しいと思われるので大学自体が自ら社会に溶け込んでいく姿勢が求められるものと思う。(政治)
- 私大と比較した場合、事務に携わる人の対応が極めて悪い。また、教授の中にプライドの高すぎる人がいる。これでは、いくら大学の中で一部の人が地域交流を提案しても、実現は難しいのではないかと。(政治)
- 大学の自治の向上のもとでの基礎的研究の発展と、地域社会への貢献を期待しています。(政治)
- 地域社会に積極的に参加し、大学の持つノウハウを公開されたい。但し、公平な判断のもとに。(政治)
- あまり、地域との交流はないと思います。(政治)
- 東北大学は学都仙台の雄である。産学官だけでなく、より積極的に地域と交流し、仙台・宮城・東北の教育、文化の拠点となることを期待している。(政治)
- 東北大は地域社会との交流にかなり力を入れていると思います。しかし、まだ悪しきエリート主義、悪しきアカデミズムがあるためか、交流の分野が限られているような気がします。今後の一層の御努力に期待します。また、理科系の学部 비해、文科系の学部の動きが目立たないように感じますが、いかがでしょうか？(政治)
- (1)市民の身近かな研究、特に環境問題にとりくんでほしい。(2)市民誰でも、うけることが出来る講座の開催。(3)東北大学の青葉山移転には賛成しかねます。片平キャンパスを整備し、点在している校舎等を一ヶ所ないしは二ヶ所にまとめ、高層化した校舎にし、名実ともに東北大学にすべきだと考える。(4)校舎などに落書きが多い——国民の税金での建物であるからやめさせるべきだ。(政治)
- 行政側は、各セクション別には東北大学との間に一定の交流はあるが、トータルな形で大学に期待する役割、機能についてのビジョンを欠いているのではないかと。(政治)
- 東北大はよくやっているとと思うので、今の程度でいいと思っている。(政治)
- 自治体や企業との共同研究開発をアメリカ並に取組むべきである。ベンチャー企業の育成、強化を望む。(政治)
- これからの、特に国立大学は、市民・県民ほかの共有財産としてお互いに開放しなければならないのではないのでしょうか。お互いの交流が大切だと思います。(政治)
- (1)地域の将来構想、計画に積極的ににかかわること。(2)地域の産業活性化に、大学の頭脳を投入する。(3)新しい時代への大学像を構築する。(政治)
- 地域社会と東北大学との関係や交流については、十分とはいえないのではないかと考えられます。もっと、大学を開放するなり、大学人が地域に入り、市民といろいろ話

- し合いを持つことも大切なことかと考えます。(政治)
- 歴史がある組織は、それなりの権威が在る。その権威がジャマな時がある(東大が一番の例)。権威があるものは、遜る必要がある。(政治)
 - 大いに交流する機会を積極的に計画すべき。(政治)
 - 東北大学は基本的には地域に開かれた面を持つ大学とは思いますが、助手から教授まで多彩な研究者の活躍の場を大学・地域が考えて行くべきと思う。(政治)
 - 国立大学として、地域を超えて活躍する人材の養成を第一義とすべきと考えるが、だからといって全く地域と関わりをもたなくしても良いとは思わない。むしろ、積極的に交流をはかって行くべきと考える。(政治)
 - 21世紀に向けた最高学府としての建学の精神なり未来性を明確にし、指針に向けて汗を流すべきである。(政治)
 - 産学官一体となり、本県を始め東北の全体的進展の為、今後一層の地域間交流促進を図られんことを期待いたします。(政治)
 - 全国的にも素晴らしい大学とっております。(政治)
 - 親しみやすい大学、気楽に足の運べる様な学校、庶民的な雰囲気欲しい。先生方にはおつきあいをすると案外気さくなところがあるが、つきあう機会が少ない(出会いの機会が多くなるよう互いに努めるべきでしょう)。(政治)
 - 私達の研鑽のために、講演又は講演等の講師として活用させて頂ければ大変ありがたいと思いますが、何時もネックになるのが、謝礼の件です。政治、経済、文化、福祉の問題で私達も学習意欲をもっており、それら研修の積み重ねによって、住民の付託に応えられる様な、議会活動や、職員活動を展開する事が責務であり、それには前述の手法が容易に実現すれば、ありがたいと思います。地域社会と東北大学との関係や交流がまず人的な面からとの思いをもっております。(政治)
 - 東北大学は全国的に誇れる大学と想っている。当町に於ても一時大学開放講座等を開催したこともあり身近かに感じている。反面、大学の教員は自治体の要請を待って行動するのではなく、もう少し積極的に地域に出向き日頃の研究成果等を開陳していただきたい。(政治)
 - とっつきにくい感じですが。(政治)
 - 小生は東北大学法学部の卒業生(昭34卒)です。小生らが在学していた当時の法学部は、教授陣の黄金時代といってもよい時代でしたが、その頃の法学部は研究第一主義を標榜しておりました。帝国大学としては後発の大学でしたので当時としてはそれも理解できますが、現在の社会では実務的ないし応用的な面を無視することは許されず、また、地域社会を離れた、超然とした存在であってはいけないと思います。地域社会との交流を図り、地域社会に貢献し、地域社会の文化を全国や世界に発信する大学であってほしいと思います。その点において、東北大学も地域社会もまだまだ努力が不足していると思われまふ。そのためなら我々もその労を惜しみません(かつて、裁判所では、東北大学法学部の留学生との交流-裁判所の見学と懇親-をしていましたが、いつの間にかその会も立ち消えになってしまったのが惜しまれます)。(行政)
 - 地域社会との交流も無視すべきではないが、全国的にさらに一流の大学として研究内容を充実させることを期待する。(行政)
 - アンケートを受けて、自分が東北大についてイメージを持っていないことがわかった。こちらの不勉強もあるかも知れないが、大学側のPR不足もあるのでは？(行政)
 - 仙台市内の事は良く判りませんが、矢本町という地方にありますと、東北大学の顔というものは、ほとんど見当りません。仙台市にはあるとすれば、それは大都市集中ということだと思います。ただ全国的に見れば、私の友人・知人で東北大出身の方が御活躍されていますが、県内の地方には残念ながら関係・交流は、ほとんど無いと思います。(行政)
 - 学問的な発展のため、教員も学生も積極的に地域社会と交流すべきである。(行政)
 - 東北大学の関係者は、地域社会から種々の面で、優遇されているのであるから、施設や情報等を、積極的に地域に提供していくべきである。(行政)
 - 川内キャンパスにセクトのアジトがあるのか、学舎窓にセクトの宣伝ビラが貼られ、またときどき警察官(私服)との追いかっけっこをしている。学生にしっかり勉強させてほしい。人間教育に力を入れてほしい。(行政)
 - 単に宮城県の為だけを考える必要はないが、地域とのかわりを念頭に入れておく必要はある。(行政)
 - 職業上、関係している分野での研究水準は、国際的、国内的にあまり高くない印象であり、活性化が期待される。当所(国立試験研究機関)と東北大学との関係は、学生の受け入れ等、当所側の貢献度が高い。本来、大学が行うべき教育、指導を外部の試験研究機関に安易に頼る気来あり。(行政)
 - 教授の昇進について、旧国立大学(帝大)出身という壁があることは残念なことです。(東北)大学と地域社会との関係、交流はある程度は必要と思うが、大学の使命を外れてはならないと思います。これは現在の学校制度に問題もあるが(小学→大学への過程、大学の使命は教育か研究か)。(行政)
 - 地域の発展に尽くすために、地域の大学人・地域の教養人・地域のオピニオンリーダーとして地域の行き方等について発言していく。グループでもよいし、個人でもよい。要は積極的に発言していくことが大事であり、積極的に発言していることを地域の人々に見せることが大事である。そのためには招かれるのを待つのではなく、積極的に投書あるいは意見広告、さらには独自にシンポジウム等企画立案していくべきである。その予算獲得のため、あちこちに働きかけ汗をかくことが大事である。また地域の発展に資するために常に辛口の意見を発表していくには、日本全体の行政・経済等の方向を見極めていく必要がある。それを踏まえ、その上その地域の特徴が付け加わって、ものごとが言い出されるべきである。このため日本全体についても、その行くべき方向等についても意見を述べていくことは当然となる。そしてその

両方を行うことが、知識人としての責務であり、地域にも全国にも、より影響力を与え易くなるのである。以上のことが基本的な考え方であり、このことを基本にして、あらゆる活動を組み立てていくことが大事である。目的意識・行動意義・活動結果の評価等具体的なものは多々あるが、それらが全て上記の基本的考え方に明快に結び付けられることが大事である。(行政)

- 人材が他地域(首都圏)に流出するのは惜しい。大企業が地元になく、公務員くらいしか残っていないのではないか。せめて地元の高校を卒業した者くらい、地元の発展に尽す心懸けを持ってもらいたい。公開講座等市民教養の高揚に資してもらいたい(以前は放送講座をやっていたが現在はあるのかな?)。(行政)
- 研究の成果ばかりでなく、現在どのような研究がなされているか等をもっと広く一般的に周知されることを期待する。(行政)
- 東北は資源が豊かである。東北大は、東北の産業・経済発展の中核として、大いに機能を発揮されたい。(行政)
- 片平キャンパスについては、よく環境と調和がとれており、歴史的文化的に永く保存されるべきものと考えております。ぜひ存続をしていただきたい。(行政)
- 本来の教育研究に重点を置きつつも、大学をとりまく地域社会・産業経済等と無縁であっては何の意味もない。人類・社会の発展に寄与する学問であってほしいし、そのためにも地域のニーズに目をむけ、出来る限り連携を図りつつ前進して欲しい。(行政)
- このアンケートは当方の不十分な交流あるいは専門分野を通しての感じですが。分野あるいは交流の度合によっては、回答者によりずいぶん幅のある回答になるものと思います。地域社会と大学との交流においては、地域で働くあるいは働く可能性(異動等も含む)のある卒業生と大学の連携交流ネットワークの強化の視点が欠かせないと思います。地域にある組織もしょせん“人”です。卒業生と大学の交流を活発にしていけば、地域との交流も生まれるケースが増えるものと思います。大学とパイプのない人のために、大学における窓口の設置、情報発信は大事でしょう。(行政)
- 地域の人々は未だに、東北大に対して敷居の高さを意識している。これは両者に問題があると思われるが、大学としては積極的に地域社会に門戸・研究室・研究成果などを開放し、地域の人々の意識を変革するための努力を今一度行う必要があるように思われる。また、図書館の県民・市民への土・日の開放なども検討に値しよう。近年の学生のインターンシップ制度への、大学としての積極的なバックアップも、地域社会との交流に一役買えることができるのではないだろうか。教職員の労力も大変だとは思いますが。(行政)
- (1)共同研究について。研究生、助手一任とせず、教授と県職員などとの検討会を数多く。研究成果は広範囲に積極的な広報活動を…。林業部門については地域振興上の活用度が低く、岩手大学や山形大学などと共通テーマを設定し問題解決策を検討すべき。(2)地域密着課題を5年サイクルで採択し、卒業生の県内定着化に結びつけ

るべき。(3)特許情報を研究室段階で検索可能なように整備を…。(行政)

- 国立大学が自主的に行動することのできる範囲がわからないので答えにくく残念です。(行政)
- 私の住む近くに東北大農学部鳴子(川渡)牧場があり、地域との関係について、一部専門家の中には知っておりますが、全く研究の内容など知られておりません。極めて残念であります。(行政)
- 学部あるいは附置研の本来の役割によって異なるはずであり、固定した考え方をする必要はない。応用科学的、又は社会科学的分野の教員(研究者)は、もっと地域に目を向けるべきである。県は、さまざまな協議会・審議会等の委員に東北大学の先生、又は名誉教授等をお願いしている。しかし本当は、もっと若手の先生(実際にその分野で一番研究等をしている)にお願いすべきと考えられるが、世間に対してネームバリューのある先生に依頼する傾向あり。適材適所であれば良いので、東北大と他の大学という考えは不要でしょう。(行政)
- 学部・大学院とも、社会人の受入れをもっと積極的に行うことを期待したい(夜間も含め)東北大への地元の期待は非常に大きいものがあるが、大学の研究成果を地域社会が受け入れる能力の問題(企業、行政、地域住民)があるが、今後とも積極・人材・研究成果を提供して欲しい。今回の質問は難しかった(地域社会側の分野や大学側の学部間等に大きな協力関係等の差があるため、どのように評価したらよいか迷った)。(行政)
- 当該大学が持つ高度な能力を生かした技術開発を進めるにあたって、これまで以上に「具体的な地元ニーズ」を汲み上げる手法を採ってほしい。(行政)
- 東北大と地域(中小企業、研究機関、地方自治体、etc)との一層の連携強化を期待致します。(行政)
- 最近東北大はNICH、TLOなどで、研究成果の産業化を進めており、その過程で、「地域」を大変意識しておられるように感じられる。過去の「インテリジェント・コスモス」では、結果的には、「地域経済への還元」の観点からはあまり評価されていないが、今回の対応はずいぶん違うように思われる。一方、地元自治体、産業界の側に、そのような大学の対応を受け入れる体制整備が遅れている。意識も高くない。(行政)
- 地域と東北大の双方に「交流」についての十分なノウハウがなく、「帝国大学」のイメージから脱却できないまま「交流」というよりは、地域が大学に教を乞い、それを利用しているだけの関係しかないように思われます。地域は大学に教を乞うのではなく、何を働きかけ、何に参加を求めべきか。大学は地域に何かを教えるのではなく、何を提供し、地域から何を吸収すべきか。地域と大学とが真摯に意見を交換し、相互に理解し、共通の認識にたつた「交流」を考える必要があるのではないのでしょうか。(行政)
- 私は、漁業者です。東北大は日本でも有名な大学ですので、浜の後継者が年々少なくなっておりますので、各漁協に1年に何回かの交流会をお願い致します。(行政)

- 東北大学の各部の門戸が狭すぎる感じがする。各部門共、開放感のある様に体質を変えるべき。地元企業と積極的な共同研究を望む。教員が地域社会との交流を深め社会性を身につけるべき。(行政)
- 東北大学は(北大は別として)太平洋ベルト地帯にない旧帝大であり、かつ東京以北の本州唯一の総合大学であるので、どうしても東大の補完的役割を担う宿命にあるのではないかと。教授陣も学生も東京志向が強い。地元県としては大変もったいない存在であるが、やはり使い切れない面は多い。オールジャパンの大学として発展してゆくべきだ。(行政)
- 社会が大きく変わっていく中で、すべての企業が大学で研究されたことを大いに取入れ、活用しながら事業を行うべきである。いわゆる産学協力の体制を作るべきである。(行政)
- 大学であるから、地域との交流は、副であろうが、日本をリードする大学であるので、もっと世論をリードするアピールなり発言があっても良いと思う。今までは少なすぎる。(行政)
- 東北大学は、その対象エリアを“世界”とし、国際的に超一流の大学として存在してほしい。そのようなスタンスのもと、地域社会と相互交流を積極的に図って、地域社会をリードする教育・研究機関として今後もその役割を果たしていただきたいと思っています。(行政)
- 東北大は「青葉山の住民又は仙人」という感じがする。地域住民には、馴染みがない。特に、学長や学部長は「青葉山の天狗」である。是非、東北大学は地域に根ざした大学になってほしい。(行政)
- 国際的水準を維持し、かつ地域にも貢献する大学へ。(行政)
- 東北大学関係者の行動の影響は大きいので、その組織的な管理と情報公開が望まれます。(行政)
- 地域社会との接触・交流をもっと積極的に深めることと同時に、時代の流行・風潮に流されて大学本来の学問研究の姿勢をおろそかにしないように望みます(ある意味で相反する方向付けかもしれませんが、新しいものを求める進取の姿勢が少々欠けているようにみえる歯がゆさと同時に、最近全国各地に目立つ新しもの好き、流行にのった大学のあり方に、昔からの学問を追求する本来の良さが失われていくような不安を感じますので)。(行政)
- 東北大学の教授および名誉教授の方々には、宮城県の実情の分野等で指導、助言をいただき大変ありがたく思っております。また、個人的にも敬愛できる先生が多く、県行政、とりわけ環境行政には欠かせない先生方が多く、日頃感謝しておる次第です。ただ、大学と地域社会全般との交流ということになると、どうでしょうか。目立った活動というのはあまり聞きません。思うに、大学と地域社会とのストレートの交流というのは難しいのかもしれませんが。行政が間に入り、いわゆるコーディネイト役をする。人も場合によっては資金を提供するといった関係が永続するのではないかと思います。(行政)
- 小生は本学教育学部卒業生である。すぐに県教委に就職したが、その当時の教官・先生方は積極的に県内の学校現場や団体との交流や指導、相談に熱心で、県教委としても大変有難かった印象がある。それが今も続いており、いわゆる象牙の塔にこもらない大学、気軽に出向いて行ける大学という印象を持っている。他の医学部や工学部、文学部なども同様、地域社会や研究・開発面で可能な限り、地域社会と関わりを持つと努力している気風がうかがえ、大変有難いと感じている。(行政)
- 開かれた大学、地域との交流は大いに結構だが、それ以前の問題として、研究と教育をきちんとやるべきである。教員はアルバイトとタレント業に忙しく、学生は大学という遊園地で遊んでいる。従って、大学間の差はなくなっている。卒業後の地元定着率を考えれば、県内私大の方が地域に貢献している。そういう意味で東北大のみを特別扱いできる時代ではない。要は、地域に貢献できる人材と研究成果があるかどうかということに尽きる。大学が地域に媚びる必要はない。(行政)
- (1)地域の大学としてはそれなりの業績をもっているが、広い心が欠けているため、国家レベルの人材が非常に少ない。(2)研究職にはそれなりの人材があると思う。(行政)
- 宮城県、仙台市の意向もあり、青葉山にキャンパスの大部分を移す考えが大学側にもあるが、地域との交流を考えれば、片平キャンパスをもっと大切に考えるべき。大学は町(街)中であって、交流意識も生まれるし、街の活性化にもつながる。青葉山移転反対!!(行政)
- 東北大学は他国立大学に比較して、以前から産学共同研究などの実績が多い大学と思う。今後とも地域社会との交流を大いに深めていただくよう期待している。(行政)
- 東北大学は研究・教育ともに、伝統のある著名な大学であると考えていますので、地域への貢献も大いにしてもらいたいと思います。しかし、一地域に埋没する地方国立大学でおわることなく、気宇壮大な理想をもち、一層の研鑽を積まれることを願っています。(行政)
- 最近学生運動は、表面上やや鎮静化しているように見受けられるが、最高学府に学ぶ学生が違法な行動をとることは極めて遺憾に思う。学問の研究開発に専念し、人間性豊かな地域社会から尊敬される学生であり、卒業後は社会のリーダーとなり、日本国を二十一世紀に向け政治経済、文化等あらゆる面で正しくリードできる、かつ国際性豊かな学生を養成するよう希望する。(行政)
- 最近、かなり地域社会との関わり、交流は深くなっていると感じる。しかし学部間の垣根がまだ高く、地域社会や産官学の交流についても不十分であると考え。さらに公立機関、民間と交流をさかんにする努力をお互いにすべき時期と考える。(行政)
- 東北大学のセミナーに参加させていただいておりますが、先生は多忙のため、どうしても回数が減ります。助教授の先生方も出席されますが、教授だけではなく助教授の方々にもセミナー、ゼミを開催させる事は難しいのでしょうか。(行政)
- 地域社会との交流については、地域(学生)毎に設立さ

れている小学校・中学校・高校が大いに考えるべきではないかと考えている。国立大学は、あまり狭い視点、つまり東北大学であれば宮城県にこだわる必要はなく、日本国あるいは世界を視野に置いた学術・研究をすれば良いのではないかと考えている。その学術・研究を地域に還元することによって、地域との交流が図られれば、それで良いと思う。金研等、世界を視野に入れた研究を行っており、それが地域の企業に還元されている。そういうシステムを構築すべきである。(行政)

- 研究のフィールドは地域にあって、成果は国際的なものとなること、あるいは、普遍的なものとなることが理想でしょうか。これが実践されれば地域に直接的に利益をもたらさなくても地域は十分満足するのではないのでしょうか。(行政)
- 東北大学農学部大学院に、宮城県在職の水産関係若手研究者を送り込みたい。社会人の枠での在学の可能性を検討しながら、今後準備していきたい。また、50歳をすぎたの大学院への在学についても、定年退職後の、人生を2度経験したい人への門戸として、受け入れが可能であればと思う。(行政)
- 地域社会が多様化して東北大学の社会的地位も相対的に低下したと思う。国立大学はどこも予算・人員が減らされて苦しい状態だと思うが、大学人の知性を結集して、存在意義をこれまで以上に鮮明にしていきたい。(行政)
- 東北大学は帝国大学の一つであり伝統のある大学である。したがって、もともとの目的である優秀な人材の育成をするのはもちろんのこと、地域・県全体・日本ひいては世界に、もっともっと貢献すべきと考えられる。それには大学という殻にとじこもるだけでなく、情報の公開・研究の成果を一般人にもわかりやすく発表する、社会人の積極的な受け入れ・開放をおこない、相互交流をおこなうべきと思われる。それにより、大学が今、どのようなことをやっているのかが一般人にもわかるのではないかと。(行政)
- 地域の小さな問題であっても、学問的に究明し内容を還元できるように配慮する(地域を知らないで学問のみに走りすぎる)。大学による各職場訪問の実施。(行政)
- 学生の教育は大学で行うばかりでなく、地域全体で行うものと考えられます。したがって、大学と地域の交流は学生の教育上からも必要と思われる。(行政)
- 東北大学を学の代表とした場合、産学官の連携では、あまり県民への情報として流れていないと思うのでPRの機会をもっと増す必要がある。県関係でも審議員等で大変貴重なアドバイスも得ている。(行政)
- 小生は東北大学とは個人的な交流に止まっているが、将来は、公的な交流が組織的に行なわれる事が望ましいと思います。(行政)
- 今回改めてお尋ねを受けてみて、東北大学について意外に知らないことを感じました。マスコミを通じ、多様な分野での輝かしい成果を見聞きし、また職場での共同研究を通じ、あるいは公開講座を受講し、いろいろな先生を知ってもしました。が、それはごく一部分であって、

全体的な像(特に大学の考え方)については、ほとんど無知であったことを知らされました。職場の業務上でもご指導を得たいことがたびたびあったような気がしますが、気軽にお尋ねできないような、またルートも分からないところがあります。県民に開かれた職場をみざす私どものため、分析結果をいただければ幸いと存じます。よろしく願います。(行政)

- 行政を進める上で頭の固い部署として大学・警察・公務員等があげられるが、地方公共団体が行政を進めるため、大学そのものに関わる時の対応のまずさはとてもひどい。大学の観念的な協力はもちろんであるが、東北大学の敷地等が問題になると、全然前に進まなくなる。(行政)
- (1)地域立脚型のビジョンを確立すべき。(2)地域のウィークポイント(悩み)(医療・福祉・産業等)に積極的に参画し、その解決に努力すべき。(3)大学は広い角度から地域社会に浸透できる社会的信頼性が得られているのだからボランティア的姿勢を大いに発揮すべきである。やや高邁に過ぎたのではなかったか。(行政)
- 社会人の再教育及び共同研究について、もっと開放すべきと思われる。(行政)
- 大学は、自立の精神は必要であるが、“情報”については、特に、地域社会に、大いに提供していく姿勢が必要である。このことは、大学が地域社会を利用し、地域社会が大学を利用するという、相互の交流関係を生み出す基となると考えている。(行政)
- 堅いイメージがぬぐい切れていない。地域社会との交流は質量とも活発にすべき。(行政)
- 実践を主とした農業教育の場として東北大学農学部との連携ができれば良いと考えている。具体的な案もあるが、他大学よりも難しい面があり、今後に期待する面も多々ある。(行政)
- 東北大学は、東北地方の誇りであるとともに、その活躍に大いに期待しているが、一方、大学はその歴史・成り立ち等から云っても、その関心は常に東北だけではなく、日本・外国であったと思う。しかし、インテリジェント・コスモス構想など地域の振興のプロジェクトに大きな役割を果たされたことは誠に有難く、今後とも大きな視点から東北地方の振興に寄与していただきたい。(行政)
- 狭小な地域性は必要としないが、東大や京大とは異なる特色を大いに発揮してもらいたい。既に日本の学歴社会は改変されつつあり、大学そのものについても社会の中の組織であり、偏ったエリート意識ではいけないし、社会を冷静な頭脳でリードして行く組織や人材であって欲しい。(行政)
- 業務運営上、専門職員の確保のため職員(大学院生)の派遣をお願いし、ご支援をいただきましたが、職業人のための再教育機会の拡大を図っていただくよう希望します。(行政)
- 地域あるいは社会との交流は、意味位置づけがあいまいな面があり、質問項目でも迷うものがあったが、大学は教育の場であり、研究の場である。その中で同一の場で

- いろいろと施策を行うには無理があると思う。研究は生活の中から生れ、理論が生れ、国際的に評価があれば、位置は明快である。ただし情報を公開することによって生活の中にもどると思う。この場をつなぐには組織の創設や改編が必要であると思う。教育、研究、情報公開（交流活動を含めて）は混在させない方がよい。施設の開放やボランティアが言われるが、誰がためにとなれば限界があるであろうし、社会へ「奇を衒う」必要はないと考える。留学生について、地域（産・学・官）の資金をうけ入れて積極的に進むべきと思う。産学官、産学、学官の利用についてシステムとして整理選択し、産だから金、営利と考えない方がよいかも（倫理、思想）と思う。各分野の高質な知識集団であってほしいと思う。（行政）
- 東北大学は各種研究成果等の情報提供を積極的に行ない、地域社会との交流を図ってほしい。（行政）
 - 大学教員が、地域社会と積極的に交流（指導的）を行うことによって、地域の発展に寄与することと思います。（行政）
 - 東北大学の研究成果を地元の産業創出等に大いに還元してほしい。そういう意味で未来科学技術共同研究センターの役割に大いに期待している。（行政）
 - 担当者は大学の地域への開放を積極的に考えている人も多いが、例えば市町村と共催の開放事業等は、会計法上の問題もあり、なかなか困難と伺っている。今後はもっと積極的に地域とのつながりをもつような対応が必要と考える。（行政）
 - 東北大学の貴重な種々のデータベースを、地域に住む我々が活用できるようにお願いしたい。（行政）
 - 研究第一主義の大学として評価が高まっていると思う。今後はさらに大学の持つ特徴・アイデンティティが問われる時代になるのでこれまでの伝統を守り、活かしていけばもっと良い大学となる。地域に埋没することなく、世界に目を向け広い視野で教育・研究に取り組んでほしい。（行政）
 - 地域との交流及び新たな時代に合う大学として本来の大学の発展を望む。（行政）
 - 東北大学は学問の府として本県の象徴であり、広く東北6県のリーダー的存在でもある。その意味で東北の発展のカギを握る研究機関として地域との連携を一層深めるべきである。地域分権が進行する中、国は末端自治体の力量不足を案じて開放し、指導的役割を果たして欲しい。そのことが地域との格式張らない交流の糸口になると思う。（行政）
 - 地域の住民に講座等をもっと公開してはいかがでしょう。これと併行して、深い研究をも推進して頂きたいと思います。（行政）
 - 東北大学自身が、高い研究機能を有し、国際的に注目されるような大学になることが、仙台市の情報発信能力を高め、ひいては、仙台市の産業分野のみならず発展に大きく寄与すると思われる。（行政）
 - 直接関係したことがなく分らない。（行政）
 - 地域に密着した大学であってほしい。（行政）
 - 大学には学部によって地域に密着型から地域と交流が
- 全くないところもありますが、近年の少子化・高齢化社会に対応した生涯学習を気軽に誰でも学べる地域交流型も全ての学部で必要ではと思われます。（行政）
- 東北学院大学や、東北福祉大学と比較して、地域社会との実践的かかわりが少ないように思います。混迷を深める日本社会に対し、より積極的なかかわりを希望いたします。（行政）
 - 東北大学は、全国から有能な人材が集まってくる場所である。その人材が、できれば地域に根づいて地域社会のリーダーシップを担っていただきたい。日本の経済が行き詰まっている現状では、新しい技術革新が必要であり、それを起爆剤として産業界を盛り上げていくことが大切である。今後、企業との連携を深める等の新しい形で地域社会への貢献を望みたい。（行政）
 - 地域から通学している東北大学の学生がボランティアなど、その地域に関心を寄せていない。有名大学生ほど地域に学生時代から貢献するという気持を持って大学自体が変わってくる。まずそれが大切なことと思う。大学が地域に入る前にその大学の学生を地域活動に入らせるべきである。公私立の別なく国民の税負担よりも、自分のアルバイトによって学生生活がなり立っているような変な錯覚の学生が多く残念。（行政）
 - 地域振興開発のため産・学・官の調和のとれた協力体制が必要と考えております。（行政）
 - 高齢化社会に対応した地域、大学の関わりについて調査・研究すべきだ。医学部附属病院を県内の救急基幹病院に改編すべきだ。（行政）
 - 医学部附属病院について、救急医療分野への積極的参入と充実を強く希望します。多発外傷、重度熱傷患者、その他重篤患者の受け入れ体制の整備。救急隊員教育、特に病院内実習の指導体制の充実。（行政）
 - 現在東北大学キャンパスの移転構想があります。市内に分散しているキャンパスを一箇所に統合し、東北大学の尚一層のご発展を期待する。なお、その跡地については、地域住民等へ開放されるなど土地の最有効利用されまことを希望する。（行政）
 - 職場での東北大学出身者に求めるもの。国立の東北大学の出身ということで常にリーダーシップを持って仕事にあたってほしい。総じて、何となく覇気が無く、仕事に対し追従的である。（行政）
 - 地方の時代を目ざして各自自治体が進んでいる現状において社会を活性化することがまず第一と思う。そうするためにはベンチャー企業を育成することが早道と思う。そういう観点で世界に負けない技術を確立し、実用化に向けて貢献してもらいたいと思う。（行政）
 - 大学の研究者が行政の代弁をするような形での「交流」が散見されるが、好ましいことではない。地域貢献や科学技術研究にしても、基本的にはしっかりした批判精神をバックボーンとして持った上で対応すべきである。（行政）
 - 東北大学の役割は国際的にはたすべきであり、人材育成、研究の成果を大いに期待している。地域社会との交流については開かれた大学として必要であるが、それを重視

することによる大学の役割が低下しない程度を望む。

(行政)

- 東北大学の地域への開放度や貢献度は、他の大学よりも進んでいますが、特に企業との協同研究や情報提供は、東北地方の企業のレベル等も考慮し、よりベーシックな部門などについて、強化の必要がある。又、大学に研修や研究で社員を派遣できる余力のない企業が多く、大学の研究成果やノウハウの提供手段についてもメニューを増やす工夫が必要。(行政)
- 東北大学は開学の精神として研究第一主義を掲げ、今まで幾多の秀れた研究成果を世に出してきたと思う。我が国の現在の困難な状況を克服し産業立国として反映するには、新技術の開発が求められており、高い研究・教育水準を維持し、それらに応えてほしい。我が国の高等教育・研究予算は欧米に比べて驚く程少ない。国立大学の施設の改善はもとより、地域社会との関係を深めるためにも大幅な予算措置が必要となる。地方分権の時代を迎え、今後は地方も画一的でない個性豊かな地域づくりが求められており、国立大学にも産業・福祉文化面で地域社会のパートナーの役割を期待したい。(行政)
- あらゆる分野で地域社会と東北大学との交流は一段と拡大すると考えているが、どのような形で可能なのかについて相談していただける窓口を大学に設置していただきたい。(行政)
- 工学部を初め、世界的研究成果を上げており、地元では喜ばしいものがあります。今後も、広い視野に立って人類と生物界の将来に役立つ各種研究に大いに期待しています。(行政)
- 設間にもありましたが、国立大学、特に東北大学は歴史も古く、蓄積されている研究成果も豊富でしょうから、地域社会との関わりにこだわることなく大学独自の理念に立って普遍的学問活動に専念することを望みたい。地域社会との関わりという点では、「大学」という組織よりも、教職員・学生を含めて個人の立場で貢献すべきと考えます。大学として地域に関わるとすれば、例えば大学の図書館には専門的な蔵書が沢山あるものと思われませんが、出来れば図書館の利用を地域に開放して下さることを希望します。(行政)
- 地域における産業おこしに、より一層の貢献をしていただきたい。(行政)
- 仙台市内に住んでいれば植物園や記念講堂など大学の施設を利用する機会もあり、割合大学も身近なものだが、地方では、ほとんど関わりのないところという感が強い。講座なども、教育関連の問題等について、大学教員に対して自治体が講演依頼をすることがあるが、聴講者をどういった層とするかなど自治体側にもノウハウが充分でなく、成果は今ひとつのようである。農村部であれば農業関連のことなど、技術的な面で交流をもつことができれば、と考える。ただ、各研究室が行っている研究のテーマと地域社会が求めるものが合致するかどうかはわからないので、どういった研究が行われているのか知る機会があればよいと思う。(行政)
- 地域的に交流は少ないが、地域の保健・医療に今後とも

ご協力願いたい。(行政)

- 積極的に地域の声を聞き、地域を活用して、地域活性化に役立つ人材育成に精進してもらいたい。(行政)
- 宮城県は、東北の中心都市「仙台市」と一方では「七ヶ宿」や「花山」などの過疎の町とに大きな差が生じている。先端技術の研究・開発についても、これまでどおりに力を入れていただきたいと考えるが、通常ベースあるいはローテクの中からの、産業おこしや地域づくりについてもご指導をいただきたいと考えている。今後は、そのための地域社会との交流をもっと深められたい。(行政)
- 基本的には大学教育は理念にのっとり普遍的なもので良いと思うが、教員や学生、及び各種情報は地域社会と交流・提供したほうが望ましいと思われます。又、東北大学のネームバリューから敷居が高く感じられるが、逆に大学側が民間を活用することにより、地域からの信頼を得ていくような気もします。個人的には仙台市内での活躍はあるかも知れませんが、地方での東北大学の関係はほとんど聞く機会がありません。(行政)
- 地理的な条件等から、東北大学だけでなく、県内の大学とは、交流などはなし。(行政)
- (1)理工学、医学などサイエンス系の分野における注目度が高い大学であり、産業の活性化を念頭においた地域からの期待感が強い反面、特定領域(半導体、磁性関連など)を除いては、地域産業と結びついた“実利”を十分に生み出しているとは言えない。大学・産業界・行政それぞれのニーズやビジョンを提示しあい、共同利益をあげる方程式をまとめ、実践に移すための場づくりと、強力なコーディネーションが必要と考える。(2)サイエンス系以外の面での東北大学の「顔」が見えにくい。地域社会との関わりに立脚した運営やプロモーションの展開を望む。(3)「産・学」「官・学」に加え、今後は「学・民」パートナーシップが課題となる時代であり、積極的な対応を期待したい。(行政)
- (1)地域社会と環境問題の整合性を確立して下さい。(2)県、東北の均衡ある発展を基本立案していただきたい。(3)教育のあるべき基本理念をモデル化した家庭教育・社会教育・学校教育を整備して下さい。(4)大学の開放を地方に移動して実践すべきものがある。(産業・経済)
- 地域に根ざした大学運営を進めてほしい。(1)行政・企業との人的交流及び指導。(2)研究機関としても大切であるが、実践的な分野(例えば、医療の研究のみならず、救急救命等の分野)に今後力を入れてほしい。(産業・経済)
- 東北大学のこれまでの研究成果に敬意を表します。その成果を大いにアピールすべきであり、県民から好感もてる雰囲気づくりが必要と思います。(産業・経済)
- 東北大学の青葉山移転については、市民(県民)サイドへの情報提供が不十分です。青葉山移転が東北大学のためにはなっても、市民(県民)のためにはどうなるのでしょうか。まったく、不明です。社会人の修士課程への入学(勤務しながら)が、身近でも行われておりますが、その知的レベルの低さにおどろいております。なんのた

めのリカレント教育なのか、資源のムダではありませんか。(産業・経済)

- 学問に打ち込むには最高の環境にあると思うので、今後も日本の産業界に優秀な人材を輩出して頂きたい。(産業・経済)
- 研究成果を持って、町の中に下りて来て、自分の研究成果が適用出来る場がないかを自分の目で探す。そういう姿勢が望まれる。(産業・経済)
- 研究開発の成果を、積極的に地域経済に還元していこうとする姿勢を個別企業との共同研究等のシーンで実感している。設問項目としても見受けられたが、産業技術開発等の実用・応用といった実学の分野でのある程度アカデミズムを排した分野の裾野を広げることが、産学、ひいては地域社会との交流推進につながっていくと思われる。(産業・経済)
- 国際的にトップを行く研究を続けていく。その中で国際的にトップレベルの人材を育成していく。このことを基本としつつ、地域等に、その成果を公表し、また、その入門レベルのところまで、社会人教育等もして欲しい。今、社会に出た人たちこそ、学問をしたいと強く望んでいる人が増えていると思う。(産業・経済)
- 東北大学は、地域の企業と共同開発研究を行い、その実績もいろいろと残しておりますので、宮城県・東北のさらなる発展のため、今後も積極的に押し進めて行ってほしい。(産業・経済)
- 地元東北・宮城県との関わりも一方では大切だが、国立大学の本来の役割は、日本全体及び世界に貢献する事ではないかと考える。その役割を担ってこそ、東北大学の将来があり、レベルも上がり、ひいては地方への貢献度も増すのではないと思われる。(産業・経済)
- 東北大学は全国的に学生を集めており、地域共同研究センターだけの大学ではないという認識はあるものの、職業人の再教育など今の時代に求められている活動にもっとアピールすべきだと考える。個人的にもそのようなことも関心があるので積極的活動を望みたい。(産業・経済)
- MITや、Stanford、Purdue 大のように、教育と実務と研究をかたよらずにする大学であってほしい。国立大学は私達の税金で運営されていることを職員は認識して行動されればおのずと変化すると思う。(産業・経済)
- 企業にとって研究・開発の成果は即企業のノウ・ハウとなるので、ノウ・ハウが守られることが確実でなければ交流は不可能である。また学部や研究所での成果に何があり、今行っている研究内容は何か分らない(どうすればそれらの情報が得られるのか分からない)。東北大学に蓄積された成果が、どのように応用可能なかが明示されているのか分からないが、明示されていると思われる。勉強不足で失礼なのですが、大学側からの成果の情報を、成果に関連する企業に許せる範囲で提供していただくと良いと思います。(産業・経済)
- 東北地域発展のための研究プロジェクトの推進・産業・文化・人材育成。(産業・経済)
- 次のような取組みについて前向きにご検討いただきたい

い。(1)学生への講義カリキュラムの多様化。「学問・研究」という観点の他に、社会全般の実学、仕組み等を理解してもらうため、色々な企業、公的機関等との連携により、これら企業等からの講師派遣による特別講義を数多く開設していただきたい。(2)大学主催・共催の公開講座、フォーラム等のイベントの実施。公開講座等の共催を望む(多様な企業等との連携)。また、このようなイベントを通じて、オピニオンリーダーの育成にもつながるものと思われる(東北は、地域のオピニオンリーダーが不足している感がある)。(産業・経済)

- 転勤で、東京のほか地方都市7ヶ所の勤務をしましたが、地方の大学(規模が小さい)ほど地元との交流が多い感じである。仙台支店勤務は2度目(通算5年)であるが、「開かれた大学」を期待している。(産業・経済)
- 社会人対象のセミナーを、もっと広げていただきたい。(産業・経済)
- 東北大学と宮城県また東北地方との交流については、一部の学部、又は教授で緊密な関係が見られるものの、全般的には、積極的ではないと見られる。大学の教育研究は、地域の為だけにあるものではないので、地域側の態度にも考えなければならない問題はあるが、現状よりは、もう少し緊密な交流が望ましいと思う。(産業・経済)
- 地域社会の中で東北大学は自他ともに認める東北を代表する大学である。しかし、私事であるが、仕事以外では東北大学は遠い存在になっている。今後、地域社会との交流を深めるためには、東北大学・地域住民・企業が東北を活性化させる、といったような共通の目的をより深く根付かせ、その目的に向かって各々の責任を意識付けることが重要だと思われる。(産業・経済)
- (1)東北大学は建学以来、学問・真理の探求を第一義に考えながら、社会の発展向上に寄与する実学にも力を注いで来たと思う。その姿勢は今後も貫くべきだろう。(2)地域社会との交流は勿論大切だが、そのことに気取られて右顧左眈すべきではない。最近の中央の教員達が、マスコミの御用商人となって半端な知識と浅薄な意見を述べ、金員を稼いでいる姿は醜態と言うよりは害悪と言うべきだろう。(産業・経済)
- 地域のトップの学府として、優秀な人材を擁して、地域産業の活性化に大いに寄与すべきである。特に、米国の教育のように、実践で使える人材の育成・実学の思想をもとに研究テーマを決める。これも流行に左右されない独創性をもったテーマにする等を希望する。(産業・経済)
- 東北大学に対する地域の信頼感、親密感と比較的高いと思われる。地域社会がもっと東北大学に気楽にアプローチできる雰囲気を作って貰いたい。と同時に大学側も地域社会にどんどん入り込んで積極的発言を提供して戴きたい。(産業・経済)
- 良い意味での(地域の分権)地域とのかかわりあい、強力に進める大学たることが必要な時代と思う。中央からの発想でなく、地域からの発想を進めることによって中央がおのずと出来あがる。日本の場合長い時代の中央発想が常識で、国土を有効に使うことが出来ない国と

なった。東北大も、その様なことを是認していたのではないだろうか。(産業・経済)

- 宮城県民にとって東北大のキャンパス形成は非常に關心のあるところです。青葉山ゴルフ場跡についても、交通アクセス・環境の面から充分検討の上、将来像を決めて欲しいと考えます。豊かな自然を残す形でのキャンパス形成を望みます。文系・理系にかかわらず、市民講演会等を市街地の便利なところで、定期的に開催して欲しい。(産業・経済)
- もうとっくに故人になっていますが、私の叔父が東北大出身で、東北大はなんとなく身近に感じている大学です。私の周囲にも何人かの東北大出身者もおりますが、それぞれに立派な人々だと思っています。しかしながら、最近、学校を出たばかりの若い東北大卒業生の中には、頭脳は抜群だが、社会常識に欠けている人も何人かいて、学生の時の社会的訓練が不足していることを感じさせます。そんな意味で、地域社会との交流(地元企業に関わる情報も含めて)がもっともっとあればいいと思っています。社会常識欠落者は、日本国の損失であり、その事を憂うものです。(産業・経済)
- 20世紀の学術は、産業社会発展に一定の貢献を果してきたことは率直に評価するものであるが、資源・エネルギー・環境の問題に適切に対応できていない面がある。その意味で今後平和と環境の安定的維持強化が重要であり、学術研究と地域社会との共同作業が大切と考えている。今回の調査は貴大学が新たな次のチャレンジをめざしてとりくんだことに深く敬意を表すものです。頑張ってください。(産業・経済)
- 地域交流の輪や機会拡大を拡げることには、理解を示したいと思います。確かにアンケートも必要と感じますが、議論の場を設けることも、これからの一歩になると考えます。私自身も今迄、正直に言えば興味を示していない状況でありました。それは、情報公開やチャンスがなかったからと考えます。これから更なる前進と、地域融合に発展して行くことを期待します。(産業・経済)
- (1)直接の交流はないので、あまりわからないが、他の国立大・私大と比べて、地域に対してやや閉鎖的に感じる。(2)特に若手の研究者については、地域や出身大学のしがらみにとらわれない活躍が見受けられる。今後、立地の特性を生かした、個性ある研究や運営に期待している。(産業・経済)
- 地域や産業界の動向に左右されることなく、基礎・基本的な学問・研究及びその後継者育成に力点を置くべきだと思います。(産業・経済)
- 宮城県を中心に地域に貢献をしているので、もっと積極的に地域や職場に交流の場を拡大してほしい。(産業・経済)
- 東北大をほとんど知らないというのが本音です。(産業・経済)
- 東北大は、これまでも地域社会に貢献してきている大学と思う。今後は、地域社会との関係というよりも国際的な視点で地域交流のあり方を問うていくべきだと思う。地域的な個性は大事にしても地域的なエゴは極力避

けていくべきと考える。(産業・経済)

- 今は仕事から、あまり大学とは深い関係にはないので、うまく答えられない。門外漢である。このアンケートの調査法が、あまりにも漠としている。東北大と言っても全学部を知りつくしている訳ではない。学部によってその評価は異なる。概括的には理・工系は国際的であるが、文系はほとんど不認識である。(産業・経済)
- 私どもの会社は、産・学・官連携による東北インテリジェント・コスモス構想推進協議会のもとに設立された、研究開発、産業開発支援会社です。日常東北大学総長以下教職員と密接な連携をもって事業推進しています。東北地域の大学・高専研究員1,200人による学術振興財団もあり、地域連携の枠組みはでき上がっていますので、東北大学のイニシアティブを大いに期待しています。宮城県のみでなく、東北6県全域への貢献を期待します。(産業・経済)
- 東北大が宮城県の、そして東北地方の最も優れた大学の一つとして、研究・教育機関に大いに貢献していると考えています。現状のままでも十分貢献していますが、さらに次のような点を考えていただければ幸いです。(1)個人的に、文部省の研修の一環としてワシントンに一年間滞在しました。ジョージタウン大学というところで語学を中心に学びましたが、教育のきめ細かさ(syllabusの配布、休講が全くなかった、少人数での授業、大学教師への学生からの評価、アチーブメントの実施、ボランティア活動の実施、フィールドワーク等)もさることながら、WATESOLといって、幼稚園から大学教員まで一緒に研修会(学会)がありまして、広く学ぶことができました。現在、宮城県にもALT、CIRはじめ多くの外国人が来ていますので、第二外国語教育(スペイン語、中国語、ポルトガル語、英語)についても十分な研究を進める必要があると思います。ジョージタウン大学をはじめ、全米各地にESLクラス、EFLクラスがあり、外国人子弟の教育に大いに貢献していますし、この点日本の遅れを感じています。(2)それから、地域に開かれた大学という点に関しては、これからは図書館の活用ということが考えられます。コンピュータネットワークが整備されつつありますが、大学図書館は、必要な情報がいつでも取り出せる体制があればいいと思います。ちなみに、ジョージタウン大学も、アメリカン大学も学生に対してある期間24時間図書館が開放されていました(できればabstractのついた外国の大学の情報が取り出せればいいと考えています)。(3)日本の大学——特に国公立大学——を見て、いつも感じることは、あまり魅力のある建物がないということです。非常に単純なことですが、中学生、高校生にとって、魅力ある素晴らしい建築物は、それだけでも誇りでありまして、その大学で学びたい大きな動機づけになっていると考えています。(4)千葉大学の「飛び級入学」は大変興味のあるところです。現在、小中学校を中心に学校訪問していますが、小中学校の教育は従前のものとかかなり変わってきています。高校に訪問して「出張講義」などを行っている大学も出てきていますが、やはり地域に開か

れた大学として、情報を提供いただければ幸いです。

(教育)

- 東北大学は開学以来、研究第一主義を基本原則として優れた成果を積み重ねて来たが、この伝統に今後とも期待するところ大である。その反面、象牙の塔の感も無きにしもあらずで、地域社会は東北大学に畏敬の念を抱くが、必ずしも親愛の情を有していたとはいえない面があった。しかし、近年、学長をはじめスタッフの各位が積極的に地域社会との交流を図るようになって来ていることは喜ばしい限りである。地域社会も敬して畏れる意識を払拭して、気軽に交流を進めるべきだと思うが、その為にも、東北大学がこれまで以上に施設等の一般公開を促進し、人的にも一般県民との接触を多くする工夫と努力を望みたい。(教育)
- 地域内に東北大学の研究セミナーがあり、地域活動の場として、又各種セミナーの講師として協力を頂いている。(教育)
- 大学に直接行ったり、教職員との接触では人間味豊かだが、急いで電話等で照会や案内を乞う時に、お役所的な冷たさを感じる事が多い。本町には教育関係だけで、貴校を含め7~10人の教員と、数人または80名グループの学生達が不定期または月例的に来町している。分野は芸術・文化関係だが、地域民との親交が深まって大学人への親しみを感じている。活動場所は、公民館・分館(小学校分校=廃校舎)、生涯学習施設であるが、将来はセミナーハウスの様な、大学が研究もでき開放もできる大学(教員・学生・研究室等を丸ごと含めた)出前の施設を創りたいものと考えている。地域の自然を生かし、人を生かすアイデアと知識と技術を今、地方は渴望していることに注目してほしい。(教育)
- 学校教育(特に義務教育)の情報を、常に県教育委員会を通じ現場に提供してほしい。(教育)
- 卒業生が、中学・高校の教員をされていて、貢献をされているが、仙台市を遠く離れた県内地域にあつては、その他の地域社会との関係や交流と言われても、実感として持てない。(教育)
- 学部間により差があり、的を得てない返答もあると思います。地域社会と大学間の相互理解が足りないように思います。(教育)
- (1)世界に発信する学問・研究の府として、大いなる尊敬と期待をしています(鉄の本田先生、医学の熊谷先生…そして八木先生、増井先生…半導体の西沢先生等々…)。(2)世界・日本はもちろんですが、地元東北・宮城との産学そして地域連携を密にされ地域発展に指導的役割を一層果たして下さるよう切望します。(教育)
- 平成9年4月1日から、異動により、生涯学習課に勤務しております。担当しております子供から高齢者までの生涯学習において、年に2~3回ほど東北大学の先生方に御講話をいただいております。先生御自身の研究の成果を発表なさる方、地域住民の心をとらえながらお話される方、それぞれですが、その先生独自のスタイルもあるものと思いますので、数多く地域において願いたいと、切に願っております。なお、問13については、両極端

で双方取り入れていただき、御活躍いただければ、と期待しております(ぜひたくでしょうか)。(教育)

- 世界に通ずる大学であると同時に、地元の活性化に尽力すべき責務があると思います。(教育)
- 地域史関係の仕事をしていますので、先生方には大変お世話になっております。東北大学以外の県内私大、及び東北大学以外の国立大学にもお世話になることがありますが、東北大学の先生方には一目おきたい気がすることもあります。個人的におつきあいが出来るまでは…。図書館の利用などももっと開放していただけないか。ご検討下さい。(教育)
- 短期間でもよろしいですから、小・中学校の児童・生徒を直接指導していただけるようなシステムができればと思っております。(教育)
- (1)とくに行政との関連で、貴大学所属の教授等が審議会委員などに積極的に参加していただきたい。(2)東北大学が推薦入学制を拡大させ、宮城県内の高校生をもっと入学させて欲しい。(3)高校以下の教育改革・入試改革に敏感に反応し、大学入試制度の改善に努めて欲しい。(教育)
- 学校の児童、生徒が学習上わからない点を気軽に問い合わせできる、又、自治体等が気軽に教示いただけるネットワークを考えてみては? (教育)
- 東北大学については過去の固定したイメージが強すぎて、あまり期待は持っていません。(教育)
- 7、8年前東北大学開放講座を2年間実施したが、地域の活性化にはいたらなかった。生涯学習関係の委員に東北大学の教授を委嘱したことがあるが、具体的に行政に結びつけることが出来なかった。将来、地域の活性化に貢献できる大学としての役割を担って欲しい。(教育)
- 東北大学の理工系は、県内のベンチャー企業に対していろいろ指導し、研究にも協力していることは、認められる。文科系は、地域と密着して事業を行っていることは、あまり聞いていない。文科系学部は、もっと地域に積極的に入っても良いのではないかと。また、青葉山への大学移転問題にしても、その必要性が県民に良く理解されていないし、また、片平丁等旧市内の跡地についても、どのように利用するのか明確化されていない。こうしたことについても県民に積極的にPRをして理解してから着手すべきである。(教育)
- 仙台市から離れた市町村は、東北大学の行事・情報等を知ることが出来ないので、県政だよりに掲載して戴きたい。(教育)
- 東北大学は、国立大学としての長い伝統をもち、充実した施設と優秀な教官群、そして世界的な研究成果等、宮城県民にとって大きな誇りであります。今後、地域社会の発展のために、より積極的な交流と地域に対する提言・指導をお願いしたいと思います。(教育)
- (1)地方都市と東北大学との関連が現状ではやや稀薄に感じられます(石巻専修大学と地域との交流は結構あると思います)。(2)地方財政が緊迫している現状の中で、財政的にゆとりをもった交流事業は不可能と思われるが、何とか次の点で東北大学には役割を發揮していた

だくよう期待するものです。①地方分権を推進させる石巻圏（地域圏）の地方行政の在り方の審議②大学研究のサテライト（出前）研修会の実施③県内入学志望者（推薦枠を含む）の入学枠の拡大（教育）

- 世界の東北大学であると同時に、もっと地域社会にも開かれた大学であって欲しい。（教育）
- 東北大学出身者として建学時のユニークな学風、例えば女子学生の進学を認めたことなどすばらしい建学の精神を更に発展して地域社会のリーダーとしての役割を期待しています。（教育）
- 東北大学というと旧帝大の1つであり、伝統がある大学なので、教授などの人的スタッフはそろっていると思う。であるから、そういった人材のもつ知識や技術を地域住民に提供してもらいたいと思います。（教育）
- 東北大学の教員、学生はもっと地方に進出して、地域のいろいろな面に交流すべきである。大学の施設、設備をもっと開放すること。生涯教育の講座に教員の派遣をよろしくお願いします。（教育）
- 生涯学習がすすんでいる所。大学がいかに変わるかが鍵となっている。変わり方が生涯学習のあり方に直接ひびく、いい意味での変化を求める。（教育）
- 郡部の高校から東北大学への進学はほとんど望めない。かつて、昭和20年代は限られた人数ではあったが進学の道が開かれていた。県内で仙台市を除く地域と東北大学の関係がうすれてきた原因がこの辺にあるのではないかと思う。また、県庁、県教育庁の職員が、各種審議会、委員会等の委員としてお願いしたり、講師としてお願いする場合があっても、郡部の自治体や企業が、東北大学とどれほど関わりがあるかも考えられないのが現状ではなからうか。医学部は地方の公立病院へ医師を派遣している点では地方に貢献していると思う。義務教育の学校への教員養成はしていないと思うが、その辺も地域との関連がうすれてきた原因とも考えられる。（教育）
- 地域社会と東北大の交流に対する県民のイメージは、実際の交流の状況より希薄に映っているように思える。交流の成果が見えにくいのが一因ではないか。（教育）
- 学術研究文化芸術あらゆる面での活躍を期待していると共に、より多くの情報提供により県民から親しまれる大学となることを期待します。（教育）
- 地区で活躍するリーダーの育成。（教育）
- 本学は東北の地に進出した経緯として、地元石巻からの熱心な要請があったことが第一に挙げられるが、その背景には東北大学から、優秀な教育スタッフが得られるという前提があったからである。事実、開学時には、約60名の教員を招へいし、現在も在職教員の約8割が何らかの形で東北大学に関係された方であり、東北大学なくしては、今日の本学の存在はあり得なかったと考えている。従って、今後も教育、研究両面において、東北大学とは密接なる関係を保っていきたいと考えている。（教育）
- (1)共同研究に地域の人材を積極的に活用する。(2)施設設備の共同利用、ないし貸与の可能なものは、その便宜を積極的に進める。(3)国立大学の知的所有物・知的能

力を、これまでより以上に積極的に公開。（教育）

- 学部によって、又、専門分野によって差はあるでしょうが、もっと全面的に交流を深められたい。都市の文化は、その都市にある大学の数と質によって決まると思うが、学都仙台が、単に学生の数だけではないけない。教員各人、又、組織として地域文化への働きかけが必要でしょう。東北大は世界や日本全国へ目を向けているのは良いが、ともすると地元を忘れてしまわないように期待します。（教育）
- 国立大学と言ってもいろいろのタイプが在る方が望ましいです。地域と密に交流する大学はそれなりの意味があるし、Internationalに活躍する大学も意味があります。東北大学には、後者を期待したい。仙台住民としての感想では、昭和40年頃までは、市民は東北大学を尊敬していました。しかしいわゆる学園紛争を経て、しだいにさめた目で見えるようになりました。川内キャンパスに今でもあんな立てカンバン・張り紙・ピラがあつては、尊敬の念はむりでしょうね。母校ですから、しっかりしてほしいのですが。（教育）
- 卒業生は別として、一般市民は、東北大学とは近づき難いところ、自然に、また率直に言葉をかわすことのできない人（教官）との印象が強い。雲上人とは言わないまでも、近より難いところ接し難い人達と一段上の人間とみる傾向がある。但し、個々人（教官）によって、異なることは感じていると思われる。（教育）
- 地域との交流等について主導的役割を果し、実務的では、他の教育機関にゆだねる、高等教育機関全体としての資質向上をはかる努力をしてほしい。地域活性化のためには、一極集中を避け、いろいろな機関が役割を分担し、全体的に実務を進めていくことが重要である。（教育）
- (1)国立大学は、どこも学閥の感じが強いから、もっと開放的にすべきである。(2)大学は、研究したものを社会に還元する使命があると思われるので、研究のための研究ではなく、地域社会の向上に貢献すべきと考える。（教育）
- 国立教育機関を代表する1つである大学として国内的・国際的に leadership のとれる機関であって欲しいが在仙大学として、仙台市・宮城県そして東北地方の地域社会ともっと交流すべきである。文系・医系では地域との交流、地域への貢献も進んでいるが、理・工系では地域の経済力・工業力ゆえに交流・貢献も小規模となっている。蒔かない種は生えないのだから大学側はもっと地域との関係を深めるべきだが、それは地域社会側も同様である。地域社会はその工学力、経済力を高め、東北大学の活動が中央や国外企業にのみ集中しない様、活力をつけなければならない。（教育）
- 東北大学独自の考えで研究教育すべきであるが、宮城県そして東北地方の産業の復興、初等・中等教育の活性化のためにその成果を生かしていただきたい。（教育）
- 東北大学と地域の高校との交流が活発になることを希望します。（教育）
- (1)東北大学は「研究第一」でよい（「学生の教育をおろそかにしてよい」とはいえないが）。(2)東北大学は単に

県内の他大学だけでなく、全国的な立場と視野で活躍して欲しい。(3)戦後の教育で失なわれたと思われるものの1つは「エリート教育」といえる。将来的にも、地域にとどまらない、日本の、或いは世界のエリートを育てるのは東北大学の責務と思う。(教育)

●OBとして知る限りでは、あまり顕著ではない(社会的に認知されていない)ように見え、もっとPRすべきである。(教育)

●回答する選択肢にむずかしいものがあつた。普遍性を求めながらも、地域との交流を求めるのが一般的な考えではないかと思うし、研究は最先端のものでも、地域の経済・産業に貢献するものであつて欲しいし、人的(大学関係者)なものも最高の人材がいて、身近に接する機会があるのが現状といえるのではないかと思います。(教育)

●理系は一流、文系は二流と言われている。研究者として残る学生は、ほんの一部であるので特に文系ではクラシックな学問中心から脱して司法試験対策も含め、現代のビジネスの戦力となる実学部門の充実が必要である。交流については大学にあるノウハウ等について広報をして、有料でも良いから地域から利用してもらう機会を増やすべきと思う。(教育)

●東北大学は研究主義を精神に持っている大学の一つである。しかしながら、どの分野で何について研究をしているのか(地震研究・海洋研究・工学関係等…東北大学出身の者は知っているが、それ以外の人はあまり知らない)テレビポータル番組の中に積極的に紹介し、アピールすべきと思う。どのような研究をしているか、一般に地域の人の理解がないと、地域との積極的交流が十分に図れないと思う。東北大学は、東北地方はもとより全国的に・世界的に影響をもってきた大学であるだけに、先ず最初に地域発展のために十分貢献すべきと思う。それ以上に大学の職員が地域交流の意識をもつようになることが大切であると考えます。(教育)

●教育と研究のうち、研究に期待している。一般の市民・町民・村民は、学問の力を軽んずる風潮の中に現在もあるように思えます。したがって(語の正当的な意味での)判断力が弱まってきていると思われまふ。地域の活性化は、何よりも生活の質の向上にその基点があるようです。ここに大学への期待があります。(教育)

●学科や講座単位のつながりだけで、地域との連携は細かくバラバラである。学部や大学全体でまとめていく努力をしてもらえるとうれしい。もう一つは企業も自治体も本気になって大学の力に頼ってプレーンとして取り込む。(教育)

●工業系のニュースは定期的に入るが、大学全体の動きがわかりづらい。また学生の活動状況も微弱に見える。地域社会との関わりも全体としてはっきりと見えてこない。卒業生である私にも見えづらいのであれば、一般社会はどうだろうか。時折マスコミに出るのを待つのではなく、もっと情報を流して欲しい。(教育)

●例えば、現在県内で最も蔵書数の多い図書館は東北大学のものだと思うが、一般県民の利用は出来なかったと思

う。県立図書館が移転した現在、東北大学の付属図書館は宮城県の中心的な図書館の役割を担うべきと思うのだが。(教育)

●東北大学に課されている使命に2つあると思う。1つは地域社会の発展に寄与することと、グローバルな広がりのある学問・研究とである。将来の東北大学は、教育部門<主として地域社会を視野に入れた部分>と研究部門<大学院大学>とに分化させるべきではないかと思ひます。(教育)

●(1)地域の大学として存立するためには空間的に市街地に近い方が望ましい。従つて片平や川内キャンパスの諸施設を充実させて、市民・県民が利用しやすいものにしてほしい。(2)地域の情報の発信源として、インターネット、キャブテンシステムなどを通じて、地域の調査・研究のみならず、グローバルな視野で情報がいつでも手に入れられる場であつてほしい。(教育)

●地学の資料室などの公開は大変良かった。あのようい、資料や施設がいたまない内容なら、どんどん公開すべきと思う。(教育)

●東北大学に集まってくる学生は東北に関係のない学生が多く、卒業後は首都圏に帰つていき、仙台に残るものは、ほとんどいない。そこで、ある程度は地元の学生を優先的に入れてほしいのだが、そうすると研究レベルがさがることとも考えられるので、何ともいえません。(教育)

●交流を積極的に進めてほしいと思うが、お互いに相手の顔が見えないのが障害になっていると思われる。(教育)

●近年、次第に東北大学(小生は農学部の先生方を対象)は地域に密着しつつあるように考へている(東北大の若い先生方がかなり意欲的)。数年前一ヶ月間、アメリカ合衆国に滞在したが、アメリカの州立大学設立の趣旨の最大のものは地域への研究の還元と活用であることを再認識した。先生方も地域で活躍されていることが多く、地域の高校教諭の多くも博士号を取得している(地元の州立大学で取得している)。我が国でも、よく閉鎖的といわれる国立大学を、もっと地域にオープンにして、地域の方々や教員との交流(高校等)を進めていくべきと思う。そして海外の諸大学と提携し、相互交流を進めていく方がよいと考へる。もっと実践的な研究を進め、学生のレベルと入試改革の一手法として、大学入学後の講義を厳しくして卒業を安易にさせないようにすべきである。少子化の影響で大学の在り方が問われはじめているからである。これからの国立大学の発展を心より祈念するものである。(教育)

●(1)学部・大学院にもっと社会人を積極的に受け入れて欲しい。そのための制度(夜間課程の拡充、聴講制度など)の改善をお願いしたい。(2)工学部以外での推薦入試の取り入れをお願いしたい。(3)学生に対する単位取得を厳しく、もっと学問に集中する姿勢を身につけさせたい。(教育)

●国際交流を視野にいれた地域社会の視点をもって学問研究を行うべきだと思う。どのような研究をしてよい

が、人間が生きているということの原点は常に自分自身の生きている地域社会である。そこを出発点として自分に何ができるか常に考えるべきだと思う。そのうえで、自分が今の研究を徹底的にやるのが大事だと思うならそれはそれでよい。自分の生存権をきちんと主張し地域社会に発言しながら、ものごとの本質にたちむかうという姿勢をもってこそ学生にも地域の人々にも尊敬される人となる。学者バカでない、人間としての誇りをもった学者であってほしい。大学の問題ではなく、一人一人の人間の問題だと思う。(教育)

- 積極的に交流すべきではあるが、研究をおろそかにしてまですべきではない。研究の妨げにならない程度に交流を心がけるべきである。(教育)
- 地域の間人性が発揮されるように出来るだけ近隣の学生が入学できるようにして、種々の束縛からはなれて、自由な頭にさせて、学問・研究が可能ないように環境を整えてやればすばらしいと思う。利益を追求する大学になってはならない。(教育)
- 私は、職業柄、生徒を指導する時、東北大学を強く推める様にしています。また、高校生の進路指導の企画として、高二時に協力を戴き、実際に大学の説明や施設見学もさせて戴いて、大変有難く思っております。この現状の中で、実際大学の入試を受験し合格しても、毎年数名の辞退者が出る事は残念でなりません。思うに、生徒側から見て、東京に在る私立大学や、文部省外の大学校に、貴大学が持ち合わせていない何かがあるのかも知れません。現在の高校生は、勿論東北地方の事を十分考えていると思いますが、一方で、迎える21世紀を考えると、やはり広い視野から物事を考える必要性の大切さも知っていると思います。手前どもの入学辞退者の多くは、感覚的に、そう言った生徒が多い事を述べさせて戴きました。(教育)
- 地域が東北大に対して思っているほど、東北大は地域の方を向いていないのではという印象はあります。(教育)
- 東北大学の優秀な研究を東北の拠点都市(仙台と限らず)と直結させることができないか、と常々考えている。不可能ではないと思うし、できれば素晴らしい。(教育)
- 自然科学(特に理・工・医分野)の業績は顕著なものがあると思われま。ただ人文・社会科学系の研究の成果が、地域社会に還元されているとは言い難い状況にあるのではないのでしょうか。また、学生が卒業後、地元に着する率も決して高くはないと伺っておりますので、その辺の、ご指導もよろしくお願ひしたいものです。(教育)
- 国際的に適用する研究水準を維持発展させると同時に地域にその技術や知識を還元する努力をしないと地域から浮いた存在になるのでは。(教育)
- 日本物理学会東北支部で昨年実施した“出前授業”の形態での、高校生に対する情報の提供を他学部でも、とっていただくとありがたい。(教育)
- 卒業後、仕事とのつながりを含めて、大学院で学ぶ機会・制度をつくったらよいと思う。(教育)
- 開放講座の科目数が少ない。(教育)

- 教育指導者講座を受講し大変感銘を受けました。このような講習は、どんどん実施して下さい。(教育)
- 東北大学は学問研究を主にしていることが地域社会への貢献になっていた。これからは、もっと地域社会との交流をもっと多くすることによって、より貢献することになると思う。(教育)
- 地域を重視した教育・研究は重要であるが、国際的な視野に立った研究を第一とし、伝統的な産学協同の精神を進めてほしい。(教育)
- 教授陣はもう少し学生に対し、丁寧な授業を心がけて欲しいと思います。発声の面でも聞き取りやすく、メリハリのある授業展開となるよう工夫して欲しい。大学教授といえども学生の前に立ったら、一人のサービスマンであることを忘れないでいただきたいと思います。昨今の高校生は勉強から急速に自分を見失いかけている生徒が急増していることをふまえ、大学と高校とのパイプをもっと太いものにしていただけると願っています。(教育)
- 貴大学は県内の大学のリーダー的存在であり、世界的にも貢献している大学だと思います。しかし、地元大学との連携は余り見えないし、地元高校生の入学者も少ないと思います。地域産業を発展させるためには、貴大学の力が必要であるとともに、地元で働く人材の育成に大いに期待しているところです。世界的な研究を世界に提供することは大切な貴大の役割と思いますが、それとともに、地元で活躍する人材の育成もお願いしたいと思います。(教育)
- 地域から人材を吸いあげているという面、大学人口に関連して経済面等での地域との関わりはあるが、研究そのものについては、地域社会との交流はほとんどなされていないと言ってもよい状態ではないかと思う。今後に期待したい。公開講座等もあるにはあるが、広告不足か、あまり一般には知られておらず、自己満足的な内輪のものに終わっているという印象が強い。(教育)
- 研究第一主義も結構ですが、時代の変化に応じて大学の在り方を考え直すことには賛成です。東北大はもっと学生の教育に力を入れては如何でしょうか。(教育)
- 一層の交流を望みたい。特に大学側からの働きかけがポイントのように思われます。期待しております。(教育)
- 大学から積極的に地域に働きかけていくことが必要ではないか。各種審議会の委員等に名を連ねている先生方も多いが、それ以上の動きは見えてこない。地域としては、東北大に期待するところ誠に大きいものがあるのだから、両者の関係をうまくとりもつ機関が必要なのかもしれない。地域の子弟が簡単には入学できない大学ということもあって地域社会では、遠い存在として東北大をみている側面もあるのではないか。それが、交流に障害となっている面もあるように思う。(教育)
- 地域とオープンに交流や関係を持ち、新しいつながりを積極的に作ってほしい。(教育)
- 私は、貴学の大学院(博士前期課程)を修了しました。貴学で学び研究した歳月は、私の現在のすべての土台になっています。どんなに困難な問題に対しても、よりべ

ターな答をさぐっていきいたいという基本路線を私は、今思えばその年月のうちに身につけたような気がします。知識を新たに必要としている時でも、どの辺を探せばみつかるか、又、解答を与えるときも、どのあたりをつければよいか、そのセンスというか、直観というか、を貴学より与えていただいたと思っています。徒らに実学をめざすのではなく、地道な独自の研究路線を貫いた方が、長い目でみて、社会に寄与する学問になりうるものと思います。ただし、住民に対する啓発活動は行って下さい。これは相互に、利益になることうけあいです。(教育)

- (1)子どもの心の問題、青少年問題が重要な社会問題となっているが、大きな原因の一つが高校・大学入試選抜にあることは周知の事実です。東北大学が入試方法の改善に取り組むと共に、全国的役割を果たすことを切に望みます。(2)最近の大学における研究活動は詳しくはわかりません。しかし、大学研究が企業の要請中心になっていること、行政の意向に沿うだけの各種委員会内の大学人が目立つことは、大学の魅力を失わせています。企業の研究ではできないこと、学問・研究の真の価値、そして、研究と教育(人間の全面発達)の統一、などこそ、研究・実践してゆくべきではないかと望んでいます。(教育)
- 地域社会をここでは東北大学が立地する「仙台」と捉えて述べてみたい。東北大学が学術面でのストックが質・量ともに国際的評価が高く、このことが各種の国際会議を地元仙台に招致していると思う。「国際都市仙台」を目指す側にとって有り難いことである。今後、益々仙台を訪れる諸外国の学界人有識者も増大すると思われるが、それを可能にするのは、地域社会が彼等や周辺の家族に快適な生活を、仮りに短期間であっても確保してあげられるかにかかっている。その為にも、行政上でも対応のあり方や市民一人ひとりの生活意識や態度を確立する必要がある。又、東北大学の留学生の地域社会での受け入れに関しても同様であり、彼等が帰国後において地域社会との交流が大学の指導教官以外にも保たれるよう、印象深い日常の交流を心がけることが大切だと思う。大学と地域社会との交流は従来あまり話題にもならなかったが、今や相互の発展の為にも重要なテーマとなっている。大学を支える地域社会のあり方なども大きなテーマであろう。(教育)
- 東北の他県の大学を見ると、県と市との連携の記事を見るが、東北大学の場合あまり見えないような気がする。連携を希望する側も垣根が高い(東北大学はレベルが高い)というような印象があるような気がする。本来はそうではないと思われるが、もう少し情報を地域に提供し、利用できる範囲を広くすれば良いのではないかと思います。(教育)
- 東北大学の持っているノウハウを生かし、21世紀に向けあらゆる面で、宮城県東北地方のために尽力していただきたい。(教育)
- 高等教育ネットワーク等を通して、大学開放講座等を行っているが、もっと積極的な地域への働きかけがあってもよい。教授陣は地域からの養成に応じて講演等を行う

が、開放講座などにはまだ消極的であり、社会人のリカレント教育という面でも大学の対応は十分とはいえない状況のように思われる。(教育)

- 立地的に大学施設が郊外へと離れて行けば、市民との交流も疎遠になりかねない。市街地にある片平キャンパスなどは、施設の開放も含めて、市民が気楽に参加できる講座の開設など(行政側と共催するなど…)考えてもいいと思うが。(教育)
- 大学の教職員の皆様の地域社会との交流の視点が柔軟でないと進展はむずかしい。努力に期待しています。(教育)
- 個人的に、留学生を中心とした国際交流に関してのサービスを評価する。(医療・保健)
- 仙台の文化度は、東北大学の存在により、その教員と市民との交流が生じ、大きく影響を受け、良いレベルにあると思う。歯学部について言うならば、教育の場に重点を置きすぎ、ともすれば市民の為の医療がなごりになる傾向もある。より積極的な対応が望まれる。青葉山への移転は緑を破壊し、現在以上に環境をそこなうことは明らかなので、青葉山環境保全の面から反対である。片平丁の現在地に高層建築を造ることで、十分な機能を維持出来るものと思う。(医療・保健)
- 医学部についてですが、医学の研究を高度に行う事と地域医療を担える医師の養成という両立しがたい目標を達成して欲しいと思います。(医療・保健)
- 東北大学は国際的に貢献する大学であることを望み、そのためには全国から優秀な学生が集まることを期待している。医学に関しては宮城県唯一の医師養成大学であるので医師の供給、病院との交流を通じて地域と密接な関係が必要で、これは現在もあるし、将来も保たれねばならない。大学院重点化が進んでいる中で研究の高度化(若手医師の大学院集中)と地域の医療レベル向上との間でバランスのとれたコントロールが必要であろう。(医療・保健)
- 学部によって地域との関わりが大変異なるように思います。(医療・保健)
- 最近の東北大学の在學生にあまり覇気を感じない。小生も昭和45年に東北大学に入学したが、あの当時は、まだ世界に向けて何かしようという意気をもっている学生が多かったように感じる。(医療・保健)
- 国立大学なので、世界を視野に入れた研究をするのは当然で、その点は利益追求が中心の企業の研究所とは、自ずと異なると思う。但し、研究の成果については、積極的に情報公開、しかも、一般の素人にも理解できるようにするのも又、国立であるからには、当然と思う。その情報を、地域住民や企業がどのように利用するかは、各自の自由であると思う(当然倫理的に公開するにふさわしくない情報はフィルターにかけるシステムが必要とは思いますが)。大学とは知識・情報のbankですから、そして国立ですから、地域社会との関係交流とは、この知識・情報の受援を介して行われるべきものと思います。この意味での開かれた大学を希望します。(医療・保健)
- 東北大学の理科系(工学部、理学部等)については地域

社会重視による活動が見られますが、私の所属する医学系では未だに地域医療重視が少ないように感じます。

(医療・保健)

- 東北大学の優れた力と実績に比し、何かいまいとつぱとしないのは残念です。もっと地域に対して、開かれた大学という雰囲気を作ることは難しいことでしょうか。“官”立というアシカセのせいかもしれません。学生も勉強におわれているのでしょうか。地域の中に、もっと出ていき、活動(特にボランティア)することによる、自分の学問を見直していく機会としてはどうでしょう。(医療・保健)
- 東北大学は“東北地方”における中心的大学であり、学生の出身地などもその傾向が強いと思われる。そのためか、宮城県という限定された地域社会との関係・交流が、ややもすると薄くなるのは当然かもしれないが、そこに地域側からすると残念に思われることがある。(医療・保健)
- テーマを地域社会の発展におきながら、それが全国的、国際的な業績となるような大学になってほしい。(医療・保健)
- PRが不足している様に思う。産業界とも関連し、特許を生産に結びつける努力が不足している様に見える。(医療・保健)
- 東北大学全体としては、地域社会にとらわれることなく、日本全国、世界を見すえ、短期的でなく長期的な展望に立って研究、教育をしていただきたいと思います。全国から集ってくる学生の資質は十分それに応えるに足ると信じております。従って地域社会との関係や交流は副次的なものでよいのではないのでしょうか。各地に設立された県立大学はそれを補う意味でできてきたと私は考えております。(医療・保健)
- 東北大学では「研究第一主義」を携けて、少くともたてまえ上は基礎的研究を重視してきたはず。地域社会との交流は工学系などの一部の領域を除けばほとんど考慮されてこなかったように思われる。現在進められている大学院大学構想も、その点では同様であり、これまでの大学(学部教育、講座)で担ってきた部分をどうするか、大学院大学に移行することにより、教育も研究もむしろ弱体化する可能性はないのか、が危惧される。まして地域との交流云々も大学側の都合のみで進められるべきものではないだろう(学問の自由、独自性、大学の自治は大切だが、広く民間人、他の分野、機関の人材を登用すべき)。(医療・保健)
- インテリジェント・コスモス構想などへの関与は評価できると思う。文化的な面でもっとイニシアティブをとって欲しい。仙台市は文化施設もおそまつで、音楽会、絵画展示会なども良いものが来ない。全くもって文化的とは言えない状況である。政令都市であるのにはずかしいと思う。東北大が関与してレベルの高いものにして欲しい。(医療・保健)
- 総合大学として、あらゆるジャンルにかかわる研究をされていると思います。社会的には何をやっているかわからない面が多々、ある様です。全てを明らかにするのは

無理でしょうが、もう少し、社会的に関心のある分野に関してはPRを心がけてもよいのではと思います。(医療・保健)

- へき地の病院長のため、東北大学の地域への関心のなさ、サポートしない姿勢に問題があると思います。(医療・保健)
- 東北の発展には東北大学の果たす役割は極めて大きい。とくに、人材育成の点で、役立つべきであると思う。確かに国立大学としては全国から自由に入学し卒業していく人々を受け入れ送り出すことも必要であろうが、東北地方に居て、東北地方の発展に尽しうる人材は、やはり東北地方の人材を積極的に受け入れ育てる体制も作っていかねばならないと考える。さもなければ、東北は東北だけの人々を育てるための教育機関を作らざるを得なくなるであろう。資源の浪費にもなる。東北大学のあり方を、もう少し考え直し、地域に役立つ方策を考えていかねばならないであろう。(医療・保健)
- 国立大学であること、それも旧帝大であり、大学院大学構想にキャッチアップしようとしている(部分的に)ことが、地域・県・東北地方にとってどんな意味をもつかを、大学人の誰が真剣に考えているのだろうか。研究者の自己満足のために大学を利用していないか。青葉山闘争の到達点/西澤イズム/大学改革/etcと大学の自治、学問研究の自由、国際化、と地域など、大学自身を追求するするセクション(講座・ゼミ等)場を作ってはどうか。“形”だけの大学開放、企業参加、大学自己評価ばかりに対する思想が欲しい。(医療・保健)
- (1)東北大学が地域社会と交流し、地域社会へ貢献することは大切で必要なことです。(2)しかし、各大学の使命や存在意義は大学によって異なります。全ての大学が教育・研究を等しく均一にやる必要はないと考えます。(3)大学院重点化された東北大学は全国的・国際的に役立つ人物を育成することが大きな使命と考えます。(4)そのような人が地域社会に定着する機会があれば、より大きな貢献をすると考えます。(医療・保健)
- 東北大学医学部大学院卒業生で病院を経営しております。病院の医師はすべて東北大学医学部より赴任、或いは派遣されております。民間病院であるが故に医師の確保は大変です。医学部から強力な御援助を受けておりますが、未だに自治体病院が優先とか云っている方もいるようです。(医療・保健)
- 私は医学部出身なので、他学部と地域社会との交流についてはよく存じておりません。医学部と地域医療機関とは以前より交流がありました。しかし、これは極く限られたものです。医学部も大学院大学になりますので、昔のような同窓会がなくなってゆくでしょう。東北大学の中に広範囲にわたる医師派遣センターをつくるべきです。地域の医療機関を支えるには大学の医師の支援がどうしても必要だからです。(医療・保健)
- 卒業生を最優先して地域社会に送り出すべき。(医療・保健)
- IQよりEQの高い人材を世に送り出してほしい。集団性、社会性、常識などの乏しい人材はいらない。お受験、

- 過保護、パソコンに象徴される人材では困る。(医療・保健)
- 医療の分野で、東北地方の東北大学とする大学側の意識と宮城県の東北大学とする地域ニーズとに乖離が起きているのでは。(医療・保健)
 - 東北大学の素顔が市民に見えるようにもっとアピールすべき。市民との交流の場、機会を増やすべき。(医療・保健)
 - 地域に開かれた大学になることも必要と考えるが、先見性・国際性など、現状にだけ拘束されない人材育成研究を期待したい。地域交流においても、上述の視点を持って進めていただきたい。(医療・保健)
 - 研究第一主義というイメージが強く、地域社会(そして一般学生)への関心がやや低いような印象がある。(社会・福祉)
 - 東北大学と言えば、一般的イメージとしては、世界的な学問研究の場と考えられ、事実、秀れた業績を残して来られましたが、それだけ市民からは象牙の塔的な近寄り難い所という、固く閉鎖的な場として映っていると思います。聴覚障害関係としてのアメリカからの情報では、カリフォルニア工科大学は大学内に聴覚障害児・者関係の基礎医学研究や学校教育部門・職業教育部門・ろうあ者の福祉団体活動支援部門・手話等コミュニケーション研究・啓蒙普及部門・聾児を持つ親のためのカウンセリング部門・聴覚障害学生のための情報保障(手話通訳・ノートテーカー等派遣・配置・養成・認定部門など)を総合的に運営して、社会に開放されているように伺っております。(社会・福祉)
 - 東北大学は歴史的にも地域と密着した大学——いわゆる産官学連携の草分け的な大学であるという伝統を、引き続き発展させて行ってもらいたい。(社会・福祉)
 - 東北大学は学問の府として、学術の先端を行くと共に、地域と密着し人間性・生活の向上をめざし開放された学園であってほしい。社会の各分野に人材を送り出すと共に、各分野の指導者を常に吸収し、大学との交流を深め、社会の活性化に鋭敏であって欲しい。(社会・福祉)
 - 地域社会や企業との交流について、このようなアンケートをとられる積極性を評価いたします。21世紀は中小企業の時代と云われておりますが、中小企業は理論的裏付け・資金力・人材が不足しており、産業の交流は心強いものであり、飛躍への可能性を生むものと確信しております。ありがとうございます。(社会・福祉)
 - 東北大学との交流は少ないが、OBとはよく福祉等の仕事で一緒になります。私から見ると、「大学の研究室に入っている先生」のようで、素直に話の出来るような方は少ない。封建的で聞き手になれないワンマンな人が多いのではないかと思います。これからは、このような人はないと考えますが、開かれた大学を望みます。(社会・福祉)
 - 長い歴史の中で、多くの人材を育て、地域だけではなく全国に送り出してこられた努力には感謝の気持ちでいっぱいです。しかし、医学部や教育学部などでは、宮城県内は、臨床医学の面や、学校教育等の面で、特に国立大

- 学の悪い意味での権威主義が横行しているように思います。学歴を誇るわりには、実力のない人が多い気がします。学校を卒業してからの努力が足りないのか?それとも、早生の果実のようになってしまったのか?いずれにしても国民の税金を沢山かけて教育を受けさせていただいた、ありがたいと言う感謝の気持ちをもっと持つべきである。(社会・福祉)
- 多く交流して、社会から、おくれ大学になってほしい。(社会・福祉)
 - 宮城県、東北地方に国立大学の雄として歴史的にも貢献してきた実績は高く評価される。医学、工業、教育面での功績も大きいと思う。今後とも地域社会に向けてその研究成果を大いに公開し、各フィールドに活用、応用できるように努力してほしい。(社会・福祉)
 - 福祉関係の立場にある人間として、主としてその観点からのアンケート記入になって居ります。現在の大学の研究の(大学は研究の場であるとの見方から)上で地域社会との交流は、大変難しい問題と思われま。何故なら、研究は細分化される傾向にあり地域交流という大局的立場からの物の見方と如何にマッチングさせるかが問題であると思われるからです。(社会・福祉)
 - 交流が少なく開かれていないことは大変残念である。(社会・福祉)
 - 東北大関係者は旧帝大としてのプライドがすご〜く強くて、ちょっと、へキエキ。東北大が地域社会との交流を考えているなんて、ちょっと想像したことがないので質問にどう答えて良いか、よくわからない。ひとつ何かのイメージをもっていけば、答えやすいと思うが、行動的なイメージはない。強いて言えば、学問的な理由づけは、さすがに頭良い人達の集団だな〜とホレボレするけれど、「そこまで」のイメージです。ドロドロの現場には、おいて来ないで、上から見てる気がする。上から見てのって気持ち良いだろうと思う。「手は汚しません」って感じです。(社会・福祉)
 - 東北大学が21世紀に亘って、国際的に研究実績の評価が一層得られる大学として充実発展していくことを期待する。いつかそれは地域社会に人材の供給をはじめ、広範な分野で大きな貢献をすることになると思う。地域においても東北大学の活用と教育・研究の場の提供など交流を深めるべき要因は多いので、ぜひ双方が一層の交流を念頭においていくべきであると思う。(社会・福祉)
 - もっと門戸を広げて欲しい。スポーツのように自分の余暇を生かした学習があればと思います。(社会・福祉)
 - 東北大学は歴史のある我が県の代表的な大学であるので、地域に関係なく世界的視野に立った勉学の府にふさわしい大学になることを強く希望する。(市民団体・ボランティア)
 - 他地方に遅れている地域の活性化に、前向きのご指導と学生の参加協力を願いたい。(市民団体・ボランティア)
 - 東北大学の卒業生はあまり地域に残らない。東北大学の卒業生はエリート意識が強い。交際がしにくい。(市民団体・ボランティア)
 - 東北大学の先生方と過去に、自治体等のいくつかの委員

会と一緒に活動したり、研究会等でお世話になったが、限られた、どちらかというと文系の先生方が主だったので、理工系についてはほとんど不明である。そういうささやかな経験ながら、地域との交流、指導的な立場での協力参加が望ましく、またもっと開かれたものにしてほしいと思う。図書館等の利用も可能になればと思う。

(市民団体・ボランティア)

- 東北大学は東北の大学と理解している。すべて地元優先にしてほしい。入学者についても然り。(市民団体・ボランティア)
- 広い意味で、地域性を無視した教育は、あり得ないと思います。大学は積極的に情報を公開・開示し、地域の発展に寄与する責任を有していると思います。(市民団体・ボランティア)
- (1)東北大学は、われらが誇る世界第一級の研究を行う大学であってほしい。その著名な研究者の話を聞く機会を持てれば地域住民の喜びである。(2)東北大は地域に根ざした研究の第一人者であってほしい。それが地域住民に対する奉仕にもなる。(市民団体・ボランティア)
- 「学都仙台」は、国内だけでなく、世界でも通用するネーミングである。教育は大きな産業である。「学都仙台」を再構築することが、東日本を調和よく発展させる起爆剤になる。東北大学は、そうした「重さ」「責任の大きさ」を全学的に分かっていないのではないか。青葉山移転は東北大学だけのものではなく、仙台の各大学と連携し、アカデミカルパークとし、つくり上げていく。そうしたビジョンを示さないと青葉山移転計画は東北大のエゴとなりかねないことを恐れる。(報道・出版)
- 東北大の知的資源は東北全体にとっての貴重な財産。研究第一主義はそれなりに評価されるが、その成果を東北地域に還元する姿勢を全学的に強めていただきたい。現状は、一部の教官を除き、なお象牙の塔にこもっている印象が強く、市民から見ればまだまだ敷居が高い。(報道・出版)
- マスコミに籍を置いているが、経済学部の一部の先生を除いてほとんど付き合いがない。出版物その他が送られてくることも少ない。ある若手の助教授(東京出身)と地域経済(東北経済)について話をしようとしたところ、地域、東北には余り関心がないことがわかった。自分の研究には地域は不要ということらしい。最近、地元企業との連携を模索する未来技術共同研究センター(NICHE)に注目している。「青葉山を降りて、仙台の巷と交流したい」という姿勢に転じつつあることは好感している。(報道・出版)
- 真理の探究などと偉ぶる必要もなければ、無理に地域社会との交流を表に出して自分を縛る必要もない。常に問題となっている事柄を研究し続け、その成果を公表すれば地域社会の方も必要に応じて利用することになる。成果の利用を求めて来たならば、少しでもそれを拒む姿勢を見せないことだ。そうすれば、格別地域との交流を謳わなくとも、関係は円滑になる。(報道・出版)
- そんなに知識はありませんが、(東北大学に対して)各研究は全国的にも、すばらしいと思っています。個人的

にも、教員の方と交流があり、お話を伺うと地域発展振興に大変協力的で、お世話になっております。(報道・出版)

- 米国のベンチャーキャピタルシステムのように地域の資本家、経営者と技術系の大学の先生との交流を促進し、ニュービジネスをインキュベートしていくべきだ。(報道・出版)
- 東北大学といっても学部や人によって差異があるが、地域との関係や交流をもっている学部や人は、多くはないように見受けられる。東北大学全体として、もっと積極的に地域との関係をもつ方向で取り組んでほしい。(文化・芸術)
- 見聞が全く広がらないので充分お答えできませんが、東北大学が仙台の活力の源となり、又、一般市民は誇りとし、そして信用を得ていると思います。(文化・芸術)
- 東北大学はどうしても官学的存在にみられ、一般社会との交流は雲の中にあつたと思う。学問研究本位であることは当然だが、逆にいうと定年の大学教授が一斉に社会になだれ込み、〇〇委員会、〇〇審議会など官庁の外廊に坐り、それに占められる。官庁の安易な考え方で、とくに宮城県あるいは仙台が目立つ。つまりアカデミズムの延長によって民間の自由な発想や活動が抑えられ、この地域の文化が他地域よりも萎縮している。科学分野はいいとして文科系への天下りは反省すべきである。(文化・芸術)
- 個人的には、社会との交流をして活躍している方もいますが、全般的に見ると社会との関係は薄いと感じています。大学は、教育と研究を使命としていますが、これらは、個人あるいは、プロジェクトの論文の執筆にとどまり、社会現場との関係は稀薄のように思われます。大学に芸術関係(舞台)の講座を設置してほしい。各文化会館には施設、設備は整備されているが、舞台専門の人材が不足しています。舞台芸術の研究者・指導者と地域の実践者との組織化と協力関係が推進されることを望みます。(文化・芸術)
- せつかくの国立大学なので、国や世界といった視点に立った研究・教育活動をまず強化してほしい。(領域不明)
- 東北大学は第一に学問・研究に専心すべき役割を担っていると考える。ただ、研究者(学徒まで含めて)が研究成果を公開(評価)すべきであるが、積極性に欠けるくらいが見受けられる(私見)。研究成果を積極的に公開すれば、地域社会はそれだけで大学を十分評価するだろうし、連携もよくなり、大学の存在意義も認めることになる。地域社会(狭義の宮城・東北)にとらわれず、世界に通用する研究活動を望む。(領域不明)
- 地域社会とかかわりを否定して大学の存在は考えられないが東北大学の将来に期待するものは、国際化の拠点、全世界に対する情報、人材の発信基地としての大学である。立地条件も、伝統も十分これに応えるものを整えていると確信している。(領域不明)

山形県

- 今後とも、国際的視野の中で活躍できる人材育成と尚一層、地域に開かれた大学であってほしい！ (政治)
- 大学と地域社会は、積極的に交流を図るべきと考えます (学生も含め、地域のお祭りに参加する等)。 (政治)
- もっと地域のニーズに密着した活動を期待する。 (政治)
- (1) 山形大学の小白川キャンパスは、県内の山形市以外の学部を統合し、新キャンパスに移動すべきである。・山形大学は、学生のものごとの印象が強い。もっとオープンにして親しまれる大学となることが望ましい。(2) 大学での社会活動が見えにくい。一般人にももっと参加できる活動と、公開を積極的にすることが望ましい。 (政治)
- 山形大学は山形県内の唯一の国立大学であり、医・文・経・産等の各般にわたり、その核となっている。ただ、排他性がある程度強いので、もっと積極的に地域や地方自治体との交流を進めるべきと考えます。 (政治)
- 唯一の大学のため、総合大学として、21世紀に向けて下さればと考える。北よ南よとに分散大学でないものを切望します。 (政治)
- 今一番関心をもっていることは、山形大学の総合の問題です。是非山形市に学園都市を造っていただくことを切にお願いします。それが、都市の活性化の一番のカンフル剤になると思います。 (政治)
- 良い人材 (教授) も居ると思うが、中央帰巢本能が強いのか、受け入れる地域が無いのか、定着しない様に思われる。じっくり地方都市に腰を落ち付ける様な人が多くなると一部の人間 (現在様々な事に首をつっこんでいる人) だけでなく広い視野、意見が聞けるようになることを望む。 (政治)
- 娘が山形大学を受験せず、東京の私大 (フランス語専攻) に入学したときに、どうして地元大学を甘くみるのか不思議に思えた。もう少し魅力を持たせる工夫を学内でやるべきと思う。 (政治)
- (1) 山形の教育機関として、あるいは地域社会とのかかわり等、考える前提としてキャンパスの統合が不可欠と考えています。山形としての統一性が21世紀に対する大きな指針です。(2) 国立大としての制約もあると思うが、地域 (県・市町村) との交流を積極的に実施すべきと思う。 (政治)
- 全国各県に大学、特に国立大学が配置されているが、それぞれの大学に特異な歴史的経過があるとして、基本はそれぞれの地域の経済社会文化の発展を図る様に地方に大学があると理解したい。もしそうでなければ、ある特定地域1ヶ所にまとめて大学が存立しても良いはず。大学も学問も人間のためのものであり、分散しているという事は地域にも人間が居るからであり、地域の人間に関係のない大学なら、そこに大学の存在の意義がうすい。学問も大学も人間のために経済・社会・文化の向上のためにある事、地方にも人間が居る事を忘れてほしい。大学のキャンパス内の人間だけが、人間であると思わな

いでほしい。 (政治)

- 山形大学もそれぞれの学部の問題をかかえて、よりよい大学をめざして研究を重ねているが、地域社会にそれが全然見えてこない。我々市民に大学の問題点を率直に提示し、大いに意見をつのったら良い。いろんな審議会があるが (県・市等)、特定の教員の重複参加が多すぎ、学生の活動にしても、市内の他大学の学生におされ気味である。開かれた大学であればあるほど教職員も開かれた教職員になってほしい。 (政治)
- 農学部・工学部を山形市内に統合し、現在の大学より広い場所に移し、総合大学として機能を充実させてほしい。 (政治)
- 常日頃より、財政問題や農政問題について先生方の講演をお伺い致しており何かと勉強させて頂いております。今後とも宜しくお願ひ致します。 (政治)
- (1) キャンパスの雰囲気がいかに官僚的。(2) 教職員スタッフは開かれた大学、オープンな明るい学びの場作りに協力していこうという気概、理念がないのではないかと。(3) 21世紀に世界に通用する日本人を教育する場として山形大学をどのように改革していくか。学生を中心に具体的なプランを進めるべきだ。(4) 学生は社会の常識を棄ててほしい。 (政治)
- 地域社会と大学は共生という立場から、お互いに信頼し得るよう、もっと努力すべきである。山形大周辺の環境保全にもっと努力してほしい (含整備)。 (政治)
- 山形の地域 (広く言えば、東北でも、全国でもよいのだが) を開拓、開発、発展させようという意気込み、信念を持つ、迫力を持つ気持で臨んでもらえれば変わるのでないかと思う。 (政治)
- 研究重視の教育より専門化への切替へ。大学は研究部門を縮小し、社会に即応出来る専門の学部を設置することも考慮すべき。特に国際社会経済等の分野。 (政治)
- 山形大学は、農学部と工学部が分散設置されている。当置賜地域では、工学部が地域社会と関わりが深く、地域経済に及ぼす影響も大きい。また、産学共同研究の成果も期待しているところである。さらに、本町は医学部第二内科の指導協力のもと肝機能調査研究を5年間に亘り行っており、大きな成果を収めたところである。大学側は、もっと地域を活用し、行政の援助を求めながら研究を進めていってもよいと考える。逆に、我々の地域社会が手を挙げたら見落とさずに耳を傾け、大学側がどのように協力できるかを考えて欲しいと思う。地域と行政と大学が相互に協力できるシステムの構築も必要な時代に入ったと思う。 (政治)
- 大学教育、運営は個性が必要である。地域大学はその地域の個性を文化人格の向上発展に寄与すべきである。生命をあずかる医学部付属病院については全国的なネットワークが必要であろうし、すべきである。町づくりや環境保全調査については他の大学の方が積極的である。尚公立米沢女子短期大学は早急に4年制化すべきである。 (政治)
- 一般開放講座を何度も実施していただきたい。 (政治)
- キャンパスの統合が検討されているようですが、現在の

工学部・農学部が分離されているメリットも考慮されたい。(政治)

- 大学は地域と遊離しては益々浮き上がってしまう。地域も今や全世界の中心となれる情報化社会の中にあり、地域の発展は、即世界の発展に結びつく時代である。地域づくりが学術的でないなら、大学は率先して地域に入り、学術的にすぐれた地域の発展に貢献すべきである。それが地域の大学のあるべき姿であるとする。山形大学は、一般人の目から見れば、別の世界のように映る。かつての藩校のように身近であるべきと思う。(政治)
- 地方の大学は(国立)、その地方の振興への役割が大切である。地域の学生にある程度の優先枠を設けるべきである。中央(東京)の大学に負けない大学にしたい。地方の振興は教育の振興に大いに関係があるので、多くの学生が地元より入学出来る様、ある程度自治体より協力を支援しても良いと思う。(政治)
- かつては、農学部の先生と庄内農業について話し合う機会がありましたが、最近は殆どありません。たまに講演などを聞く程度です。小中学校の先生を通じて山大が感じられる程度です。私たちが、積極的に話題を持って近づく事が必要とは思いますが、機会が少ないと思います。(政治)
- 山形大学に関する情報はとても少なく、山形市以外の市では交流を持った機会もほとんどない状態である。今後、大学も社会との関係を密にし、社会に役立つ人材を育成すべき必要がより大きくなると思うので、社会との交流をもっと活発にする必要があると思う。(行政)
- もっと学部内で行っている行事、公開講座、研究会等の情報を開示し、地域との交流をはかるべきである。(行政)
- 学歴偏重でなく、広く人材を育てる場とし、独自の味のある大学になって欲しい。(行政)
- たこ足大学学部を解消して、一つにまとめること。地域住民へのピーアールが不足している。(行政)
- 山形大学がテレビ、新聞等で取り上げられる機会がほとんどなく、どのような地域社会との交流を望んでいるか不明。交流は二の次として、よい人材の育成を望む。(行政)
- 山形大学のキャンパスは、各市に分散しており、この条件を地域社会との交流に活用すべき。(行政)
- 新聞、雑誌、テレビ等のマスメディアの積極的な活用による様々な意見、情報等の発信が大切ではないか。(行政)
- 山形大学そのものがわからないので、アンケートの回答に困りました。(行政)
- 地域との交流で、山形大学がどのようなことをしているのか、もっとピーアールして欲しい。関係者(知人)に聞かされる以外に知る方法が目につかない。(行政)
- (1)大学の中央・学界志向がある一方、現状に安住している教職員が多いようだ。(2)地元の大学として(米における州立大学のように)地元優先ワク(5~10%程度は一般入試)を設ける一方で県・市からもProject講座に対して拠出させるべきである。(行政)

- 管内に山形大学学部が無いので直接交流する機会がない。地域との交流を多くの住民と接触できる機会を増やしてほしい。(行政)
- 我々の業務は技能・技術者を対象とした教育訓練のサービスを提供し、かつ離職者に付加価値を付与し、再度社会に出て就労してもらう訓練を行っているが、学問的なことに関しては個人的には大学の様な機関で行っても良いと考えている。つまり、我々の提供するサービスの裏付けを行ってもらうことです。昨今、人材の高度化と言うが、学・術一体となった取り組みが必要と考えます。このあたりが山形の企業に今後大いに必要になるのではないのでしょうか。それもグローバルな考えに立った技術教育の実践が発展につながると思います。(行政)
- 地域社会と関わりを持っている方々が特定化され、少なすぎるように感じられる。(行政)
- 大学は、地域における最大、最高の知的集団である。持てる知的、人的及び組織力をもって、地域の産業・科学・技術・教育・文化の面において参加すべきものと考えます。(行政)
- 特に、意志決定を具現化するための行政執行能力の向上、教授の研究(教育)概要等の公表・公開システムの確立を期待します。(行政)
- 山形大学におかれましては、行政や産業界、県民に対し「開かれた大学」としての施策を一層促進され、また、国際化、情報化、環境問題、高齢社会などの社会経済環境のさまざまな変化に対応し、県勢発展のリーダーとして活躍できる人材の育成にご尽力されますようご期待申し上げます。(行政)
- (1)質の高い研究(世界的に通用する)(2)質の高い教育(人数のうえでは、一定以上であれば学部においてもそれ程多くなくともよい)(3)教官の質の確保(行政)
- 山形大学は、これまでも多方面にわたる学術研究等により、人材の養成、保健・医療・福祉の向上、産業の振興など、地域の発展に大きく寄与されているものと認識しており、心より敬意を表する次第であります。地域との交流において、学部により密度差が生じることは性質上やむを得ないものと考えられますが、今後とも、山形大学の機能、施設整備等の一層の充実を図り、地域、山形県はもとより、我が国の発展に大きく貢献していただけますようご期待申し上げます。(行政)
- (1)もう少し学校のレベルをあげること。「地域との交流」をいう前に、自らのレベルをあげ、地域から尊敬を集める大学とならなければならないと思う。いたずらに、地域や企業などに迎合する必要はない。(2)教員の数が抑制されているのに、教育学部は依然として毎年数百人の卒業生を送り出しているように、社会の人材に対する需要と、大学の学生数、教育内容等がマッチしていない面がある。もう少し、弾力的に運用できるようあらためるべきと思う。(行政)
- 医学、工学系はともかくとして、人文系の場合、人材養成面、研究面、社会貢献面などいずれもビジョンが明瞭でなく、成果も目に見えない。環境、情報、国際、福祉、金融等々21世紀の日本社会のあり方を社会科学の側面

から解析するためのキーワードがたくさんある。私の目に見えていないだけかもしれないが、何かひとつでもふたつでも、特徴のある分野で山形大学の位置を全国的に確立し、研究成果を産業経済界、行政に発信・提起してほしいと思う。(行政)

- 特に医学部の方々に医師確保についてお世話になっているが、今後とも協力をお願いしたい。地域社会との交流については、地域が必要としている期待(良い人材の供給の他、各学部の専門を活かした相談・指導体制—シンクタンク機能)に応えられるようにしてほしい。そうすれば、さらに交流が深まっていくことと思う。(行政)
- 山形大学について 将来的に発展してほしい。全国的レベルでキラリと光るものがあってほしい(研究・学風・スポーツなんでもよいが)。(行政)
- 仕事の上で、芸工大との関係がおおいにあるが(各種委員会の委員) 山大とは、ほとんど無い状況である。山大到、建築学科があれば仕事のうえで、関係が出てくる。芸工大ほど山大は、学外に向けてPR不足であり、専門分野の先生が(どの分野で活躍しているのか)どの程度おられるのか見えてこない。あまりにも学者的でありすぎる。ある面では、タレント的であっても良いのではないのでしょうか。(行政)
- 有識者だけでなく、一般の方々(主婦 etc)を入れた大学運営委員会などを作って民意を取り入れたらどうか。(行政)
- (1)地域に密着した具体的なテーマの学際的な実践的な研究を。(2)地域振興の具体的なビジョンを提案すること。(3)教員も学生も東北芸術工科大学のように地域にもっと入りこむこと。(4)教員としての社会的常識を自覚すること。(5)地域課題の問題提起及び解決策についても評論家的でなく責任を持った対応をすることにより、地域の総合大学としての評価が高まると思う。教員に自己改革、大学改革の意識が全体的に薄いように思われる。東北芸術工科大学の教員のような情熱と実践力をもっと持ってほしい。(行政)
- 私学である芸工大あるいは、仙台や東京のマスコミに良くでてくる教授を尊ぶ風潮がある。山大の先生にも優秀な人が多くいると思うが、PRベタと思う。また、管理が強すぎるのかな。(行政)
- 少子化時代の今日、優れた学生を確保し、更に地域に貢献する大学であることを期待する。どのような機関・組織も、その機能と役割を発揮するには、自己PRが非常に重要であると考え。大学として、どんなことで地域に貢献しているのか、あるいは貢献できるのか、地域への情報発信を積極的に行ってほしい。(行政)
- 大学の研究成果が、地域の産業発展にもつながるように、共同研究や技術相談などが、もっとやり易いような環境整備をしてほしい。(行政)
- 山形大学の存在意義を理解している教員(特に教授クラス)が年々少なくなってきた(特に医学部)。選考に問題がある。研究だけしか出来ない教授が多く、これでは大学でなく研究所にすぎなくなる。地域医療も教育も出来る幅広い視野のある人材を選考すべきです。(行

政)

- 大学はあくまでも学問の追求の場であるべき。地域との交流、行政サービス…とは大学は異質なものである。人材育成の場、高度な基礎的な知識・技術の修練の場。各大学とも独自のカラーを持った取り組みが必要ではないか。(行政)
- (1)キャンパスの統合について 総合大学とはいえ、学部が分散している。大学としての活性化を図るためにもキャンパスを統合すべきである。交通や情報化が進展しており、旧専門学校当時の地域立地としての意味合いも希薄化してきているものと思う。(2)地域社会との関係や交流について 地域社会との関係や交流については、勿論必要と考えるが、地域社会のみにとらわれることなく、地域を超えて活躍できる人材の養成も必要と思われる。(行政)
- 県内には、4年制大学が他に1校ありますが、積極的に住民への参加があり、又我々も要請しやすいところがあり、山大と大きく異なるものがある。又生徒達も自分達が選んで入学した事にほこりを持っている様で、ある意味での大学らしさが見られる。その点山大にははたつた感じが無い様に思われる。(行政)
- 山形大学主催で新庄地域においても公開講座(短期的なものでも良い)等を開催してほしいものと常々願っているものです。新庄中核工業団地の誘致企業が多く立地している。山大工学部の研究等と中核工業団地協議会との交流会の様な協力関係は出来ないものでしょうか(新庄市内には誘致企業が35社位活動しております)。(行政)
- “ローカルな研究”を通じて“グローバルな人材の育成”を実現することが今後、地方における大学のあり方として必要。学生が、社会に貢献しようとの動議付けにより、地域に通じた具体的なテーマに取り組める場として、貴大学が充分機能するよう整備拡充してもらいたい。(行政)
- 地域社会からの要請による講演会やシンポジウムの参加は必要であるが、大学側が主体となる講座、研究発表等も山形周辺のみではなく他地区にも開催してほしい。特に農学部と地域社会との関連が近くにありながら希薄なのは残念です。(行政)
- 卒業生も職場にはたくさんおられますので、もっともっと身近な先生となって頂き交流を深めてほしい。(行政)
- 大学は、学術的研究の場であるが、実践分野についての指導、支援が地域にとっては、大きな影響があり期待するところである。工学部の産研やYURNSの様な地域の企業の支援研究をもっと他の学部で広くやってほしい。例えば、教育学部は附属小中だけでなく県内の公立学校も研究フィールドとしたり、人文学部、理学部についても、専門分野を市民生活や、企業活動の実践分野で生かすことを検討してほしい。(行政)
- 地域社会に対し、大学にいる先生の氏名やその専門・研究事項などのPRを、情報として流してはどうか。一般的に、ほとんど知られていないと思う。(行政)
- 各学部が統合された形が望ましい。特徴ある大学(他大学と差別化出来る)。地域とベッタリ型は良くない。教

授については、能力ある者との契約制による採用（永年安定型で無い方式）。（行政）

- 山形大学は従前にも増して、各学部において地域との連携を重視され、地域への積極的な門戸の開放に努められておりますことに敬意を表する次第です。これから地方分権がますます進展する中で、地方における自己責任と自治体の能力そのものが問われる時代となっております。産学官の協力は唱えられて久しいが、私ども行政も地方の最高学府である貴大学を積極的に活用する必要を感じているところです。また、大学推薦入学者については、地元枠をできるだけ確保いただけるよう特に要望するものです。（行政）
- 地域社会との関係や交流を深めていくには、(1)公開講座の積極的開催(2)先生方の地方自治体における調査研究機関や審議会等への積極的参加による指導助言（地方自治体側がお願いしやすい状況づくり）など大切と思っているが、例えば(1)については、自治体広報の活用によるPRなど。（行政）
- キャンパスの整理統合を図り、大学管理の合理化、さらに大学機能の充実と効率化を積極的に推進すべきものとする。（行政）
- 地域に開かれた大学。産・学共同研究開発、情報の積極的開放。（行政）
- 旧制高校時代からのキャンパスなので非常に狭い。これでは学生が心にゆとりある教育効果は得にくいのではないかと。早急に県と移転について協議し、県の都市計画との整合性を図れるような将来像について検討すべきだと思う。（行政）
- もっと積極的に地域の文化等をリードし、振興に寄与願いたい。（行政）
- 医療過疎対策や、卒業後地元で定住し活動する学生づくり人材育成に特に中核となってもらいたい。（行政）
- 私立の大学であれば、大学を地域に売り込んで、流行や先端だけの研究でも良いが、国立大学は基礎学問、先端学問の両方において、常に研究をすすめていくべきであると思われる。例えば、医学の分野を見ても、細菌や免疫学といった地味な研究は、国立大学だからこそ研究しなければならないと思われる。もっと、山形大学でも社会人入学ができるようにしてもらいたい。特に、夜間の大学院設置を望みます。大学に在籍していた頃より社会で働き始めてからの方が、視野が広がり、興味のある学問があるのにそれに応えてくれる夜間の大学院がない。（行政）
- お陰様で、本市には農学部が置かれており、存在意義は測り知れず大きなものがあります。800人もの経済効果のみならず、それ以上に文化・教育効果が本市のソフト基盤づくりの主流になっております。今後とも現存する農学部の機能を維持、発展するため、いろいろと積極的に対応してゆくとともに、山形大学と一緒に発展して参りたいと考えております。（行政）
- これから地方分権の時代になりますし、一層自主的自立的な地域づくりが求められます。これまでも個人的不定期に講座の講師などお願いしておりますが、大学のもつ

専門性が地域に生かされる様、というより生かす様な検討を大学側にお願いしたいと思いますし、行政側でももっと計画的に、継続的に活用していくシステムを構築していかなければならないと思っております。東北芸工の先生にも講師など依頼していますが、個性的で気軽に面白い話をしてくれる先生が多い。国立大学も、もっと地域づくりへの積極的な参加と指導を望みたい。（行政）

- 山形大学は自分の母校であり、自分が在学したのは昭和27年から昭和31年の旧制高校から新制大学に移行した後の大学としての基礎づくりの時期であった。施設内もまだまだ未整備のキャンパスであったし、当時は地域社会との関わりも薄い、アカデミックな学校であったと思う。がしかし、あれから約40年が経ち日本の社会が変革期に入った現在、やはり「大学の使命」が問われているのは確かであり、日本社会をそれぞれの分野で背負っていく人材の育成も当然の責務としつつも、各地域社会において生涯を通してリーダーとなり得る人材を、地域社会と密接な連携、協力のもとで育成・教育することも、極めて大きな使命とすべき時代となっていると思う。山形大学に学んだことを誇りに思うと共に、新たな時代の新たな理念のもとに、更なる充実・発展を祈る。（行政）
- (1)大学の研究等が、地元企業育成に生かされているとは思えない。研究成果を受け入れられる程の、企業ランクが育っていない事も大きな原因であると思う（下請・孫請の会社が多い）。(2)市民や企業が、積極的に大学に働きかける意欲が薄い。（行政）
- 山大においてどのような研究がなされているのか、どのような分野を専門としている教員がいるのかが分からず、交流の接点がかめないので、そのような情報を掲載した情報誌を発行してはどうでしょうか。（行政）
- 社会教育に於いては大変にお世話になっている。（行政）
- 土に足のついた学問を学ばせてほしい（卒業してすぐに忘れるようなものでは身ににならない）。大学は聖域的考えでは、ますます地域と隔離してしまう。一部の利益につながるかもしれないが、民・学共働により切磋琢磨した方がよい。（行政）
- 庄内地方に農学部しかないので、それ以外の学部とはどうしても疎遠になる。（行政）
- 庄内地域と内陸地域では、アンケートの内容について相当の格差があると思しますので、うまく汲み取ってより良い大学づくりに取り組んでください。（行政）
- 地域に根ざす大学とは、その特色をもっと明確に出し、例えば東北の各大学の連携のようなネットワークが広域という軸で広がれる。（行政）
- 今までは、学生とその父兄、教員そして地域住民の関わりはそれほど意識することすらなかったものと思います。しかし、地域は今大いに地元大学に様々な分野で求めています。ぜひ、本調査を機会に地域と大学との関わり強化をお願いします。（行政）
- 問13については、学部、学科ごとに違うと思われるので、回答にちょっと困った。鶴岡市には農学部があり、

地域の農産物の研究を行っていると思うが、どのような情報を農家や、農学団体に提供しているのか、良く分からない。(行政)

- 以前は山形大学の先生方から指導を受けていたが、最近東北芸術工科大学の先生方、又大学自体との付き合いが多くなってきている。私どもが必要としている情報をもっと流していただくことによって、山形大学との交流も増えていくものと思っている。(行政)
- 山形大学の学部のうち工学部が米沢、農学部が鶴岡にあることを大変評価して来た一人であります。物理的距離による総合性の発揮の疎外など論外だと思う。むしろ学部長に大きな権限を与え長い歴史と伝統と卒業生の思いを大切に、その上ではぐくんできた地域の人々との交流、そして地域貢献の下地は、できていたのではないかと思います。個性ある大学の歴史を助長すべきと考えます。(産業・経済)
- 総合大学なのだが、各学部が地域分散している為、地域とのかかわりが範囲が狭くなり、総合大学としては窓口がないイメージとなっている。(産業・経済)
- 地域をあまり意識することなく、大学としてのポリシー、理念で運営すべきでしょう。そこに回りから魅力があれば自然と地域も企業も集まってくると思います。(産業・経済)
- あまり交流がないのでアンケートの解答が必ずしも適していないと思いますが、大学側、地域社会側両方で交流のあり方を研究してはどうか(若い世代間で行うこと)。大学は教授クラス地域社会は30~40代の世代(産業・経済)
- 人、物、情報の移動時間がどんどん短縮されている時代に大学はあまり地域社会への貢献のみを意識する必要はない。むしろ、世界への貢献を志向し、各地の大学がそれぞれ特色を出して欲しいと思っています。(産業・経済)
- 地方に存在する国立大学は、その地域と密接な交流を図って地域の発展、向上、繁栄に専門的な分野からもっと貢献すべきと思う。大学独自の理念に基づいた教育や研究は大いに推進されなければならないが、地域のニーズや地域の問題にもオープンな関わりを持ち、躍動的で活性的で、生き生きした大学であって欲しい。閉鎖的・閉塞的な学問の場ではなく、地域と大いに関わりながら、時代と呼吸し、地域と呼吸しながら、地域の発展向上に向けたリードをしてゆくことが、全国的に見ても、全体的に見ても、国の発展向上の一翼を担う生きた大学の姿と思う。(産業・経済)
- 地域との関わり合いについて基本的にはこれを超え、又はこれに捉われない教育、研究を指向すべきである。他の私立または単科大学とは異なる普遍的乃至はグローバルな教育理念を探索しつつ全人間(オールマン)としての大学教育を望む。しかし、地域との共生は必要である程度の関わり合いは当然のこととして必要であり、これに媚びたり遠慮する関係であってはならない。(産業・経済)
- (1)山大はキャンパスの再検討を要する時期に有ると思

う。(2)山大は一般社会人の入構、学内立ち入りを拒否する感が強い。(3)山大は他の大学に比較して学生に元気がない。(産業・経済)

- 地元への貢献度が高く、地元からの期待も高い等地方大学としては、立派な大学と評価できると思います。これからも、より地域へ密着した姿を模索、指向していただくようお願い致します。(産業・経済)
- 優秀な人材が地元企業に就職し得る為の活性化を大学が先頭に立ち、揺り動かす位の気概が必要。(産業・経済)
- 大学は地域への門戸を開放し、一般住民が気軽に出入りできるような場になって欲しい。地域としては、卒業生が卒業しても残りたいと思えるような街づくり、就業の場づくり、大学がある街としてふさわしい学園都市づくりを進めなくてはいけないであろう。(産業・経済)
- 一般的に学生気質が県外(東京)へのあこがれが強いようであり、従って、その中には優秀な学生が含まれている可能性があり、その分大学の質の向上にマイナスになる面もあると思われますので山形大学が特色あるカラーを打ち出すことが大切であると思われる。(産業・経済)
- 地域社会との交流は新興の私立大学が積極的で地元からも好評を得ています。国立大学という機構がめんどうなのか、安定した身分が災いしているかわからないが、地域との交流にはいま一つようです。勿論、大学には教育や研究など本来の使命もある訳で、これとのかねあいが大切と思われます。(産業・経済)
- キャンパス自体は身近にあるが、学生は夜の繁華街で見掛けるだけ。しかし、一部「ひまわり号」等のボランティアで頑張っている人もおり、頼もしく思うこともある。教職員、学生ともに、地域参加を期待しています。(産業・経済)
- 昭和60年当時は全く交流なかったといつてよい程度であったが、現在はすばらしく、交流がきかんになっている。しかしまだ、大学と民間との交流はぎくしゃくしている。県行政とはかなり活発である。ただし学部によって可成り異なっているように思う。関係、交流の深まることを期待したい。民間の産業推進も自発的研究開発で活力をうるように努力するべきであり、大学はそれを支援していただきたい。地域の中にすばらしい研究テーマを見出しうると考えている。大学は和合の中からテーマを見出すとき、大いにのびると思う。(産業・経済)
- (1)各学部が分散されているが、これを1カ所に出るだけまとめて各学部での積極的な人事、学术交流をもっとやるべき。(2)地域との交流も、もっと深く関わる方向で努力すべき。(3)優秀な教授を出来るだけ集めて、特色ある講座、独自の交流を図ってほしい。(産業・経済)
- 医学部は、地域に密着しているが、他学部についての努力を期待します。(教育)
- (1)大学教官に山形県に腰を下ろして骨を埋めようとする教官が極めて少ない。自分のせまい研究で精一杯で、早く東京の大学へ転勤することだけを考えている。地域

のためとかいい人材を育てるという意識は全くない。若い人ほどその傾向が強い。(2)授業は全く下手で、恥ずかしい内容が多い。高校の授業程度が多く、学生をひきつけることができず、私語も多い。附属学校の授業でもみて参考にすべきだ。(3)論文中心より学生への指導力(学生から評価)など重視すべきだ。それによって採用、昇進をきめるべきだ。(4)大学の教官の適性の評価を2年に1回ぐらい実施すべきだ。事件をおこした教官はすぐ免職すべきだ(スキャンダル・女性問題)。大学の自治のかげにかくれて一般に甘い。(教育)

- 山形大学は、私の母校(教育学部)です。高い関心をもっていますが、山形大学で、どんなことが問題なのか、どんな研究をしているのか、その情報はほとんどわかりません。山大同窓会の時、少しわかるくらいです。芸工大の場合、地域と密着している感じがします。芸工大の教授は、山新などで研究を明らかにしたり、新しい発想を次々と県民の前に出したり、鮭川村のような田舎にも、教授や大学生が僻地校を訪れたりしてくれるので親しみが多い。山形大学は、いわゆる国立大学というカラーにまだつかっている(当然かも知れないが)ような気がする。山形大学は、もっと県民にわかりやすいそして親しみやすい大学になってくれることを心から期待しています。(教育)
- ヨーロッパ文化に片寄せたままの印象がある。地域から頼られる研究機関であってほしい。(教育)
- 学部学科により地域社会とのかかわり方も自ら違ってくるものと思われる。現状は、地域からの要請により対応していただいているが、今後の姿勢としては、開かれた大学は評価されるものと思う。地域とのかかわりもさることながら、学生が入りたがられる魅力(特色づくり)あるキャンパスづくりに、さらに努めていただきたい。(教育)
- 芸工大の学生と比較すると、感覚的にはあるが、山生には“ハキ”が感じられない。もっと日本の最高学府としての意気込みを持ってもらいたい。(教育)
- 特に教育関係の充実を期待する。(教育)
- 私の居住する地域には山形大学の施設が全くない。その為、大学と地域の交流については情報はあってもその実感が無い。公開講座や企業との関わり等に関しては大学施設のない県内の地域にも配慮されたら良いのではないだろうか。(教育)
- (1)特に教職員養成面において今日の地域社会、学校におけるニーズに適応されていない。(2)社会教育主事等の養成や社会教育職員の研修の機会や講座が乏しいように思う。(3)工学部等の専門的な研究内容や研究結果等についてもっと情報を提供して地域との親近感を深めてほしい。(教育)
- 大学は、地域社会のニーズに応じることと、教育研究に専念することが、一致するような努力をしながら、特色を求めるときと考える。(教育)
- (1)山形の学生は、昔は県内在住の者が多かったが、今は、全国各地から入学しており、県内に有力企業が少なくもあって、卒業生が県内に残って活躍することが

少なくなり残念に思う。(2)山形の教官の方には、多方面にわたり、地域の発展にご協力いただいていることに感謝している。今後とも、より一層高度な知識経験を提供していただくことを期待している。(教育)

- (1)キャンパスに集結した総合大学として発展することを希望します。(2)地域毎に4学部が離れていて各学部が別々に動いている現状に好感はもてないのが率直な考えである。(教育)
- ここ10年くらいの中で山形大学の人的構成が大きく変容している。入学する学生が従来の県人主体から東北、全国へと広がっている。教員養成を目的としている教育学部でさえその傾向が強い。そういう状況の中で地域社会と山形大学の関係や交流は意識としても弱くなりやすく、その連携も重要ではあるが困難になってきている。それを打破するには、地域社会の理解、協力も必要だがやはり山形大学側の積極的姿勢が強く求められる。大学と地域社会の意図的・組織的話し合い(検討、協議)からその具現化への動きを期待したい。(教育)
- 自分の研究中心で、地域との交流をやってみようと考えている先生方は少ないのではないのでしょうか。(教育)
- 施設開放についても、人的交流にも地域社会との間に大きな壁がよこたわっていたような印象がある。地域の人々から親しまれ愛される大学であったかという点、疑問が残る。学生諸君の学外での行動にも留意すべき点が多々ある。地域の頭脳、オピニオンリーダーとしての期待も高い。(教育)
- (1)生涯学習の振興に伴い、地域の大学(山形大学)の先生方に多くのご指導、ご助言の機会に恵まれるよう願っておりますが、財源・予算に限界があり大学の先生にだけ頼れない現実もあります(講師謝礼等)。(2)地域づくりや、地方・都市の交流等が最近盛んになってきていますが、国立大学の先生方より、中央の私立大学の先生方が熱心に研究されており、当地にも立教大、早大、中央大等の先生、学生が多く入ってきて多くの助言を頂いております。(3)県内諸学校(教員)の研修の機会は大変多く恵まれ、山形大学の先生方のご指導に感謝致しております。(教育)
- 行政では社会の変化に伴い、現代的課題としていろいろな施策、計画、構想を実施している。それに関わり、指導してくれる山形大学の先生方への期待は大きい。又、行政職員も仕事上いろいろな悩みがあり、助言をいただきたい希望も多くある。それらに気軽に、そしていねいに指導してくれるのが、地域大学の使命でもあろうかとも思っている。そういう意味で、山形大学との関係や交流を密にしたい。(教育)
- 私は山形大学の卒業生として、プライドを持っているし、プライドを持ち続け、県の全ての分野で貢献すべきと常々思っている。近年、不況のこともあって山出出身者が県内の企業なり、職場(教員)につけないことを残念に思っている。特に教職員の人事に携わっている職務柄、せつかく山を卒業したのに、採用は他大学の方が率的に多いことが残念でならない。卒業生を受け入れる企業(安定した)も少ないのも残念。誰が考えても山形大学

は、過去においても県内のあらゆる部門をリードしてきた実績があるし、教育の最高機関としての自負心を持って、もっともっと地域社会との交流を活性化し、その存在感をアピールする施策を講じる必要があると思っています。(教育)

- 地域に関連した研究を行っているのであれば、内容の詳細まではともかく、何を課題として取り組んでいるのか、何らかの形で示されてはどうか。(教育)
- 大学ですから、研究ということを本来の理念に経営を考えられるのがよいと思います。そうした中で、生涯学習という生き方、そういうニーズに応えるのも行政の使命にもなっているので、地域にある大学の教育や文化の力を地域に開放していただくのもたいへん有難いことで、期待したいことです。また、こうした時代の状況の中でどう生きるか、という点については研究とともに、大学生の人間教育について十分研鑽を積まれるような大学教育の充実もお願いしたいと思っています。(教育)
- 日米の産業構造のゆき詰まり、国民の経済優先生活への意識の変革、それに伴ってより心の豊かな人間性への転換を求めているとき、大学人の積極的な働きかけと指導を期待したい。(教育)
- 生涯学習社会の整備と振興のために、各地域との交流をし地域に応じた指導・助言をお願いしたい。自治体職員の、生涯学習推進のための講座を設けてほしい。(教育)
- 教育学部の山形県教員採用試験への合格率が非常に少ないのはどうしたことか。中学校教員の免許教科を二教科にできないものだろうか。(教育)
- (1) 特定の教授がマスコミによって地域とも結びついている。(2) 全国の大学との比較では、残念ながら文化レベルが低いのではないか。(3) ボランティア活動において、学生が目につくようになった。(4) 地元の教育は山大で持つというぐらいのプライドと力をもってほしい。(教育)
- 市町村行政側、或いは企業等がもっと大学に素直に働きかけていく必要があると感じている。(教育)
- 教育現場(学校教育現場の充実)の悩み・課題に応えるような研究の推進・充実。(教育)
- キャンパスをもっと広く明るいものにすること。いまの山大は門が狭く中に入るのがめんどろな仕組みである。開放さがない。閉鎖的な印象(あくまでも印象)である。マスメディアにももっと出て、県民にPRするなど、せっかく素晴らしい研究を行っているのだから、外にアピールしていいのではないか。(教育)
- 県内各地域での公開講座等お願いできればと考えます(年次計画等で結構です)。(教育)
- 山形大学が近年、大学の活性化の努力をあらゆる分野でなされていることに敬意を表します。山形大学の場合は、「地域性」を重視した活動を重点化していただきたいと常々思っています。(教育)
- もっと地域に開かれた大学であってほしい。地域の文化、経済、産業に学生から関心、興味をもってもらいたい。(教育)
- 県民にとって親しみと貢献度の高い大学と感謝してお

ります。学生は真面目な態度で好感度が高い。地域行事に山大生として、もっと積極的に参加して(企画等)にも良いのではと思います。ボランティア等に自発的に参加されてリーダーシップを発揮していただけたらと希望しております。(教育)

- 研究情報をせめて市町村・教育委員会等には知らせてほしいし分かち与えてほしい。野に出てよの一言でしょう。(教育)
- 積極的に地域の行政・経済・福祉・文化等に取り組む多くの教職員が山形大学の存在を示していることに感謝するとともに、一部分なのか、最近の実感として大学に期待することが少なくなっているようだ。特に、学問の成果や先端の情報が20年前と較べて地域に伝わらなくなってきている。地域から学ぶとともに地域を指導する役割を担ってほしいと感じている。(教育)
- 地域の要請がなければ外に足をふみ出さないと言う姿勢ではなく、地域や住民がもつノウハウを引き出せるような積極的行動をしてもらいたい。一般の住民は、山大においてどんな研究がなされ、それがどのような意味をもつものか分かっていないし、解る方法もない。開かれた大学…それがよい学生を育てるのではないか。他の大学の方がその点きわめて前向きに動いている。(教育)
- 生涯学習社会を念頭においた教員の養成に努めてほしい。(教育)
- 教育学部について、児童・生徒の指導者となるべき教育機関としては、キャンパスが殺伐としている今、子供に個性と豊かな感性など…求められるが、それは家庭教育と教師自身の感性が大きく関与すると思う。教師となるべき学生の完成を求めるには、教育環境を見直す必要があるのでは…(教育内容ではありません)。(教育)
- 正直にいつ山形大学についてはあまり知らない。友人には山大卒がかなり居る程度。地域にある国立大学として、地域との交流をはかり地域の発展にも貢献できるよう期待している。(教育)
- 教育を誠心誠意行う教員の数が増えることを期待する。研究についても設備、施設の不備、研究費の不足の中でも可能な限り努力し、地域の人々に高等教育機関としての質の高さを認めてもらうことが必要。その上で、地域社会との交流を今以上に活発にすることが重要である。実力がなければ、地域との交流があまり意味がないものになり、よい入学志願者も集まらない。また、生涯教育の拠点校ともなり得なくなる。地域社会にとって、真の意味で頼りになる大学となることを切望する。(教育)
- 山大と地域交流の関係は学部間で差が大きい。交流の少ない学部の努力を希望する。(教育)
- 山形県は、交通体系が未整備のため、県としての統一的活動にやや欠ける面がある。山形大学も、山形、米沢、鶴岡とキャンパスが分かれているが、それを逆手にとって、各々の地域との交流を深めておられると思う。学長のリーダーシップも大きい。今後は、単位の互換システム等を確立して、県内の各大学・短期大学との連携を更に深めて頂ければ幸である。(教育)

- 山形大学の広報その他、山形大学の現状を伝えるもの、印刷物が一切ないので、山形大学に関する新聞記事は丹念に読むことにしている。また山形大学に勤務している知人を通してなるべく詳しく聞くことにしている。広報などを県内44市町村、70の高校のほか短大や他大学に定期的に配布していただければもっと広く関心が高まると思う。(教育)
- 山形県内に分散しており、学部によってかなりの違いがあり、平均して考えると問の評価になります。特に工学部、医学部は地域への貢献が大きいと思われる。(教育)
- 大学が少なかった時代と違って、最近では、山形市内をはじめとして宮城、岩手県立大学等ユニークな大学が設立されてくると、かつての栄光や役割のみ強く残って、新しい時代への意欲、息吹が仲々見えません。地域社会との交流を意識せざるをえない時代にいますが、実際には難しい立場にいるようです。調査・研究・分析等解説、解明はあつても、これからどうすればよいかの立論応用が仲々出ない(政治家でないのだから当然ですが)。全体的に人材養成提供としての意義は大きい(公務員多し)時代や地域社会をリードしようとする意欲に欠ける感があると思います。(教育)
- 私見で大変失礼とは思いますが、大学としての理念や学生に何を求め、何をさせるのか等が見えてないように思う。地方の大学としてその存在感や人材育成力、学問研究意欲、卒業生に備えさせるべき能力の質と内容等を学園を一つにして積極的に議論し、構築されてはと付言させていただきます。(教育)
- 少しずつ無理なくかつ確実に地域との交流を拡大してもらいたい。基本的なプランなどを先に立てるのではなく、他大学やアメリカの大学の例などを参考に実質的、断片的に進めてもらいたい。きちんとしたマスタープランを立ててから実行しようとするのが我々の悪いクセですね。大変でしょうががんばって下さい。(教育)
- 県全体という視野でみれば、山形大学はさまざまな面で県に貢献していることがわかる。しかし、酒田に在任している個人という立場でみるとほとんど関わりがない。時間的・空間的に遠い存在となっている。若者は山形大よりは、東京を中心とする関東の大学に進学しようとするし、大人も直接中央からの情報に期待しているようである。山形大学は県や山形市だけでなく新庄や酒田にも交流や情報提供を図るべきである。(教育)
- 地域社会に於ける山形大学の教育に対する理解は程んど無いに等しい現況にあることはさびしい限りである。2、3の公開講座の開設のみでなく、指導者や学生の研究発表や積極的な地域社会でのアクティビティを展開し、大学教育の理解を深める必要がある様に思われる。その事が地域の中で様々な連携につながって来るのではないだろうか。単なる存在だけに終わらせたくはないと考えている。(教育)
- 山形大学の研究、実績等をマスコミを通して知る機会が中心です。知る限りでは地道な研究努力が容易に想像されます。現在の機構では、地域との交流はなかなか難しいものがあると思います。大幅な改革というより、もう少し視点を移して、交流しやすい環境整備がなされればと思います。まず、地域社会の人達が地元の大学を大切にするためにも情報をもっと必要かなとも思います。(教育)
- あたらしい事態に大学側が対応しようと努力している姿勢はうかがわれるが、それが具体的に目に見える形でまだあらわれていないように思われる。東北芸工大が地域とのかわりに積極的であるために余計、影が薄い存在になりつつある。(教育)
- 学歴社会から学習歴社会へと移行する中で、地域の大学として、地域社会のニーズに応じて大学は積極的にサービスを提供すべきである。(教育)
- 地方の国立大学(山形大学)は、地方の発展のために、指導的立場から、地域社会との交流を充実・発展させていただきたい。山形大学は山形らしさ(自然、環境、産業、文化、環日本海時代など)をもっともっと発揮していただきたい。(教育)
- 大学での授業を短期間あるいは単位時間で、簡単な手続きで、社会人が聴講できるシステムがあるとよい。高校の教員の立場で言えば、大学の授業に大変興味があるし勉強もしたいと思うが、どんな授業が行われて、どうすれば聴講できるか不明である。(教育)
- (1) 実情は解りませんが外観から推定すると、山形大学の先生方は、保守的で伝統的な大学を保持しているように見える。(2) とっぷりと現状の中に浸って、改革する様子が見えない。特に、大学教授陣の閉鎖性が目立つ。教授陣自らが先頭に立って、地域との交流を深める必要があると思う。(3) 大学の教員も教育者である。専門学者であると同時に教育する学者である。後者を軽視する傾向はないか。専門の教育を通して人間を育てる大学でありたい。(4) 勝手なことばかり書いて申し訳ありません。(教育)
- 東北芸工大の地域に対する関わり方は特筆すべきものがある。公開講座の民俗学の講座はまさにオールジャパンであった。今回も中村雄二郎を呼んだり、いろいろなレベルでの地域との交流を図っている。山形女子短大も貢献している。山形大学は? 山形大学は、派手なものでなくてもよいが、もっと根を張り、地域に密着した教育活動を行ってほしい。(教育)
- 地域と公的機関との連携交流がますます必要になってくると思います。たとえば東北芸工大のように何もかも、と行かないのは分かっていますが、少しずつでも一般住民との融合を図ってもらいたいところです。アンケート、答えにくい設問あり、期待感の大きさもあって偏った答になったかと思えます。お許し下さい。(教育)
- 小生は、貴大の卒業生です。貴大からの教員合格率は年々減り、東北の中でも最下位の方にあるようです。このような状況では、高校生が他県に流れていくおそれがあります。この方面の対策も、しっかりとお願いしたいものです。地域との交流は、大学(学部)のあるところでは行われているやに側聞しておりますが、それが無い新庄や酒田ではどうなんだろうかと思っております。象

- 牙の塔に籠もる学生生活は昔のこと、今はどンドン地域社会の中に降りてきて交流を積極的に進めていって欲しいと思います。(教育)
- 交流を深めるためにも、余裕あるキャンパスや施設があればと思う。魅力ある研究・実績で卒業生に誇りを。教員養成という地元との関わりが少なくなると同時に「山大」が見えなくなりつつある(主に文系)。(教育)
 - 研究の内容・成果を広く県民に判るような仕組みを作って欲しい。一部のことであるが、山形大学を首都圏の大学への腰掛けのように考える、考え方をする人がいるようだ。(教育)
 - 地域にある唯一の国立大学として、地域発展のために尽力していただきたいと思う。(教育)
 - 大学は、独自の学究の場として堅持していると感じている。ただ内部側の考えとしては、地域との交流についての必要は充分もっているものと思われるが、一般県民からは、それが見えにくいし、又、大学側も理念としては持っていますが、その具体性に欠けているのではないかと感じている。(教育)
 - 学部の特性によって、地域との関わりは異なっているように思います。工学部は多雪地域の米沢市にあることより、効率的な降雪装置の研究で市民に広く知られておりますが、卒業生はほとんど地元企業に就職しません。地元で大企業が沢山あるのですが残念です。また、県内小中校教員の大半が山大教の出身で占められていますが、生徒数の減少で教員になれずに他職種に就いているようです。山大教員の中にも地域からの要請があれば積極的に地域の文化・経済等の研究調査に加わりリーダーシップを発揮している方もおります。要は、大学教員の資質・意欲・研究成果等々と地域のリーダーの資質が問われるのではないのでしょうか。(教育)
 - 山形大学においては、地域のため、さらには高校生のため、さまざまな企画をなされておりますが、宣伝或いはアピールが消極的なため、なかなか関心をひくことができず、盛り上がった話題にならないことが残念です。こちら(市民・或いは高校教員として)から、いろいろ働きかけ、或いはお願いをしても、気軽に応じてもらえないところがあります。東北芸工大に比べて、国立の先生は冷たいという感じがします。学生のマナー・モラルの向上も、地域の信頼を高める上で重要なことと思います。(教育)
 - 21世紀にむけて、鋭い知性を育むための教育・研究を推進して欲しい。このことによって、地域の人材、文化が育まれていくのではないかと。(教育)
 - 農学部キャンパスが当市にあるが、当市の高校からの入学者は2~3名程度。もっと魅力のあるものになって欲しい。(教育)
 - 高校に勤める者として、高校と大学との関係を一層密接にすべきであると思う。オープンキャンパスなども、もう少し大々的に出来ないだろうか。又、第三の学科として現れた総合学科についても、全国の大学に先がけて推薦枠を設けるなど、時代の流れに敏感な施策をとってもらいたい。(教育)
 - 工学部については、民間企業の指導、特に技術面において一層の支援をお願いしたい。工学部出身者で山形県内に残る人が、あまりにも少ない。もう少し、地域の活性化を図るためにも、卒業生が県内に残ってもらいたい。(教育)
 - 最近では山形大学の各学部ともよく県内の企業、施設、病院との交流をもち、地域にねぎした大学たらんと努力しているようであります。ただ、小白川キャンパスは手ぜまであり、車が入りにくく、不便である。農、工学部とも山形市に集めて真の総合大学として機能を果たすには、もっと広い場所に移転すべきだ。我々の勉強不足もあり、大学の取り組んでいる目下の研究項目、内容がよくわからない。(教育)
 - キャンパスが分散しており、総合的な窓口がどこで、どのようにコンタクトすべきなのか、気分的に、敷居が高く感じられる場面が多いのではないかと。本題からはずれるような感想で恐縮だが、まず、「総合大学」としての環境を整備され、誰にでも誇れるような、陣容にして頂きたいと、切に念願するしだいです。(教育)
 - 東北芸工大学ができる前まで、長く、山形県唯一の4年制大学であったが、教育学部出身の地元にいる教員以外は、あまり地域との連携や地域での活躍が薄いような気がする。地域社会との交流を大事にしなが、尚かつ本来の学問で教育・研究の力を高めること。(教育)
 - (生涯の)自己研鑽の場(機関)となるようご期待申し上げます。(教育)
 - 18歳人口の減少に伴い公立大学共にそれぞれの大学の特色を打ち出し、学生募集に力を入れているが(特に私立)地元の高校(山形県内)をもっと大切にもらいたい。私立高校の、校長として地元の唯一の国立大学に本校生徒を多数入学させたいが、学力の点で生徒の希望通りにいかない。10年、20年後の長い目で見て頂き、地元の活性化の為に地元出身の学生を多数入学させて頂きたいが、国立という観点から無理だろうか。現在四大進学希望者の中、私大へ入学する者が圧倒的に多い。地元の発展は人材に困るものであり人材育成の為に地元出身者が多数入学できるよう念願している。(教育)
 - 山形大学が地元出身者(地元高校)よりの合格者、特に、医学部等で少ない(もっとも地元高校の学力も問題があるが)。したがって、山大医学部卒業者の地元定着率が思わしくなく、一步県都を離れればあいかかわらず、医師不足。(教育)
 - 地域の期待に応える大学に、教員がもっと地域に貢献すべき。施設がもっと地域に活用できるようにしてほしい。(教育)
 - 将来はともかく、当面は地域企業や社会との関係をもっともって深め、地域発展文化の向上に貢献していただきたい。そうではないかもしれませんが、大学は私共の生活から別格のところにあるような気がします。(教育)
 - 地域人としての学生と地域の交流も大切だが地域にとって研究者としての教授陣への期待が大きいものがあると思う。その意味で、是非、大学でしかできないレベルの高さを期待したいし、その成果を積極的に地域に活

用できるようなシステム化が期待される。特に、地元における国立大学の先生方への期待が大きいことを理解して事にあたって欲しいものだ。(教育)

- 公開講座をもうけることや、特定講座の聴講を積極的にうけ入れていただきたい。学生による教官の評価を公開した方がよい。(教育)
- (1)数年前当地に新設された東北芸術工科大学の職員の方が、ずっと積極的に学生を動かし、それが市民への働きかけにもなっている。自治体や地域文化行政への働きかけも積極的だ。新聞・テレビのニュースにも芸工大のことばかりが出てくる。(2)大学入試の在り方等について、地元高校側の意見に耳を貸そうとしない。山形県高校長会との話し合いも、10年前よりむしろ態度が後退したのではないか。大学受験入試とか就職試験は受験者本人の問題であって、大学教員の仕事(問題)ではないかのような高踏?的な態度を見て唖然としたことがしばしばある。山形県は小・中・高の教育が全国的にもしっかりしている。もっと耳を貸すべきと思う。(教育)
- (1)地域の自然、文化、芸術など、人間の生活や科学に関わることなどを幅広く研究し、その成果を広く住民(県民)に啓発してほしい。(2)地域に出向く学習や、市町村の各課や教委などと多く関わってほしい。(3)環境教育でも各部門の活動も大切であるが、統合された研究や実践をもっと広めてほしい。(教育)
- 山形大学の各学部によって、地域社会との関係交流についてはかなりの差異があるのが現状と認識している。その中で、地域社会から交流を含めた協同への働きかけが、希薄であったのではないかと思う。農学部に対してである。庄内の今後を展望すると、農学部の持つ機能をもっともっと活用していくべきである。(教育)
- 自分の息子が山形大学に在学中には大学の資料がよく送付されてきて色々な情報を知ることができ大変ありがたかった。報道などで大学と地域の連携を知る機会が多い。(教育)
- 小生は教育学部出身ですが、今の学生に必要なのは、野外教育についての分野ではないかと思われる。又、社会教育特に生涯学習社会の中における学校教育という認識をもたれるような教科の分野があってもよいのではないか。又、教育実習の単位の中に青少年教育施設での実習も是非入れるべきではないか。そういうボランティア的な活動と、実習報告書を卒業単位の中に組み入れるべきと思われる。(教育)
- わたし共のやっている埋蔵文化財の発掘調査など開発に伴って多くなっているのに、以前にあった考古学の講座がなくなってしまった。従って、県内市町村の担当職員が不足して困っている現状がある。もっと文化行政に人材をおくる努力が必要ではないのか。(教育)
- 学生に勉強させていただきたい。教員の頭脳をもっと開放していただきたい。大学近在にとどめず、県内市町村で教育、経済など幅広く提言をいただけるようになればよいと思う。(教育)
- ここ数年山形大学自体が進んで改革改善に取り組んでいる姿が、外からでも見えて卒業生として嬉しく思っ

ている。しかし、昭和30年代~40年代~50年代の在り方が大きく反省されると思う。学部の差が大きいのが、又腰掛け的に移ってきて出ていってしまう若手教官も多い。大学の先生方の更なる熱意に大いに期待したい。活性化を待ち望んでいます。(教育)

- 入学の門は広く、卒業は十分に学問を修得した者とする。(医療・保健)
- 山形大学の学部によって関わりが違いますが、医学部の立場は微妙である。教授陣に人格・教養のそなわった人材が少ない。県の地域医療で当てに出来る状態は何時期期待できるか? 農学部は分かりませんが、工学部は米沢にあるせい交流はあり、講演依頼など頼み易い関係にある。工学系は社交性のある研究者か、汚い格好で研究室と自宅を往復する社交性のない教授が望ましいのか、わかりませんが社交性だけが優先している感もあります。(医療・保健)
- 大学は、教育・研究を第一に実践する場と考えて、学生には豊かな人間性を持った人材として育てて欲しいものである。その為に、地域との交流を進めるべきであろう。(医療・保健)
- 各学部でも名の通った教室がいくつかあると思います。それらは県内を問わず良い人材が受験することになると思われますので県内にとらわれずに研究に又発表に力を入れていただき地域との交流はシンポジウムを広く開催して頂ければ色々な道が模索されるのではと考えているところです。大いに期待しています。駅弁大学と称されてた一時代とは様変わりし東京も一日圏内に入ることですからよい学部へはどんどん入ってくるのではないのでしょうか。思いつくままです。(医療・保健)
- 大学の理念を失うことなく、地域社会文化の振興のリーダーとしてのご活躍をお願い致します。(医療・保健)
- 大学教官自体、教授選考を初めとして、学生教育の理念、教育者としての資質の向上を図り、まず大学自体の足下を固めることが必要。各位の視野を広げる意味からも、狭隘な小白川キャンパスを離れ、見はらしのよい場所に、広いキャンパスの構想を立ててみてはどうか。(医療・保健)
- 地域医療を理解して地域に貢献出来る人材育成のための医学部の教育カリキュラムを大学独自に検討をする。(医療・保健)
- (1)地域性と国際性は矛盾しないと思います。山形大学の独自性地域性を出すのが国際的に通じることになると思います。(2)地域の利益を図ることが、地域に役立つということにはならないと思います。日本全体の利益を図ることが山形の地域にとっても山形大学にとっても利益となると思います。(3)山形出身者は、山形以外のところでの活躍が目立ちます。同じように山形あるいは山形大学出身以外の人が活躍出来るような環境作りが山形大の活性化につながると思います。(4)山形は良いところだと思います。山形県民が独占すべきものでもないと思います。より開放的に開発が進められると良いように思います。(医療・保健)

- 山形県という局所にとらわれることのない広い世界をみた仕事をして欲しい。国家公務員という official なことは捨て地域に自分たちの方から飛び込み地域を大切にすることが必要である。(医療・保健)
- (1)医学部との交わりが深く、医学部をみますと、人材不足がはなはだしい。(2)学部教育が最近低下している(人間性)医師として資質の低下(特に若い医師はどのような目的で医師となったか、非常に疑問であり、自分自身の実力が伴わないにもかかわらず、金のことを要求している)。(3)卒業生が大学に残らず、このままでは地域医療が崩壊する。教授選考に問題あり、手術も出来ない教授を選び、単なる論文で選んでいる。教授は地域の事も理解してほしい。(医療・保健)
- 特に医学部について、卒業生の定着率の低いことから、県内の病院における医師不足は依然解消していない、山形大学医学部設立の趣旨から考えると、もっともっと地域医療に理解を示して欲しい。県出身の学生を多く入学させる、あるいは他県出身の学生が、山に残るような魅力ある教室づくりをするなどの努力をして頂きたいと思います。地域医療の発展なくしては山医医学部あるいは山形県の医療の発展は得られないものと考えます。(医療・保健)
- 山形大学が何をやっているのか、全くわからない。外部へ情報を発信して下さい。(医療・保健)
- 世界に通じる第一線の研究も大事であろうが、地域にある大学であるという事をもっと念頭に置き、県民により多くのことを還元して下さるような仕事、そして人材育成に力を注いで頂きたい。(医療・保健)
- (1)社会との関係、交流を深めることと、大学閥を作り排他的になることとは、表裏の関係にあり常にチェックが必要と思われる。(2)常に総論的な話ばかりで、ふみ込んだ話が先送りされる傾向が大学にある。この状態が長く続けば大学の意志そのものへの信用は失われてゆくでしょう。(3)大学活性化のために教授の年限を契約制とし、更新する制度にすれば良いと思う。(医療・保健)
- (1)情報の開示。教官名簿の配布。教官専門分野並びに現在の研究主題についての情報・国際学会とのかわり等。(2)地域との連絡窓口の明確化。図書館業務、或いは文献検索等のサービスその他。(3)学際的交流と地域社会との年間予定等の配布等。(医療・保健)
- 国立、文部省直轄の意識が強い。官尊民卑意識も教員に多い。意識改革が必要。地域に開かれた大学になってほしい。(医療・保健)
- 医学部入学生に県内出身者を多く含めてほしい。(医療・保健)
- 山形大学医学部は、付属病院が地域の先端医療の拠点として関わりを地域ともっている。工学部については、米沢地区の地場産業と連携して産業技術の向上に関与していると思われる。しかし、それ以外の学部は直接的にはあまり地域との関係をもっているとは感じられない。(社会・福祉)
- 今後は、教育・研究も、一極集中化が起きる。情報化社

会では、それが促進される。全世界的な大競争時代がくると、世界単一基準、単一の枠組、透明性が求められる。権力の根元は一つしかないので、一極集中化がおきる。すると、地域では、それに追従するような形しなくなることが考えられる(地方分権というのは、抹消的な部分での分権である)。そこで、ユニークな視点、ユニークな発想、研究でやるしかない。そして、それはいっぱいある。それをもって地域と交流することが大事である。(社会・福祉)

- 地域住民及び団体等との交流を深め、その住民及び団体等の特異性を学問的立場から研究し、制度ならび地域住民産業発達のため研究交流を希望いたします。(社会・福祉)
- 人的交流等を積極的におこなうべきではないでしょうか。(社会・福祉)
- 大学は、地域に開かれた学問の府でなければならぬと、よくいわれますが、私の住んでいるところは、大学のある所在地よりやや離れているせいか、実感が無い。郡部の方でも一般市民を対象にした夏期講座等、出前方式で開講してもらいたいと思います。(社会・福祉)
- 社会人教育にもっと力を入れ、地域に開放された運営をするべきだ。また、そのPRも工夫していただきたい。(社会・福祉)
- 学部が散在していることもあり、大学全体としてのまとまり、地域との関わりに欠けるのではないかと。市民も、学部の教職員の名前に接する位で親しみにくいと思える。(社会・福祉)
- 仕事上と新聞等での交流情報を知る程度ですが、山形大学の研究、実践活動で地域社会に生かしていけるような情報が不可欠である。同時に教員の地域住民等との交流姿勢を広げ、教員に住民が持つ特別視する意識を変えるべきと思う。(社会・福祉)
- 一般住民にとって、山形大学は大変遠い存在に思えます。子弟が山形大学に入学できるのは、その総数からみれば、ほんの一にぎりですから、関わりのあるのも一部の人々という事になります。最近、かなり学園の開放が計られているようですが、それは県都山形市在住の人々に片寄ります。東北芸工大(私立・山形市)のように、積極的に地域に入り、数々の活動を展開されて、山形大学が一部の人々のものだけではないとの印象を与えることが望ましい。(社会・福祉)
- 大学は開かれたものでなければならぬ。具体的には施設設備はもとより、最も大事なことは、教員の人間的開放が大切と思う。例えば、全教員が大学所在の市町に住むこと。その上自治組織に加入、共同活動することによって、人間開放がされるものとする。教員の人間開放によってこそ、大学に対する全体的信頼が生まれ親しまれるものとする。大学の学部によって、校風(?)が違っているところに着目したい。(社会・福祉)
- 教育・文化・芸術等の最高の教育機関と思うので、自分の研究を地域に生かし貢献を図ることも同時に考えて欲しい。同じ人間として共存意識に立って、共に生きる意識を持って交流の機会を多くすることを、各学部自体

で考えてほしい。山形大学は、普遍的な存在もあるが、県内に建つことを考えて己れ自らの力や国意識だけでなく、県民を育てるといことも主眼の一つに生かしてほしい。山形県の人材育成に関わって。(社会・福祉)

- 他県人が入学している数も多いのかも知れないが、地元の大学であるという認識が湧いてこない。他の私立大学は、地元に着した交流の場をかなり設けており、気軽に大学内に行くことができる。県民が身近に感じられる大学であって欲しいと思う。(社会・福祉)
- 大学の内容についてはよく分からないが、地域社会特に教育関係については、多大の貢献をしていると思う。(市民団体・ボランティア)
- 私と山形大学との直接的な関係はない。米沢市に居住している者として、八幡原工業団地などの交流を密にして、工業米沢の名をもっともっと高めてほしい。会社の誘致だけで交流(支援)がないように思われる。(市民団体・ボランティア)
- 山形大学とは全く交流がないので、このアンケートにも満足に答えられません。地域交流を深めていくには、今日までの成果のうち、めばしいものをマスコミに開示して、一般社会の関心を高めることが肝要と思う。文化団体、文化活動、社会活動等には、その道の担当者が積極的に参画し、指導助言をしてほしい。(市民団体・ボランティア)
- 県民に敬愛される学生、卒業生が誇りをもてる大学教育をお願いします。(市民団体・ボランティア)
- 地域社会との結びつきを考えるならばもっと大学自体が積極的になる必要を感じます。はるか上のような感じがします。(市民団体・ボランティア)
- 一般的に山形大学といっても学部により活動内容も異なるし、学会でお会いする先生も異なるし、学長先生により大学の印象も異なるから、アンケートは全体的に“期待できない”の項が多くなった。一般的に私立と異なり学会や県の諸会においても、活動している印象は薄く、内容も教科書的な方が多く、現実の社会の問題に対応しての研究もフレッシュなものが見えず魅力がない。そのため自然交流が少ない。芸工大の方が教授、学生共々社会問題に積極的に創造的に行動し、市民に新しい生き方を提示しているが、山大には学生の行動も積極性が見えず、先生方の研究の成果も社会には全然見えず、また行動も見えない。どんな先生か、何を教えているかも分からないし、無関心である。そこで学会や審議会の時に見えるものも、何か形式的なものばかりで創造的魅力がなく、地域をリードするものになっていない。それで「市民との交流研究」を作り、職業別、目的別な構想をもって無関心な両方の考え方を育てた方がよい。教育の社会化が不足していると思うし、そうした人材が少ないと思う。(市民団体・ボランティア)
- 講演とか、助言指導とか、大学の時間外に依頼することが大変難しい。又、講師謝金等についても知りたい。(市民団体・ボランティア)
- 大学に関しての情報というものは、大変少ないので、このアンケートの質問に対して回答しにくいと感じまし

た。大学の中にいないことには、大学内で何を研究しているのかなどといった事は、テレビ等のニュース以外では、一般の人は知り得ません。もっと、情報を発信する手段を考えていただければと思います。(市民団体・ボランティア)

- 新聞等のマスコミを通じての範囲でしか山形大学の様子はわからない。ただ、医学部の研究水準は全国的にみてもかなり高いように思われます。今後の益々の充実を期待しております。(市民団体・ボランティア)
- (1)最近山形大学とのかかわりがなかったため、特に関心もなかったが、このアンケートのために久しぶりに国立大学を見つめる良い機会だった。(2)地域社会と山形大学との関係は、テレビ、新聞情報で知る限りです。もっと学内のニュースも知りたいし、地域社会と交流してほしい。(市民団体・ボランティア)
- 山形大学に他地域から入学し、最初のショックは「山だなんか…」と地元の人があまり親しみを持っていなかった点だ。それまで住んでいた(生まれ育った)ところでは、もっと地域の人が大学を大事にしていたような気がしていた。地元の新聞社に入社して、また「〇〇新聞なんか…」とあまりいい感情、イメージを持たれていないことにもショックを受けた。地元大学地元新聞社を良く言わない良く思わない不思議な地域だと思いながらも30年も住んでいる。(報道・出版)
- 受験生の“中央志向”もあろうが、地元高校生の山形大学に進学しようという意識は低い。大学の魅力、活力に乏しいのが原因ではないかと思われるが、地域社会ともっと交流することにより、その存在感が増し、地元の評価、認識も高まるのではないかと。(報道・出版)
- 山形大学にどれぐらいの教員がいるのか分からないが、地域との関わりがあり、市民に名前と顔が知られている教授は何人もいない。むしろ東北芸工大の先生方が地域との交流を積極的に行い、大学キャンパスの開放などを行っている(公設民営の新しい大学という事情はあるが…)。地域との関わり、地域のニーズを研究に加えることにより、自らの学問のレベルが高まり、大学の教員としての自己実現は高いレベルになるのではないだろうか。自閉的な印象を受ける。(報道・出版)
- 地域大学のあり方を問う試みは大いに賛成。学問よりも実学や生活・体育の面でもっと市民や地域と交流できる活動があるはずだ。(報道・出版)
- (1)国立大の教官のポストを得たことに満足し、その地位に安住し、「大学村」の内部のことだけに興味を持っている。(2)永く大学がひとつだったため、地元住民も大学も地域無視の体質に気付かなかった。東北芸工大の登場によって、その特質が浮き彫りになった。・公開講座一つとっても、参加してみようという魅力的なものがない。芸工大の講座には何回か参加した。ただ義務的に開いている印象。(3)遅ればせながら、このテーマに取り組んだ姿勢には敬意を払うが結局は何も変わらないという気がする。(報道・出版)
- 全国どこの大学も似通ったところが多く特長がなくなってきている。他所にないユニークな大学を再構築して

いただきたい。例えば、山形県は脳疾患や癌の多い地域である。これらの問題を解決していくには医学部のみでできる問題ではなく、工・農・理などの関連する学部との連携により研究を進めていく必要がある。地方大学は割合に学部間の連携プレーがしやすいと思われるので大いに協力しあい、互いに専門外の不足している知識を補完しあうことにより問題解決に結びついていくものと思う。問題解決のためのプロジェクトチームが弾力的につくられるような体制を整えることにより、その効果を発揮していくものと思う。地域に根ざした全国的にも珍しいユニークな大学づくりを実現されたい。(報道・出版)

- せっかく良い研究等をなさっているのに、その研究テーマや結果といったものが、地域社会に伝わってこないのは大変残念。例えば、そういうものがマスコミに送付されたとしても、宛名が社長であれば、報道部には届かないケースが多い(これは当方の社内の問題ではあるのだが)。そうした場合、社長宛にプラスして報道部デスク(部長宛よりデスク宛がよい)にも送付する等の工夫も必要のような気がする。要はPRをもっと上手にした方がよいと思う。飲み屋で山大の先生にお会いしたりするが、そのときの会話から情報が出てくることが多い。当県には東北芸術工科大学があるが、山形大学と比べると、地域社会との交流について言えば、芸工大の方がおおいに開放しているというイメージがある。(報道・出版)
- 山形大学農学部移転は、大学との関わりが遠のき、庄内地区の農業教育その他多々マイナスとしますので反対です。勝手な考えかもしれませんが、当地区の若い方々の流出、人口の減少・活性化にも影響が大だと思います。庄内平野の中にこそ農学部を置いて下さい。この答は農学部中心の片寄りがあると思いますので御了承下さい。(文化・芸術)
- 大学側と文化団体の交流が欠けているように思う。それには大学側から文化団体側への情報を活発に発信していただく事だと思ふ。その点については東北芸術工科大学の方が一歩リードしているように思う。(文化・芸術)
- 学部によって地域とのかかわり合いが大分ちがうように感じられる。大学院も大分充実しつつあるようですが、研究等についても、地域との関わりをもった内容でありますと、地域からも認められるのではないかと、地方の大学こそ地域と遊離してはならないと思う。大学は学生も教官も、もっともっと地域にでて、指導してもらいたいと考える。本県の自然環境の良さが、産業、教育文化面で生かされていくような学問の場であることを願い、地元大学の発展を切に願うものである。ご期待します。(文化・芸術)
- 地域との交流を深めたいと切望する。県外出身の学生も多いと思われるので山形の良さを知って頂くために社会に貢献出来る人材の育成に努力して欲しい。(文化・芸術)
- 小白川キャンパスが狭すぎる。文系学部が人文学部だけ。もう一つ位余計にあってもよいのではないかと。大学の数が少ないため、教員のアルバイト先が少ない。それが優

秀な教員の集まらない理由にもなっている。(文化・芸術)

- 山形大学には優秀なる先生が多いと思っております。しかし、その優秀なる先生方と地域住民との交流(接点)が少ないと思う。私の近くにある東北芸工大の先生方は、地域との結びつきを求めておられるし、気軽に講演等も引き受けていただいております。国立大の先生方は、移動もあるのか、身近に接する機会が少なく大学自体もよく理解されていないと思う。(文化・芸術)
- 教授個人として、是非ともご交誼、ご指導を頂きたい方が少なくありません。しかし、それには少なからずの謝金を必要とします。その資金を何とかうまくゆかないだろうか。その逆に、学生等が要求するならばわたしたちは無料でサービスをしても結構です。例えば、短歌・俳句等の指導です。大学側ではもっと活用して欲しいものです。(文化・芸術)
- 地元の文化、芸能面への理解を深め、交流する機会を積極的に進めてもらいたい。(文化・芸術)
- 社会人になってからも、大学での勉強、交流、研究会など地域との関係が特にほしい。(文化・芸術)
- 地域全体(住民も含め)山形大学のいい意味での利用法を知らないようである。つまり、どの先生が、どんな研究をし、どんな点にエキスパートなのか、全くの情報不足であるのが原因と思う。もっと大学内のPRをすべきで、何となく“象牙の塔の人”といった印象が強い。お一人お一人会うと大変いい方ばかりなのだが、どうも世間に出るのを嫌がっている感じを受ける。いい対象として(東北芸工大)の先生方がいる。みなザックバランで開放的(キャンパス全体も明るい)。(文化・芸術)
- 基本的に学問とは、社会の中で生きてこそ価値があるので、実証を以って正しさを証明される部分があるのだらうと思ふ。この意味で、社会とは様々に関わりあうことが、必要であったのであろうが、今迄は、お互いにノウハウが無かったのだと思ふ。したがって今後、大学側が、積極的な展開をご検討なさることは素晴らしい事と思ふ。それを社会(地域)側も受け入れるだけでなく、社会側も積極的に大学へ働きかけ現実的に活用する手伝いを構築するのが、成功させる条件の一つだと思ふ。(文化・芸術)
- (1) 山大は、国立大としてもっと権威と誇りをもってほしい。そして、地域の国立大としての意識と特色をもってほしい。(2) 山大生は、国立大の学生としての自信と誇りをもつべきである。やや卑屈な態度が見られる。都会の一流大学生よりも優秀だと思われる学生を知っている。(3) 地域における国立大は、それなりの見識をもって、地域の人々と同じ視点に立ち柔軟な態度で、積極的に交流を図るべきだと思ふ。(4) 山大医学部と県内の医師会との交流は他県に見られぬほどの緊密な交流を行っている(学会・学術講演会・親睦会など)。(文化・芸術)
- 当地唯一の総合大学としてのリーダー的な立場を示しつつ、地域の内に溶けつつ山形のカオであっても良いと思ふ。学生にあっては、学内・外の活動を地域の中に浸

透させるように、活動の内容、方法を工夫すべきである。大学自体、教員、学部、諸活動団体、学生諸君、個々が地域の為、人の為、社会の為、国の為、家族の為、世界の為、人類、地球の為というような意識を明確に持って欲しい。幸せな社会にする為に、期待しています。(文化・芸術)

- 山形大学卒の学生を、もっと県内において、活用すべきだと考えている。優秀な人材は多いと思っている。地元が地元の優秀な人材を活用しないのは残念である。例えば教員などにしても、山形大学を卒業しても、地元の教員になれない。地域社会の発展とは、地域の中から、発展を考えるべきだと思っている。身近にあるものの重さを大切にしたい。(文化・芸術)
- (1)山形大学の諸研究等について更に、一般県民や東北の人々にPRすべき。(2)地域の人材をもっと数多く利用すべき。・学部内の交流はどうなっているのか不明。(文化・芸術)

新潟県

- 大学は本来学問研究の府であると共に、学生の教育機関でもある。また、研究施設や研究体制に応じて若い研究者(大学人)を育成する役割も担っている。このような大学の目的や性格は一国の歴史と時代の変遷によって変容する。即ち、大学設置の基本目的をベースに、社会に開かれた大学像が求められている。余りにジャーナリスティックな対応は避けなければならないが、現今社会の多様化に伴って、プロパーな学問領域から弾力ある学際的研究開発に対応する姿勢が大切なのではないかとと思う。(政治)
 - 新潟大学出身者で、新潟県内に多く貢献している職種は、小・中・高校の教員や、医師・歯科医師などでしょう。今後は、いろいろな分野に卒業生を供給すると共に、卒後の研修をはじめ、大学のアフターサービスをしていくことが望まれます。卒業すれば大学との関係が切れてしまうのでは困ります。もっとも医学部のように、人事権を握っていて、勤務医などの身分まで永く左右するのもよし悪しですが、いずれにしても、地域課題の解決や、地域の切実な要請に即応できない地方大学では、存在意義に乏しいと思います。アカデミックな研究・教育もさることながら、実学的な現実即した学問に意を用いて欲しいものです。(政治)
 - 大学と地域社会が切りはなされている。意識の上からも、地理的にも。例えば、大学は市内中心部にサテライト・オフィスや研究室、教室をつくり、市民交流をはかることもひとつの方法では、大学人は、もっと積極的に地域で市民との交流をはかるべきである。(政治)
 - 大学の研究の中には、地域の発展に役立つ部門も多い。また、地域との交流、企業との情報交換によって、新たな研究への発想、進展へのアイデアが生まれることもあると思う。ぜひ、もっと交流を進めてほしい。(政治)
 - 新大教授が教員の関の支配について研究されていると
- いうがその趣旨、等について知りたい。(政治)
- 私は、県議会の厚生環境委員会に所属していた4年間で感じたことは、県内公立病院の医師不足のところがありますが、新潟大学からの派遣がなかなか思うようにならないとのこと。又、他県の大学出身医師をなかなか受け入れないとのこと。もっともっと開かれた大学として県民生活の向上に寄与されますことをお願い申し上げます。(政治)
 - 新潟大学が地域に貢献していることは医学以外あまり良く知られていないのではないかと。もっと産業・文化など幅広く交流があっても良いのではないかと。(自分が知らないだけかもしれませんが)資金等についても新潟県経済界がもっと提供すべきであると思う。(政治)
 - 新潟大学は県内外に誇る優秀な人材を世に送り出していることは承知しているが、更に新潟県の将来あるべきまちづくり等についても、積極的に参加を提言していただければ幸である。(政治)
 - 新潟県は県土が広く長い為、新潟大学所在都市と離れている地域は余り新潟大学との交流なり関心は少いが、子供を入学させたいと思う、親の気持は県内の国立大とゆう事で入学希望者が多いが、大学所在地域と離れた地域は、他の大学を選考する生徒も多い。大学側はもっと地域に対しての情報や、企業との連携等積極的に行ってほしい。行政諸課題等に於ける、反対活動等には必ず、大学教授の名前が出るが、もっと、賛否両論ある中では物事を平等に見て、発言、提示してほしい。(政治)
 - 積極的に地域と交流すること。学校開放すべきだ。教員の資質に非常に問題がある。全職員とは云わぬが独善的、評論家的教育が多い。評論家や学者である前に先生である事が大切だ。やはり田舎の大学でしかない。(政治)
 - 地元の国立大学でありながら、卒業生でないということもあり、大学についてほとんど知らない。新潟大学は、県内の最高峰の大学であり、人材、学術レベルは高いのだから、もっと地域に密着し、県内各界各層のシンクタンクとなるべく、その方向に向かってほしいと思う。(政治)
 - 27年前に新潟へ着いた時は、「新潟の国立大学」と言うより「新潟にある国立大学」の印象が非常に強く、不審に思った。現在は当時から比べれば地域貢献度は高まったとはいえるものの、まだ満足できるものではない。(政治)
 - 新潟大学は県部に集中している為、私の住んでいる長岡では技術科学大学や造形大学により親しみと愛着をもっている。地域の交流は長岡の二大学で非常にうまく行われており新潟大学にこちらから呼びかけてゆく必要は感じない。(政治)
 - 県都新潟市や長岡市、上越市等は大学との交流や情報交換があると思われるが県北や小さな市町村とはまるで交流がない。広く公平に各自治体との接触を望みたい。(政治)
 - 新潟の五十嵐浜にキャンパスがあるため中越地方では大学の顔が見えない。技大との交流のほうが多い。新大との交流が少ないので正直のところアンケートに答え

られない部分がある。「わからない」「知らない」等の欄があればよかった。(政治)

- 大学の先生の一部の方々に、特定名信条を持って偏っている考えの持主と思われる人々と一緒になって社会的な行動をとられる方がおられることを残念に思います。一般に大学の方々がとられる言動について地域の人々は「えらい先生のおっしゃること」として受けとる傾向があり社会的に与える影響が大きいと考えられます。オピニオン・リーダーとして慎重にあつて欲しいと希望している一人です。なお回答を鉛筆書きにいたしました。よろしくお願ひいたします。(政治)
 - 新潟大学と直接かかわったことはないので詳細なコメントはできません。新潟県の顔をになっている総合在学であると思いますので、地域社会との交流を深めるため、自治体との関係も深めてほしい。(政治)
 - 私は新潟大学といえば昔の医学部を思い浮かべ国内でも権威あると今でも思っているし、農業であるので農学部も自満できると思っている。これからは、県内ではトップとしての誇りと国内でも新大ありという信念で一層頑張って頂きたいと思います。(政治)
 - 上越地方は新潟市に遠く位置している為何かと不便。何か、相談(聞きたい事)があつても機会を造るのが不便。上越地方での講演会とか、シンポジウムを多く開催してもらい教授・助教授等との交流の機会がほしい。何か知りたい時の窓口(申込)先のPRがほしい。(政治)
 - 直感的には医学と教育の部門のみ地域との関連は強いと思う。しかし産業界や農業については印象が薄い。実社会に即応した研究、開発等をより期待したい。尚教員については企業や官公庁等へ2~3年のサイクルで実務研修を受けさせるべきだ。卒業後直ちに教員の世界のみでは子どもの教育のみならず、自身の人格形成の上からもプラスにならないと思う。現在の教員の姿を見て、また接してみても痛感している。(政治)
 - 新潟大学の事は新聞やテレビで知る程度。大学内にある技術・学問をどうしたら地域に生かせるものか。私の所では大学の先生は何かの反対の為の旗持ちの様に思われている。例えば革新新政党の支持とか。(政治)
 - 7月中に回答すべき処遅れまして申し訳ありませんが今回初めて此の様な機会を得ました。大学進学が全国でも下位の新潟県。大いにこの様な質問等はやるべきと思います。(政治)
 - 大学側が中央の大学(東大)を真似るのではなく新潟県全体の必要な人材を養育し、新潟県がその人材を育成する事が大事と考えます。(行政)
 - 新潟大学に限らず、大学を卒業した者が、社会に出て「この人が大卒?」と思うことが多い。教養を身に付けることは大切なことであるが、各種交流会を通じて、社会に対応できる教育をしていただきたい。(行政)
 - 大学は教育機関なのか、研究機関なのか問われているようです。やはりものごとの基本を教える教育機関に徹すべきではないでしょうか。もっとも、基本を究めることは研究に通ずることではあるが。(行政)
 - 長岡市には依然新潟大の工学部があつたと聞いていま
- すが現在は何も無いようです。大学関係の施設があればもっと市民は活用し、親しみを持つと思う。(行政)
 - 医学部のような世界レベルの研究もするし、またそれをもって地域医療に具体的に貢献している大学を目指すべきだと思います(特に法学部・経済学部地域社会に研究成果が還元できるように)。(行政)
 - 環境問題、農業問題、工業技術開発等の地域に密着した研究を、産・学(新大)・官(国・県の研究所)の研究機関がそれぞれの特徴を生かして共同研究を行っていくことが、地域を活性化させるために必要だと思います。各省庁の予算においても地域に係わる研究費を用意しているので、地域に適した良いテーマを立案し、研究をおこす努力をすることが、重要だと思います。(行政)
 - 特に国立大学に在つては、国内外に対して不偏的な教育と研究を行うべき場であり、地域との交流は勢い二の次になると考える。しかしながら、大学の学生や研究者は大学の立地する地域の人材が主体とならざるを得ない状況とも考えられる。地域の繁栄や豊かさは、地域における人材の育成に大きく影響する。大学での教育・研究の成果を高める要求が有る場合、大学を構成する、学生を含めた人材の質の高さが求められることとなる。このため、大学の立地する地域の社会・経済・文化の繁栄と豊かさが大変重要であり、それを生み出すための大学と地域の関わりには大きな有利性が有るものとする。(行政)
 - 新潟市に在住して未だ数ヶ月であり、新潟大学のことを余り知らないが、地域との交流を深め、地域のニーズに応える開かれた大学を目指すべきと思われる。(行政)
 - 新大というイメージと医療と教育というイメージが浮ばない。地元の大学でありながら地域との交流、又、地場産業との係わりが薄いように思う。環日本海時代を迎えたと言われる今日、大学には、地域の将来を見据えた活動を期待している。(行政)
 - あらゆる面で地域社会、特に産学の交流を活発に行い、研究成果の社会への還元を図り、学生には、より実践的知識の付与を行う必要がある。地域のリーダーたらんとする、意欲と、技量・知識の向上に努める。これらの努力は、個人として、努めると共に、組織化することも考慮してはいかかでしょうか。例えば期間を定めて学部毎にテーマに取り組み、定期的にその成果をとりまとめ発表し、社会の評価を求めると。(行政)
 - 雇用促進協議会を担当していた時に、経済学部の教授(助教授)に委員や講師、パネラー、地域調査事業を依頼したことで、新潟大学との接点が出て来て、大学及び教授に関心を持つことが出来た(労働安定行政として初めてのものと思う)。当時は、行政にとっては新鮮に感じられ教授側も関心が高まったものと思う。現在の雇用問題を短期的に見ても、長期的に見ても、もっと大学側に関心を持ってもらいたいし、研究してもらいたい。行政側も働きかけが必要と考えている。もっとお互いの交流があつてもよいと思う。(行政)
 - 国の行政の一地方機関の職員として、経済学部、法学部、人文学部及び教育学部(旧名)の多くの先生方から、研

究成果をお聞かせいただける機会を与えていただきました。行政として取り入れるべきものが多くありました。大学には、人的、経済的にも制約があるとは思いますが、県内各地での公開講座を設けるなどし、地域社会の多くの人びとの教養等を高めるために貢献されることを期待しています。(行政)

- 新潟大学にはもっとレベルをあげてほしいと思っている。それと同時に情報開示を積極的にすることにより、地域からも自然といろいろな要請が学校へ行くものと思われるが、要請の中味については、学校において一定の物差しを持ちながらできるものについては、より積極的に指導援助をしてほしいと考えます。(行政)
- 大学側の予算の制約があるためやむを得ない状況とは察するが、大学が何をしているのかという広報がほとんどない。大学と地域との交流、大学の地域への貢献を期待するが、大学が何をやっているか地域の人々がわからないようではどうしようもない。まずは大学側の積極的な広報、地域の市民に向けた講座の開設(単発の特別講演会でよい)等を望みたい。(行政)
- 現在、新潟大学が地域社会との交流等について、どのような具体的事業を展開しているのか、正確にはよく分からないところですが、私どもの行政に従事する立場からは地元の国立大学には様々な面でご指導をいただいております。より、地域に開かれた大学を展望し、市民にとって政治・経済・文化・自然・科学等の各分野で、公開講座やセミナーなどが積極的に展開されることを期待しております。(行政)
- 特に地場産業の技術面への支援が少いように感じている。その理由は、企業サイド、大学サイドともアクションが少かったことにあると思う。お互いもっと近づいて共同研究など積極的に行うよう努力すべきである。(行政)
- 地域社会との関係は、教職員でも学生でも教え、学ぶ場がそれぞれの地であり、都会であれ、田舎であれ重要なことではなく大学の価値は第一義としては真理の探究、知識の吸収に努め人間性の涵養がいかに進められるかではないでしょうか。そのための教育の過程で地域の自然、社会、経済等が教材となり実践的な教育の場がひいては地域の貢献につながり、教職員、学生共に地域からの感謝や貢献から受ける人間としての喜び等が人間性を高め豊かさを実感できる人生を得ることができるのではないのでしょうか。そのためにも地域への関心を高める必要があるのではないのでしょうか。(以上)地域で活躍する人材とか地域を超えて活躍する人材の区別はないのではないのでしょうか。地域で活躍できる人は場を与えられればどこでも通用すると思います。そうあるべきが人材の養成ではないのでしょうか。(問 13(1)は不明です。)(行政)
- (1)地域社会と大学の連携については、学校の方針として掲げても教授や学生が、その必要性を認識しないと実践できない。その様な体制づくりをどうすすめるか。(2)地域社会も大学が「別社会のもの」と考えないで協調する姿勢が必要ではないか。(行政)

- 大学側からの積極的な市民等への開かれた受入れ施策の充実を図ることにより、大学と地域社会の相互理解を進め、お互いの意識のうえのカキネを取り払うことが大切だと思う。新潟大学だけに限らないと思うが事務局の官僚意識の強さが、大きな障害となっているのではないかと感じられることがある。(行政)
- 地域社会にあつての新大の存在意義を十分認識し、地域社会活動を積極的に展開すべきである。～意欲不足。その為に、教職員の姿勢・意識は最重要であるのと合せ、これらを規制する、文部省の許認可等の制限を廃止し、学長の権限に委ねるべきである。優秀な人材の流出は新大の評価を下げるもの。～原因の究明と人材の確保等を確立すべし。(行政)
- 人口当り都道府県比較で、医師数が、毎年40番以下であり、医師過剰地区の国立大学の医学部定数を減じ不足地区の定数を増やすよう強く要請すべきである。“北東アジア大学”を目指し、対岸を意識した大学造りをしてほしい。夜、古町で学生を見かけないが、どこに行ったのだろう?(行政)
- (1)「地域に開かれた大学であるべき」と言われて久しい。しかし、実態は十分県民に活用されていないと思う。(2)15～20年前、市民大学講座のような形の私的の講義を、経済学・社会学について月1回1年間(読書会のようなもの)受けた。通算4年。また、短大で聴講生として、会計学、経済学を年間受講した。(3)こうしたニーズは多いと思うが、場所が便利でないと、夜はサラリーマンにとっては無理である。古町のど真中でやってほしい。(4)また、短期大学を廃止されたが、夜間の苦学生の希望は多いと思う。(5)短大の復活はできないとしても、夜間講座を便利な場所で開設されることを願っています。(行政)
- 前任の仕事では、新潟水俣病問題に関係していたため、新大医学部の先生方には大変お世話になりました。またCNP農薬の不使用に至る経過の中では、新大の先生の研究成果に負うところが大きかったと思います。新大に進学できる県内受験生が少ないのはやや残念な思いがします。(行政)
- 今よりももっと、公開講座を各学部共に頻りに計画的に継続的に魅力的内容をもって開催すべきである。行政が行う研修会シンポジウム等に、積極的に参加すべきである。地域ニーズに関心を持ち学際的に、啓発普及に力を借していただきたい。上記によって県民の大学に対する関心と親和性が高まってくると考えます。(行政)
- 単なる想像と、一部お世話になった先生方を通しての感想ですが、社会情勢の変化や社会のニーズに関係なく(?)、自分の研究分野にマイ進されている方が多いように感じています。気軽に現場の実践をサポートしてくれるような体制ができることを期待します(障害児者の福祉・教育。児童障害児者相談。介護保険等の福祉分野で)。(行政)
- 他の大学に比べ、県内で活躍しているOBも多いのだから、地の利を生かして、もっと地域の中に入り込み、実学としての「地域学」のようなものに全学あげて取り組

んで欲しい。県の福祉行政というごく狭い分野からの印象ですが、大学の顔がよくみえてこないような気がしています。(行政)

- 新潟大学の現状について、ほとんど情報がないので答えにくい設問ばかりでした。“わからない”の選択肢が必要ではないでしょうか。あえて設けなかったのでしょうか。大学と地域社会はもっと近づく必要があると思います。(行政)
- 新潟大学、各学部で学んだ卒業生は、大学で修得したものを基礎として、県内、各地域各分野で活躍しています。新潟大学が、地域社会に貢献している度合いは計り知れないものがあります。新潟大学教職員の皆様の一層の御活躍を祈念します。追記：医学部卒業生がもう少し県内に定着出来るようお願いします。(行政)
- 新潟大学について。地域の学術研究・学術情報の中枢機関として、地域のセンター的役割と機能強化を望みます。交流について。県内の産・官の試験研究機関、企画開発機関との人的・情報ネットワークをより一層強めたうえで、産・学・官が協力して戦略的な研究の実践が望まれます。(行政)
- 県内の大学としては、やはり伝統もあり代表的な総合大学である。しかし、最近の卒業生は先輩の築いた遺産に甘んじてはいまいか？ 井の中の蛙になってはいないか？ 貴大学の経営資源を活かして、全国に通ずる企画をより多く実行していただき、地域に貢献されてもいかかかと思えます。(行政)
- 新潟大学各教員の、腰掛けぬ意識が強いのか、あるいは、自らの研究分野に閉じ込めているのか、これまでの新潟大学は、一部学部を除いて、地域や人材に対して無関心できていると思われる。これらを早急に打破して、開かれた大学づくりに取り組んでいただきたい。(行政)
- 近年、地域社会との交流の姿勢を強められ、好感を持っています。しかし、経済(学部)関係の地域への貢献については、他県の大学に比して、見劣りがする感があります。県内の産業経済の発展をリードするような意欲的な調査研究を期待します。(行政)
- 新潟大学でも学部によって、又、学部内でも教室によって地域との関わり方が大きく異なっていると感じます。それ故に、相当答えにくいアンケートでした。地方の大学は、学生の教育という大目標があるにしても、その地方の動きに関心を持ちながら、研究対象(材料)をその地方に根ざしたものを扱ってほしいし、そうしないと地域と交流しにくいと思います。(行政)
- 自治体の政策立案の場合、係長クラスで素案づくりを行う段階から参加するケースが少ないような気がする。(行政)
- 新潟県における学校の教員は新潟大学の出身者が多い、大学の進学では毎年大量の浪人者が出る。また、進学率でも全国低位と聞く、このような状況を解決するためにも、高校生が都会の大学に行く事がないように、質の高い魅力ある大学になるよう希望する。仕事の関係で新潟大学と接触を持ったが、良い意味では独立性があると言うことになるが、教授は閉鎖的で世間を知らなさ過ぎる。

地域社会との関係や交流については期待していないので、学生には社会に出てすぐに役立たなくとも良いから基礎的なことをしっかり教育してほしい(現状の新潟大学では無理と思う)。(行政)

- 各県に設立されている意味等考えた時大学の存在理由が明確になるのでは(新大の内容を理解していませんので回答出来ない所が多くすみませんでした)。(行政)
- 上越圏域を中心に居住、活動しているので新聞等の情報をおしてのみしか新潟大学との交流はない。上越市と上教大(上越教育大学)は、非常にうまく文化的な面で、交流があるように思う。人材の育成、地域文化への貢献、産学共同事業等、いきいきとした大学であることは、望ましいことと思われる。(行政)
- 県と大学の研究費の補助を知っているが、もっと地域に根ざした、地域のためになるような研究をやってほしい。(行政)
- 新潟県には新潟大学以外の大学がありますが、それらの大学は所在地の地域との交流が中心になっていますが、総合大学の新潟大学は新潟市だけでなく新潟県全般(全市町村企業)に色々な面で積極的に働きかける必要があると思う。(行政)
- とかく大学は、学問の探究の場として位置づけられ、そこでの研究の成果が地域社会にうまく生かされていないかという感じがいたしておりました。この度のこうした意識調査には心から敬意を表します。今後は、地域社会に一層開かれた大学として、地域企業との共同研究開発や文化の向上に、貢献いただきますようお願いいたします。(行政)
- 新潟大学は、新潟市というイメージが強すぎると思います。もっと全県を対象とした交流、情報発信、学校開放などを検討していただきたい。また、三条市では県央リサーチコアを中心とした、地場産業再構築のビジョンの実現に向け全力で取り組んでおりますが、産業界は言うまでもなく、県内の大学、研究機関、特に新潟大学には大変ご尽力をいただき感謝申し上げます。これからも、より以上にご協力を願いたく、よろしくお願い申し上げます。(行政)
- 新潟大学の学生の内、県内出身者の割合は低く、卒業しても県内で活躍される方が少ないと聞いています。県内子弟のための優先枠を設けていただき、より地域のための大学、地域と積極的に交流する新潟大学を期待しております。(行政)
- 新潟大学が以前にもまして、公開講座や、産学との共同研究、地域活動への参加等、地域社会との交流に積極的な取り組みをされている事に敬意を表するものです。住民のニーズは、ますます多様化、高度化、広域化する中で、これまで以上に、県内全般に目を向けた、地域に根ざした大学を希望いたします。(行政)
- 人間社会で最も大切な教育の最高学府であり地域社会と一体であるべきと思う。最高学歴が就職の為に必要という視点ではなく、人間社会、地域社会の核であるべきと思う。私は、数年前に新潟大学の公開講座、「食・農・農村」を10回にわたって受講し、勉強することのおも

しるさを再確認しました。新潟市旭町まで毎週金曜日の夕方に通った経験はすばらしいものだった。新潟大学の先生方の持つ研究成果を、地域社会に生かす方法の一つとして、公開講座は意義あるものと思います。また、自治体などの催す講演会、セミナー、パネルディスカッション、シンポジウムなどには、積極的に情報を提供するなどして、交流しやすい状況づくりをすることが大切だと思います。(行政)

- 新潟大学は日本海側でも有数の総合大学である。環日本海圏構想の中でも重要な役割を果たすものと考えている。また産・官・学の連携がいわれている中、地域社会と新潟大学との密接な交流により形式的なものでない具体的な形でのアウトプットが欲しいところである。いずれにせよ今後の新潟大学へ大いなる期待を寄せている。(行政)
- あまり新潟大学と地域社会との関係の接点はこれまでにないという印象である。普遍的なものはもちろんであるがもう少し地域に根ざした内容、方法の学問、研究が行なわれても良いかと思う。又その結果は地域に還元すべき。大学の教育理念に地域との交流の考えを取り込んでもよいかと思う。(行政)
- 大学は学問の府であると共に、その地域の文化や産学官協力の推進により地域貢献・地域密着性に特別の配慮を計って貰いたい。(行政)
- 地方都市においては中央との距離的、時間的な問題があり近い所にたよれる学研所(大学)があり、行政、企業等々これらが協力できる態勢ができれば住民の信頼も得られ存在価値が発揮でき双方にメリットが生まれると思う。更なる努力を期待しております。(行政)
- 県都にある大学であり、県都との結びつきは当然のことである。県都の大学はそこに位置するだけでなく、全県的な存在機能を発揮すべきであると思う。特に総合大学としての機能を県民全般に発揮すべきであると考え。(行政)
- 新潟県の行政・政治は蒲原政治・行政と良く言われます。新潟大学も分校を廃して本校一本化により、行政・政治と同様の傾向が強くなっているように思います。新潟県全体を視野にした大学であってほしい。(行政)
- 当地(上越市)に上越教育大学があり、市の各種委員会には、委員長、委員として(学識経験者)多くの先生方に参加して頂いております。又加藤学長からも沢山のご援助をいただいております。上越市は新潟大学と、距離的にはなれており、地元の上教大との関わりが多くなっていると思います。教職員関係のかかわりは、委員長の部門ですが、新潟大学との交流は沢山あると思います。(行政)
- (1)医療、福祉の分野でもっと地域に密着するサービスを研究開発してもらいたい。(2)地域における教育文化の分野でもっとリーダーシップを発揮してもらいたい。(行政)
- 近年、地方分権の議論や動きを見ると時代の潮流として「地方分権」が協力的に推進されていくものと思います。こうした時代の要請に応え、地域の総合的な行政主体と

して現在重要な役割を果している地方自治体が様々な政策課題に責任をもって地域づくりを進めていくためには職員の研修強化と知的に鍛えられた人材の確保が重要な課題であることから本市の上級幹部職員の中から毎年1名を貴大学院に入学させ(現在7名が卒業)大学院での研究成果を政策形成部署で力を発揮し中心的存在として活躍しております。また本市職員のうち40名を超える新大卒業生が中堅幹部として頑張っています。大いに期待しているところで貴大学にご期待いたしますことは、倫理感、倫理感覚をもったよき人材を――そして隣人に奉仕する精神をもった人づくりにご尽力をいただけますようご期待申し上げアンケートの回答とさせていただきます。(行政)

- 新潟大学には、多数の留学生がいると聞くがこの留学生と、一般市民又は自治体との交流の場を広げ異文化交流の促進等を考える必要があるのではないかと。ただ単なる学術習得のための留学生の受入れのみではなく留学生の生き方、考え方、感性の披露等を通じた交流の場作りに利用したら、これが案外、大学と地域をつなげる一つの方策と考えられるが、どうか。(行政)
- 私の町相川町には、新潟大学農学部演習林や、理学部の臨海実験場があり身近に新潟大学と接する機会は佐渡島内では一番恵まれている。これらの施設と交流を深める中で、町の基幹産業である農林水産等の進展のために力を借りて行くべきだと痛感した。新潟大学への入学者数の中に新潟県出身者の数が少ない、残念に思う。(行政)
- 地方公務であり新大とのかかわりは社会教育主事資格講習会の参加、農学部との大規模草地造成において問題を大学に持ちこみ指導を受けるなどの、かかわりを持ってきた。(行政)
- 新潟大学のあり方については日本としての人材を養成することも否定はしないが、新潟地域の発展のための人材を養成してほしい。そのためには新潟地域(県)の実状を的確に知る必要があろうと考える。自治体や企業との交流もその面では必要と考える。併せて、対岸諸国との交流は新潟県の発展には不可欠と思われるためこれに向けた人材の養成にも力を注いでほしい。(行政)
- 大学の内部で情報を県民に開示すべきだ。行政執行の段階で各種の専門委員に教授より参画を願った経験があるがもっと積極的に行なうべきだ。(行政)
- 学生が地域社会に出て役立つ仕事ができる教育をしてほしい。そのためには、学校の中に入っている時間が多数である。もっと、地域社会の問題点を見究め活動すべき。実践例や経験を話せる先生が少なすぎる。民間人の起用を積極的に進めるべきである。(行政)
- 町村数が多く全部を網羅することは至難と思われるが、各市町村と接点を求め継続的な連携をとってもらいたい。町村に希望(大学と連携したい案件)を毎年募ってはどうか。地域は大学の教師であり、大学は、地域の独善やエゴを正してくれると思う。(行政)
- 県内ではあるが遠隔の地であり新潟大学の状況等はあまり把握していない。地域社会との結びつきも特定の分

- 野を除きあまりない様に思われる。最高学府として教育・研究分野で大いに貢献されているが一般住民の意識としては尊敬はするが自分たちには無縁とと思っている人達が多いのではないかと。大学側、住民共開かれた意識を持つことが肝要と思う。(行政)
- (1) 生涯学習への取組。市町村講座等への参加協力。(2) 生涯学習にも関連するが、公開講座への協力。(3) 民間企業等との共同研究への積極強化。(4) 小生は高校卒ですが、特定科目の聴講制度の採用の検討。(行政)
 - (1) 青海町自然史博物館の建設、運営にあたり、新潟大学の自然史系諸先生から大変なご尽力を頂いています。また、大学教官より執筆を頂き出版物を町から2冊刊行しています。(2) また、青海町自然科学調査研究支援事業には、新潟大学の学生グループ等の研究に延4件の事業採択をし、支援しています。(3) このように町の特徴から、特に自然史系の先生とは、町との交流も活発になされており、感謝いたしております。(4) 今後は、芸術・文化等全般にわたって、一層の大学との交流を考えていますし、こうした機会のありますことを期待致しております。(行政)
 - 上越地方に在籍しながら新潟大学に対する認識が薄弱で恐縮しているところですが、従って当アンケートにも充分解答できず深謝致します。今後の情報入手の一環として庁内のOA化を推進すると共に(年内)インターネット・ホームページ開設も計画して居り、情報発信、受信の活発化を図っていきますので貴大学におかれましてはできる限り多くの情報をインターネットで発信できる様お願い致します。(行政)
 - 不登校など今子供達は大変な状況になっていると思う。その子供達を担当する教員は県内ではたぶん新大卒が多いと思う。そうすると新大での教員養成は大きな役割を担っていると思う。「学校」についての再検討が必要なのではないか? 学びの場所を「学校」とすることに無理があるのではないかと。(行政)
 - 行政・経済・福祉・文化・教育等について、大学は最高の研究機関であると思います。できますなら可能な範囲で情報を開示していただき、それによって、地域もご指導をいただく具体的な内容等を検討できるものと思います。(行政)
 - 地域との交流についての情報は大学側から余り聞こえて来ない。大学のホームページを見ても、地域間交流のコーナーがなく学部や入学に関するものが目立ち地域とのつながりを持つとする、努力が見えない。相談すれば積極的に支援もしてくれると思うのだが見える「窓口」にしていただきたい。(行政)
 - 新潟大学との関係・交流が殆んどなく、的確なお答えが出来ませんが、地域にしっかりと根をおろした大学であって欲しいと考えています。個性的な大学となることを望みます。(行政)
 - (1) 生涯学習推進のため、大学の教育力を地域社会へ出前していただきたい(公開講座の開設等)。(2) 卒業生に対するアドバイス。卒業生が実社会で直面する諸問題について卒業後数年間、アドバイスをいただく機会があつたら、卒業生は自信をもって活躍することでしょう。(3) 新潟日報等で新潟大学(教授)の広報活動があつてもよいのではないかと。(行政)
 - 大学周辺の自治体との交流は行われていると思われるが、遠隔地における自治体は大学との交流がなされていない。大学を理解するには、積極的な情報提供を望むものである。(行政)
 - 学問の研究も大切ではあるが、それにしても地域社会からみると一般的に大学は遠いのではないかと。教員も学生も地域交流のビジョンを持って欲しい。人間性の育成のためにも、実務の単位を課すことが大切と考えている。(行政)
 - 私は医学部ですので県内医療施設、保健福祉行政機関等、綿密な指導や恩典に浴していることは、よく承知いたしておりますが、他の学部のことは余り良く知りません。(行政)
 - 新大の情報不足を感じる。例えば講師等依頼する場合、どの教官がどの分野について、適しておられるのか資料が劣しい(県の生涯学習センター等に問い合わせればわかるのだが…)。(行政)
 - 新潟大学のみで、地域社会との交流を考えることは、地域の住民側からすると不自然なものになってしまう気がします。新潟大学が交流しようとする地域を県内全体に広げるようなことは不可能だと思うので、交流事業等について新潟大学が国立大学であるという公共性をいかしたものにして、地元住民へのその周知を徹底できればいいと思います。(行政)
 - 学部の特徴を生かした技術的なこと、専門知識を地域の将来に生かせるような提言を頂いたことがあり感謝しております。それにしてもまだまだ外部に対しての情報の発信が少な過ぎる。求められてでなく積極的な姿勢で地域に対しての広報活動が必要ではないかと。その事がやがては地域との連携結び付きが強まることであろう。まずは理解して貰うという姿勢が大切だと思う。(行政)
 - 「新潟大学」として統括したアンケートでは真意は伝わらない。著しく貢献している人。あまり関心のない人。批判的活動の人。その差は大きい。従ってアンケートの結論(解説)づけには疑問である。(行政)
 - 現在交流は、教官や学生の個々の対応や研究テーマによつての面が大きいのではないかと。温室内の純粋培養も大切だと思うが、純化モデルだけでは処しきれない事象が多い。基本をしっかりと押さえた上での対応力(応用力)の向上が大切ではないかと。(行政)
 - (1) かつて、新大が一期校として分校(高田芸能学部)を有していた時代のように特色ある大学でなくなり、教育学部だけが目立つようになっている。しかし、教育学部卒業生は、学閥の支配する系列の先生となるため、県の教育行政にも歪みを与えている。学閥支配をなくさない限り、教育の専門家を輩出する新大全体の県民の依頼は向上しない。(2) 技術系においては残念乍ら、企業が求める先端技術開発の研究はいわゆる中央より劣っていると思われる。仮に優秀な技術があつたとしても、研究(学究)として公表、一般には公開しない。大学より

むしろ県の試験場、研究所の方がより実用的な技術を提供してくれる。(3)法文(経済)系では各種行政委員となっている先生方も多いが、地方分権、行財政改革等の具体的処方箋を出してくれるまでに至らず、抽象論どまりでありあまり期待されない。(4)かつての教授陣の如く、専門分野で県内の産業、経済、行政等分野への積極的な活躍を望む。(行政)

- 上越地方に住んでいるため、新潟大学とは距離的にも離れているせいか、新潟大学との交流や情報を受けることは、ほとんどない。たとえ離れていても、県内なのだから、もっと身近に感じられるよう情報提供等をしていただければと思う。地域はもっと大学を利用(活用)し、大学も地域を利用(活用)するような、仕組みづくりができればよいと思う。(行政)
- 新潟大学は普遍的な学問の探究にさらに努力していただく一方、地域社会のニーズに対応できる体制を整備し、地域と共に発展していただくことにより、より高い存在となっていたいただきたい。(行政)
- 新潟を含めた東北7県で、国公立のへだたりなく地域にとけこんだ活動をしているのは、東北大学が一番だと思う。それにつられる形で他の大学も、その学校が持つ資源等を積極的に地域で還元している。ここ10年くらい諸先生方の活躍で新潟大学も近くなったと言う感はある。今後もよろしくお願ひしたい。(行政)
- 大学と地域交流は、新潟市等との交流は行われているものと思われるが、地方との交流は全然ないといっても過言ではない。都市大学と農村との交流が行われていることはよくあるが、地域の皆さんは喜んで歓迎している。もっと大学側から地域に積極的に働きかけ地域交流を行うべきである。(行政)
- 私が他県の大学を選んだのは、当時新大にこの方面の学部が整備されていなかった為、妻も教育学部内での専門課程で不十分で他県の大学となった。私の子供の時代、新大は大きく変化し、時代の流れに目を向けて来ていたので、進学を推めたが、高度成長時代の華やかさで他県に流れた。新大は新潟県カラーがそのままの大学で、やはり地方大学のカラーが強い。教育学部を卒業して、ジャーナリストで活躍している人も出て来た。県内の産業界でもっと活躍出来る、地元密着型の大学として、若者の目を引きつけて下さい。(行政)
- 環日本海交流の核としての活動は素晴らしいと思います。広大なエリアを有する新潟県は総合大学である新潟大学にとって、理想的な研究・活動環境にあると考えます。産業経済はもとより、過疎・高齢化問題・中山間地域の将来像等山積する課題に対する総合プロデュース的な活動を望みます。(行政)
- 新潟大学が所在する新潟県の特徴を県内はもとより国内外にアピールできる教育・研究により地域発展に寄与されることを希む。(行政)
- 学・社連携がとくなえられて久しいところです。新潟大学を卒業されて県の文化・経済・教育・医療など広い分野の第1線で活躍されておられる方を多数存じております。立派な人格者の方々でもあります。これからも新潟

を中心になって支えられる人材の育成を希望しますが、21世紀の展望を考えますときに、国際的に交流を積極的にすすめないで日本そのものが置きざらしになり信頼を失うことも、なきにしもあらずであります。日本海沿岸諸国から多数の学生が留学し日本を知ってもらい、心からのパートナーとなれるような拠点大学になってもらいたいと思います。(行政)

- 地域社会と大学との交流は、その所在する地域のみ該当するものではなく、国内共通の意義あるものと考えます。(行政)
- 新潟県は大学進学率が全国的にかなり低いといわれている。理由は種々あると思いますが、県内の国立大学に県人が入れない状況も一つの理由である。何とかしなければと思っている。地域(町村)との交流を進める中で大学の生徒も先生も地域のレベルに落した交流をしてほしいと思う(一般の人が難しくなり、ついて行けない等)。(行政)
- 地域的に上教大が近いので、そちらとの関係がどうしても近くなります。過去においては、民話調査等、私立大学が長期間在村して調査にあたりました。今までの実績はさておきとして、これだけ情報化が進み、各市町村においても、住民の生涯学習にいかにかサポートしていくかが、頭の痛いところでもあります。学習の際の講演、実習、研修の中心となっていたただける方々の窓口を設けていただけないものでしょうか。移動講座の型で、大学側からの働きかけでも結構ですし、また、各団体からの要望ということでも結構ですが、「〇〇に話を聞きたい」というような要望に答えていただけるような、窓口の設置を検討していただければと思います。(行政)
- 新潟県は大変広い県であり、県南端に住む者には新潟大学のことはほとんど知らない。公務員でもない限り、新潟市を訪れることは少なく、むしろ東京方面、高山、石川県を身近に感じ訪れることが多い。(行政)
- 大学が地域社会に貢献できるサービスをまとめ、利用したいと考えている行政・企業等にヒアリング等を行う。行政が大学の持っているノウハウのこころを協力してもらいたい等の内容のアンケートをとる。上記を行うことで開かれた大学・新潟県内における地位も保っていけると思われる。(行政)
- 新潟大学が何故、新潟に設置されているのか、世界に通用する地域性があるてもよいのではないのか、そのことが新潟大学の国際性、ユニークさが発揮されるのではないのでしょうか。(行政)
- 地域に二つの大学があり、設立運営について協力している。地域への一層の貢献を期待している。新潟大学へは、高速バス1時間、乗り継ぎに十数分を要する。国立大学として、国際的な貢献を期待している。(行政)
- 理論より実践、体験に基づいた教育が必要ではないか。その為には、もっと地域活動に積極的に参加をし、生きた教材を活用する努力をして欲しい。そのことが、巾広い人材育成につながるものと思う。(行政)
- 新潟大学は「敷居が高い」という印象がある。これからのまちづくりは、住民参加システムを住民・行政・企業

- そして学(大学等)の4者で具体的に構築していく必要があると思う。是非地域の中で実践として、協力いただきたい。(行政)
- 「地方」にある自治体も「大学」との交流を強く望んでいます(将来計画の見直し、地域資源の活用、人づくり政策、医師の確保)。(行政)
 - (1)開かれた大学であってほしい(現状は閉鎖的)。(2)自己満足の世界から脱皮し、人材育成と、地域文化の振興に全力投球すべき。(3)地域に積極的に関与を求めべき。(行政)
 - 地方大学であるからには、もっと地方(地元)への一般開放や地元との交流、地元企業との共同研究などにアグレッシブに取り組んでほしい。私は佐渡に住んでいるが、新潟大学が在って良かったと思うのは医者や教員が確保されることぐらい。総合大学なのだから、離島にも、各方面で新潟大学のレゾンデートルを発揮してほしい。(行政)
 - 大学と離れた地域に住んでおり、情報も少なく交流の機会もなかったため、的確な判断ができなかったことをお許し願いたい。交流の機会を多くして頂き、県民から親しまれる学府となられるよう期待します。(行政)
 - 今迄、自治体と大学との交流は羽越水害、水俣病、河川環境でアドバイスを受けたことがあるがもっと身近な大学として地域に入ればもっと互いに理解と情報提供が互いに得られるのではないか。優秀な人材が沢山おられる学校だから地方自治体ももっと交流を図ってもらいたい。大学は今のところ遠い存在感があります。(行政)
 - 上越地方は新潟大学と距離的に遠い面や、上教大唯一校という面等で大学に対する関心、期待値は低い。自治体では子供問題、老人問題を含め、世の中の変化を反映する幾多の深刻な問題対処を迫られており、暗中模索しているのが実態である。大学教授はともかく、市民感覚のない教師は直面する学校問題の本質を見極める事も出来ないし、解決能力のない先生は頼りにされない。頼りにされる大学とは、役に立つ大学であり、信頼される教師とは世の中の動きの本質をシッカリ把握しながら、地域の人々と協力して対処する人だと思ふ。問題の本質は何か。将来のあるべき姿は何か。を素人に判りやすく示す事が、役に立つ大学の基本ではないか。(行政)
 - 教員の派閥人事のないよう積極的に大学も努力すべきと考える。教員によっては全く社会性欠け者が新卒採用となって配属されるが、在学中の人間関係教育だけでも努力要望。イデオロギーに促されることのないように(応援しています)。(行政)
 - 地域社会は今、長寿時代に入り、生涯学習・社会教育の推進が叫ばれている。大学側からも大いに社会教育の場に参加して欲しい。(行政)
 - 当村は農業村で以前は農学部の方々が来村されご指導を頂いたことがありますが、近年は大学関係の方は一度も来られたことがない。村としても積極的にご相談・ご指導をお願いして行かなければならないと思っているが、敷居が高いと感じられます。(行政)
 - 新潟大学は県央にあるため、当上越地方とのかかわりが薄い。正直なところあまりにも存在が薄い。大学側からの情報の提供を期待したい。(行政)
 - 私たちのところは、上越教育大学が近いせいか、地域振興、地域経済、福祉、障害児教育等で上教大との関係がありますが、新潟大学のことはよく知らないのが実情です。これは、私たちの側から大学へ出向かないのが原因だと思いますが、大学から資料の提供等を頂ければありがたいと思います。私たちは、直接住民と接する行政の第一線にいますが、専門的に知識が不足しておりますので、大学との交流は大変必要なことと思います。しかし、現状では、このアンケートにお答えする大学の活動は殆んど知りません。(行政)
 - ほとんど交流がないので、今後、交流の接点をどのように進めるかが、第一歩と考える。(行政)
 - 新潟大学へは当町の子弟が、例年5人程入学し、卒業後は教員に転職するものが多く大変喜んでいる。反面大学は県北に位置している故に総合計画や地域活性化、生涯学習のアドバイザーは上越教育大学の教授が応じてくれている。(行政)
 - (1)以前の職場(新潟県)では幹部職員が多くが新潟大卒であり、県内の最高学府である「新潟大」の権威を非常に身近に感じた。(2)産業界(地域産業)と工学部の結びつきについても、いろいろな事例から(当時の職場の関係もあり)密接なものを感じた。(3)全国的レベルとも言われる医学部と、県内医療機関との関係は現在でも非常に強いつながりと思える(医師の派遣等も含めて)。(4)教育界、特に小中学校教職員の世界においての、新潟大の影響力は衆知の事実。(5)現在、農山村の田舎に居住する者にとって、新潟大との関わりは、平常殆んど見えてこない。農業県新潟への、農学部の影響力が殆んど報じられないのは何故か?とも思う。(6)地元高校からの入学率が低いことも、地元の人材育成や、OBと地域とのつながりに影響する面もあるのではないか。(行政)
 - 新潟県・北信越地域の事、或いは日本の事を考える場合、その地域のみ・日本のみに着目した思考は、独善に陥り易いと思ひます。世界の中での日本の位置付け、日本における地域の位置付けを確立し、それに立脚して地域の発展を考える広い視野の思考法が必要と考えます。学生に対して広い視野に立った観察、分析、判断、実行力を進展させる基礎を教育されるのは勿論ですが、地域の人々にも国際的視野に立脚した思考法の啓蒙活動を希望します。具体的には、日常報道される国際的事象に対する国際法上の解釈等の小冊子を自治体等を通じて家庭に配布し、適宜に巡回講習を行うなどが考えられると思われまふ。(行政)
 - 新潟大学は比較的に地域社会との関わりを多く持っていると思ひます。私自身は東京の某私立大学を卒業しましたが、在籍中は地域社会との交流を持ちたくても持てませんでした。新潟に係わらず、日本は欧米諸国よりも、大学と地域社会との関係は薄いのではないかと思ひます。新潟は広いので国・公・私に関係なく、まず大学間

でよく連携をとり、その地域にあった関係や交流を地域住民とともに模索していけたらいいのではないかと思います。(産業・経済)

- 一般的な新潟県人から見て「新潟大学」のイメージは極一部の学科を除いて非常に低い評価だと思う。その理由は主として(1)何をやっているのかわからない(例えば人文学部って何?)。(2)卒業生のうち社会的に活躍している人が少ないのではないかと。等が考えられる。新潟大学は器も、その中味も他と比べ決して劣っているわけではないのだから手法を検討し、今後の地域社会との交流、県民から見たイメージの変革等期待に応えて欲しい。(産業・経済)
- 新潟県という地域や、新潟県人の育成・発展を考えると、大学生活という青年期を、私は、地元で過ごすことは反対。もっと全国、世界を見聞し、人的ネットワークを広げるべき。それが、新潟県の発展や、新潟県人の豊かな人生づくりに役立つと考えます。ですから、地域の高校生の進学枠を設けるべきではないと思います。逆に、アジアの人々の優先枠を設けて、勉強してもらおうとともに、地域の人々との交流を推進していくべきと考えます。教育は、21世紀の日本やアジアを支えられる人材に育成すべきであり、研究は、地域ニーズ(企業も含めて)に対応した実践的なものに、するべきと思います。(産業・経済)
- 最近では大学側も熱心に民間との交流を実行して居られますが、これからも工夫を重ね実効の上げられます様期待致しますし、民間もより積極的な態度が必要と思います。(産業・経済)
- (1)昔にくらべ学生の質の低下があるように思われる。
(2)地域社会との交流をもっと積極的に実施してほしい。
(3)先生方は学内にいないで積極的に学外へ出てほしい。(産業・経済)
- 新潟大学に限らず、これからは特徴のある学部・学科・研究をしている先生がいる大学に学生も企業も集まると考えられる。その中で貴大学を側面から見ていると骨が折れても積極的に産学共同を考えていらっしゃる先生と、初めから、新潟県の企業はやる気がないと見ている先生がいる様に感じます。企業は地元だけでなく、日本・世界全体を相手にして考えるべきと思う。企業側も有用な研究者を求めて、日本・世界を探すことになると思います。(産業・経済)
- 近年、個性豊かな人物を造ることが幼ない時から叫ばれています。私もこれには大賛成ですが忘れてならないことは、「一定の社会のルール」「道徳」が補った上での個性化だと思います。何でも勝手に自分流に行動をすることが個性化ではありません。その辺の教育を期待します。(産業・経済)
- 戦後、各地に大学が設立した当時は、地域の学生父兄等は身近な学府として非常に関心がありました。近時は受験戦争が激化し、日本全国から受験生が集まり合格率も、半数以上が所在地以上の生徒が入学するようになりました。従って比較的有名な部門(例えば医学部、芸術)などは、県内で仕事をする人が少なくなり、中央(東京

等)に頭脳が流れてしまう。また、少子化の影響で教育学部(学校の先生も採用が少なく、先生になれなかった人も県外に就職する等の傾向が見られる)。問題解決は、難しいが感じたまま…。(産業・経済)

- 様々な社会参加活動や運動を20年近くやってきたが、講師や助言者としての新大のセンセイ方とは会ったことはあるけれど、一緒に活動する仲間には一人もいない。かろうじて学生さんを二人存じ上げるのみです。私自身は、東京の私学の出身ですが在学中は病院や施設を始め様々な場でボランティアをしたり又、学ばせてもらったりしたものです。新大のことが良くわからない、関心がないのは、新大にいる人々の顔が見えないからではないかと思えます。(産業・経済)
- 新大が有している、様々なノウハウを、是非地域社会に提供し、地域経済の活性化に資して欲しい。また、新潟県内の新大の存在意義は絶大なものがあると思われるので、その威光のあるうちに、大学側から地域へ、アプローチを進めて欲しい。さもないと、時代の流れにとり残され、貴重な人材が県外へ流出していく傾向に、拍車をかけてしまいかねないと思う。我々も大学に協力できることがあれば、積極的にはたらきかけていく姿勢をとっている。(産業・経済)
- 大学は人材教育機関と研究機関であり地域社会を重視する考え方もあって良いのではないかと。地域社会を超えて教育・研究これも国立大学の使命と思いますが、地域社会の一員としての分野も必要と思います。二面性があるものと思います。(産業・経済)
- 在職当時、地域社会と大学との関係や公共団体(市役所)と大学との関係について当然詳しく承知し、又大学側の積極姿勢について有意義を感じていたが、職を辞してからは以上の様な事柄については全くと言って良い程承知しなくなった。又は大学側は矢張り「象牙の塔」的な存在であるべきなのか或はその「塔」から駆け降りて庶民と共にあるべき存在になるべきか。今少し研賛、検討し、「成る程」と思わせる方策を講ずべきと考えます。(産業・経済)
- 新潟県は元来教育レベルが低く、又闘争精神に欠けた県民性がある。例えばこれだけの人口を有しながら、隣接県と比べてもスポーツ施設のおそまつさは、団結して喜び、くやしきの体験に欠け、のんびり屋がのさばる結果となっている。(産業・経済)
- 教員の専門、得意分野・講演や指導に出たいテーマ、関心、趣味などを紹介する資料が、県内機関、団体向けに発信されているといいと思う。教育者としてはグローバルな視点、研究者としては企業や地域の素材と関わってほしい。それが無理な状況であれば、独自理念の実践によって、教育機構としての充実だけを目標に行ってほしい。(産業・経済)
- 大学は象牙の塔であるべきでなく、もっとオープンであるべきだと思います。時代の変化はめざましく、現在の様な情報化時代にあつては、大学は学問、研究の域に止まることなく、持っているノウハウを地域社会に還元してゆくことが、これからの大学発展のために必要である

- と考えます。(産業・経済)
- 新潟大学の活動状況等に接する機会は少ないため地元社会との係わりは良く知らない。これからは、いろいろな面で地域社会と関わりを持ち知識的情報をはじめ活動・行動を通じて(教授・学生と)地域社会の発展と学生の地域会社への定着(就職等)を進めていかれることを希望する。(産業・経済)
 - 教員がもっと社会と多く接して、学問以外の状況をもっとよく勉強すべきである(地域の住民や、企業家との交流をもっと促進すべきだ)。(産業・経済)
 - (1)教育の理念、研究内容が広く、県民に知らされていない。広報担当役をおき逐次広報、広聴すべきである。(2)大学過剰時代になっているので、もっと大学としての方向性を明示すべきである。特色、個性を出すべきとききている。(3)新潟市にあるという点もあって、新潟市とのかかわりで事足りているというように見受けられる。(4)他の大学との協調体制をもっと整えるべきである。(産業・経済)
 - 開かれた大学として技術情報の公開を一層進めるべきである。学術的な研究を追求することはもちろんであるが、これらの成果は、産業振興のために役立つ必要がある。特に新潟大学は環日本海時代担う、リーダーの一機関として学術、技術、情報の分野で、指導力を発揮した活躍を期待するものである。(産業・経済)
 - 今まで地域、行政との関係がなく、閉鎖的な感を持っていたが、最近、産・官・学の連携を県が強く打ち出したことと、他の私立大学が積極的にこの方針に沿って対応したこともあり、新潟大学も、全体的に地域を重視しはじめています。又、前から1部教授にあった地域重視の考え方が、取り入れられはじめたと思われる。このことを大学の方針として、県下に明らかにすべきである。(産業・経済)
 - 大学側の自己評価の中に、地域社会への貢献、交流実績が大きく盛り込まれないかぎり、事態は前進しないと思う。一方地域社会(企業人、一般人)も様々の要望を明確にする必要がある。少くとも大学側から何か与えられるのを期待して待っているのでは交流は進まないだろう。(産業・経済)
 - 新潟大学について、本題に答える程よく知らない。私の知っている工学部で言えばかなりよくやっていると思う。又、地域との係わりは学部によっても差が有ると思う。私は大学は、真理とか文化とか、社会とかの問題に向き合う必要があるが、地域に対してそれ程意識する必要はないのではと思う。さらに加えて言えば、現実を意識する必要はあるが、現実のためよりは未来のための研究であるべきだと思う。(産業・経済)
 - 産学官一体での地域社会、及び大学の充実振興に相互、積極交流を展開しなければと思ひ、地域住民、業界陣の大学へ提言、協力を望むところです。農業技術研究開発においても新潟農業に即した課題を新潟総合農業研究センター等の機関とも連携を一層、密にしてより実効の上る様研究教育のあり方を改めて検討を要することと思ひます。(産業・経済)
 - (1)大学関係者との交流は、仕事の一部に限られているため、設問に答えられないものがある。(2)大学は研究部門と教育部門に分けるべきではないか。研究部門は、地域社会とのかかわりよりも世界的視野での研究をすべきである。雑音に惑わされることなく、レベルの高い研究をすべきである。(3)教育部門を担当する大学は、設問の項目にあるように地域社会とのかかわり重視とすべきである。(4)情報サービスとして、教官の研究テーマ、専門分野の情報が欲しい。(産業・経済)
 - 新潟県へ転勤して2年半強ですが、割合地元とも交流は活発に見受けられます。特に医療関係に強く感じます。但し、裏返せば、それだけ閉鎖的という感じもするわけです。地元への貢献は今まで以上に続けて頂きたいが、それ以上にグローバルな視野を拡げてもらいたいと思っています。(産業・経済)
 - (1)新潟大学には、〇〇を研究している教官が在学し、〇〇に関する交流なら可能であるというような情報の提供など、積極的な構えがほしい。(2)新潟県では、青少年をはじめ学習する雰囲気が弱いように思われる。学習する呼びかけなど教育委員会をはじめ関係団体とともに進めるなど積極的な構えがほしい。(3)新潟大学に関する情報はどの程度開示されているのだろうか。例えば教育委員会で新潟大学の公開講座、相談、研修などの案内に接することは殆どない。社会の変化、問題に対して取り組みを強めるとともに情報の開示に努める必要があると考える。(教育)
 - 地域の実情を踏まえ、さらに高い立場からの研究をされている講師の確保がたいへんな状況と思います。マスコミ等で著名な方でなくとも、適切な指導をいただける講師名簿等をご紹介いただければありがたい(地域課題、教育課題等)。(教育)
 - 大学における人材養成や学問研究は、地域を超えた普遍的なものであるべきである。しかし、その成果は大いに地域に生かしていただきたい。特に地方の大学は、一層そのことが期待される。そのためにも大学の教員は、象牙の塔にこもることなく、積極的に地域と交流すべきである。(教育)
 - 教育関係について、新潟大学の卒業生の教諭は能力はあっても地域に馴染まない、固い、視野が狭い、他の私大卒はユニークで、奇抜な考えを持っている。学校開放し夜間大学、通信制大学を開設し、県民の多くが大学に入れば大学との関係は深まり、教育界、産業界に広く貢献できるのではないか。開発にともない、埋蔵文化財等の発掘に多くの学芸員を必要としても中央私大に求めなくてはならない。職員を学芸員に養成したくとも地元の大学には、受入れるべき学部や資格取得の研修機会もない。(教育)
 - 県下、公立小中高の教諭70%近くが新潟大学卒業者で占められている現状を考えると地域社会との関係は極めて深いと言える。また、町立病院の医師確保においても新大医学部からの協力が不可欠な状況もあり新潟大学の存在は地域発展に欠かせない高等教育機関と認識します。(教育)

- 大学の公開講座の開設には大変感謝しているが、県内は広いので大学に集めるのは難しい。そのためにも、いろいろな学部で広い範囲(多地域)でも公開講座を希望します。(教育)
 - 私は昭和30年代の卒業生であります。妹や息子も新潟大学卒業生です。大学に対する母校としての関心や、何らかの密接なつながりが欲しいと思っています。陸上競技部でのつながりはありますが、全体像を知りたい。何等かの形で力になりたいと思います。(教育)
 - 地方教育行政にたずさわっている者の一人として感じていることは、もう少し新潟大学とつながりを深めたいと考えている。地方教育行政の担当者には、新潟大学卒業者は0にひとしいので、先生方とのつながりはない(大卒者も他大学)。もう少し大学側からのほたらきかけがほしい。(教育)
 - 立場上、主として教育学部についての回答になってしまい、アンケートの趣旨からはずれたかも知れませんが、お許しください。教育学部も教育人間科学部という、おかしな名前になり、ピンときません。もっと学部の教育実習生を、地方へどんどん出して幅広い人間教師の育成に力を注いでほしいと思います。(教育)
 - これまでに、本調査が期待されていることがらについて深く考えたことはありませんでした。的外れの答えになっていると思います。まとめの仕事、ご苦労さまです。(教育)
 - 避地にあつては、地元の大学との交流は殆どないのが実態です。地域の特色を生かした内容について出前的な講座を企画することで交流を深めてもらいたいものです。(教育)
 - 昭和44年の夏新潟大学で社会教育主事講習を受け、長野、栃木、北海道他各県の仲間ときびしい中に楽しい日々を過ごした。当時主任講師の玉井教授がなつかしく思い出されます。環日本海時代を迎え、その中心的人材育成の機関として世に知られている、医学部、教育学部と同様に各学部の充実を期待します。また、生涯学習時代に即応した、各種の講座・専門コース等学部の開放による開設を希望します。以上。(教育)
 - 環日本海時代を見据えた他大学にはない独自の活動を期待したい。誰もが気軽に参加できる講座や施設を充実してほしい。もっと地域に密着した活動を期待します。(教育)
 - 大学は新潟大学にかかわらずだが、(1)有為な人材の育成。(2)基礎学問の研究・大学院等では国際的にも通用する研究の開発。(3)地域社会との人的、物的、社会的、経済的な交流を活発化し開かれた大学とし同時に、世界に通じる日本の教育の要になること。(教育)
 - (1)大学のもつ教育力を生涯学習社会に生かす。公開講座の出前、開設等をお願いしたい。(2)卒業生(特に教育学部)に対し、実社会に出るの諸問題に対するアドバイスをするようなシステムを作ってほしい。(教育)
 - (1)新潟大学に近い市として新潟大学への期待と関心は高くまた、親近感を持っている。(2)当市の行政関係の審議委員や、市史編さん等、各種の面で指導をいただ
- たり、お世話になり感謝している。(3)大学と地域社会との交流は大いに望むところであるが、限度もあろうかと考えている。また、学生と地域社会との交流も期待するところである。実は新潟大学剣道部の諸君が、当市の体育祭に参加して、大いに志気を盛り上げてくれている。スポーツのみならず文化活動面などでも交流を図ったら、地域文化の振興にもなり、大学の存在感が高まることと思う。(教育)
 - 地方分権という面からも、地域への情報提供やかかわりを重視してほしい。県内の高校に対して、もっともっと新潟大学への通学について刺激を与えてほしい。(教育)
 - 社会教育(公民館各種講座・生涯学習講座)に講師としてお願いする機会があります。講師先生にはご多忙のところ遠隔の地ですがいつも快く引受けていただいております。今後も機会、内容等でお願ひしていきたいと考えております。(教育)
 - 大学と地方自治体・教育委員会との交流は皆無に近い。もっと開かれた大学であってほしい。多方面、多様な人材を講師等に登用したり、学生の派遣等もふくめ、大いに活性化を図るべきである。(教育)
 - (1)大学は地域(新潟県)と共にある姿勢が必要である(大学があつて地域である。地域の中の大学の存在の意味)。(2)大学の持つノウハウを積極的に民間(地域も含め)還元すべきである。(教育)
 - 義務教育と同様に大学にも不登校等の問題があると聞いておりますが、現実であるとするれば、大学での教育課程の見直しも必要かと思う。地域の中でのボランティア活動を積極的にやるべきである。(教育)
 - (1)新潟大学としての地域社会との関係や交流についての御調査のようではありますが、学部によって、あるいは教員個人によって、その取り組みに格差があるように思われ、大学全体ということで判断することは大変難しいように思います。(2)新潟県内で見ると、他の大学、特に私立大学が積極的に地域との交流あるいは貢献への働きかけや努力をされている面があり、地域として有難い点があります。(3)大学教員として、公的にも専門的にもかかわりのない、私的・市民運動的な活動に、教授等の肩書きをつけて活動される側も散見されますが、大学としての識見が問われるようにも思います。(教育)
 - 2~3の学部をのぞくと、県民へのアピール度は弱い。教授お一人お一人の研究実績も高く、地域の政治、経済、文化、スポーツ等の各分野の振興に寄与され、指導力もある方が少なすぎるのではないかと。自治体や企業を含め諸団体等との提携も弱く、大学人の利活用が少なすぎるのかも知れない。(教育)
 - 県内唯一の総合大学として、社会との交流(貢献)はもっとあってよいと思う。教官も沢山おられるのに、比較的限られた人しか顔がみえないのは、残念な気がする。もっと研究内容についてアピールした方がよいのではないかと。犬の遠吠えのように無責任な(単なる批判のみ)発言しかない教官(表に出ない)は、大学のイメージ

ジダウンにしかならない。建設的な提言があるのが学者ではないかとさえ思う。(教育)

- 政・財・官に新大卒の活躍が少ない。静かな環境の中でもっと勉強をして、公務員試験、一流企業への転職等が伸びてもらい、一流大学の中に入れる努力を願いたい。(教育)
- 新潟大学が新潟市に集中したためか、新潟周辺との交流はかなりあるものと考えられるが、中越以西ととりわけ上越との関係はほとんどないのではなからうか。今後の課題と思われる。(教育)
- 社会に開かれた高等教育機関として、一般社会人の学習機会の拡大に充実に一層努めて欲しい。(教育)
- 新潟大学の所在地から遠隔の地であるため、当地域との関係は薄い。情報等も手に入らない状態である。今後インターネット等による大学の情報も考えられる。地元からいえば、上越教育大学との関係の方が強いが、大学相互の連携協力等で新潟大学との関連が深まることも期待したいと思う。なお、設問5~10については判断の基準を持たないため、評定はできませんでした。調査の意図に添えない面もありますが。(教育)
- (1)新潟大学が、研究実績等をおおして文部省からどのように評価されているか、これが、予算配分などにどのように関係してくるか、など外部の余計な心配かも知れませんが、大変気になることです。(2)地域社会との交流については、産業界また最近では教育関係は別として一般的な文化面については双方が腰が引けていたように思います。社会・経済の変化や人間の生き方在り方などについて、大学側から積極的なアプローチをして下さることが望ましいと思います。その手段はメディア等をおおして具体的に、また発展的に行っていただきたいと考えています。(教育)
- 新潟大学に限らず地方の国立大学はすべて地域社会から孤立した存在のように思えてならない。学術の研究発展に地域素材を大いに活用しその成果を地域に還元することはもちろん、世界に向けて発信できるような存在であってほしい。(教育)
- 大学設置基準が平成3年に最終改正されていますが、改正の意図がよくわかりませんでした(私の不勉強が原因)。設置基準を目を通した段階で、現代社会にマッチしているのだろうか疑問です。例えば第二条に示されている自己評価等について述べるならば、新潟大学の目的及び社会的使命が、私共に知らされているのでしょうか…。教育研究上の基本組織にせよ教員組織・教員の資格にせよもっと地域交流という視点で見直されてよいと思います。やや大学の独自性が強いように感じられます。(教育)
- (1)教育実習の期間が制度化されているものと思いますが、期間が短いと思う。人間学が問われている現在、企業実習もよいが現場実習を倍増した方がよいと思う。(2)品行学術ともに秀れた人材を望んでいます。もっと個性的で熱血感のある若者が育ってほしいと思う。(教育)
- 教員の養成について。社会の教員に寄せている期待や、

時代の変化、子供の実態の変化に的確に即応した教員の養成をやっておられるかどうか、不安感をもっている。

十年一日のような教員養成だと、現場に赴任してからの苦労が倍増し、子供とも対応しきれずに、最後はつぶれてしまう。単なる知識の伝達者ではなく、「人の子を育てていく」教育専門家として、自身をもって子供たちと接していける強靱で忍耐強い精神を持つ人間教師の育成に、もっと力を注いでほしいと念願している。(教育)

- 市町村と大学との連携、協力によって専門的な講座の開設を積極的に推進することを要望する。過去数回「農業生産」に係わる講座を開講した経験がありますが、範囲を拡大して実施できれば一層成果が期待できる。(教育)
- 地域社会との交流が点から線へ、大学から行政への働きかけをもっとすすめることにより交流が充実してくるものと思う。県内には過疎地で自然条件の整ったところがたくさんあるので、大学が活用することで、地元の視点を変えることができると思う。地域社会との交流は結構だが、研究分野に於ては地域社会にあまりとらわれる必要がないのではないかと。(教育)
- 市町村が報酬や謝礼を出さなければ大学職員を要請できない。逆に大学側は情報提供を市町村に望む時は、これも市町村負担。「ギブ&テイク」となっていない。一例を掲げれば「スクールカウンセラー」として臨床心理士資格を持つ教授が1時間当たり7,400円(県の単価)を支払わなければならない、この他に旅費・交通費等々。年間220万円の予算の内93%の205万円が人件費となり高嶺の花となってしまう。地域貢献のネックが財政的な面にあるとしたら、どんなにルールやシステムを良くしても利用されないものとなる。意識の変革がポイントだと考える。(教育)
- 国立の総合大学として、今後は積極的に地域社会と交流する機会を持ち、その地域の政治・経済の振興はもちろんのこと、芸術・文化などの面についても、広幅な大学の研究成果を、生かして欲しい。ただ、思想的な面で一般社会が受け入れにくい特異なものがあつた場合は、交流がスムーズには進まない。(教育)
- 正直にいうと、新潟大学のことについては医学部附属病院、教育学部について若干の理解がある程度で大学全体のことについてはあまり様子がわからないので不十分な回答で申しわけありません。自分自身の知ろうという意欲の欠如また大学の情報公開のあり方等反省しなければならぬことを多々痛感します。(教育)
- 上越教育大学とは関係や交流があるが、新潟大学とは教員の採用以外には全く関係や交流を持っていません。下越にある大学であるが県内で一つの総合大学であるので今後は上越地域との交流も考えてほしい。(教育)
- 村の生涯学習の推進に関して、新大教授より顧問として指導いただいております。大学に対しては、離れた存在とは思っていない。地域の実態を把握しての助言に地域住民も近親感を持ち、感謝している。(教育)
- 地域・社会と新潟大学の交流は盛んにした方がよい。その交流を通して地域・社会が健全に暮らして行くための、

ニーズの中に大学の研究課題を見つけたら良いのではないのでしょうか。特に、これから自然を対象（動物・植物）にした分野の深い研究と地域・社会への還元を期待したいと思います。（教育）

- 医学部は創立以来地域と密接な交流があった。他の学部はこれ迄それ程交流があったとは思えない。積極的に交流しようという姿勢は最近になってからであろうと思う。（教育）
- 新潟日報文化賞は、本県では権威のある賞である。新潟大学関係受賞者は、過去、医学部関係者が圧倒的に多く、他学部関係者は少ない。学部間の温度差を示すものではなからうか。一部の優れた教授は、地域との交流に熱心で、貢献も大きい。全体としては、もの足りないのが県民の印象であろう。（教育）
- 新潟大学は新潟県でほとんど唯一の、そして最大の総合大学なので、県内の他の大学（私大をふくめて）、短大なども協力して、もっと地域の知的活性化に貢献できるし、そのことによって大学自体ももっと活性化できると思います。（教育）
- 国立大学が入学の機会均等の立場から、しかも学生、教官などの出身地を地域に限定される筈はないことを確認したい。全国的レベルでの人材が忘れられてはならない。勿論、今後の国公立大学とも地域社会との交流連繫は、さらに必要であろう。（教育）
- p. 2に「大学施設の一般開放」とあるが、たとえば新潟大学図書館はどのようなかたちで一般に開放されているのか、その情報がまったくつたわってこない。（教育）
- 大学の教員が積極的に地域と交流することは大切であるが、同時に地域にとらわれず普遍的な高等教育の推進につとめていただきたい。（教育）
- 新潟大学は、何といても新潟県および日本海岸では何ごとにおいてもNo. 1であってほしい。地域とのかかわりも大切であるが、日本、世界を相手にする視点も必要である。その中で、大学の特色、特徴を持ちつつ独自性を発揮する大学であってほしいと思う。私は教員として、社会人を受け入れる大学院を新潟大学に望んでいた。それも実現したが私自身年齢が高くなり、職務も多忙になり余裕はない。定年後に考えたいと思う。このようなアンケートに答えさせていただいたことに感謝申し上げます。地域に対して相談させてもらえる窓口が大学にあるとよい。（教育）
- 地域と教育・文化・スポーツ面での交流をより一層図ってもらいたい。教員は更に各種研修会・会議等で講師として大いに指導してもらいたい。大学の教育機関・設備・施設を市民が気軽に利用できるならばPRをもっとしてもらいたい。（教育）
- (1) 高校教育が多様化し、教育課題も多く選択制を取り入れるなど履修歴も多様な学生が多くなった。近年の新潟大学も、こうした現状を受けて、「教育」に力を入れてきた傾向がみえるのは評価できる。(2) 十数年前と異なり、大学教官が地域の研究者、高校教員との交流を盛んに行うようになってきた。(3) しかし、市民一般にはまだ大学の中味が見えてこないとの印象がある。公開講

座を地方自治体と連携しながら（例えば、出張講座など）より広く開催し、より交流を図ることが望まれる（高校生の参加も期待できる。…学問探究の契機ともなる）。

（教育）

- 地域の特性にかかわる独自の課題把握に努め、地域との交流をはかってほしい。普遍的観点（これまで、それを探求してきたことと思うが）を基本にそえて、地域の特殊性（具体的問題・課題）の研究に手がけ、さらにそれを普遍的学問へと高めていってほしい（研究分野により異なるが）。（教育）
- 新潟県の文化・教育・研究の発信基地だと思います。かけ声だけでなく、よく練られた企画のもとに、また、将来を見ずえて考えていただければ幸いです。垣根、壁をとり払う努力を併せてお願い致します。（教育）
- 新大OBとして思うに、地域（県と）と大いに交流していただきたい。マスコミ（特にテレビ・ラジオ）に出て来てもらえる、その道のプロの教授を出してもらいたい。（教育）
- 積極的に地元と連携しなければ、ますます存在価値が薄れてゆきます（農学部出身ですので、関係は深いと感じてはいますが）。（教育）
- 学問領域によっては、地域と密接に関わるべき分野もあるだろうが、地域と直接関わらない分野も多く存在する。各々の特性に応じた関わり＝交流が大切で、画一化こそ避けるべきだと考えている。（教育）
- 新潟大学と地域社会との関係は歴史的に見て深い関係にあると思う。しかし、最近、マスコミ等を通じて、県内の他国立大学が教育産業等での関係が話題になることが多いように感じられる。特に、私の立場から言えば、教育関係では、県教委関係の事業、学校関係の研究会、研修会でも積極的に参加していただければ、（予算、日程、人間関係等の問題はあがあるが）交流が活発になってくると思うし、双方にとって望ましいことだと思う。（教育）
- 新潟大学について不明な点も多いが、日頃感じていることを述べます。(1) 大学（学部）と連携した取り組みを依頼しても、教授会等での手続きが面倒とのことで、協力を得られないことがあった。(2) 学生のボランティア依頼を行っても、趣旨が徹底せず、集まりがよくない。(3) 教授の派遣を依頼しても、気軽に応じてもらえない。以上の点について、体験を踏まえて率直に感じていることであるが、風通しのよい大学の対応を期待している。（教育）
- 単に新潟大学とだけ問われても学問、研究等で世界に誇れる研究機関や実績をもつ学部もあれば未だしの学部もあって、一言では表現しにくい。地元にある大学であるし、地域社会と今後とも交流を深めつつ発展していただけてほしい。大学院を充実し、学生にもっと勉強させていただきたい。（教育）
- 新潟大学と地域との交流の報道に時々接するが、さらにそのような機会を拡げて、もっと地域の住民が大学の研究内容を知る機会を多く作ってもらいたい。そうすればこれについては新大の〇〇研究室で情報を持っている

などが解かり、知恵を与えてもらえることが可能となり、地域に対する大学の存在意義も高まるものとする。

(教育)

- 地方の国立大学として特色を出すには既に医学部が附属病院をはじめ水俣病の研究業績等が示すように北信越地方や国内の水準以上のレベルをめざしてこそ存在価値があると思う。新潟大学でなければ研究できない分野や地元の産業・経済・教育・生活にプラスになる研究業績及び研究者・学生が集ることにより地域も誇りを持ち発展していく。環日本海時代にふさわしい国際交流やリーダーシップを発揮して発展されることを期待します。(教育)
- 国立大学であっても、県内に設置されているのだから、県に貢献できる大学でなければならない。当然、地域社会との交流は積極的に推める必要がある。(教育)
- 新潟大学は新潟県にある国立大学であることを第一に考えてもらいたい。国立の大学であるから、国の教育機関、研究機関であることを優先し、地方とのかかわり合いを積極的にもたないのはどうかと思う。新潟大学出身者ではない私は、この年齢になるまでまったくの交流はなかったし、必要性も感じなかった。しかし、新潟大生の受け入れや相談にのる機会も多いので、今後はできるだけ関心をもっていきたいと思っている。ただ近隣の国立大や県内私立大に比べ柔軟性に欠ける感がある。(教育)
- これからの大学は本格的に地域に開かれたものになるべきである。教育と研究の最高学府ではあるが、大学がある地域に役立つ知識や技術などを求めに応じて提供出来る、体制が必要である。そのことが人々に大学というものは素晴らしい知識技術が保持されているところで、大学の先生方も素晴らしい人達であることを認識させることになり、また、大学それ自体の評価を高めることになると思われる。(教育)
- 国立大学は私学と異なり、公教育の立場をもつと考える。地域から隔絶した桃源郷ではない。社会の発展につながるような研究・教育実践を行って欲しい。十年一日の如き講義はやめて欲しい。地域と密着した開かれた大学が求められ、今後とも、国民、県民から信頼されることにつながると思う。文化・農業・経済等多くの面に、社会にとび込んでいってほしい。(教育)
- (1) 県民から「あの学部のスタッフの大部分は思想的にある方向に凝り固まっているので話しても無駄だ」といった声を時々耳にする。交流の疎外要因の一つとも受けとれる。(2) 「国立大学一般の今後の在り方」については、本来大学は地域を超えた存在であってほしいところであるが、地域の理解や地域との交流なくしてそうした存在たりえないと思う。したがってまずそうした足下を固めつつ、理想に向けた存在となしてほしいものである。(教育)
- スポーツでも貢献されている方とそうでない方がいるように大学あげて交流を深めてほしい。講演を聴く時、4～5年と同じ内容の方もおられ、残念に思う時がある。(教育)

● 新潟大学の学生にかぎらず最近の傾向であろうが規範意識の低下が目立つ。地域社会からの批判、苦情も時折きこえてくる。規模の大きい総合大学だけに難しい面も多々あるであろうが、教育面での配慮、規範、秩序感覚等の啓発が必要と考える。(教育)

● 学生が大学の教官の指導を受けながら自分で研究したいテーマや活動を大学外場で研修し、社会に貢献したり、社会人と共同して活動しながら成果をまとめていくような機会を必ず設定できるようなカリキュラムを考えてみたらどうでしょう。大学卒業した時に、社会的な対応がスムーズに行かれるような点にも有効と思われそうですがどうでしょう。(教育)

● 大学は研究と教育との2つの側面を持っているが、研究についてはもっと企業との共同研究を積極的に進めるべきだと思う。教育については学生が将来スペシャリストとして活躍するための各種資格試験を取得させるための援助をしたり、高等学校と連携して高校生向けの講義等の機会を作ってもよいのではないかと。(教育)

● 新潟大学の教官の中には地域社会と密接な連携を保ち、積極的に地域社会をリードして下さる方も居るが、それらは少数であるとの印象を受ける。現に、地域としての課題解決に向けて種々の研究会・審議会等に参加してもらおうとしても、依頼できそうな教官はごくわずかに限定され、専門外のことまでお願いしている状況にある。解決策として、(1) 教官の研究内容・社会参加等の履歴の情報開示と広報の強化。(2) 大学本部内に担当のセッションを設置し、外部からの照会に対して全教官の情報から選んで提供する。(3) (不可能に近いかもしれないが) 専門研究に没頭することが地域に出て活躍することに優先する(価値がある)とする意識の改革。などはいかがですか。(教育)

● 残念ながら新潟大学について基礎的なデータ・情報をほとんどもっていませんのでまともな回答ができませんでした。これで意味があるのでしょうか。地域か、普遍かの二者択一的な考えでなく、社会に役立つ、結果として本人の幸せにつながる人間の育成・教育を目指せば、必然的に地域性も普遍性も両方必要なのではないでしょうか。「地域社会と新潟大学の交流」がまずあってではなく、なぜ交流が必要なのかが問題なのではないでしょうか。(教育)

● 学生に対する教育状況、内容等についてはある程度想像できるが、学内や個々の研究者の研究テーマやその実績、まして地域との交流の実態などはほとんど知る機会が無い(各質問項目については判断材料が無いので無責任な回答になった)。せめて政治程度には内容・業績、構想等を知らせる努力をするべきではなからうか。(教育)

● 教育学部教官の中に教員の学問問題を専攻している者がいる。少なくとも地域社会に対しては交流という姿勢はないように思われる。もちろんあれが学問だなどは思えない。(教育)

● 私だけかもしれないが、新潟県は広い事も原因していると思われるが、新潟大学は遠い存在のように思えてなら

ない。センター試験もあり力として入れるかどうかは別として新潟県にある誇る新潟大学…高校生に夢と希望を与えていただきたい。お忙しいと思われそうですが来校いただけたら幸いに存じます。(教育)

- 以前は新潟大学に分校があり、地域社会との関わりは非常に大きく、教育文化・経済・ボランティア活動等の交流が盛んに行われていたように思います。現在は新潟市のキャンパスのみであり、新潟県全体からみるとこうした交流は少なくなったと思われるが、今後はこうした面をカバーする方法は考えられないものか。(教育)
- 近年の入試の方法に、推薦が増えたようだが、安易に地域の高校を優先し、十分な学力の伴わない、学生を入れ過ぎてと思う。彼らの追跡調査の結果を公表して欲しい。(教育)
- 新潟大学出身の卒業生として、貴学の動向については大きな関心があります。統合された大学キャンパスにも大きな期待を持ちました。地域に根差した活動も医学部・工学部・経済学部等には密接なものがあり、住民にとっても大きな期待を持ち続けております。反面、大学の先生方の顔がみえないことも事実です。もっと積極的に活かせる場にお出かけいただくとともに、私共もその場を創り出していくことが必要です。学際的に常設の交流センターが開かれ地域住民の訪問が容易であれば五十嵐の浜が新潟県民の母港としての機能を持ちうると考えます。これからは言語系と情報系と拡充し、先端技術・知識の発信基地であってほしいと念願いたします。(教育)
- 大学の教官は一般的に自分の専門領域に固執する傾向があるとともに特定のグループ(団体)とは密接な関係や交流を図ることが多いと思う。自分の意見や立場にあまりこだわらずに広く交流を進めていただきたい。(教育)
- 新大教育学部を卒業して今日に至りますが、卒業後はすっかりご無沙汰しているのが実情です。従って地域との関係や交流についてはよくわかりませんが、あまりつながっていない現状があるように思います。(教育)
- 大学と地域住民と共生すべき部分が多いにもかかわらず地域に目を向けてくださる方とそうでない方の差が大きい。まず大学が開かれずと交流は一部だけのままだ。(教育)
- 地域社会におもねることなく、大学あるいは先生方は、自らの研究を深めることを旨とする。研究したことが、地域社会に役立つ場合には、それを提供して、地域に貢献していくことが重要と考える。また、地域へ出て、他の社会人と貢献とかいうことでなく、交わり先生方の持つ人柄を感化できることも大切と考える。(教育)
- 義務教育に携わる者として、教育人間科学部(元教育学部)を中心にアンケートに答えた。地元大学としてもっと教育現場に入り、義務教育現場の教員と一緒に課題解決にあたってほしい。教育学部卒業生が教育学部(大学)を頼りにしないようでは、交流は深まらない。もっと大学の教官は、今日的な現場の悩みにこたえる姿勢がほしい。(教育)

●新潟大学卒業生であるかどうかを問わず、優秀な教員を広く全国あるいは海外から任用すべきである。また教員には年俸(十年単位)を設けて業績の向上を企む機構を作ってもらいたい。私は旧制三高、京大、九大、東大と計三十数年間、国立大学に奉職したが、およそ十年毎の転勤は大きな励みになった。大学同志での教員の交換、また大学間の隔差の存在は必要と思う。(教育)

●新潟大学学生の質的向上を図ってほしい。入り口よりも出口を厳しくして、優秀な学生を社会に送ってほしい。そのことが県内高校生の県外流出を止めて新潟大学に優秀な学生が集まることになる。地域との交流を持ちながら実践的な教育の充実を図ってほしい。そこから新潟大学としての特色が生まれてくる。(教育)

●歯科医師会という立場上、地元二大学、即ち・新潟大学歯学部及び日本歯科大学新潟歯学部との交流は積極的に行っています。全国一の歯科医師過密都市として両大学の歯科教育にも患者不足等、臨床分野で問題が生じていますし、特に基礎系分野への人材不足も指摘されています。特に新潟大学歯学部の大学院のオープン化は、市民等にもPR、不足の感があり、目立った動きとして伝わってこないのが現状のようです。医学部・歯学部以外の他学部との交流は殆どなく、情報不足は否定できません。(医療・保健)

●新潟市周辺に比べると県内全般には新大の業績などの情報は少ないのではという感じである。新聞・TV・県広報などに種々の新大の情報をもっと多く流してはどうかと思う。全般的な中での限られた情報になるかも知れませんが、自分の専門の情報はかなり分っております。(医療・保健)

●関係がある学部のごことは、少しわかりませんが、新潟大学全体を問われても答えに困るのが本音です。総合大学で、間口が広いので、地域との交流等は、小さい単位で行われているのは見えません。地域と深い関わりを持つなら、小さい単位の方が有効と考えます。一学科、或いは精々で学部単位。社会では、福祉にボランティアを、との声が大きいです。同じような発想で、大学の教員がボランティアで、社会教育に出てくださると、もっと身近に感じられるのでは――。全部とはいいません。1人の教員が1年に1回とか2回、というようなことで。そのようなことから始めれば、大学にどんな先生がいられるかと、というようなことも、県民にみえてくると考えます。(医療・保健)

●大学関係者はかなり真剣にやっているとみています。しかし精神的にも時間的にもそのような時間をみつけるゆとりがないように思います。よい学生を育てるための時間で精一杯のように見受けられます。地域社会と交流の機会を作るのは国立大学としては基本的には無理だと思います。あらゆる意味で教育にもう少し「ゆとり」がない限り。(医療・保健)

●東京の大学病院停年退職後、新潟県長岡に勤務して5年しか経過していませんので前記のアンケートの返答は余り正確とは思っていません。県外から来て就職(第二人生)だけに新潟大学との交流を希望しています。特に

老人医療は地域と大学との交流が、他所よりも密であることを痛感しています。(医療・保健)

- 新潟大学の各学部、学系と地域社会の関連は密に、交流もさかんに増えて来たように思いますが、学部によって差があるようです。学問の内容によって異なるのは止むを得ないと思いますが、交流をさかんにすることにより、外部資金の導入も大きくなり、その結果を社会にお返しすることが出来るように思っています。老婆心ながら。

(医療・保健)

- 新潟大学は、他大学卒業の方々とももっと積極的に交流を持つ必要があると思います。地域社会、大学、他地域、日本、世界と、グローバルな視点にたてる、人材を養成していくべきではないかと、日頃、色々な方々に接して、感じる次第です。(医療・保健)

- (1)新潟大学医学部については良く知っているし交流も深い、他学部についての知識は浅く、正しい理解を持っているとは言えないかもしれない。(2)新潟大学は全般に新潟県という地域の中で安住しすぎているうちに、国全体或いは国際的な活躍が少なくなっているのではないかという印象をもっています。国際的というのは社交だけでなく学問的、技術的内容を含む意味です。(医療・保健)

- 新潟大学は地域にとって魅力ある大学になってほしい。チャラチャラした留学生などの受け入れは、そこそこにして新潟県とその周辺の産業ともっともっと交流を持ち active な研究活動をすべきである。ハイテク技術だけが学問ではない。文系・理系とも地元の産業に目をむけて、それに対応出来ない人はどう汰をなされるべきである。ぬるま湯につかかってジットして動かない人が沢山いる。――産学協同して尻をたたけ。(医療・保健)

- 大学(医学系)とは、もっとも交流し易くその必要も大なる私達(新大卒の医師)ですら相互の働きかけが少く有機的な関係を築けない事は大きな損失である。もっと気楽に頻りに利用し合える「やり方」を模索していきたい。(医療・保健)

- 医療関係者は新潟大学医学部で行われている研究等に関してはかなりのところ分かっていると思う。但し他の分野の事に関してはあまりわかっていないと思う。公開講座等も拡充して行く必要があるかと思う。大学と行政、企業との連携が良くなる事を期待する。(医療・保健)

- 以前よりは交流が深くなりつつあるがまだ研究室の中にこもる傾向にある。しかしあまり地域社会に迎合して研究が狭くなってはいけぬ。世界に通用するような研究の中で地域との交流をすすめるべきである。(医療・保健)

- 公立、私立を問わず、大学生にとっての在学期間は、「レジャーランド」と、いわれている。大学へ入学するまでの「家庭教育」「学校教育」「社会教育」の「ゆがみ」がそうさせているものと思われる。せめて、大学教育においては、この「ゆがみ」をなおして、社会に送り出してほしいと考える。(医療・保健)

- (1)新大が県内の医療供給体制の元締めしているのはかまわれないが、切りすてられた病院、へき地はどうして生き

ていけようか。県医師会でもよいから医療ミニマムを確保、保障するシステムがほしい。(2)島の乱開発についての新大の土木関係のプロの発言の弱々しいこと、加茂湖、両津湾河川工事ダムなどやりたい放題。(医療・保健)

- 学生時代文化運動に参加したが、中央の講師から、「君たち学生は新潟市民の文化向上に責任がある」といわれた。そこで戦後間もなくであったが、中央から講師を呼んで歴史の勉強をしたり、音楽家を招いたり、又「ロマンラン友の会」などを市民の中に組織した。今新大では学生にそのような試みがあることを聞いていない。多少地域との交流があっても学生を巻き込んでいないのではないかと。もっと生のエネルギーをひき出すべきではないか。(医療・保健)

- 上記でお分りのように私は新大医学部の卒業生ですが、既に卒後33年も経っており、現在の大学の状況についてはあまりよく分かりません。とくに他学部のことはなおさらです。しかし根本的な考えとして研究・教育はとくに地域にとらわれることなく世界に目を向けて行く方がよい。地域のためには情報・施設を開放する。ということではないかと思えます。尚、学内のことで、学長は最近又、医学部出身が多くなってきており総合大学としては物足りないと思えます。(医療・保健)

- 大学の意義は第一義的には、教育・研究の場であるが、文化・情報の提供等地域への貢献をすべき時代になっており、又、教育の一環としても地域との交流に配慮し、教育の場にも生かすべきである。現状の大学は、そのような取組が少い(?)又は、それらの取組のPRが不足している。(医療・保健)

- (1)新潟大学と競争できる総合大学(公立・私立問わず)があったらよいと思う。(2)国立大学間の人事交流をもっと進めた方がよいと思う(定年になった東大教授の受け入れだけではよくない)。(3)国立大学の教授の中には自分の興味や関心だけで動いている人がかなりいるが、国費のムダだと思う(任期制やリコール制を検討すべきと思う)。(4)新潟大学法学部の卒業生で司法試験に合格する者がほとんどいなくなっているが、原因を探って対策をためるべき。(社会・福祉)

- 新潟大学と地域社会の関係や交流についての具体的な資料が乏しいため、アンケートの質問にも客観的に回答できないものもあるが、今後は大学自体で、具体的な交流計画や、それに関する実績等を公表していただければ幸いです。(社会・福祉)

- 工学部出身なので工学部とは連絡はあるが他の学部の情報はさっぱり入らない。総合大学なのだから、何か横の連繋がある様な行事なりがあっても良いのではないか。(社会・福祉)

- (1)教官が自らの能力・資質を高める努力を継続すること。マンネリ化し、努力しない教官を排除する制度を作ることが必要である。人事交流・配置転換を積極的に行うことが国立大学にとって必要。(2)地域の代表が複数名以上、大学の運営に参加し、民間での競争感覚や効率性の向上努力、倫理性の向上策など導入すべきである。

(3)文系教育の評価システムが不明瞭で、教官の行動・授業・研究にルーズさを感じる。こういった点を直さないと、地域社会との交流で市民に失望や不満足を与えることを懸念する。(社会・福祉)

- 産業・経済の分野と積極的に関わりを持って、在野(OB)の再入学、在学生の企業派遣を通じて新しい分野の開発(人材育成・技術指導、研究等)等に大学としての理念、社会貢献、社会的使命をもっとアピールして欲しい。(社会・福祉)
- 地域社会と国立大学との交流気運は、10年以前に比べるとかなり、双方の歩み寄りがみられるようになり好ましい方向に転換しつつあるように思います。特に地域社会は実益面において、大学側により積極的な情報公開と交流(開かれた大学)を求めているものと考えます。今後とも、地域の教育・文化・経済・社会などそれぞれの分野に於いて、交流を深めて頂きたいものと念願しております。(社会・福祉)
- あまり関心を持っていないからなのかは分からないが、新大と地域社会との交流があるとは感じられない。もしあるのなら、それに関する情報が入ってくると思う。現時点では、地域社会も大学もお互いに活用されていないのではないと思う。(社会・福祉)
- 技術の面のみならず人間教育の面について地域並びに社会をリードする役割を果たす責任がある事を自覚して欲しい。(社会・福祉)
- 新潟県民の善意に支えられて仕事をしていますので、それをそのまま県民に還元するよう努めています。県民の積極的な善意を引き出すため、行政との協力・民間団体の理解協力が不可欠です。県民は粘り強いですが、善意を引き出すには時間を要します。消極的にもみえますが、情報の発信、受信、反応すべてに時間がかかります。県民のよい点でもあり、また他に遅れる要因でもあると思います。医療のような極めて直接的な要望についても、強い積極的なインパクトのある要請がすぐでてこない風土です。しかし、方向としては着実にポジティブな方向に向っていると思います。(社会・福祉)
- 研究・教育機関としてのレベルアップも必要であろうが地域内の総合大学として地域に密着した活動・交流による地域社会の活性化への一翼を担うべきではないでしょうか。(社会・福祉)
- 大学の先生方の豊富な専門的知識を活用して、県内産業への指導や教養あふれる人材の育成に(特に科学・文化)力を貸して欲しいと思います。(市民団体・ボランティア)
- 住民主体の地域づくり、まちづくりに、もっと新潟大学は関心をもって欲しい。これまで、協力して下さった先生方は、県立女子短大(生活文化の部門)、青陵女子短大(地域づくりの部門)、情報大学(地域学の部)。まちづくりセミナーでも、千葉大、宇都宮大、中央大の先生、長岡造形大で、残念ながら、地元新潟大学の先生は、一人もいない。母校の新潟大の先生方から、もっと力を貸して頂きたい。(市民団体・ボランティア)
- 新潟日報文化賞は、本県では権威のある賞である。新潟

大学関係受賞者は、過去、医学部関係者が圧倒的に多く、他学部関係者は少ない。学部間の温度差を示すものではなかろうか。一部の優れた教授は、地域との交流に熱心で、貢献も大きいですが、全体としてはもの足りないとするのが県民の印象であろう。(市民団体・ボランティア)

- 改革、改善と称して、一部の特定の教授(教官)が、県内の特定の政治勢力と結びついてキャンペーンを行っているが、いかなものか。原理、原則のみ突出している嫌いがある。例、教育改革と称する、一部の学者と、教育現場の教職員の行為。(市民団体・ボランティア)
- 大学は学問の府であるけれども、情報化、国際化社会の中では開かれた大学として、研究実績を地域社会の発展に貢献してほしい。その点新潟大学は医学部を除いて(附属病院は地域に大いに貢献している)あまり活発な動きをしていないように思う(実際は分かりませんが新聞紙上等には表れてきませんので)。新潟県民の為に蓄積されたノウハウ、新しい創造の力を新潟大学から発達してほしいと願っています。(市民団体・ボランティア)
- 県内では有名国立大学ですが全国的に見て有名私立大学とのレベルは相当の格差があるのではないか。教職員以外殆んど目だたない。残念だ。(市民団体・ボランティア)
- 新潟大学はあこがれの的であり私も入学に失敗した1人である。地域住民とはややかけ離れた感じがする。一頃の様に住民一体感がない。新潟大学は女性の活躍の場が少ない。程々の活動が行われているがそれに対して大学側もレベルを下げて対応してもらいたい。率直に意見の交換の出来る構想を立てて貰いたい。(市民団体・ボランティア)
- 以前より新大は地域と向いておらず、常に東京(東大か?)を向いているといわれ、そうかも知れないと半信半疑ながら思っていた。新潟市内に新潟国際情報大が出来て、比較してみて初めてやはり新大は地域に根ざしてはいなかったという感が否めなくなった。地域に積極的にイニシアチブをとっていった国際情報大(学長の個性もあるかも知れないが)のリーダーシップや問題提起の活発さは、地域住民の行政に対する目覚めを大いに促進しているように思う。大学は地方自治と住民参加の良心になるべきではないだろうか。(市民団体・ボランティア)
- 新潟大学が五十嵐地区に移転したことが、地域住民(この場合、新潟市が中心)との交流を以前より困難にしているのではないと思う。東京の私大の多くが、理由はそれぞれ首肯できるものの、八王子市等郊外へ移転したことは、地域との交流をせまくしている現状と似ている。それと教育・研究の環境は一部の学生を除き、「無菌状態(現代社会では全くありえないが)」の環境はかえって学習の場として望ましくないように思える。より多数の学生の姿が市の中心部に見られることが、都市造りの上からも大切な要素ではないだろうか。(報道・出版)
- 人文・教育・理学部などが西大畑にあった当時と違い、大学と市民の関係が稀薄になったように思います。これは多くの市民が実感しているところです。街の近くに大

学があれば街に学生や教員があふれ、それだけで街に文化的な空気が流れるものです。そこからたくましく市民との交流が始まるのではないかと思います。“タコ足”解消の名目で結局、医・歯学部を残しての統合は、市民にとっても新潟大学にとっても、大きな財産を失ったと言わざるを得ません。また西大畑の旧制新潟高校の建物も保存できなかった(しなかった)関係当局の姿勢も問われるところです(例えば旧制松本高校の建物は、松本市のあがたの森文化会館として保存され、市民の文化活動の拠点として活用されています)。歴史的な過ち(といていいでしょう)を犯した大学が、いまさら地域との交流とは——といささか感慨深い思いですが、一部でも熱心に推進を図られている先生方がおられることに敬意を表します。いささか遅きの感もありますが、原点に戻り、地域との交流を真剣にお考え下さい。西欧の都市は大学を拠点に発達して来たことを思えば、せめて精神だけでも新潟の街中に戻ったつもりで、地域と交流し貢献してほしいと思います(報道・出版)

●「傍目八目」ということばがある。地域貢献を考えるあまり地域住民子弟の優先枠を設けることなどナンセンス。国立大学たる新潟大学は、もっともっと全国から、世界から、優秀な学生を集め、研究で、あるいは、外部からの目でこの新潟県に貢献すべきである。ただ、研究、講座の公開、市民への呼びかけなどは引きつぎ積極的に実行して行っていただきたい。(報道・出版)

●学部に関係なく地域との交流を活性化させ、生涯教育といった、誰もが学べる開かれた大学として、また地元企業との実践的な研究開発のさらなる拡大・充実を大いに期待しています。その他に、(1)県外からの学生の誘致活動をさらに積極的に展開するための特化された学部の設置。(2)海外留学生の受皿の拡大と、留学生が地域社会に溶け込みやすい環境整備(活動が見えにくいので)、を、実現してほしいと考えております。(報道・出版)

●新潟大学に関する各種情報は、新潟市内に限らず、県内各地に提供して欲しい。地域交流といわれても、我々には情報不足の極みである。国際化社会での大学の関連は期待されている。県内全域に、地元県内国立大学としての使命は大きい。情報提供を大いに期待したい。(報道・出版)

●国立大学がどの程度の「地域性(ローカルティー)」を持つべきかは大変難しい問題だと思います。なぜなら、大学は“グローバル”な理念、研究レベルを研究・教育することにより全国・全世界から学生と研究者を受け入れるべきですし、卒業生も同じように全国・全世界に供給すべきです。しかし同時に、大学は自らの拠って立つ地域を常に意識し、その地域に“ローカル”な貢献をすべきです。このふたつともが、ひとつの地域に根ざした大学の使命として果たされなければならない。だから、難しい。率直に言って、大学はこれまで後者の地域貢献の部分がやはり努力不足だったと思います。これからは思い切って、この点での試みをふやしてみたらいかがですか。そうした中から一定のバランスが見えてくると思

います。(報道・出版)

●小生は書道、日本鶏の愛好者である為、数人の新大卒業の方を存じているが、それらの方々はいずれも地域によくとけ込んでおられ、又、学者ぶったところが無いところから、地域の評判もよいように思われる。今後も研究の情報を地域社会におおいに還元していただきたい。(文化・芸術)

広島県

●(1)学力の低下が心配。社会に適応する学力を。(2)学生に活力がない。(3)東広島市に移転したことが優秀な学生、意欲のある学生の入学が少なくなったのではないかと。(4)広島市や県庁と遠くなったことが、交流をせばめている。(5)広大と県・市の職員交流の為の施設を広島市内中心部へ建てたらどうですか。(政治)

●(1)広報を充実してほしい。(2)起業家の養成に力を入れてほしい。(政治)

●中四国の中心的大学としての特色、存在感に欠けているように思う。広島大学として誇れる分野を持つ必要がある。(政治)

●地域活性化に大学の果たす役割を米国の大学と比較すると日本の大学は古い因習にとらわれている。即ち、学内での先生方は一人一人が自分の殻に閉じこもり勝ちな気がする。これは広大に限らず大学など日本の高等教育機関のあり方が問われている。呉〜東広島市沿いに7大学4つの国公立研究機関などあり、このルート375線を新産業創出の場として、広大がリード役を担って欲しい。(政治)

●大学は科学するところだと思います。しかし(地域)社会とかけはなれて科学はあり得ないと思います。象牙の塔にならず(地域)社会から汲みとり、又、提供する(地域)社会と有機的関係を持った大学であってほしいと願っています。(政治)

●広島大学について云わせて頂くと産学協同推進化を進めています、企業との結びつきは一部大企業中心で広島県は中小企業が集約している県ですので、今一步中小企業との結びつきが必要(大学側の協力が必要)。(政治)

●アンケートに対して…。認識不足(大学に対して)もあって、少々広島大学に対して厳しい評価をしているが、その分期待も大きい。国立大学とは言え広島県と共に発展していく事をすべてに重点的として欲しい。特にこれからの「地方の時代」を迎えるにあたって、地域間の競争の時代に入っていくことになると思う。産学官の関係をより充実していかないと、広島大学が広島にある意義が無い。(政治)

●福山に分校のあった時点は広大が見えていたが、東広島へ移ってから見えなくなった。情報もほとんど聞くこともない。広島市民も同じではないだろうか。ただ、広島市には広大病院が地域社会に大いに貢献しているようだ。地域の国立大学がどう活性化するか、地域に多数の

大学が出来た現在、確かな道を作り出すべきだと思う。

(政治)

- 広島市内から転出した事を残念に思っています。医学部を中心に世界的大学にしてほしい。(政治)
- (1)政治、経済、国内外の情勢は一層の民主化と変革が求められています。(2)特に地方は、政治、経済、市民生活が明治以来の中央集権的、制度行政のもとで行詰まっています。地方の個性を生かした、政治、経済体制が求められている現在、広島大学が広島県、中四国の学術文化の中心として、地方分権、個性ある先端技術の開発、地域循環経済の確立の知的センターとしての役割を住民は切実に求めています。今後共よろしく願いいたします。(政治)
- 行政又地域としての活動の情報が、広島大学に余り入っていないのではないかと。又広島大学の中味が良く分らない。情報不足の所があり、今後情報・提供のあり方について検討していくことが大切だと思う。(政治)
- 合衆国の州立大の役割を期待します。(政治)
- (1)地域社会に対し、情報開示が少ない。広島大学が、地域社会にむけてどこまで大学の開放を含めて門戸を開いているのか情報が入りにくい。(2)東広島市に移転せず、広島市内での存続をしてほしかった。(3)広島大学生の交通事故死(バイク等)があまりに多すぎる。寮の建設、J R 駅とバスの連携強化、そしてもっと利便性を高めること。クラブ活動学生へのアフターケアなどもっと創意工夫をすべきである。(4)地域とともに発展する学園都市づくりをめざしてほしい。「街づくり」へソフト・ハード面を含めてもっと学生を参加させてほしい。5. エルダーホステル運動に積極的にかかわり、世界のエルダーを受け入れるリーダー役をしてもらいたい。(政治)
- 県都・広島市から出ていった広島大学。今や広島市民からは縁遠くなっていると思う。(政治)
- 大学の先生は、住んでいる地域の役員になるぐらいの気持ちで、地域に溶け込みそこで得る情報を参考に、学内の世界で生かしてもらいたい。(政治)
- 広島市に存続している夜間大学の経済・法学部以外に時代に求められている学部の増設をくわだて地域の人材の養成と働きながら勉学に意欲を持つ学生に希望と夢を与える必要あり、この存続された学部を中心に人材の育成や経済問題の研究等を中心に地域の発展を求め本部と緊密な連携の元に発展すべきと思う。(政治)
- 広大が広島市から東広島市に移転してから広大の母都市が不確定。もし広島市を母都市と考えるなら、その位置づけを明確にすることが、広大のポジションを確かなものにすると思う。将来にわたる位置を明確にすべきと思う。(政治)
- 広島大学の所在地と私の住んでいる市は、遠隔のため、ほとんど関係がなく、的確な回答ができません。また、高校卒業の学歴のため、大学の内容も全く判りません。不十分な解答で申し訳ございません。感じて〇印をしました。(政治)
- (1)大学では学問の研究と同時に、人間教育、道徳教育

を深めて頂きたい。(2)大学の教授、助教授、講師の先生方は自分の専門分野以外のことで、その肩書を使ってのコメントは差し控えてほしい。(政治)

- 広大は行政の区域が別になり市行政の委員会等で同席して意見を聞いたり述べたりする程度で深い交流はない。(政治)
- 広島市の地盤沈下、中・四国地方での中枢性の減少化傾向が著しいと言われて久しい。広大の東広島市移転がその原因にあげられる事が多い。又広大も移転により都市指向の強い志願者の広大離れが云々されている。大学の郊外移転は、全国的な時代の流れであり、これを広島市の中枢性欠如の理由とする思考そのものが広島市の地盤沈下の真の原因であろう。広大が存在する東広島市を、名実共に広島市の都市機能に包含することが緊急的課題である。広島大学、東広島市は、広島市の将来を左右する最大のキーワードであることを、広島市、広島大学、東広島市の共通認識にしなければならないと思う。(政治)
- 広島大学が東広島市に移転して年月が浅いため(完全移転完了して3年程度)地域社会との交流がこれからという時期ではないかと思われまます。移転する時は地域に開かれた大学にするとの事ですので、これからは地域との交流はあらゆる面に於て積極的に行われることと期待しています。又そのように交流が活発になるよう、大学側も地域社会側も努力すべきであると思います。(政治)
- 本町においては、生涯学習事業の一環として、広島大学の中国人学生と、産業祭等交流の場を持っている。又、生涯学習講座として、教員の派遣についても配慮して頂いていることに感謝致しております。今後も、地域の生涯学習の場への積極的な支援をお願いするものです。(政治)
- 広島大学のみならず、全ての大学にいえると思いますが、確かに学問も大切ですが、今日的社会的課題である、社会性に富んだ人材養成にも、もっと力を注ぐべきではないか。その上、開かれた社会に貢献する大学として、もっと力を注いで戴くと、これからの時代を大きく開く事になるのではと思う。又、いま更いっても仕方が無いとは思いますが、大学の移転は評判が悪い。交通等の利便を早急に検討して貰わないと、大学の衰退に繋がりはしないかと、心配をしている。(政治)
- 凡ゆる面で地域にもっと進出して活動がほしい。(政治)
- 問 8~問 13 まで余りわかりませんので記入していません。(政治)
- 県内在学の高校生をもっと多く入学させ、地域の活性化と展望的ビジョン、現実に対応出来る地域人材の育成に力を入れられるべきだと思います。(政治)
- 広大は教員生徒共にあまり地域との交流がないようでよくわからない。しかし地方の大学としてはよいと思われるが、田舎の大学ということで大企業に入社出来ても馴れるまで苦勞するようであるから、地域との交流を密にして社会に馴れておくことが必要ではないでしょう

か。(政治)

- 広島大学は、国立大学であるが故に、国際的なグローバルな立場での本来あるべき、大学としての使命に努力されると共に、広島としての地域性も考慮して広島県行政、地域社会との交流にも力を入れた運営につとめてほしい。(政治)
- 地域、特に中山間地住民と交流してほしい。小・中・高等学校と交流してほしい。(政治)
- 大学の一部の先生には、会議等の場を通じていろいろお世話になっている。(行政)
- 実社会から遊離した大学には将来性はないので開かれた大学となるべく、大いに努力していただきたい。(行政)
- 学部あるいは学科単位で行われている研究会などの情報をもう少し、広く知らせ、一般参加もできるようにしてもらいたい。また、研究途上にあるもの、あるいは研究結果などについて、インターネット上のホームページに掲載してもらいたい。教育学科や心理学科がありながら、私どもの非行臨床に携わる施設と交流がほとんどない(近くにあるながら)というのも残念な気がします。今後はこちらからもそういうコンタクトを取ってみたいと思っております。(行政)
- 転勤族で、当地には全て縁がなく、適切な回答が出来なかった。ただし、職場の同僚、後輩、子弟には広島大卒の人がおり、また職業上、一部教員の方から研修、研究に際し、支援、指導をいただいております。感謝しています。(行政)
- 広島大学が、広島県・中国地方に果たしてきた役割は大いに評価する。広島大学は単に広島県域の大学ではなく、中四国の中核的な大学であるから、アジア全域をも視野に入れた人材育成の大学になればよい(現在も大いに貢献しているが)。産業技術研究開発についても中四国の企業群を相手とするだけでなく、アジア全域を相手にするつもりで行えばよい。小中学校教員養成は、むしろ県立や市立の大学へ引き継いでもよいと思う。(行政)
- 国内を広範に転勤する国家公務員として広島大学だけを取り上げて困難(特定の研究分野としての係わり)(行政)
- 広島大学は、地域社会(地元)に役立つ情報及び研究成果等について、もっと提供すべきと思います。また、地域社会が必要としている情報についても、調査研究をもっと行うべきと思う。(行政)
- 広島大学移転前は広島市中心部にあり、大学の概況がわかりやすかったが、移転後は遠く離れており、情報等入りにくい状況がわからない。もっと情報が欲しい。(行政)
- 社会人に門戸開放を広く促進するため、多様なシステムを検討してもらいたい。(行政)
- 東広島市に移転したことで、地域(特に広島市)との交流が減ったと思う。(行政)
- (1)閉鎖的な交流にならないように。(2)情報の公開の促進。(行政)
- 行政や地域が主催する研究会等に積極参加される先生

はおられ、たいへん有意義ですが、その後の継続した取り組みに対しても実践研究として参加され、どんどん意見交流されることを望みます。(行政)

- 国立大学としての役割は、私学とは異質なものが求められることは当然であろうと思います。しかし、地域社会へ研究の成果なりノウハウが還元されなければ意味がないと思う。国立大学の中でも、より地域性を発揮できる広島大学としてのカラーを打ち出すべきではないでしょうか。とかく、広島県人気質は、山陽三県横並び的な意識が強く、他県の動向に追随する傾向があり、“失敗してもとにかく最初に戻りよう”という意気込みがない。リーダーシップをお願いします。(行政)
- 教授・助教授・助手のラインを超え、自由な発想と行動を期待する。産業界と連携した実践的、教育・研究の場となしてほしい。閉鎖的学会での活動は評価を低くすべきだ。(行政)
- 「地域社会と運命を共にする大学」という認識を基にする教育・研究機関として地域と共に発展してほしいものです。(行政)
- 東広島に移転したことで地域社会との交流がしづらくなったのではないかと。交流を深める努力が相当必要。(行政)
- 情報公開を積極的に行っていただきたい。例えば広大ホームページの充実など(地域関連情報を追加したい)。(行政)
- (1)行政の立場からみれば、各分野でそこそこの関係や交流は行われているように思えます(私個人としては、多くの先生のお世話になりましたから)。(2)しかし、中四国における中核的役割を果たすべく広島大学の使命からすると、何か、物足りない思いがします(期待が大きいくらいに…)。(3)特に、教育界を除いては、経済、行政、政治、農業関係の分野が伝統的に弱いように思えます。(4)広大の卒業生は、頭もいいが、積極性、意欲等々バイタリティーに欠けているように思えます。(行政)
- 地域との交流をさらに進めるべきと考えます。また公開講座等の開催も期待しますが、参加の利便も考慮して、広島市内での開催を考慮して欲しいと思っています。(行政)
- 我々の部にある試験研究機関(四機関)があるが、研究成果が見えにくい状況にある。民間との共同研究等活性化方策も検討実施しているが一部に留まっている。やはり研究員からすれば広大との連携を望む声強い。今後これらを検討していただくと非常に面白い。(行政)
- 地域に開かれた大学であってほしい。地元大学の雄として県民に広く親しまれるとともに、地域に研究成果を発表し、活用するなど地域発展のために大いに貢献してほしい。(行政)
- (1)生涯学習社会に応じた社会人入学等の拡充(広島市に於て)。(2)地域産業の技術力発展に寄与する研究。(3)国際交流の拠点。(4)地域社会や行政のあり方についての提言。(行政)
- かつて広島高師を擁し、教育県といわれた広島県の教育の現状は先の国会での証言でも明らかな様にむちゃく

ちやであり、県民の多くが憂慮しているところです。県内の教員養成機関として広島大学はもっと認識を持つべきであると考えます。他の学部については概ねがんばっておられると思います。今後大学院大学以外は、より地域への貢献を求められるでしょうから、広島大学も今のうちからもっと地域に目を向けておくべきでしょう。

(行政)

- 東広島市への移転で、トータルとして地域へのかかわりにとってはマイナス面が目立つと思う。大学側からの積極的なアプローチが求められているのではないか。(行政)
- 唯我独尊ではなく、地域のニーズ、意見を受け入れて、地域に密着し、地域の発展のための、科学、文化情報の発信基地としての役割に期待します。(行政)
- 大学は本来普遍的な学問の研究・真理の探求を旨とすべきであり将来の人材育成を行う場と考える。しかし近年の社会・経済の変化、例えば、リカレント、NGO、地域社会あるいは地域の大学として、産学協同も求められている。合理性、効率性等に迎合することなく、アカデミックな立場は確たる信念を持ちうる、最後のトリデと考える。地域社会との関係を保ち、研究、交流も必要ではあるが、むしろ大学に於ける研究等の成果、内容について、広くディスクロージャーする様考え方の方向性を変える中での交流であるべきでは？(行政)
- 大学は地域社会のニーズに応じて情報サービスを提供すべきだと思います。その方法としては施設・設備の開放、公開講座の開催なども考えられる。いずれにしても大学が地域住民に理解され、場合によっては住民の協力を受けながら、交流を深めることが大切と考えます(種子を播かぬば芽は出てきませんが、種子を播いただけで水や肥料を与えぬば育たないというのが私の考えです。…失礼なことを言って申し訳ありません)。(行政)
- (1) 国立大学は、地域社会にとらわれることなく、専門的学問に専念すべきで、共同研究等で企業との係わりは是非必要と考えていますが営利目的となることは避けるべきだと思います。(2) 地域社会との交流については、在学機関(4年間)を1~2年延長して、企業や、行政等との交流する機会をつくり、もっと権威のある人材作りに努めていただきたいと思います。(行政)
- 仕事上の学術専門に関しての相談を、職員が手軽に出来るようなシステムが出来ればいいなあと常々思っています。今後この方面の展望が開けることを期待しています。(行政)
- 地域社会との交流を通じて、広島大学の国際的にも通用する水準の教育・研究成果を期待します。景気低迷の中、国立大学の地域貢献あるいは、地域交流は、これからのトレンドであり、互いの(地域と大学)資源活用は、まだまだ未開拓の分野ではないかと思えます。例えば、行政には、情報の生データを表・グラフ等でプレゼンテーションする努力、シミュレーションする技術が不足しているくらいもあるので、OA機器等の相互学習等を水需要予測・河川水質予測・人口予測・税収予測などのデータを利用して行うというのはどうでしょうか。(行政)

● 広島大学は全国に向かって発信できる教師が不在で、特に文系の教師には学生を指導する意欲に欠け、学生の意見に対して評論することに終始する者が多いとの印象をうけている。大学院では教師数に対して学生数が多すぎ、「指導」になっていないのでは。地域社会は、大学として、又は教師(研究者)として価値あるものを成果として示せば活用しようとするし、支援もおしまない。隣のオッチャン的な人が、東京の方で使い古されたようなことを話していて、高い報酬を求められては、他の大学に頼みたくなるのも当然であろう。全国区で通用する教師を確保することが当面の策ではないでしょうか。調査の分析結果は調査依頼先全てに送ることが大学への関心を高めることになる。(行政)

● (1) 現在地域社会において何が問題となっているか、今後何が問題となるかを把握し、調査研究を行う。(2) 研究結果は、学会誌、学会発表のみならず、また学内でなく発表の場を設け、一般住民を対象に行うこと(例、テーマ別に2~3日広島国際会議場で行う等)。→研究成果の公表・県民へのフィードバック。(3) 県民との共同研究等。(行政)

● (1) 地元、東広島市の行政と交流懇を設ける。(2) 地元、東広島市内の研究機関と技術交流を行う。(行政)

● 地域共同研究センターの充実。(行政)

● 娘が2人お世話になっています。私は、東京勤務のため、広島の情報にうとく、各設問の回答者としては、不適のように思います。広島大学の御発展を祈ります。(行政)

● 地域社会(企業を含む)との人材養成や研究等の連携を強化すべきだと思います。まだ、学校の枠にとじこもっているのではないかと。そうでなければ、幸いです。貴校の前向きな取り組みに期待しています。(行政)

● 原爆といえば広島です。世界から核をなくすために広島大学は努力をしていただきたい。世界から多くの留学生を受け入れて、国際大学になってほしい。(行政)

● 広島県の教育改革に広卒の教員が前向きに取り組んでくれるような生徒を育てて欲しい。(行政)

● 国立、私立を問わず、大学は地域に根ざし、地域との具体的で広範囲な交流をさらに強めるべきと思う。地域の特徴を理解したうえで、その良し悪し、個性等を参考にしながらも捉われることなく地球的規模で活躍できる人材の養成を期待したい。また、広大に特化して言えば、少子高齢社会における地方都市の貴重な貴重な若者である広大生を、あらゆる機会を捉えて、地域社会の人的資源として活用する発想が、戦略的に必要と痛感している(但し、小生は広大への実情については誠にうとい者ではある)。(行政)

● 東広島市へ移転され、気軽に大学を訪れることが困難となった。私の関連する学部で、広卒の学生が少なくなり、シキイが高くなった感じがある。(行政)

● 教員との交流は多い。審議会委員等への積極的参加もされている。私どもの方から大学へ行く機会は余りない。地域のために何をやっているか、また何が出来るかの広報をする必要がある。地元東広島では活動されていると思うが、新聞などマスコミで取り上げられることが少な

- い(悪いことはすぐ流れるが)。(行政)
- 都市部のみではなく、農村部への地域づくり等への積極的な参加、中山間地等、遊休農地や、森林等土地利用について(専門的な学部が無いためでしょうか)、今後の福祉社会(生涯教育を含む)に大いに貢献できる分野であると思います。学校教育の場としての活用策等国土保全と併せて、積極的な関与を望みます。また、市場流通のあり方は、全国的に大きな方向転換の時期にあります。これらへの提言等もお願いしたい。(行政)
 - 地域が発展するためには広大のハード、ソフトの技術開発、研究成果を地域に伝えていくシステムが必要であります。その為には、教授と地域のコミュニケーション(人的つながり)が必要。教授の研究内容を地域に示してほしい。学生と地域とが研究を通してかかわりを持つ開かれた大学が必要。行政と大学の支援関係の模索をすべき。研究内容を通じて他の大学との連携を考えていく。(行政)
 - 大学間交流・地域間交流・地元企業との交流等、情報発信の中心となっていたいただきたい。(行政)
 - (1)広大の先生方に仕事の関係で相談したいと思っても距離的に遠く、以前に比べて疎遠の感じである。(2)そのため、広島市側も今後十分検討すべき課題であるが、広大の先生方と気楽に話しができるサロンのような場があればと思う。(3)各学部の研究紀要などが閲覧すべき場所にあればと思う。(4)広大の役割として中国地方の国立大学の基幹的役割をもつべきだと思う。(5)広大の先生方の研究内容、論文などが一覧できるシステムがあればと思う。(行政)
 - 多様化する時代にあって、今後ますます産学官が連携を強化する必要があると思う。そのため、より開かれた大学となるよう望んでいる。また広島市内から移転したことにより、多少不便となり、交流機会が減少したことは否めない。これをどう解決していくかが課題である。千田町キャンパスが一部残っており、ここを地域との結びつきの拠点として十分活動されるよう機能等を充実されることを望む。(行政)
 - 東広島市における広島大学については、広島大学が全国的にも有数の規模を有し、多種多様な高度な頭脳が集積する総合大学であることから、いかにすればこの地域の様々な活動と密接な関係を保ちながら、互いの価値を高めあうことができるのかというアプローチが市制施行当初からの大きな課題の一つであった。以来、現在に至るまで、大学移転の振興と加茂学園都市・広島中央テクノポリス建設の進展に伴い、教育・文化・産業等あらゆる面での交流が芽生え、徐々に広島大学は、この地域に根差した大学として受け入れられつつある。が、まだそれらを指して、十分に地域との交流が行われている状態であるとは言えないであろう。今後においては、地域と広島大学が互いに有する交流推進の方向性を重視し、より「開かれた大学」を目指して頂きたい。そのために、東広島市はもちろん、中四国全体のシンクタンクとして地域社会に貢献して頂くだけでなく、市内居住率が高まりつつある教職員や学生の方々に、より一層社会人としての役割を、東広島市民として担って頂けるよう、積極的な情報提供、提案と行動を期待する。(行政)
 - 広島大学は東広島市へ移転して本市には大学の施設がなくなりました。以後、広大と地域の関係がほとんどなくなり、大学の先生に時々、審議会や検討会議等をお願いすることがありますが、大学を利用させてもらう事は少ない。(行政)
 - 公立三次中央病院が大変お世話になっており、感謝しております。中山間地域を国土保全、環境保全という観点から将来のビジョンと施策についてご提言があれば有難いのですが…(行政)
 - 広島大学生物生産学部附属水産実験場の地域住民への公開と体験学習の実施。海を活用した情報提供を要望する。(行政)
 - 全体的には、広島大学は地域住民・地域企業等地域社会との交流や関わりを深めていこうという理念があると思っている。しかし、機関全体としてではなく教職員の個々はまだその意識が少なく、結果として一部の教職員との交流が主流となっているのではないかと思う。時間は要すると思うが、全体を構成する個人個人が前向きな考え方で臨んでほしい。(行政)
 - 中国五県国立大学の雄たるべく大学院の拡充強化に努力すべきである。(行政)
 - 東広島市へ移転して入学生のレベルは落ちていると思う。全体的なレベルアップを図るには、地域との交流(特に広島市)を図り、広島大学そのものの知名度をあげる必要がある。現在は、国際的、国内的にも注目されるような研究発表がほとんど無いのではないかと思う。教授陣等の他大学への流出があるのではないか。第2の筑波大学になるのなら、教授陣と学生とが一体となってレベルアップを図らなければ、広島大学の地位は田舎の総合大学としての地位しかないのではないかと思う。(行政)
 - 大学側で、実質的な交流を推進するセクションが必要ではないか。(行政)
 - 広島大学が広島市から離れて残念に思っています。大学は、学問のための学問でなく、社会や地域に貢献するものでなくてはならないと思う。地域との交流をもっと進めてほしい。(行政)
 - 施設も先生も学生も皆んな広島市域外へ出て行ってしまい、我が地域の大学という感じがなくなってきた。そういう大学と我が地域社会との交流に関する調査といわれてもピンとこない。先生も学生も都会の中で生活しながら勉強に取り組んではじめて生きた学問になる。我が組織にも広大生はたくさん入ってくるが、最近はい物にならない者が増えている。我が地域社会にもまだ先生は任んでおられるが、評論家が多く、地域社会へ自ら貢献されている人は少ない。広島大学は象牙の塔になってはならないと思います。(行政)
 - 広島大学は、塀のない大学であり、「地域に開かれた大学」を標榜しており、地域との交流も努力されていると思われる。しかし、まだまだ意識が十分に行動となっていない点も見受けられる。又、市民の方にも、広島大学

をいろいろの面で活用しようという気に十分になっていない点がある。大学と、地域との交流はまだまだ時間が必要と感じている。(行政)

- 交流することにより双方が得るものがある場合、積極的に進めるべき。現在の大学は広大に限らず数居が高く感じる。(行政)
- 学生の政治、地域への無感心はひどい。(行政)
- (1) 広島大学が地域社会と総じて、無縁、無関係という感じがするのは、残念。(2) 産・官・学の交流が他の大学より薄い。(3) 大学が地域のために何か貢献しているとか、役立っているということが具体的に見当たらない。(4) このような調査をもとに、がんばって欲しい。(行政)
- 東広島市に移転して、特に社会科学の分野で地域社会との交流がなくなった様に感じます。(行政)
- 大学の施設の地域への開放、学生のボランティア活動への参加、知的資源の市民の生涯学習への活用を期待する。(行政)
- 生きた実践的研究・学問とアカデミックな普遍的研究・学問とは両立しうる、と思う。(行政)
- 大学移転という大事業の為、主たる業務はその分野に比重が高かったのではないかとと思われるが、いよいよ今後の大学、大学人のあり方が問われる時が来たと思える。その為には広く大学の存在をアピールし続ける努力が求められるのでは？ 広域的に、世代を越えて、分野にこだわらず。立地は東広島市に存在しても県内、中国地方を含めての存在、住民や地域との係わりを示されたい。(行政)
- リカレントが必要。(卒後の) 社会、経済、文化等への専門ノウハウを、産官学→産官学+民(地域社会)へ。(行政)
- (1) 本部が東広島市に移り、環境、施設ともに申し分ない状況となっているが、広島市民としては、直接にそれを知る機会が非常に少なくなっている。(2) 旧本部の施設と新本部の施設とをうまく組み合わせた公開講座、それも、新しい社会の課題に学問的に、積極的に取り組むような、魅力あるものを設けるなど、いろいろ工夫をしてもらいたい。(行政)
- 当市には平成元年広島県立大学が開学し、地域に開かれた大学として市民に愛されている。地域との各種交流も非常に熱心である。(行政)
- 民間調査(在籍学生数が2,000人以上の大学299校の総合ランキングTHE 21 '98年8月号)において、広島大学は全国で17位にランクされ、未来に向かって輝く大学として位置づけられており、地元としても非常に喜んでいるところ。ただ、私どもの大学へのアプローチが足りないと思われるのですが、もっと広島大学の研究の内容、リカレント教育、地域への施設開放などについては、学舎がある東広島市だけでなく、呉市をはじめとする周辺市町村の住民や企業に門戸を広げてほしいと思います。また、呉大学をはじめとする県内大学の交流連携の要となっただけ、県内全体へ広島大学の存在をアピールしていただきたい。(行政)

● 広島市から東広島市へ移転のため広島市では大学の情報が入ってこない。積極的に広島市、広島市民に情報提供すべきと思う。回答できない部分は情報不足による。残念。(行政)

- 留学生等は結構受け入れておられる。もう少し、地域に分かるような地域と交流、市民講座等積極的にPRしていただきたい。広島大学として、核とか平和とか、国際情勢等、全国区分野に活躍できる人材の教官の養成が待たれる。(行政)
- 県内と雖も距離的に遠く日常的な交流は望めない。県内の三ヶ所(広島市・三沢市・福山市)に出向いてのオープン講座の開設などを考えられたらどうか。あるいは、社会学や地理・生物などで県内をもう少し詳細に研究するような(あるいは私が知らないのかもかもしれませんが)ゼミなどを設けられたらどうか。いずれにしても国立大学という制約があるのかも知れませんが(教育・医療では大変お世話になっていると感じています)。(行政)
- 調査研究を依頼する場合、委託費が高額で委託しにくいと思う。(行政)
- 地域を超えて活躍できる人材の養成を第一としていただきたいが、教育・研究活動の過程では、地域という現実にも目を向けたものであって欲しい。(行政)
- 大学の理念に個性が欠けている。大学教員は大いに地域に密着した研究をやるべきであるが学生は(特に1、2年次) 普遍的学問を確実に履修させるべきである。地域復興アドバイザーをお願いしており、極めて有益である。このような教員が増加することが望まれる。地域的に遠距離であり、十分な活用ができないのが残念である。(行政)
- 地域の要請に応じられる態勢を備えられる大学であれば素晴らしいと思う。地域には、学びたい、知識を得たい、技術を身につけたいと思う者が多数いると思う。この欲求に答えられるならば、広大の存在は、身近なものになり、あるいは地域からの応援も得られると思う。単に、広大のみが、あるいは国立大学のみで成し遂げられる課題ではなく、国の教育行政に期待すべきであろうが、あえて、ここに表してみました。(行政)
- 交流の実態が、良くわからない。(行政)
- 広島にある大学として、地域の中へとけこんでほしい。大学の知恵を地域の中へ注入してほしい。一生懸命生きている人々に助言が出来るのは広島大学と思う。現実的な助言を望む。(行政)
- 広島大学の学生と地域社会との交流は特定の地域を除いて少ないのではないのでしょうか。又私の住んでいる所は島嶼部でも有り広島大学の場所が東広島島のどの様な場所に有るかも知らない人がたくさんいるのではないのでしょうか。もう少し広く県民に開放するとともに学生と地域社会の交流を促進してもらいたい。(行政)
- 中国地方の有能な大学としての歴史があります。これからも全国から広大に学びたいとの希望があるような大学になってもらいたい。これからは、大学も、人材育成に努めていただきたい。(行政)

- 東広島市に移転され、地域住民との距離が遠くなったように思える。県内市町村との距離も遠くなったように思う。先生一人一人については、地域のことに関わっておられる方もおられれば、市町村に対して協力的であるように思えるのですが、学校が広すぎ、どうも近寄りにくい。もっとごちゃごちゃした部分があってもよいと思う。(行政)
- 県内の審議会には広大の先生が入っておられる。今後は特色(大学の)づくりが必要と思う。又県内の子供を多く入学する事により県民の意識が違ってくと思う。(行政)
- 広島県に立地する大学として、一層、地域と密着されることを望みます。例えば、老人福祉の将来が不確実な現状を踏まえて、老人ケアのあり方を確立するための、試行錯誤を広島県地域の中心となって取り組まれてはどうですか。(産業・経済)
- (1) 県民意識と大学の先生方の言動の差が大きすぎる。(2) 県民(行政・企業サイド)が近づいても、その反応が専門的すぎ難解。(3) 例えば、学会の発表も専門用語や、学術的言い回し(表現)がむつかしすぎて十分理解し兼ねる。(4) 結局、県民側が引きさがる→大学は雲の上の存在となる。(5) 理念、概念、基礎研究が地域の求める具体的な課題解決や応用研究に活かされにくい。このかき離を埋める対策が重要。(6) そのような雰囲気の中で学んだ学生では実社会に出て又一からやり直しとなる(農業分野で言えば私立東京農大卒業生などは実践力がある)。少し大きさに書きすぎて申し訳けない。広大が県民にとって、なくてはならない大学に是非なしてほしいと思っています。以上は、広大に限ったことではないかも知れません(ex. 東北大、鳥取大のようになってほしい)。(産業・経済)
- どんどん交流したり、広島大学の研究をもっと知らせてほしい。(産業・経済)
- 大いに地域社会との交流を進めるべきだと思います。(産業・経済)
- 東広島に移転以来、あまり意識することがありません。(産業・経済)
- 広島大学のある東広島市では、地域との交流があると思われるが、広島市内では私の知る限りでは情報が伝わってこない。これから高齢社会に入るのでこれらの方にも接触を図って欲しい。(産業・経済)
- 地域の活性化、発展に広島大学の協力に対するの期待は大きいと考えます。大学も門を開き、地域も、もっと積極的に活用すべきだと思います。(産業・経済)
- 立派な教職員の採用に努力すべきである。文部省はもう少しお金を広島大学に投入すべきであると思う。節約しすぎである。学生に夢や希望、期待出来る人生観をもてる様エキサイティングしてほしい。広島市との交通の便をよりよくする運動をして欲しい。学生にしっかり勉強するよう言える教師を増やして欲しい。(産業・経済)
- 現在当地域では、行政主導の地域づくりから市民主導の地域づくりへと転換する時期だと思われる。一部の教員学生の方々に協力を求め共に地域づくりのプラン作り

等に取り組んでおられる事例がでて来た。大学と地域を結びつけるシステム、人の何かが少し足りないと思います。現在は少しずつ人間関係が出来、大学にどの様な先生方がおられどの様な研究を行っており、どの様なノウハウをもっておられるか、わかりつつある状況だと思えます。地域としてはもっと大学と関わっていきたく思っていますし、広大が当地域に移転してこられた事を大変喜んでおります。(産業・経済)

- 我々が携わる公共事業(土木建設事業)においても、従来比較的閉鎖的であった計画・設計内容の情報公開やこれらに地域の意見を積極的に取り入れる時代となっている。こうした中、行政と地域のパイプ役あるいは客観的なアドバイザーとして最も地域に精通した学識者となり得るのは、知名度、信頼度、また実績からも広島大学は大きく、確たる存在であるとともに、事実大いに貢献している。今後も一層の御活躍を期待している。(産業・経済)
- 我々が携わる公共事業(土木建設事業)においても、従来比較的閉鎖的であった計画・設計内容の情報公開やこれらに地域の意見を積極的に取り入れる時代となっている。こうした中、行政と地域のパイプ役あるいは客観的なアドバイザーとして最も地域に精通した学識者となり得るのは、知名度、信頼度、また実績からも広島大学は大きく、確たる存在であるとともに、事実大いに貢献している。今後も一層の御活躍を期待している。(産業・経済)
- 我々業界関係では、広大と比較的に密接な関係を保持している。技術的に困った場合の技術指導、相談に乗ってもらうと共に共同研究会に参画させてもらい、交流を深めている。又大学の要請により学外非常勤講師の派遣、並びに学生の就職ガイダンスの講師派遣等にも協力させて頂いている。地域社会との交流について十分なものであると思うが、全国的に大学のバリューを高めてもらいたく希望する。(産業・経済)
- 我々は地元の大学(広大以外の)との交流を深めている。広大は他の地元大学のレベル(研究、技術)を高めるよう指導する。(産業・経済)
- 大学側が大手企業とは関係を多少なりとも接点を持っているが県内産業95%の企業数をしめ、従業員及家内従業者80%をしめている弱小、中小企業には『まったく全々』目を向けていない。産業、生活基盤あつての学問である。学問が独歩していて架空のゲームの感があります。学校側が地域に関して発表も空論が殆どで全くありません。(産業・経済)
- 交流を広島県(又は中国地域)に限定する必要はないと考える。ただし、大学等の目的意識が不明確な為、言い換えれば、各大学の存在意義が不明確で横並び意識が強いのではないか。研究等において(特に学生の意識からみて)、目的が不明確で、単に技術の修得のみにおわっているように思う。学問、研究を通して、社会にどの様に役立つ(貢献できる)のか、今後の大学も、企業と同様、大学の持つ資源を通して、社会に役立つ技術・人材を育て、産業を育成していく必要(特徴を持つ)があると考え。"学問・研究は目的でなく、手段である"ことを意識した活動が必要ではないか。その為には、大学であっても、研究等の資金調達のための営利活動があっても良いのではないか(米:MIT、スタンフォード大の様に)。(産業・経済)
- 欧米の大学は、産・学協同的研究が増加していると聞いているが、大学側の積極的行動を期待する。又、特許件数も欧米の大学に比べ、日本の大学は少ないと聞いていますが、新たな時代に対応した学問にも注力してほしい。

(産業・経済)

- 私の情報不足のためか、貴大学の特徴(長)が、はっきりしない。(1)公開講座はあるのか。(2)経済、政治、社会等の講演会の講師はほとんど中央からだ。(3)工学部等において、研究成果(研究内容)を研究室ごとに市民に公開することなどは地域との交流に役立つのではないか(東北大学は実施されている)。(産業・経済)
- 最近スタンフォード大学の日本経営研究所の教授の話をきくチャンスがありました。自分の研究を売り込もうとする「セールスマンの」「起業家的」なセンスにあふれており、これがアメリカの強さの要素の1つではないかと思いました。一方広大にかぎらず自分の研究を売りこみ、自分の「メシ」の種を大きくしようとするような動きは、日本の大学の先生方からはあまり感じたことがありません。何となく大学のなかで自分の研究をされているようですが、それが社会、企業との関係は見えてこないというのが私の実感です。(産業・経済)
- 広島大学に限らず国立大学はもう少し自由な校風をつくり透明度の高い大学をめざすこと。教授も世界各国から優秀な人材をまねき国際化を図るべきだ。企業と共同研究を押し進め、研究費の捻出を図るべきだ。(産業・経済)
- 開かれた大学というイメージが伝わってこないので、広報活動をもっと積極的にされてはどうか。住民は機会があれば、勉学、教養を高めたいと常に思っている。東広島に移転して、広島市内に住む住民にとっては速い存在になり、容易に大学までは足が運べない。アクセス面で気軽に参加できる工夫がないのか。(産業・経済)
- 私は現在、広島県東部に在住していますが、正直いって広島大学と地域社会との関係はよくわかりません。広島市周辺や東広島地区の方なら実感があるでしょうか…。(産業・経済)
- 専門的知識はある程度必要であるが、実際に社会に出て役に立つ人間性豊かな、ファイトのある人材の育成(ベンチャー的な教育)を希望する。(産業・経済)
- デルタ会員であり色々な面で交流があり、会社経営や、研究開発等について指導や協力を得る機会がある。ただ一般的には大学の研究内容は中小企業にとっては先端すぎて活用、利用することができないと云った数居の高い感がある。地域社会に窓口を開いていると考えられているかも知れないが、受ける側では、まだまだ不満がある様である。例えば中小企業の要望の多い現状技術の改良、改善といった研究テーマのとりあげ、協力、指導要請がある場合、広島大学では対応できない場合の他大学の研究所、文献等の紹介などのサービスがあれば、その事が色々な面で輪を広げることになると思う。(産業・経済)
- 広島は政令都市でありながら、国立大学がなく現在の場所が不便なために他の有名大学に進学しているのが現状で、よって地域社会との交流も少なくなっている。(産業・経済)
- 情報のある場に恵まれたためですが、(1)広島市から遠く離れた所にある現在、広島大学の姿・形が具体的に見えなく、また、当時以上に広島市との関わりが、アンケートにあるような各分野で全く感じられません。(2)教職員と学生が一体となり、その中で学生を中心として(問2)にあるような行事収容を広い地域(特に人々の多い広島市)に大学側が積極的に出向いて頂き、親しみを感じさせた大学への取り組みが欲しいと思います。(3)教職員のマスコミ等を通じての登場も大いに期待しています。(産業・経済)
- 東広島に住む者としてさみしい感がいたしておりました。東広島は、場所の提供にしかかなりえていない感があるからです。それは、双方に原因のあることだと思いますが、何か、よい方法があればと切望いたします。但し政治的にはつながらないでほしいです。(産業・経済)
- 医学部出身者には地域でのリーダーが多く存在するように思えるが、他の学部出身者ではそれが少ない。もっと多くが出現するよう望む。(産業・経済)
- 大学の移転により、疎遠になった。大学自体、地盤沈下しなければよいかと懸念される。(産業・経済)
- 個々の設問の目的が分からず○印を付けたので回答になっていないものがあるかもしれませんので悪くならず。(産業・経済)
- (1)当公庫に広島大学卒業生が入社しているが、いずれも優秀であり重要な役割についている。(2)当支店は新事業貸付等の技術的判断について工学部教授の応援を求めていきたい。(産業・経済)
- やはり「象牙の塔」というイメージが強く、実態は開かれた部分(分野)も多いのですが、やはり大学のPR、広報の不足と考えられます。マスコミをもっともっと上手に使うべきと思います。研究成果のビジネス化の努力が必要。リエゾン推進連絡会の構想など、新しい動きも評価できます。広島市が標榜する「国際平和文化都市」へ、どうかかわっていくかが、広島大学の大きな課題です(東広島市へ移転により、地縁性がうすれてきますが…)。(産業・経済)
- 広島市内(旧キャンパス等)に社会人大学院・市民講座等を開設されてはいかがでしょうか(特に社会人大学院では経営学など)。夜間を前提に考えれば東広島は、遠すぎる気がします。時々、緑あふれる広大キャンパスを訪問していますが、本当に素晴らしい環境でうらやましく思っています。この中から、特色ある研究成果や優秀な学者、学生が大勢育つことを心から祈っています。(産業・経済)
- 広大は広島市内であって欲しい。今は東広島市に離れているため、地域社会云々といわれても意見が出ない=行政を離れている感がする。子育てが終り暇な時間のある年になりました。もう一度勉強がしたいのです。(産業・経済)
- 広島市に居住し3年になるが、広島大学というものが、キャンパスが移転したこともあって、殆ど見えない。見えてこないイメージである。(産業・経済)
- 大学の情報をほとんど得ていないので、よくわかりません。マスコミを通じてでも、また大学自体の活動、研究活動、クラブ活動、ボランティア活動などミニコミでも

- PRすれば良いのではないかと思います。(産業・経済)
- 地域社会の活性化には産・学・官の連携が不可欠。大学のリーダーシップに期待している。(産業・経済)
 - 広島大学の整備、充実のため、西条地区への移転は、止むを得なかったことと思うが、県都である広島市との交流やいろいろな係わりは、薄くなったように思う。遠い存在になったように思う。(産業・経済)
 - 広大仏教青年会の活動に個人的に関心を持つ。(産業・経済)
 - 大学は地域社会へもっと意見、発言をすべき。人材育成(人間形成)をもっと真剣に取り組まれない。(産業・経済)
 - この地域において、将来のあり方を検討するにあたって、広島大学地域経済研究センターは、指導的な役割を果たしており、欠くことの出来ない存在となっている。ただし、中国地方全体に対する影響力、指導性は弱いようだ。(産業・経済)
 - 「新しい全国総合開発計画」をいかに具体化していくかが、今後の地域社会の課題となるが、将来に向けた対応策を検討していくうえで、産・学・官の連携が今後ますます必要となる。このため、地域の頭脳としての大学の役割は非常に重要となる。さらに、今後の地域産業の発展のために、TLOやキャンパスインキュベーションなどの技術移転機関を整備して、大学の研究成果が地元企業やベンチャー企業に活かされることが必要である。(産業・経済)
 - 大学の役割として、少数の研究者の養成と、大多数の社会人の養成を明確にし、カリキュラムもそれぞれに分け、特に後者については、生きている社会に合った内容のものとする。21世紀の科学技術、情報化社会に大きくはばたいていける人材の養成のため、学生の立場からいかに学ぶかに焦点をあてた教育を行ってほしい。(産業・経済)
 - 日本の国立大学は、明治以来の“象牙の塔”にこもりがちな伝統に加えて、戦後の左翼学者の資本との癒着排除の理論にふりまわされた後遺症で、社会とのつながりが弱い状態が続いています。大学は「研究を効果的にやり、その質を高め、成果を社会に役立てる」のが目標と感じますが、事務関係の方には、依然として古い考えで遅れていると思われれます。(産業・経済)
 - 千田町に有ったころには、「バリエード」で印象が強い。(昭和40年代)地域とのかかわりとは、今日はじめて耳にしました。しかし、教育問題に広島は大きく歪んでいると思われれます。立場が違うとは思いますが、国の機関としての動き(教員養成)をしてほしいと思います。(産業・経済)
 - 恵まれた自然環境・施設環境の中、勉学に真面目に取り組む実力を身につけた学生の輩出を望む。大学を公開しPRする催しを年に1度大々的に行って地域社会との交流の実をあげて欲しい。(産業・経済)
 - 大学の在り方については大変むづかしい問題ですが、立花隆氏が月刊文春に「私の東大論」を書いています。私はこれが大好きです。現在のように暗記主義の試験で

は教育の成果は上りません。又大学のあり方についてみてもアメリカなり、ヨーロッパなりと比較研究し、四年間の教育内容の再検討も必要です。これは国立大学に限られません、私立大学も含めての話です。国立大学の学生が優秀である(人間的意味も含めて)ということはありませんし、あってはならないと思います。(産業・経済)

- 私は福山在住ですが、昔は広大の教育学部が福山にありましたので、小学生の頃は当時の大学院の学生さんにスポーツ教室でお世話になったり、また、私たち自身が研究のお手伝いをさせてもらったりと、深い関わりを感じました。現在は、東広島へ統合されましたので、福山市民という部分では、広島大学は遠い存在に感じます。今後、いろんな部分で交流を深められればと思います。(産業・経済)
- 地域社会と広島大学の交流についてはある程度の時間が必要。但し、工学部が発刊した各教授・助教授・講師等の専門分野研究の紹介は、大変参考になった。各学部のそうしたパンフレットが発刊されると大学を理解するのに役立つし、こんな専門家がこの町におられるのかと思うと宝の山に分けいっている様な気がする。(産業・経済)
- 気軽に相談できるような環境を、大学側につくってほしい。そのためには、教員(研究者)の姿勢もさることながら、事務方の職員のオープンな姿勢をつくってほしい。地域からの相談ごとを一手に引き受ける窓口を充実してもらったらと思います。(産業・経済)
- 広大は西条へ移転後、特に地域との関わりが少なくなったように思う。学生も含め教職員が地域住民とどう関わるか考えるべきではないだろうか。又、地域に対してもっと学内施設を公開してはどうだろうか。(産業・経済)
- 特に工科系の学生教育において物造りの基本となる技術実習を強化し、その中から新しい開発テーマを見つけてくれるよう望みます。(産業・経済)
- 広島大学は、国際的に活躍する人材を育成したり、学問の探究もして欲しいが、地域と交流し、地域社会に役立って欲しい。(産業・経済)
- 今の日本は悪い個人主義に変わって来て居る。世のため、人のために生きる大学教育が大事であることを教えてほしい。其のためにも地域社会と大いに交流、交換をすること。期待していた広島大学当地移転も今今では有名無実の状態のように思われる現今である。学生よ日本を救えと呼びかけたい。(産業・経済)
- 広島大学の存在は知っているが、地域社会との関係や、交流については、新聞、TVの報道位の知識でしかない。もっと、地域社会の皆さんに具体的なものを示しアピールすべきと思う。(産業・経済)
- 東広島市に移転してからは、地域社会との交流は稀薄になっていると感じられる。(産業・経済)
- 大学と地域の交流は大いに図るべきである。大学からの地域への貢献は時代の要請でもある。本部においては特に教育関係においては大学の積極的な地域への貢献、交

流の輪が広がり大変良い関係になりつつある。(教育)

- これからの時代はポスト経済成長の時代で、経済的な豊かさよりも心の豊かさを人々が追い求めるようになると思われる。いわゆる“生涯学習”の時代である。この人々のニーズに応えていくには、教育委員会のような行政の力だけでは不十分である。そこで、大学がいかにか地域社会と交流し、生涯学習の機会をどれだけ提供できるか、が重要になってくる。もはや大学が相手にするのは学生だけではない。少子化が叫ばれているだけになおさらである。そして、教える側が主体になったかのように上から教え導く、というのではなく、学ぶ側の地域の人々が主役であって、大学は人々の生涯学習を手助けする存在である、という謙虚な姿勢を忘れてはならないと思う。それは行政にも言えることである。これからは地域ニーズに応えるべく、大学と行政がタイアップすることも大切である。最後に、生涯学習をしない人々の理由として、学習というものがつらく苦しいものだという考えがあると思う。それは、受験のための学習しかできなかったからである。これからは学力一辺倒ではなく、多様な人材を入学させるようになれば、受験競争も緩和され、学ぶことが楽しく思える人がふえるし、地域の人々もより大学に親しみをもってもらえるのではないだろうか。(教育)
- 地域を超えて活躍できる人材養成を考えて、普遍的な学問を発展させることに専念し、地域の要望があればサービス提供に努めるべきである。(教育)
- 広島大学にどんな学部があるか、あまり認知しておりませんので、回答にならなかったと思います。(教育)
- 直接的には、町史編さんで大変御世話様になっています。すばらしい先生方だと存じます。反面、閉ざされた大学の状況も聞かされ残念に思います。研ぎすまされたバランス感覚、深い研究のにじみ出る生き方、大変失礼ですが、何時もこんなことを考えています。庶民性あるいは大衆性とは、質を下げることでないとも考えます。広島大学の一層の充実発展を祈念してやみません。(教育)
- 国際的視野に立って研究し、地域社会に新しい風を吹き込んで欲しい。(教育)
- 東広島市への移転により、広島市民にとっては必ずしも身近な存在とは言えない感があるが、一般論として、大学は地域における生涯学習機関として、高度化・専門化する住民の学習ニーズに積極的に対応していく必要がある。また、総合大学である広島大学は、広島地域における知的インフラの核となる存在であり、他の教育機関はもとより、行政・産業界とも幅広く連携を図りながら、その人的・物的資源を最大限に活用して、地域全体の人づくりや教育機関の活性化に貢献していく必要がある。(教育)
- 県内高校生の学力レベルにも課題があるが、学生の大半が県内出身者で占めるような、地元にとって、なくてはならないような大学を望みたい。(教育)
- 審議会、懇談会等の委員就任に当って、退官に伴って広島大学に後継者が育ってなく、広島大学にお願いしたけ

れど、仕方なく「人」個人に引き続きお願いすることが多い。(教育)

- 町立病院の医師の派遣については大変お世話になっています。また学校への眼科等の検診にもご協力いただいています。今後ともよろしくおねがいします。(教育)
- 私達の町は岡山理大の研修部と比治山学園の研修所があります。近年両大学との交流を重点に年間を通して行っております。住民の方も好意的に交流に参加し成果を上げています。広大につきましても、地理的にも少し遠いため要望とすれば思っておりますが現在は行っておりません。私立大学も地域との交流を重視されているようです。国立大学においても積極的な取り組みが必要になって来るのではないのでしょうか。(教育)
- 広島大学が東広島市に移転するまでは公開講座、講演等によく出席していたが移転後は地理的な面で参加していない。県民のためにも移転すべきではないと思う。学生にとっても本屋、図書館等もないため不便だと思う。(教育)
- 国立だから、地域に配慮が負担となる必要はない。そのために県立や市立がある。大学全体の問題として、実践・現場に学ぶ意味において、社会へ進出・交流して欲しい。(教育)
- 広島市内にあった当時と比べると、現在は、個人的にも、仕事の面でも、疎遠になった感じがしている。広島市から、県内全域を見るときは、自分と全方位的に全都市をまんべんに視野に収めていたものが、現在では、そうではなくなっているということが、広大の先生方にもありませんでしょうか？(教育)
- 広大が発信する情報に期待します。特に教育問題についての提言、試案。(教育)
- 大学も近いし、昨年度も指導を頂いたこともあり、今後とも関係をもたしてもらい、交流も深めたい。(教育)
- 町村史の編さんに教授他の先生・生徒(学生)に協力していただいている。ホームステイ(町村)の実施に広大の留学生を紹介してもらっている。講演会に同大学の先生依頼。(教育)
- 広島大学は規模も大きいのだから、国立でもあるので地域社会との共栄、また他の県内大学との協力、また国際的視野に立った研究、先端の学問の指導など、種々のことが要求されているし、またこれらに答えるべきだと思う。(教育)
- 生涯学習社会の観点に立っての開かれた大学「いつでも・だれでも・どこでも」学べる態勢。(教育)
- 地域のカルチャーセンターとして、ネットワークをつくり、積極的に取り組むべきである。(教育)
- 広島大学まで30kmの地域で生活していますが、生活の中で広島大学のことを聞いたり、話したりすることが全くありません。したがって、地域の人が広島大学はどんな大学であり、どんなことをしようとしているか、理解していないのが実情のように思います。そのため、アンケートに適切に答えることができませんでした。(教育)
- 県北地域から広島大学へ進学者が少なく、馴染みにくい

- 感じがする。公開講座等、地域へ分散して開催されると、より地域との交流が促進され、地域の人々とのリカレント教育推進に役立つと考えます。(教育)
- かつては全国に教育県広島として高く評価されていた。現状は？県内の高校よりの進学者、20%位と聞いているが情ない。県民の広島大学に対する期待は大きい。(教育)
 - (1)地域社会との交流について、地域の求めているものと大学がもっている情報、研究、その他、マッチすることがむづかしい。(2)すぐれた人材を地域に送りだすことが大事であるが、大学の教育の成果がどのような人材をつくり出しているか検討すべきである。(3)生涯学習社会の中で大学の存在は大きい。そのための大学自身の体制ができていないか、検討し、組織を地域社会に明らかにしてほしい。(教育)
 - 開かれた大学と大学の独自の発揮。(教育)
 - 教育委員会に在籍しているので、広島大学には教員を通して強い関心をもっているが、視野が狭く、精神的にもひ弱な人材が見受けられる。現在の困難な教育界をしっかり見つめて、充分に対応できる人材の育成につとめてほしい。(教育)
 - 地方の美術館運営審議会委員、町誌作成のための専門委員、地質、植物、鳥類、昆虫などの研究の指導など、身近なところで大変協力をいただいている。広島大学としての誇りをもってほしいが、具体的な活動としては地域との様々な分野での多様な形での交流をすすめてもらいたい。(教育)
 - 大学側から住民に対しての情報提供を積極的に。理解しやすい用語で、出来れば各世帯へ月1回でも機関紙を(住民への協力要請等も有って良いのでは)。今後、当校の卒業者が集まるつどいの機会等をつくり、卒業生も本市(住民)との係わりを持つよう努力してほしい。教員へ、地域住民には教授という先入観(難しい人)が強く、受け入れにくい面も有ると思われるので、努めて明るく、住民の立場で参画をしてほしい。(教育)
 - 高齢化社会を迎えた今日、大学と地域との交流(ボランティア活動含)が大切だと思う。勉強・研究等は大学で十分教養をつけてもらいたいが、福祉面においては、地域間交流も必要であると思う。(教育)
 - (1)広島市から東広島市に移転したため、交流が少なくなっているのが現状。(2)まだ、大学と地域社会とが一線を隔て、交流がしにくいように感じる。(3)広島大学のみならず、大学はもっと地域社会に貢献する姿勢が必要。(教育)
 - 地域社会との交流が学生の本当の力に結びつくのではないか。そして地域社会もそこで学ぶ事になると思う。あまりにも社会、経済が急変しすぎると思う。(教育)
 - 地域の文化を生かした交流。(教育)
 - 広島大学の特色をもっと出すべきであり、又、地域社会の人々に積極的に大学の情報を提供すべきである。開放講座を積極的に実施して欲しい。(教育)
 - 広島県北部地域は、広島大学との交流があまりないように思う。瀬戸海沿岸経済中心の交流がなされているので
- はないか。農山村で生きる者への研究テーマがほしい。最近では広島大学教育学部卒業の教員が少ない。又教員になっても、私大卒と較べて個性がないように思われる。(教育)
- 広大は、総合大学として全国からも注目を集める大学として発展して欲しい。広島県だけでなく世界のシンボルになるよう期待しています。そのためには、日本国内でも注目を集める研究の成果を示して欲しい。広大OBの組織の結束が薄いと感じます。誰にでも母校愛はあると思います。西日本の情報発信の源となる大学を期待します。広島県を中心とした地域の発展にも協力をお願いします。外国からの留学生が多いのも特色があります。博士号等の資格も多く与えて世界に開かれた総合大学、大学院に発展されることを切望します。(教育)
 - 大学キャンパスは教育、研究を行う場として環境は良好であるが広島市はじめ県内各地域との交流が必ずしも十分でないように思われる。地域から超然とした存在であってはならない。学生も地元出身者のウエイトが低く、卒業後地域への定着が少ないのではなかろうか。地元の受け入れ態勢の問題はあるが、全国から集まる人材を地域へ有効に活用できる仕組みを考えていかねばならない。(教育)
 - (1)最大の問題点は広島大学が地域社会にあることを教官側が認識していないことです。(2)地域との交流がこれまでに少なかった歴史から、地域からもあまり期待されていない。(3)その証拠として、地域活性の公開講座等の講師は、ほとんどの場合関東の人たちです。広島大学はもっと地域社会を大事に考え、地域との交流を盛んにすべきです。以前よりは少しはましになりましたが。(教育)
 - 広島大学は中・四国を代表する大学として、その教育研究の高度化を推進している大学である。そのための教育研究の視野が、その位置的・歴史的関係からアジア、特に東南及び東北アジアに向けられてきた。これからも広島大学でなければできない、また広島大学だからできた数多くの実績をふまえて、今後この道を強力に、且つ大きく発展させるべきである。この実績を土台として地域社会の国際的展開を指導し、それを担う人材を供給するべきである。東アジアに視野をもつ、その幅広い学部構成を活かしたアジアに強いという特徴をもった、高度な大学院重点大学を目指すべきである。(教育)
 - 広島大学の伝統をふまえて、個性ある教育研究を推進することが、地域社会への貢献になると思います。密度の高い教育研究をどしどし進めてほしいと念じております。(教育)
 - 東広島市とかかわりが多いと思いますが、広島市、広島県とのかかわりが、やや薄いのではと思う。講演会、公開講座など地域を広げて企画すると良い。(教育)
 - 東広島市に移転したため、広島市の活力がなくなった。やはり、広島大学は、中国地方の主要都市、広島市にあるべきである。東京、大阪と比べ、文化の中心となる学生が、広島市にいなくなったため広島市、県、全体が、地盤沈下したように思う。本校の生徒も余り、広島大学

に魅力を感じなくなっている。広島大学の地元占有率が低いのは、単に広島県の教育レベルの低さだけではないと思う。(教育)

- 広島県内の人々をもっと大切にすべきではないか。地元で大学が存在する理由はそこにあると思います。学問も特別なものとせず市民や県民の日常性の中にあるようにすれば、地方の文化や技術様々の分野に役立つと思います。(教育)
- (1) 地域社会に向いて、リーダー的な役割を担ってほしい。(2) 県内の、小・中・高の教育問題についての指導的役割を果たしてほしい。(教育)
- 鳥取大学の砂丘の研究にみられる様な、地域に根ざした研究が多くなると良いと思います。(教育)
- (1) 大学の最先端(研究)の技術等を地域の企業に紹介すること。(2) 大学の先生や家族の方が地域の諸活動に参加されて広島大学の文化や先生・家族の持っておられる文化・考え方を地域に出して頂くと、地域文化の発展に貢献します。1例ですが郷田公民館の和太鼓クラブに大学の先生が参加していただければ素晴らしいクラブに育てていただいております。地域の文化をつくっていただいております。感謝しています。(3) 地域の集いに先生方は出席して下さい。何らかの交流とプラス面が双方にあります。(教育)
- 希望すればだれでも学べる大学であってほしい。(教育)
- (1) 広島県内の高校生を出来るだけ受け入れてもらいたい(推薦枠を広げてもらいたい)。(2) 地域との交流、開かれた大学づくりを更に進めてもらいたい。(教育)
- もう卒業して26年になります。広大の学生であったころがなつかしくお思い出されます。30年前は、広大は中四国の中でも特に存在感のある大学とおもっていましたが、最近、他の大学の中に埋没しているようにおもわれ残念でなりません。もう一度、昔のように広大が輝きますよう、よろしく願い致します。(教育)
- かつて、広島大学の教授を中心として、教科に関する研究会を定期的にもち、成果をあげた実績があります。直接教育現場に具体的に役立つ研究、交流を今後ともお願いしたいと思います。(教育)
- 広島市から東広島市へ移転して、縁遠くなりました。全く新しい別の大学という感じです。(教育)
- 大学、地域がお互い視野が広がるような、機会(企画)がもたれるとよいのではないかと思います。地域社会における大学の存在は大きいものがあると思うので、意欲のある優秀な学生が集まる教研機関であってほしい。学生の教育のためにも開かれた大学であることが、望ましいと思われたい。(教育)
- (1) 偏差値だけによる選択でなく、生徒の意欲を重視した多様な入試制度の導入。平成10年度の入試より工学部3類に工業高校生・総合学科生の特別枠を導入されたことは素晴らしい改革だと思います。今後は枠の拡大、他学部・他の類型に拡大されれば、今までとは異なった雰囲気も生まれ、大学をもっと活性化したいと思います。(2) 教職員の意識改革。高校も同じですが、開かれた大

学、地域から愛され期待される大学、地元企業との連携が密な大学が国際的にも認められる大学になると思います。(教育)

- 地域の高等学校との人的交流も含めて、高・大の交流・連携を深めて欲しい。(教育)
- 象牙の塔としての役割は厳然と持ち続けて欲しい。新しい時代の魁としての情報を庶民にわかり易く流して欲しい。(教育)
- 高校教員に採用されて以来、最もお世話になってきたのは広島大学出身の先生方です。学識が深く、教師としての力量のある方が多く、大変勉強になりました。ただ私自身が他大学出身のせいもありますが、広島大学の先生方とはほとんど面識がありません。こちらから積極的に求めなかったからかも知れませんが、どの大学にもいえることですが、一つの大学で固定せず、幅広く交流する時代となっていると思います。これからの国際化時代においては、国の内外を問わず、大学のみならず、すべての機関の、積極的な交流が欠かせません。その点、広島大学は全国の大学にさきがけてリードできる大学と考えます。(教育)
- 地元の学問の府としての期待は大きい。特に教育、文化の領域においては、自治体や関係機関との連携を積極的に進め、先導的役割を担ってほしい。(教育)
- 現在行っているオープンキャンパスなど、高校生に対する進路選択の学習の機会を積極的に増やして頂きたい。(教育)
- 広島大学の財産(人材や施設、設備)を広く地域社会へ開放することに努める。地域産業の活性化のリーダーシップのとれる大学であってほしい。地域に残る人材養成を第一主義とすべきではないか。入学者が地元で、卒業者が地元に残る形。一般人の講師採用。(教育)
- 大きく変化する今日の社会の中で、教育改革も国を挙げて取り組まれているが、広島大学に限らず、大学改革は我々の目に見えてこない。日本においては、大学こそおもしろい改革が必要であり、それなくして現在行われている教育改革は成功しないと思う。大学には、昔と変わらず、学内的には優れていても、人間的に奇人・変人が、以前としておいでになる。教官の人材育成をはじめ、おもしろい改革を期待する。(教育)
- 地域社会の発展ビジョンの相互研究に欠ける。特に、地域社会の行政、教育行政等において文化教育面の発展ビジョンが皆無といえる現状では、大学、研究機関の協力、指導が必要(前提として地域社会の要請が無ければならないし、要請をするレベルの人材が市町村に少ないことは残念)。広大の奮起を望みます。(教育)
- 学生をもっと鍛えて欲しい。(教育)
- 地元(県内)の生徒を育てていく努力をしてもらいたい。(教育)
- 広島県内の高校生の進路先として、その受け入れに工夫をして欲しい。そのことが地域社会と交流の活性化に繋がると思う。また県民への情報提供を工夫して欲しい。そのことで開かれた大学のイメージづくりになると思う。(教育)

- 広島大学は中四国の中心として発展してほしい。しかし、地域とつながりをもって、地域の発展にも力を借してほしい。(教育)
 - 私は広大到学生、院生として8年もいました。それだけに、現状の広大が、高校側から見て明らかに右肩下りなのがとてもかなしい。原因の8割は地域です。地域社会(我々も含めて)の教育力のなさ、輝く人材は逃げる様に広島を出る。このまま生徒減少期に入れば、中国地方は日本一の過疎、ますます…。地域の人材は地域で育たず、他県で育つ為、それが企業へ環流しない。大学が地域を主導し変えるしか道はない。東北大と仙台、あの関係が欲しい。この現状は、多分、他県の方にはわからないと思いますが…。(教育)
 - 地方の大学である限り、地方の文化の向上、推進のための役割を担わなくてはならないという宿命があるが、国際化、ボーダレス化の時代に対応できる、広い視野に立って活動できる人材の育成にも貢献してもらいたい。(教育)
 - 広島県全体(中でも東部)に対して、大学の研究・教育面でのサービスが不足していると思う。大学教員とその専門領域をリストアップして、県民に衆知せられ、各方面の学習に教育をお招きできるようになれば、生涯学習の成果も大いにあがると思います。同時に一般人の大学での学習を容易に可能にできれば、広島大学の存在意義が一段と大きくなると思われまます。(教育)
 - 広島は、地域との交流をつくりにくい地域であると思える。むしろ、世界の諸都市との交流により、より国際的な交流を推進することに力を注ぐべきではないかと考える。大学は、まず学問研究の場であり、地域性よりも普遍性を重視してほしい。技術的な職業訓練所とはしないでほしい。(教育)
 - 県民子弟の入学に便宜を図るべき(県内高校卒の入学率が非常に低下している)。(教育)
 - 広島県東部(福山・府中等々)にもしっかりと目を向けていただきたい。(教育)
 - 市民公開講座やリカレント教育等の開催地を県内各地に広げ、希望する誰でもが受講できるように計らって欲しい。各学部・学科の広報活動をすすめて欲しい。研究室等を広く県民(高校生、教職員、市民)に開放して欲しい。(教育)
 - 広島大学が東広島市に移転して、遠い存在になったような気がします。広島大学が地域とどのようにかかわっておられるか知る機会が少ないので、適切な回答になっていないかもわかりません。(教育)
 - 地元の大学というイメージが高校生にも保護者にもすくない。大学側も地元を意識していないのでは…。(教育)
 - 広大附属小中高等各学校を早急に「ふつうのレベルと質の学校」にしていただきたい。広大自らが受験教育、塾通いを結果的にあおっていることは望ましくなく、結果的にそうした競争に勝ち残った子供だけで構成される集団を相手に教育実習などやった人では現在の現場では通用していないからです。そもそも大学が移転した
- 以上広島市内に置く必要もないと考えられます。(教育)
 - 広大は、高師、文理大の伝統を受け継ぎ、西日本の教育界へ影響を与える先端的な教育方法、教育内容づくりの発信源になってもらいたい(新設の鳴門教育大、兵庫教育大をリードする中核的教育大学を望む)。一方、地域社会(広島県)の大学として、県内の高校生を優先的に入学させる特別ワクを設けていただきたい。(教育)
 - OBでありながら、今日の大学の姿をよく知りません。アンケートにも推測で答えました。私の知らないところでもっと地域社会と交流・協力関係を結んでおられると思います。(教育)
 - 広島大学の姿(何をしようとしているのか、何をめざしているのか)が見えない。管理・運営面では東広島市に集中する方が良いのかも知れないが、過去の農・畜産・水産の施設がどのようになっているのか、各種研究と、広島という地域の特性の結びつき。附属小・中・高は何をめざすのか。今の形態を続けるのか。福山(三原)、東雲・皆実の違いは? 第二部の運営はどうするのか、今のままで継続するか、生涯学習の立場から、拡大し、公開講座を設けるのか、市民・社会人に学育の場を与えるのか。(教育)
 - 何はともあれ、広島県の学術文化、教育の中核としての存在を示すことが必要である。移転後の印象が薄くなっていることは事実であり、特に広島市民との関わりが弱くなっている。(教育)
 - 広島大学としての Vision を明確にし、比類のない個性を發揮し、強烈な校風を確立して欲しい。国立大学も高校の教育改革を受けて、広島大学は「独自の学問をしているから」とか「世界に発信する大学であるから」とかその校風に憧れて学生が入学を希望するような大学へと大胆な改革を望みたい。また教育立国である日本の中核をなす教育機関として研究成果を学界に発表するだけでなく学生の教育に投入し、次代を担う若者の教育を重視し、その努力を高く評価するシステムが望まれる。(教育)
 - 大学紛争のワルのりをした時の軽薄な教授どもに勝手に移転を決められて、広大は大マイナス、中共の文化革命に匹敵するものである。交通の便がよくなり、人々が集るには、もう20年はかかるであろう。学生の質は低下するし、治安は悪いと同級の教授たちは、ぐちをこぼしているのが現実である。大学自治とか、地方自治の時代とか、つまらんマスコミに左右されることなく、設置者たる国の哲学にそって、断固たる推進をせよ。広島県の公教育に対して文部省が指導を始めた所ではないか。その轍を踏まないように。イベントかぶれや、デパート商法をすれば、地域に開かれ、交流したと思ひこむのは、いかななものか。地域と交流せねばならないという、絶対的ドグマの上にこの質問が成り立っているようで、いざさか気になる。(教育)
 - 以前から何度か広大の先生と一緒に研究等を行う機会があった。特に生徒指導に関する研究では、現場の第一線で指導にあたっている高校の意見に耳を傾けてもら

えず、会の雰囲気まで崩れたことがあった。地域との関係を深めていくためには、地域に学ぶ、あるいは、共生というスタンスが必要なのではないだろうか。(教育)

- 原田学長さんのリーダーシップには、大いに期待している。次代の国立大学への構想について、よく研究されているように思う。地域を視野に入れた、大学経営が進みつつあると思う。中国・四国地方の中心大学として発展されるよう期待している。(教育)
- 一般の人々が気軽に足を踏み入れることのできる大学であって欲しい。教育問題、環境問題等、市民が感心もっているものについての公開講座をもう少し開設していただきたい。最先端の研究内容を公開して欲しい。(教育)
- (1) 地域社会の要求に応じてなら結構ですが、あくまで生産の負担追求にならない程度に交流をあたためるべきであると思います。(2) 県立高校からの進学率が極端に少ないのは理由がわからない。もっと頑張してほしい。(教育)
- 大学は卒業生との関係を保つ、企画等を持つこと。(教育)
- 社会意識として、大学へ入学したら親は安心となり、学生も人生の優先切符をもらったような意識になっている者が大多数である。その結果として基礎学力と、人格は全く別のものであるという自覚が、大学生に著しく欠けている。国立大学の学生ほど行政的に教育が保障されているところはない。それはそれで良いと思いますが、それに対する学生として自覚をどう持たせるかは社会全体の問題でもある。下宿している学生もその地域の大人の一人として生活している自覚がほしい。大学の先生方も学問研究で、それぞれの分野でがんばってほしいし、それができる環境づくりも必要と思われませんが、生活している地域での住民意識をもっと持って、家庭生活の場での地域参加等も考えてほしい。(教育)
- 地域社会の人々を啓発するような活動をお願いしたい。(教育)
- 大学関係者が文化・スポーツ等の分野でも積極的に団体等に属し、実践を経験して研究や学生指導に役立ててほしい(理論だけに終らずに)。(教育)
- 広い(西条)キャンパスを得たのはいいのですが、やはり広島市(都心部としての)を離れたのは、失うものも多かったと思います。今後何十年ものスパンの中で、広島大学としての、地域に根ざした新たな伝統をうち立てられることを期待しております。(教育)
- もっと講演会、見学会等を開催し、地域社会の企業、学校関係者を大学に呼ぶよう努力して欲しい。(教育)
- ある程度の地域との交流は大切であるが、それに埋没してしまっはいけない。やはり、地域を超えた学問の府としての誇りと自覚をもって、大学としての特色を発揮してもらいたい。(教育)
- 教職員、学生、留学生などいろんなレベルでの一般市民との交流が新しい文化的刺激を生むと思います。気楽な交流の場づくり、情報交換手段の開発が必要と思う。(教育)

- 広島大学は中国地方の大学の支柱的存在である。地方分権がさげばれている今は、地方の青年育成に特色ある教育をすることである。自然の活用、第一に産業と教育の接点を見る。机上の学問から、一步前に出る大学環境を構築することが国民の期待する大学像ではないか。教養の原点は、基礎の繰り返しであり基礎の弱い若者に高等教育を施しても大いなる期待は得られない。繰り返しの作業をどうするかが大学教育の原点だと思う。(教育)
- 広島大学が広島県内のみならず中四国地方の拠点大学として積極的に活動していくのは当たり前のことである。大学や大学教員が「特別である」という時代は過ぎ去っている。謙虚な姿勢で県民・市民から学びとろうという姿勢に変わるべきである。(教育)
- もっと積極的に活発化すべきである。(教育)
- 大学側からの積極的な交流の姿勢がほしいと考える。(教育)
- 広島市内の社会教育施設に働く者の目から見れば、広島大学が広島市内から東広島市に移転したことは、身近な人材バンクを失ったと写る。この距離を埋めることが、広島大学と広島市の両者にとって必要である。20年の歴史を誇る社会教育ボランティアグループ(毎年おおむね60名の大学生1年から3年生により構成)があるが、当所は全員広大生であったものが今年度は、ついに1名となっている現状がある。広島大学には、中・四国のリーダーとしての広い視野と危機意識の両方をもって今後の方向付けを望みたい。(教育)
- 地元各方面では、広島大学の研究や高度な知識を利用していきたいと思われる。大学との連携を進めやすいように大学の情報公開(いろいろなメディアの活用)や相談窓口の開設など積極的に行ってほしい。(教育)
- 広島市からの移転によって広島大学は広島市に住む者にとって、縁遠くなった様な気がします。教育分野に携わっている者としての感想ですが、すべての領域を広大の教授等に望むことが不可能であることを痛感しています。学部の充実を望んでおります。(教育)
- 以前のキャンパスより、東広島に移転したため社会教育活動における大学教員の協力が薄くなったような気がする。(教育)
- 「地域」に、基本的にシフトすべきだろう。それが地方大学の最大の役割ではないだろうか。ローカルとしての「九大」と「広大」の比較は、都市としての「福岡」と「広島」のありようと似ているような、似ていないような。「アイデンティティ」の問題だろうか。(教育)
- 知らないことが多く、回答できなくて申し訳ありません。(教育)
- 広島大学が広島市にあった時は、その情報がよく見られたような気がするし、研究者との交流もあったように思うが、東広島へ移転したことにより、広島市への情報、交流は減ったような気がしています。時には、先生がふらりと「酒を飲みに行こう」とさそわれていたのに、それも、距離が離れることによりむつかしくなったようです。東広島キャンパスは、確かに環境としては素晴らしいのですが、その代償(犠牲といってもよいかと思いま

- すが)も大きかったと感じています。アンケートの内容は、思いのままですが、答えるにはあまりにも広島大学の情報がありませんので、的はずれの答えになったかとは思いますが、お許し下さい。(教育)
- 広島大学は、地域社会との交流を深めながらも、国際社会で活躍できる人材を養成してほしいと思います。なぜならば、地域社会も国際化が進んでいますので、そのような人材を求めているのですから。(教育)
 - 全国各県に立地している国立大学は、全国各地から優秀な学生を集めるためにしのぎを削るという時代は既に終わったと思う。研究も大事だが、もっと各々の地域に密着した高等教育機関としての機能に目を向けるべきではないか。広島大学が、他の大学にはない特色を持って、その分野で世界をリードするため、全国・全世界から優秀な研究者や学生を集めるというような姿と、多くの広島の若者を受け入れ、広島の発展に貢献する人材を輩出する頼りがいのある高等教育機関としての姿を見ている。(教育)
 - 広島県内からの入学者数の減少とともに、東広島市への移転後は、情報も少なく、広島市民と学生の接触する機会にも恵まれない。活気ある都市づくりに若者の力は欠かすことは出来ないが、個の時代を生きる学生と、若者の力がほしい都市との合意点を何処に見つけるかが課題である。(教育)
 - 広島大学の学生が卒業してもっと広島県の教育の充実と発展に貢献出来るような教育・研究をしっかりと大学でやっていただきたい。教育実習を廣大附属小・中・高校で実施して、教職単位を与えるだけでは、公立中学校の教員のきびしさは理解出来ない。我々は過去に於て、広島市内の公立中学校で実習した経験をもっている。又大学院生はもっと現場に出て、非常勤講師とか、大いに経験すべきであり、地域社会に貢献していただきたい。(教育)
 - 大学に関する情報があまり伝わってこないこともあって、象牙の塔のイメージが強く身近に感じられなかった。この度のアンケートによって自分の大学に対する意識が稀薄なことを認識しました。大学と、私どものような一般人との間のレベルのギャップに対する心の障壁をとり払い、フランクに交流出来たらよいと思います。が、大学側のリーダーシップを望みたい。なお、アンケートについて、「地域」ということばの意味が、設問によってはわかりにくく、また、「わからない」という選択肢が欲しかった。一応全問回答しましたが、困りました。(医療・保健)
 - 歯科医療、保健分野の仕事をしている関係で、広島大学歯学部との交流が多い。現在、卒業教育、患者の診療分担、歯科保健研究の面で協力し合っている。行政、産業の分野でも交流をして、お互いの役割をもち協力して活動していくことを希望します。(医療・保健)
 - 広島大学は広島地域、更に中四国地方を視野に地域社会との結びつきを大切にし、教育・研究は勿論フィールド・ワークに重点を置いた活動を展開していただきたい。その中ではじめて全日本的・世界的研究成果も出て来るはずである。(医療・保健)
 - 大いに交流を図るべきことと考える。関係する部以外との接触は非常に少ない。(医療・保健)
 - 学問をする大学、大学院大学は、当然のこととして、純学問に重きを置かなければならない。しかし、純学問の経過、過程においては、地域との関係を持つことは、どの分野の学問でもあり得ることであり、そのことが、地域の関心を引き、純学問に対しても理解されることだと思います。従って、地域社会に積極的に出ていかない学問は、地域社会に理解もされないし、応援もされない。大学と、地域社会は底辺の部分では共通の基盤、対話を、積極的に持つべきだと思います。(医療・保健)
 - 広島大学は統合移転を契機に新生再出発し、且つ、全く新しい理念で国際的と地域協力との両機軸で作動している。この両論を常に伸ばすべきだ。地域社会の眼は急速に広島大学を注視しはじめている。これをひきつけ協力し合うためには大学が高い理念と実績(国際的)を示し続けなければならない。(医療・保健)
 - 東京6大学野球のようなチームを市民が見に行くことが出来る。学生の音楽会を市民が見に行くことが出来る(頻回に)図書館を利用出来る。グラウンドを市民が簡単な手続きで利用出来る。広島大学が地域社会との関係が強くなりすぎて医学部のように教授が権力をふるうようになってはこまります。大学人は何が貢献かをよく考えるべき。大学の各研究室がどのようなサービスが出来るのかを常に公開するのは大切なことと思います。(医療・保健)
 - 7年間非常勤講師を勤めたが受け入れ側の教官との交流・接点が稀薄であった。又、受講する学生の態度が受身的で、学習意欲が余り深められなかった。教室の条件も講義効率を妨げることが多かった。図書館で新しい情報を入手することが難しかった。専門雑誌等が研究室にしか備えてない。(医療・保健)
 - 広島大学はマンモス化しているので、あまり規制を強化することなく、教官の個性を生かす教育研究を目指すべきと考える。外国との交流を通じて、日本の国際化に更に努力すべきと考えます。(医療・保健)
 - 社会人を再教育する場(例:社会人大学院大学)を広島市内(予備校教室でも可)に設置して頂きたい。特に小中高教員のレベルアップを図るため再教育が望ましい。大学はエージェンシーにすべきではない。がんばって欲しい。但し民間との人材交流は積極的に。(医療・保健)
 - 広島大学は広島市から東広島市に移転、広島市民としての交流は全く途絶えています。病院勤務医として、医学部との交流は深く、色々な面で一緒に仕事をしていますが、広島大学となれば、全く疎遠です。なじみが無くなりました。大学とすればアカデミックを要求しますが、現状ではそれも難しいことか。地域に貢献する大学であってほしいとも考えます。(医療・保健)
 - (1)県民性が排他的なところが多い。(2)大学自体も排他的で、教職員の人事も他大学からの採用は少ない傾向にある。もっと人材を広く国内に求める必要がある。(医療・保健)

- 医学部以外は東広島市に移っているのに広島市内から見ると少し遠ざかっているように思える。広島市内でも活発に、広い目をもって活動していただきたい。(医療・保健)
- 広島大学が東広島に移転したことは大学の歴史上画期的な出来事ですが、これが広島大学にとって良かったか悪かったかは、議論の別れるところだと思います。東広島市は、正直なところ文化都市とか大学都市というイメージからは遠いと思います。大学の教官はどう思っておられるのか分かりませんが、学生や受験生は確かに、東広島市を喜んでいないと思います。田舎だからです。移転当初、市当局や地域は学生のための宿泊施設などについて努力されたと思います。それも一段落して見ると、やはり東広島という場所柄が問題です。こたつで小説を読んでも文学部の学生にとっては勉強だそうですから、スコラとはやはり楽しみの延長にあると思います。芝居や音楽会があり、食べたり飲んだりする環境が求められる時期だと考えます。大学側もサークル活動などはどんどん市内に繰り出して、地域と交流すべきでしょう。もちろん、学問的な交流も大切です。原田学長は大学と地域の交流について非常に努力して来られたと思います。感謝しています。広島大学も、東広島も、ともにがんばれ、と応援しています。(医療・保健)
- 東広島市に移転(医学部を除いて)し、恵まれた環境の中で秀れた(と推察)施設を有する大学と考えられるものの、その内容については多くの人達には殆んど関係のない、感心の薄いものとなっているのが実情でしょう。やはり大学側から色々、地域に向けて情報を発信するなり、働きかけが多くなることを期待します。(医療・保健)
- 学部、工学的教育において、地域の人材をもっと活用すべきである。(医療・保健)
- 大学は社会に役立つ人材を育成する場であり、育成した人材の人事権を持つべきではない。(医療・保健)
- 大学は地域へもっと積極的に入るべし。(医療・保健)
- (1)広島市まで遠いのでいけない。もっと20~30kmと近かったらスポーツをしに行くと思う。(2)又、卒業生ではないので行きにくい。(3)自分の卒業した大学の運動部には数回/年、顔を出すので広大まで行く余裕がない。教えに行きたいが自分のスポーツのクラブが広大にない。岡大はOBで出身した部室の鍵を持っていて入りやすい。(4)せめてスポーツ施設については地域に夜間PM8~12に開放できるシステムがあれば、スポーツ普及については効果があり、自動車工場のように有効利用が高まると思う。(医療・保健)
- 広島大学は地域を超えた独自の教育、研究をされたらよいと思います。その中に地域の人々が入りやすく、又地域の企業と目的が合えば共同研究をすればよいと思います。他県より広島県に転勤し、間もないので広島のことについて詳しくありません。(医療・保健)
- 広島は被爆地であり、平和都市であることを念願している。平和に関する研究、教育を行い、その情報を世界に向けて発信しなければならない。そのためには国際社会に通用する人材育成を急ぐ必要がある。また平和に関する研究内容は学会だけでなく、マスコミを通じて地域社会に随時知らせる方がよい。(医療・保健)
- 今後の国立大学のあり方は大きな問題です。御発展をお祈り致します。(医療・保健)
- 大学教育に、本来の大学教員のほか、現実の社会の中で永年専門的実務に従事して来た実務家を特別講師として、もっと活用すべきである。月1回位は、これら特別講師(実務家)によるゼミナール方式による授業が望ましい。(社会・福祉)
- 医学部のほかには広島市内になく、研究機関としてはとにかく、地域特に、広島市との交流は意識の上からも、実情からも少なくなるのではないかと。大学人が、より積極的なアプローチをしないと地域社会から遊離するように思われる。(社会・福祉)
- 広島市から東広島市へ移転したため、広島市民としては直接、目に触れることがなく、大学の活動や行事を知る機会が少なく、遠い存在となっていると言うのが実感である。私も、長男も、その妻も、長女の夫も、広島大学で学び、大学の発展を期待しております。(社会・福祉)
- 地域社会との交流は、進めても良いと思うが、あせらず、ゆつくりと、出来る範囲で進める。無理をしないこと。「地域に開かれた大学をつくる」ということが言われていますが何のことか良く解らない。(社会・福祉)
- 広島大学は、教授選考方法の改革を行うべきである。すなわち、教授は5年間程度の任期制とし、再評価を行うシステム作りが必要である。この事を他大学に先立って広島大学が行ってみせることが出来れば、地元は元より日本中が刮目してこれを見る。現状のように、一旦その席に座ったら、よほどの大過が無い限り定年迄安泰で居られるのでは、世界の競争原理には立ち向えない。また、自己改革が出来ない大学は地域社会も受け入れてくれないと思う。(社会・福祉)
- 国立大学として高度な質の高い研究を第一義とすべきである。学生の教育よりも研究にウエイトを置く発想の方が良い。但し、設備・施設・情報等は積極的に公開し、可能な限り外部や地元の研究者や利用希望者に活用できるように配慮すべきである(大学のものは全て地域住民を含む国民のものであることを認識すべきである)。(社会・福祉)
- 私は広島市在住につき、東広島に移転され益々大学と遠ざかった感じ。(社会・福祉)
- (1)中四国地方の中心大学として大学院、あるいは各種附属研究機関の充実強化をはかる。(2)学部の定員は漸減していいのではないかと(18才人口急減期である)。(3)教育部門、附属学校が多すぎないか。(4)広島市内の跡地に地域との接点となる機能をもつべきである。お示しの設問に対する回答は学部によってかなり異なると思いますが、一般論として回答をかきました。(社会・福祉)
- 本部が遠方になってしまい、若い学生や、先生方にも出会える機会が、ほとんどなくなってしまった。外国からの、留学生などとも会える機会はほとんどない。これだ

け地理的に隔離してしまうと、少なくとも広島市とはあまり関係がなくなるのではないか。地方の中核都市との関係を期待できなければ、大学も衰退するのではないか。東広島市が一部にぎやかになって良いという問題ではない。中国地方全体が衰退していく感じがしている。解決法は、東広島市から広島空港へ。広島市中央部が連携する高速の鉄道網を整備することしかない。人が自由に出あえない大学は必ず衰退するだろう。(社会・福祉)

- 広島大学はもう少し、地域社会の経済、文化にかかわりをもってほしい。大学の研究の状況をもう少し公開してほしい。学問の府はよいが、学問は社会と関連があつてこそ意義のあるものと思います。経済学部等は地域経済に対して、発言をするなど、よい提言を積極的に行つてほしい。(社会・福祉)
- 大学はあらゆる場面で地域との関係を深め、実践的な学問の振興に貢献していただくことを大きく期待しています。日本全体の位置から中四国地方は難しい立地であり、将来を考えた場合、広島大学独自の情報発信によるリーダーシップが重要であると考えます。産・学・官連携の中核となつてほしいと念ずる次第である。(社会・福祉)
- 医学、歯学部との先生方との交流を多くもっていることもあつて、その視点での見方でしかいえないが、その部の歴史をつくつてこられた先生方が比較的他大学の出身者が多く、退官後それぞれの故郷に帰られることが多く、残念である。今後の地域社会との関係を考えると、これからの先生方に大いに期待している。(社会・福祉)
- 大学図書館を開放していただきたい。(社会・福祉)
- 広島大学は、東広島に移転して以来、地域社会との交流について、さまざまな試みをされていると思う。しかし、PR不足なのか、市民の意識とズレがあるのか、いま一つしっくりといていない部分がある。今後の取り組みに期待したい。(社会・福祉)
- 広島大学の所在地が遠距離となつた為、無縁感が強くなっている。(社会・福祉)
- 主に医学部、研究成果が乏しく、マンネリ化しているように思える。その反動か、地域に対して、些か権威的な傾向あり。(社会・福祉)
- 広大大学病院は地域へよく貢献している。学部によって異なる。優秀な学生が集る大学のイメージがある。大学自体象牙の塔で、山の中(東広島)へいつてしまった。広島市に居る者としては関係や交流はもちにくい。周囲には広大生・広大卒の人たちが多数いるが、ごくふつうの人で、“力”を感じない。優秀な方々は、多数がそうなのかも知れない。優秀で立派な学歴を持つ人の何人かが学歴否定論を強く言うことにはあざんとする。同窓生意識が感じられないのはなぜか疑問に思うことがある。(社会・福祉)
- 教育スタッフに民間企業、社会一般人の活用を図ること。学生へのボランティアを含む履修制の検討を！(特に教育学部へ望む) 広島大学が〇〇〇を発表、〇〇〇を展開、〇〇〇への貢献、協力、〇〇〇に挑戦等…(グループ、個人含む)の地域社会、国際社会等へのアクティブな貢

献、挑戦→そういう便りがほしい。——マスコミをうまく活用すべし——大学のイメージが地味である。学生の皆さんへ——学生時代に、したたかさ、そして優しさを身につけてほしい。(社会・福祉)

- あまり交流がない。将来あることを。(社会・福祉)
- 従来の学部は当然大いに研究活動を進めるべきであるが、今求められている研究部分、求められている人材を育てて欲しい。例えば福祉関係の人材(これは県内の他の教育機関がかなり育成して来ている)又医療関係でも過疎地に医師がいない無医地区があり自治医大の如く、過疎地域のニーズに応えられる人材(医師)を育成して欲しい。地域のニーズに応えられる人材の育成、応えられる機構・組織をつくつて応えて欲しい。(社会・福祉)
- 大学は優れた人材をかかえ、一地域のみならずわが国全体の学問、産業、思想などの中心たるべきで、その結果を広く地域に開放して利用しやすいような形で提供すべきである。従つて広島大学は地域にこだわることなく、全国から人材を集め、足らぬ部分は企業や、その他の分野からも教職員として採用すべきだろう。大学間で競うことももっと必要だし、地域との交流、競い合いももっと必要だろう。我々は特別の大学に対してのみ期待しているわけではないので、大学間、大学と地域との競争関係がもっと発展して欲しいと願っている。(社会・福祉)
- 数年前までキャンパスが広島市内にあり、大学祭やその他の行事があつた時、よく行つており、学生さんと身近に接し話し合ったものですが現在キャンパスが、東広島市というところに移転したため、最近の様子が具体的によくわかりません。1年ぐらい前に広大の女子学生が卒論のテーマ取材として、盲導犬のことや、視覚障害者の自立更生や組織団体とのつながり交流、各行事の内容、参加等について、当事、局に来られたことがあり、非常に熱心に取り組んでおられ感心いたしました。(社会・福祉)
- 広島大学と地域社会の交流は少ないと思う。講演会など時々あるが、一方的である。キャンパスが東広島市に移転して増々キャンパスへ出向きにくくなった。広大だけでなく一般の国立大学に言える事だが、学問の追求のみで、社会に出て役立つ教育(一般常識程度)が手薄である。社会教育をしない事が、私立大学と一線を画すプライドの様な所がある。しかし、これからの時代それではどうかという気もする。(社会・福祉)
- 積極的に独自性を出し、特徴のある大学にして欲しい。人間味のある学生を育てて下さい。(社会・福祉)
- 広島大学が文理科大学当時よりは全国的レベルより後退している。東広島市にキャンパスが移つてからは、広島市民として大学へのイメージが薄い。国立大学としては、広島市内が最も望ましい。今は中都市大学としてのイメージしかない。これは私一人ではなく全市民が感じるところである。国立大学は中味の充実にあると思うがそれらが見えていない。学生のモラルも大都市よりも低下していると思う。広島大学の中心は1部でもよいが100万都市にあるべきである。以上。(社会・福祉)
- 広島大学附属小中学校がかつて師範学校の付属小中学

校と呼称されていた頃は校内各施設が地域によく開放され、文化協会、社会福祉団体など充分利用していました。校内各施設をもっと身近に利用させることを考慮されては如何でしょう。(社会・福祉)

- 人が造り出した化学物質が環境汚染物質として問題になっています。これからも人が文化的な生活をしていくために、化学物質は大いに利用されるでしょうが反面人体への影響も無視できないものになると思います。広島大学におかれましても、このような社会が困っている物質に対しての研究をされて安心して住める社会づくりに貢献して頂ければと願っております。(社会・福祉)
- 大学は勉学の最高位として、専心集中して自分らしき学問をみつけて独立独歩の人となるよう仕向けてほしい。先生以外の職員を減じて研究費を増し、大学自体は地元の振興にも協力して困りの中から出ること。(社会・福祉)
- (1) 大学と地域の業種団体(例えば自分のことで医療関係)と21世紀を旨として医療保険の在り方介護の在り方に研究・研修を進めてゆきたい。(2) 地域の関係団体と大学側とが其の道を通じて共同研究して県民の為になる事業となる様に望みます。(3) 現在の原田康夫学長は大変良く地域の個人、団体を問わず交流をされ一般市民の中に入って居られ地域の活性化に努力して居られると思います。将来に向けて大学と一般市民が大きな「夢」を持って生きられる様に協力して頂きたいと切にお願い致します。(社会・福祉)
- 広島大学は、地域の活性化、人材の養成に徹する中に学問の研究を進めるべきと考えています。(社会・福祉)
- 各地域には老人大学がありますが、高齢者(65才以上)が修業できる4年制の学科の創立は如何でしょうか?(社会・福祉)
- 広島大学が旧制の文理大や高師を母胎とした大学であり、中国地方では、旧帝大の後身ともいうべき東大、京大、阪大等々と比較する大学位の知識より無いので、設問にお答えすることをばかかります。なお、私は、島根県に永年在住の者ですので念の為申し添えます。(市民団体・ボランティア)
- 県の中央部に位置していることはよいことだが、広島市とやや離れ以前と比して大学に行く機会は少ない。新聞、テレビ、ラジオ等でも大学がどうあるのか報道も少ないと思う。入学式・卒業式などもっと報道し、県民に自分たちの身近な大学として印象づけてほしいと思う。(市民団体・ボランティア)
- 学問の研究・教育——特に人文科学のそれについては、社会との関連なくしては発展がのぞめないと考え、広島県民の半数近くが集結している広島市近辺からキャンパスが遠隔地に移転し、研究者にも学生にも知的刺激が退行しているのではないかと危惧の念を禁じえない。(市民団体・ボランティア)
- 広島県の中高の学力が全体的に少し低目になっていることが原因で入学者が県外から多いのが残念…。県外から入学の学生はどうしても地域になじめない点が多いと思う。学生にとっての生活環境は整備され暮らしやすい、学校周辺の清掃などは最近はたいへんよくされている

と思う。自動車の所有者が多く、事故がかなりおきているのは気になる。道路事情などをもっと研究してほしいですね。留学生との交流がすすんでいるのはよいことだと思います。(市民団体・ボランティア)

- 地域と大学との交流事業については現在、情報不足。又、大学等との積極的な企業努力が必要である。(市民団体・ボランティア)
- 大学の所在地に問題がある。もっと中央に出て、活動すべきである。(市民団体・ボランティア)
- 広島にある大学ながらどんな学部があって等、現在の状況などの情報をあまり聞かない…PR不足かしらと思う。県内の学生より県外からの学生の方が多いとか、自殺をする学生が多いとか耳にすると、キャンパスは少し山の中だし、移転する際の場所選びももう少し慎重にすれば良かったのと思う。環境的には静かでもとてもいい所にキャンパスがあるので、その良さをもっとアピールしたら良いと思う。情報提供が少ないと思う。(市民団体・ボランティア)
- 日頃より、大変お世話になっております。現在、「教育」について、大変難しい時代と言われております。特に最近の青少年の問題行動等について、保護者として又、地域(青少年健全育成)の世話人の一人として、苦慮しています。家庭・学校・地域社会が共通の理解の下で取汲んでいく必要があると強く思っております。しかし、家庭・地域社会の認識の薄さに苦慮しております。貴大学の先生方にもご協力頂いておりますが、教育改革等について、もっと情報を発信して頂きたいと思っております。子育ては基本的に親の責任であると考えますが、子ども達は、教師(先生)の影響は非常に大きいものがあります。今後の教師は、教科のみでなく、多様な知識と寛容さが必要と思います。貴大学にも多くの教師志望の学生がいらっしゃいます。どうぞ、質の高い教師を世に送り出して欲しいと念じております。(市民団体・ボランティア)
- 広島市内から東広島へ移転し、広島大学が遠くなりました。身近にある事の大切さを感じています。地方の大学というイメージから、日本の大学というイメージが持てる様発展してほしい。(市民団体・ボランティア)
- 大学は転換期にきていると思います。各県に設置されている「国立大学」が「国立」であり続けることの意義と必要性について見直す時期と考えます。教官の大半が当該大学の出身者であるような状況は、部外者には閉鎖的と映ります。地域の活性化が叫ばれる昨今、広い視野、相対的な視点を持ちつつ地域社会に貢献することが必要なのではないのでしょうか。(市民団体・ボランティア)
- 総合移転で広島市民との関連が乏しくなった為「地域への貢献」と「ヒロシマの大学としての国際貢献」の二点でもっとイニシアチブと情報発信(人材育成・研究活動を含め)を強化・拡充すべきだ。(報道・出版)
- (1) 東広島市に移転し、遠くなりすぎた。(2) 広島市内で複数の広大の先生と会えるような機会を意識的につくるべきだ。(3) 県立大も市立大も私立大もある。相互の交流を積極的に図るべきだ。(4) 広島駅、バスセンター、

西広島駅周辺などに、生涯学習の場を自治体と協力して開いてほしい。(報道・出版)

- 広島大学は現在、原田康夫氏という個性的でリーダー性の強い学長の手腕により、大学と地域との交流について大いに貢献している。ただ、今後の大学運営を考えると人的、資金的な面で、国や自治体のより一層の協力が不可欠となるだろう。(報道・出版)
- (1) 広島大学が広島市内から郊外に移転した弊害が大きい。(2) 広大な存在感が稀薄化。(3) どんな地域参加活動しているのか不明。などなどパブリシティの強化が求められる。地域分権が進展しようからその為にも、もっと地域参加し山口大の「産官学の一体化」のように地元に着すべき。(報道・出版)
- 「技術移転促進法」の施行を機に、地域産業界との交流、産学協同をもっと目に見える形で推進すべき。そのためにも研究室レベルの積極的な情報提供と産学協同の推進組織の整備充実を。(報道・出版)
- 広島大学が、広島県の行政の中心である広島市を離れ、東広島市に移設したことにより、いわゆる広島という地域との関わりも影響力も大いに減少したと言わざるを得ない。その点、大学当局も地域もともに戸惑っているのが現状である。従って、前述の回答は、広島市にあった当時の広島大学をイメージしての回答である部分もあるので念のため、東広島市の広島大学が地域にどううって出るのか、これからの大きな問題である。その意味でR-TVによる広島大学公開講座は非常に有意義である。今後の継続を望む。(報道・出版)
- 広島勤務となってまだ1年で、広島大学がどの程度地域社会と交流しているのか知らぬ点が多いのですが、一流の国立総合大学として学生・教職員共に質の高い人材が多いと思っておりますし、地元の皆さんの評価も高い大学であると思えます(余談乍ら、最近偶々聴かせていただく機会があった原田康夫学長のトーク・コンサートや広大OBのハワイアンバンド等からも、なかなか多才な幅の広い人材を輩出している面白い大学だと感じております)。ただ、広大を卒業した優秀な人材が世界を舞台に活躍した後、広島にあまり戻ってきていない様なのが少々淋しい気がします(統計的に当たっているかどうか判りませんが)。(報道・出版)
- 国立大学として活動に制約が在ることは十分に理解するけれど、もっと、地域社会に貢献することを考えるべきだ。日本の社会、経済全般に亘り、グローバルな視野が要求され、地方都市といえ例外とは言えない時代である。21世紀の日本は、今の状況では、世界のリーダーの一員になれない。将来の繁栄を願うには、更なる産学、社会学、一体化が行われ、新しい日本を生み出さなければならぬ事を痛感します。(報道・出版)
- 東京10年、大阪7年、そして広島へ転勤となって4ヶ月。広島での生活は始まったばかりですが、広島大学との接点はまったくありません。東京、大阪時代は新聞紙面等や、身近な生活のなかでも、大学に関する情報、あるいは学生達と触れる機会があったように思います。広島においても、いずれはそのように感じる時がくると思

いますが、とりあえず設問にお答えしたという状態です。我々は放送業界で働いていますが、たとえば番組の視聴率、視聴質等、とくにフジテレビ系列では、若い人達をターゲットに番組づくり、番組編成を行っていますので、そのあたりの共同調査、共同研究等もテーマになり得ると思います。たとえばですが…。皆様のご健闘をお祈り致します。(報道・出版)

- 広島大学が東広島市に移転されましたので広島市での大学、特に広島大学への関心がうすらいっていった感じがします。広島大学はやはり広島市に残して頂きたかったです。もっと大学との交流が出来れば希望します。(文化・芸術)
- 広島大学が、広島市から移転してしまったことが、大きなデメリットになっていることを痛感している。平和都市広島にあって、広島大学の先生方はほとんど平和活動に関与していない。個人的に勇氣ある先生のみが首を心配しながらも参加して下さっている。本来なら市民活動の理論の先頭に立たれて当然でしょう。他国立大学の先生方はそうしている。文学についても新分野を切り拓いて、その専門を一般市民の刺激として活動すべき。全く遅れている。まして、児童文学、絵本研究の先生方は一人もいない。わが身の保護にきゅうきゅうとしている先生方ばかり。管理されていて学問の自由がないのではないかと疑ってしまう。自由な発想の先生方はほとんど市立大や私大で活躍しておられる。このような中で育った学生たちにもあまり期待できない。(文化・芸術)
- 国際交流として留学生との交流を図りたい。(文化・芸術)
- 広島大学とくに教育学部は人間を創る学部である。将来、教育にたずさわる学生すべては、地域のボランティアと一緒に交流して将来のビジョンと実践のノウハウを地域の中で学ぶべきである。大学と地域交流研究会を学界の中でのきちんと位置づけがほしい。地域の人材をもっと活用してほしい(そのことにより大学の開放性と教員集団としての幅が広がるであろう)。(文化・芸術)
- 文系・理系共に現場に出て勉強してほしい(教・職員) 作文的理論を振り廻す教員は不要。質のよい学生は出ないと思う。(文化・芸術)
- (1) 広島大学の前身は広島高等師範、広島文理科大学で西日本における教育の本山でした。西晋一郎博士、長田新博士その他日本を代表する学者が揃い、県民として誇りをもっていたが、現在の広島大学は総合大学として高レベルにありながら西日本の国立大学での主峰とはなっていないと思います。(2) 広大が広島国立大学が真に世界的な大学になることを期待しております。広島市立大には平和研究所ができました。広島国立に人文科学研究所がほしい。今日、科学技術、経済技術は進歩していますが倫理、哲学、教育など人文科学が不十分ではないでしょうか。文明の基本を確かなものにしたいと思えます。(3) 今日、専門学校などが充実しています。技術と共に大学は人間学を重視、優秀な日本人をつくるべきです。特に世界史など必須にして世界的視野に立つ日本人

をつくるべきです。(4)広島大学を中心にして県内公立大学の連携にも期待しております。(5)県立大学は毎月地域問題研究会をもっております。広島大学でも(県北など各地で)是非もってもらいたく思います。(文化・芸術)

- 広島大学は東広島市にキャンパスを移したため、学生のアルバイト先はもとより地元との交流の場が以前に比べて少なくなったように思う。それは両者にとって不幸である。数年先に息子を広島大学に入学させたいと思っているが(息子の学力次第)、今のままでは考えてしまう。(文化・芸術)
- 広島大学は現在広島にない(病院は広島市にあるが)東広島市にあるので広島はあまり関係が考えられない。どうして移転する前に地元の意見を聞いてもらえなかったか?とても行政に不満をもっている。けしからん事である。広島大学が広島からなくなったことは広島市の大きな損失である。…と思う。広島市に大学病院が残してあるのはせめてもの希望の星であり、喜んでいるが、いつ又移転するのかわかると淋しい。大学病院と原爆研究はどんなことがあるかと広島にあるべきと思います。政令都市に大学がない…広島市。暴言失礼しました。(文化・芸術)
- 職場には広大出身が多く、原田学長との関係も密接なので、広大のよい面を大いにPRしたい。(文化・芸術)
- それぞれに〇をしながら、これでいいのだろうかという疑問を持ちました。失礼なことにならなければよいが…。(文化・芸術)
- 広島市から離れたことにより広島市民にとって物理的にも遠くなった感があります。広島県・市に対してはオピニオンリーダーとして地域の中で行政に学術的な見地での意見具申を今後一層活発にして頂きたいと思えます。また人文科学系をより充実させて頂き、学術・文化の分野でも地域に貢献して頂ければと思います。具体的には京都における京都大学のようなイメージがあります。(文化・芸術)
- 大変遅くなり申し訳ありません。間に合えば入れて下さい。広大の実態が分からないので答えにくい問題が多いですね。現状が何か分かるものがあると良いのですが。(文化・芸術)

香川県

- 進取の気性に富んだ香川大学。その証に多くの起業家を輩出されていることは、誰もが認めることです。是非、その良き伝統を継承され、これまで以上に全国に通じる社会人、起業家を育成して頂きたいと存じます。(政治)
- アンケートに答える中で、香川大学について確信を持って答えられるほどの情報が私自身にないことがわかりました。地域と交流を深めながら、優秀な人材が育つことを期待します。(政治)
- 県内の私学、四国学院大学に比べて、教員の地域の市民活動への参加は少ないように思います。市や県など行政

の審議会委員などを努める教員は多いようですが、例えば豊島問題に関して、学内で講演会を開催しようとした際、(行政批判をすることへの抵抗感があるのか)他の教員からの反対(抵抗?)があったとも聞いています。地域の抱える大きな問題への取り組みが、大学全体としては見られません。また、学外の人(地域で活動している人)を招いての講座(四国学院内ではありますが)もないように思います。(政治)

- 香川大学に限らず、大学と地域社会は、より密接な連携を持つ必要があると考えます。これまでも、香川大学と香川県は様々な分野で連携してきましたが、今後さらに交流を深める必要があると考えます。また、大学における教育機関としての成果や研究成果についても一般に公開されるようになれば、より一層大学の存在感が高まるものと考えます。香川県の今後の発展と香川大学の発展とは、同じ軌跡をたどるものと思います。(政治)
- (1)一部の教授が多く、審議員を引き受けているが疑問。(2)マスコミに発表する意見と、行政側委員となった時の意見が異なるなど、県民に不信感を与える者もいる。(3)学問的水準が低いという先入観をもっている県民もいるので、その対策が欲しい。(4)学校の施設運営が国立であり、県の立場と対立する場面が多いことがある。大学も地元経済界・政界等と交流し、地域での存在を真剣に考えて欲しい。(政治)
- 今後、交流をさかんにして、地域発展のために力を貸すべきである。(政治)
- 一般論として人間の個性の(創作)育成が作りにくいのではないだろうか?卒業後の目的(就職)の為だけに勉強しているのではないか。私の時代(42~46年3月卒)には、現在でも素晴らしい多くの友人との交流がある。大学と県・市・町及び地域社会とは、専門を越えて他の分野でも交流すべきである。特に地元の大学であるので、地域社会の全般にわたって貢献すべきである。(政治)
- (1)あらゆる場を通じもう少し大学の内容をPRしては如何。(2)大学内の講座も必要ですが、各地方での出前講座のような事も考え、県民とのふれあいの場を設けては如何。(政治)
- 香川大学に理工学部が設立し、これからの産学官交流により人材の流出防止と地域産業発展が期待できると思えます。(政治)
- 行政の審議会委員として格別助言や提言をいただいているところではありますが、高松市もいよいよ中核市に向けてのスタートをする手続きの最中であり、今後、市全体の調和ある振興を図るべく、適切な指導をされんことを期待します。(政治)
- 今回の設問は極めて答えにくく、設問に答えながらも、各項目で自らのムジユンにさいなまれることが多かった。率直に言って香川大学の事については地元にはながら分からぬ事が多いことに気付いた。今後如何にあるべきかについては、むしろ考えて欲しいと思う。(政治)
- 市行政のために、学識経験者として、都市計画審議会、農業問題研究会などに参加いただき、地域社会に貢献されていると考えております。なお、一般県民を対象とし

- たものを積極的に企画いただければ、地域交流が盛んになると思います。(政治)
- 地域住民を対象とした公開講座のようなものを、県内の主要な地域において開かれたらよいと思います(高松市以外のブロックで)。(政治)
 - 卒業生は県庁及県下各市町村に就職し又教育界にも優秀な人材を提供している県内にある大学であり(国立)常に新鮮な気持で見守っている。(政治)
 - 香川大学に関する情報が少ない。香川大学に入ってみたいという気持になれない。もっともっと開かれた香川大学であってほしい。(政治)
 - 現在の香川大学の学生、教授も私の当時よりは数段低下していると思う。(政治)
 - 香川大学農学部的前身(香川県立農業学校)を戦前に卒業しており同窓会(池戸会)に加っており、年1回の地域総会には必ず出席しており、学校の近況、動向等々お話を承っております。しかし最近では先生も若返っている(自分も年をとっている)ことから正直なところ近親感も薄れてきたと思う。(政治)
 - 関係や交流と言っても、ほとんどつながりがなくよくわかりません。しかし、大学の方向は社会に役立つ人間を作ることですので、地域や産業やスポーツ・文化等大いに交流し、時代の先端を行く人間を育ててほしい。(政治)
 - 今後も地域社会に貢献して下さるようお願いいたします。(政治)
 - 叔父、弟、息子の嫁が香川大学教育学部を卒業し、叔父、弟は校長を最後に退職をしている。嫁は現役の教員であるが、平均して教育者として優秀と言われる人ほど社会常識に欠けるような感じがするが、間違いだろうか。(政治)
 - 本町議会議員の中に、香川大学出身者も2名在職しております。(政治)
 - 地方自治体との交流を、今後深めて行くことを期待する。(政治)
 - この様な研究について大いに期待しています。交流の障害を一つでも取り除いて、地域・大学の活性化に役立ててほしいものです。(政治)
 - 卒業すれば、社会人として、それぞれの地域でのリーダーとして活動することが要求されると思う。大学在学中から、ある程度は、地域の中で活かせる学問の在り方等についても勉強してもらい、頭でっかちな、知識人を作らないでほしい。(政治)
 - 学問をすることは当然である(やる気のない労力のない学生は卒業させない)が、愛国心ある(外国に対して常に日本国及び日本人としての自信とプライドを持つこと)そして、国家、社会で通用する幅広く人間味のある人材の育成を望みます(国立大学だから特に期待をしている)。(政治)
 - 教員・生徒がもっともっと地域に出向いて、講演や交流をもってもらいたい。要請があれば出向いて行くのではなく、大学側から積極的な働きかけが必要だ。たとえば私達が講演会・勉強会を開こうとしても、どこへ、だれに、どの様に依頼していいのかわからない。(政治)
 - 県内地域住民の子弟の入学できやすいように優先枠を設けるなど、勉学の機会を与えてもらいたい。大学は卒業すれども、就職が難しい情勢であると考えられるので、企業・公共団体・行政機関・その他団体などへ、就職求人枠の拡大を図るなど努力してもらいたい。(政治)
 - 家庭教師etcのバイトでなく、学生活動の中で積極的に地域の幼・保・小・中・高生との教育実践の場として、又将来の日本の為にも、その頭脳をボランティアとして大いに生かして欲しい。金をかせぐのは社会人になってから考えるべきである。学生の本分を期待する。(政治)
 - 香川大学を含め、県内大学との関わりや情報が無いため、質問事項について適確な回答ができていないかも知れません。(政治)
 - 本年4月1日高松市在の国の機関に赴任して参りました。従って、香川大学の存在は承知していますが、香川大学の現状(教育・研究・社会的サービス・地域社会との交流等)について、全く情報不足であります。このような状況でありますので、問5〜問12までの回答については、パスさせていただきますので、御了承下さい。(行政)
 - 工学部の設置によって、地域産業発展の核となることを期待している。(行政)
 - 香川大学のキャンパスの中に入りにくい。(行政)
 - 香川県に居住しだしてから期間が短いので、正直言って香川大学のことはあまりわかりません。一般論として、国立大学として学問・研究の発展を最優先させながら、併せて地域社会の発展に貢献することが、望ましいと思います。(行政)
 - 本年4月に転勤で香川県に帰って来た(23年振り)ので、最近の香川大学の活動状況には詳しくないのが実態である。従って、当該アンケートの回答に当たって、正確な回答を出せたとはいえない点もありますので、御了承願います。(行政)
 - (1)香川大学の外人の先生に英会話を教えていただいております、ありがたい(英語力の向上及び異文化との交流の両面で有意義)。(2)香川大学農学部の先生に私どもの仕事の検討会に出席していただいている。また、この先生から、大学のシンポジウムの案内等を時おり、いただいている。(3)国際化と地域社会との交流の2つが重要な時代である。インターネットを用いた海外情報の入手等について、地域住民への公開講座を開催してはどうか。(行政)
 - 地域においても国際大競争下にあり、その環境の中で、産学官連携の新しい仕組み、新産学官連携のあり方を模索しているところです。質問の趣旨が何か、過去の産学官の組み合わせの中で、どうあるべきかを聞かれている様な気がして答えるのが難しい。地域は中央と違って、新しいフェーズを迎えるには、ケースバイケースで当面新規性を出していく必要があると思っています。香川大学は、その様な対応をして来ていると思います。ポストキャッチアップ時代に出来た工学部と、従来の経緯を踏えて活動をして、地域との接点を持っている他学部とは、

私には現実にはよく分かりませんが、大いに違うのではないのでしょうか。香川大学は地域との交流を良くなされ、県民からも感謝されていると思っています。(行政)

- 経済学部の教授には大変ご協力を頂きました。4～5年前の感覚で記入しましたので、現在とは異なっているかも知れませんが、経済学部の教授は、外部での接触が多いように感じましたが、教育学部の教授は、学内に閉じこもっているのではないのでしょうか。もう少し、外部との交流を図る必要があるのではないのでしょうか。(行政)
- 本来、大学とは普遍的な学問の追求を目的とすべきであるが、現状の経済社会及び大学の総称(4回生の実態)からみると、社会における実践的教育も看過し得ないことから、むしろ実践的な教育の充実を図り、地域の発展に役立つ人材の養成に力を入れるべきである。なお、優秀な学生を集めるには、貴大学のイメージが地味かつ希薄であるため、改革が急がれると思われまます。(行政)
- 香川県在任期間が少く余り理解していないので意見等について差しひかえたい。貴大学が地理的にも総合大学として発展される事をお祈り申し上げます。(行政)
- 香大は、医大を除く唯一の地元国立大学である。地域社会、経済界との交流を深め、卒業生の地元定着に努力されたい。(行政)
- 本県として、香川大学の先生方には大変お世話になっています。深く感謝しております。しかしながら、先生方の仕事が、多忙すぎるのではないかと感じることがあります。もう少し、先生方に時間的余裕があれば、各種調査の分析等をお願いしたいこともあり、又はご意見をお聞きしたいこともありますが、予定がギッシリ組まれており、言い出しづらい面があります。(行政)
- 県内にある唯一の大学らしい大学であるが、地味であり、県民としてもいま一つ頼りになる感じがしない。県民が「こんな事をしているのか。」とわかるように、PRに心がけてはどうかと思う。たまには夏季大学等の講座案内は目にする事もあるが、常に広報に留意すれば、我々の仕事においても、「一度相談したいなあ」という事になるのではないかと思います。又、窓口(相談)がよくわからない。県民は国立大学としての活躍を皆期待している。(行政)
- 香川大学の情報が一般には提供され難い。公開講座等は新聞やマスコミを活用し、周知するよう図るべき。(行政)
- 図書館を一般にも開放してほしい。(行政)
- 工学部が今春生まれたことから、今後地域との共同研究、又土木学会等の活動に積極的に取り組んでほしい。(行政)
- 香川大学工学部が、9年10月に開学となり、県民としては、今後、香川大学工学部を高度で専門的な知識や技術を持った人材の育成のためだけでなく、広範な産学官の連携、共同研究や受託研究など技術的、人的な交流を通じて、本県の科学技術の振興のため積極的に活用していく必要があります。県としても、R&D施設整備や産学官のコーディネート事業など香川大学工学部と連携した各種施策の推進に努めているところでありますが、

これには、民間の盛り上がりや大学の受け入れ体制をうまく整えることが重要と考えており、今後も、この課題に積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

(行政)

- 香大の学生は、地元で育って地元の大学に行っている為、視野があまりにも狭いこと。また、温暖な気候のためか、又は最近の子供の特徴かも知れないが、進取の気持がない。もう少し、レベルを高め、社会のトップになって頑張るような人材の育成を期待する。(行政)
- 地域社会の発展に寄与することを期待しています。(行政)
- 県内の代表的な大学として、香川大学には審議会等の委員などで大勢の教職員の皆様にご協力いただき、感謝しております。しかしながら、地元の住民の立場からみれば、やや閉鎖的(物理的・企画面等・総合的にみて)な印象があります。もっと、地域住民にオープンな大学となることを期待しております。(行政)
- 香川大学に限ったことではないが、一般的に国立大学には行政や企業への実践的な関与を、学問的でないとする風潮が残っているように思う。このことが、地域社会との関係を低調にしている一因となっている。一方、地域社会側にも有名大学や有名人志向が強すぎて、地元大学活用に熱心でない傾向がある。(行政)
- 普遍的な学問の研究も大切であるが、地域とともに歩み、地域にとけ込んだ大学となるためには、地域の歴史、経済、社会情勢等に十分留意しながら、地域社会が求めている技術や人材の育成に積極的に取り組むべきであると思う。そのための一方策として、キャンパスの開放や住民のニーズに促した(大学側の一方的な考えでなく)内容の開放講座の開催など、大学と地域住民や各県各層の人々との交流を促進するべきであると思う。(行政)
- 地域社会の側が、もう少し香川大学を支援する心を持つべきだと思う。(行政)
- 香川大学工学部が、本年4月より新入生の受入を開始したが、今後は、県或いは経済界としても、産学官連携した共同研究や、受託研究など、技術的或いは人的な交流を通じて、積極的に活用していくことが望まれる。先頃の石川県畜産総合センターと近畿大学農学部との共同研究による「クローン牛」を見てもわかるように、科学技術の水準は、地方も中央もなくなりつつある。本県としても、今後科学技術の振興に、大学とともに積極的に取り組み、その水準を世界的水準まで高めることが、地域の活性化にも繋がると思う。(行政)
- 香川大学には、私の親しくさせていただいた方もあり、地域社会のリーダーの一翼として、大いに期待している。研究機関としての役割と、地域社会の一員としての役割は、相対立するものではないはずであり、大学関係者のすべての人が、その心構えで尽力をいただきたい。香川大学の発展を心から祈る。(行政)
- 国立、私立を問わず、大学には課せられた一定の役割があるはずだ。また、その役割は、中央・地方で異なるものだろうか、と思います。特定の地域、特定の時代でしか意味をもたないものは、Fashionにしかなりえない

のでは? 「地域との交流」が大学に課せられた役割を果たすうえで有用 or 不可欠 or 効率的 or 役割そのものならば、迷うことなく対応すべきでしょう。数多くの大学を有する国は豊かな国です。それらの大学が人材を多く育成し、また、先端的研究を数多くすすめることは、日本のみならず世界の為に意義ある事であると思います。香川大学が深く大地に根を下ろした大きな樹として発展する事を祈ります。(行政)

- 仕事上、教授の方に委員をお願いすることはありますが、大学全体の事については、よくわかりません。したがって、質問の全てに回答することができませんでしたが、ご理解願います。(行政)
- 地域社会との連携は、より一層密にしていく必要はあるが、研究分野とか人材育成の目的を地域社会のためとするのはどうかと思う。あまりこれらの点を強調すると視野・視点が限定されたもの、人になるのではないか。全国に通用する人材は、地域でも有用である。地域社会の研究が、全国に発信できるようなものとするべきと思う。バランスをどこに求めるか難しい課題であるが、地域にあって地域を超える必要があると思う。(行政)
- (1) 地域と交流して新たな時代の学問の発展を目指すべき。(2) 地域でも国際交流にもっと一層貢献してもらいたい。(3) 企業との共同研究をより一層充実すべき。(4) (1)と(3)を通して地域に提言して欲しい。また、魅力ある大学づくりを目指して欲しい。(行政)
- 地域社会との交流を積極的に進め、地域社会の発展に貢献してほしい。(行政)
- 地方の中核都市にあり、かつ規模も大きくないといった大学の特性をいかす必要がある。マスプロでない人間を重視した教育が可能である。地域社会との交流(研究の分野、地域の教育、文化の振興など)を深めていくことが大切であり、地域社会に立脚したうえで全国にも研究の成果など情報の発信ができるような大学になってほしい。それには、教官の役割が最も大切であると思う。(行政)
- 地域と香川大学との交流を図るためには、お互いにメリットがあることが不可欠である。しかし、よくみると、大学には沢山の教官がいるようであるが、余裕のある人員ではないのではなからうか。大学生の教育や、研究をするのが精一杯であり、時間的ゆとりは全然ないのではないだろうか。これ以上、地域と交流せよといっても無理ではないか。地域の需要があるような、特定分野の先生だけがもてはやされ、それに無関係な人は、かやの外という感じがする。いずれにしても、地方の大学では人材が少ないというのが実態ではないだろうか。有能な人が不可欠です。(行政)
- 一部地域社会との交流に前向きに取り組んでいる教官は存在するが、大学全体の意思としてはどうか。新しい地域社会を創成していく上で、さまざまな合意形成過程に余り大学人が関与していないようにも思える。大学が地域社会に開かれたものになるためには、大学人一人一人の意識が社会化されていく必要がある。そのためには、ややもすれば閉鎖的・保守的になりやすい教授

会の透明性を高めるために、情報公開や、場合によっては傍聴を認めるなど思い切った改革が求められよう。また、教官相互のピアレビューや学生による評価制度の導入も必要なのではないか。さらに、大学人が大学人としてではなく、一地域住民として地域活動に参加することも大切であろう。(行政)

- (1) 地域住民が、大学を利用(交流)するにあたって、教官の専門、考え方を知っていることが前提となる。その機会が少ない。「大学教授」だけでよしとされているのでは、ちょっと情けない。(2) 段々交通の便利さ、情報の多様化により、地域距離をこえてコミュニケーションが出来るようになり、住民も「共に近くの人と」の意識の弱いのも問題だ。(3) 個人的に望むなら、社会人の研究機関としての役割の充実を最も望む。学部によって趣が異なるが、学部間、中・四国大学の単位の共有(県内は学長間で話しあわれたようだ)がほしい。(行政)
- 香川大学もようやく工学部を設置したが、その学部に電気工学、機械工学、土木工学等の工学部本流の学科が欠如しているところが問題である(地元の発展にどれだけ寄与できるか?)。(行政)
- 香川大学が行っている、地域社会との交流に関する行事の計画や実施について、より多くの人々に知ってもらう方法を工夫し、周知の努力が必要であると思う。(行政)
- 私どもの勉強不足、意欲の不足もあるが、研究成果・研究活動について伝わってこない。地域でのシンポジウム、講演会活動など、マスコミに登場されるものは「やっているんだな」と分かるものの、それ以外については、学部研究紀要などでしか知ることができない。学部、教授等ごとに分かりやすい形で、学外にもっともっと成果や研究活動を知らせて欲しい。(行政)
- 香川大学に限ったことではないのだが、教授の中に、行政について語る時、問題点や課題を挙げづらい、評論家的に述べる人がいる。特に新聞等で。我々が教示或いは指導願いたいのは、問題点等に対する方向性とか指針とか、或いは改善策なり対応策であって、評論なぞを聞きたいのではない。その教授にしてみると回答は別の機会にということかもしれないが…。(行政)
- 学生、大学院生に加えて、地域のシンクタンク(知的活力の拠点)になって欲しい。(行政)
- (1) 徳島大、愛媛大などは地元が大学によく協力している様に見受けられるが、香川の場合、市民・企業とも協力等が不足しているのではなからうか?(2) 理工系学部は、情報は一部にして生化学分野を軸の一つとしてもうけるべきではなかったとおもう。(行政)
- 大学と地域社会とがかけ離れているような気がする。職員も話しかけにくいし、事務的である(一部の人かもしれないが)。(行政)
- 香川大学について、余り詳しいことは知らないのですが、アンケートの回答も正しくないものがあるかと思われる。漠然とした知識では記載せぬ方が良いのかとも思われたが、一応分る範囲に記入した。(行政)
- 一部の先生とは、面識があるが、香川大学と深くかかわったことがないので、よく分りませんが、地域社会との

交流という面では、充分とはいえないと思います。もっと積極的に地域と関係を持つべきだと思いますが…。工学部が新設されましたので、今までよりは、地場産業など企業との関係も深まると思います。私は仕事の関係で香川医大とは深い関係にありますが、香川大学とは、これまで縁が無かったように思います。医大を包括するくらいの大学に育ててもらいたいですね。(行政)

- 地方自治体の行政に大いにかかわり、ノウハウを発揮すること。市民・県民と親しむため「交流イベント」を開催すること。PRも十分行うこと。一般の県民を集め「講演会」を実施すること。(行政)
- 地方大学は、その地域社会の産業、経済、教育等身近な県民生活の安定向上の為の研究をすべきであり、現在のように細分化された学問の更に細分化された研究テーマは、研究のための研究であって、地域発展のための学究からは離れているものもあるように感じる。国民の税金を使つての研究は、それなりに評価出来る内容でなければならない。学究の自由化は必要ではあるが、しかし、研究内容があまりにも専門化しているため、地域から遊離した存在になっている感がある。研究テーマなり、研究者の論文に対して、第三者機関がチェックあるいは、一般に公開の場で、研究者が発表する学会の中だけの発表では何の意味ももたない。先生方の更なる意識改革をして、より開かれた大学に成長してほしい。(行政)
- 研究を生かす実践の場として、地域社会との交流は重要である。(行政)
- 最近の環境問題を考えると、我々の生活に利すると考えて行う技術開発は、我々の気がつかないところで同様のマイナス効果を伴っている。すなわち力学の「作用・反作用の法則」は、あらゆる世界に共通のものではないかという気がします。これからの大学の研究は、この両面から行うべきで、営利の追求から一方に偏らないよう注意すべきだと思います。(行政)
- 今年になって、香川大学の学生が、県内人より岡山県生が多くなってきている。香川県生は大会志向が強い分、反面、香川大学が地元で理解されていない面もあるのではないかと。このことが、県人・頭脳の流出にもつながっている。(行政)
- 地域の住民に有用で魅力的な公開講座等を計画していただきたい。(行政)
- 社会人のための教育講座を実施されておられますが、もっと種類とより詳しいことが知りたい場合があります。昨年、「新民事訴訟法」の公開講座に参加しましたが、より深く学ぶには、昼間の大学授業を聴講しないと理解できない部分がありました。短期間の講座で、いたしかたないと思います。今後は長期間の講座も考えていただけたらと思います。大学の研究テーマを地元で問題になっていることや、地元が必要としていることを取り上げていただき、その研究結果を県・市等の機関を通して公开发表していただければ、研究の成果も多に活用されるものと思います。また、地元関係者にも周知いただければと思います。(行政)
- 私が勤務する自治体では、各種審議会・委員会等を数多

く設置していますが、先生方には、それぞれ福祉・教育・産業・都市計画・環境の分野など、多方面にわたって委員をお願いしており、適切な指導・助言をいただいております。(行政)

- 各行政機関と学生との交流を積極的に取り入れては(街づくりへの参加)。(行政)
- 正門にある「関係者以外立入禁止」の看板を取ることに。(行政)
- 回答申し上げたとおり、地域社会と大学との関係は相互にあまり密接な関係にないと思われる。それは、大学も地域社会も一定の距離を置いている。(行政)
- 昭和28年香川大学経済学部の前、旧制、高松経済専門学校卒業しました。経済学部があり、四国の経済動向把握、自分達の地域の二十一世紀への取り組み方について、ある程度、示唆を与えられるので、香川大学経済学部は大きな存在です。工学部が出来ましたが、私達には存在価値はありません。農学部について、地元で密着した学部、小豆島・観音寺・坂出などの食品産業のために、食品学科をつくってはどうかと思います。(行政)
- 21世紀に向け、(地域に)とり、開かれた大学を目指すべきであり、又、地域のリーダーとしても活躍が必要と考える。(行政)
- 瀬戸大橋開通以来、岡山県からの学生が顕著に増加。四国にこだわることなく、瀬戸内海ネットワークを意識した、学校創りが望まれる。また、工学部の新設で、設問中の貢献・連携に関する回答内容が、今後変化するであろう。また、医療・福祉等は岡山大との連携を考えるべき。(行政)
- アカデミックな研究や教育をする大学から、地域経済や生活・文化に貢献する役割をも担う大学へと変わりつつある流れの中で、まだまだ取り組むべき課題を多く残しているように思える。(行政)
- 香川大学について。もっと活気あふれる大学にしてほしいです。(行政)
- (1)平成10年度に、工学部にも新生を迎え、教育・法・経済・工・農の5学部が揃い、地域の教育・文化・産業を支える大学の組織が確立したが、教育面では教養教育の混乱は嘆かわしく、真に大学とあるためには、現状では教養教育に対する教官の意識改革が必要である。又、各学部とも大学院の充実に努めるべきで、COEは現状では無理があるが、とくに、その方向を目指した方策を樹てるべきである。(2)地域の大学に対する信頼感は認められるが、学生や教官に、施設や研究成果の公開について、やや努力に欠けるところがある。生涯学習教育研究センターと、附属小・中学校の活動は評価されてしかるべきである。(3)施設の老朽化を解決しなければ、若い学生の評価は得にくい。(行政)
- 県内では、まあまあの大学だとは思いますが、全国的には全くの無名大学だと思います。大学施設を地域住民に開放するとか、夏休みには学生が主体となり小・中学生対象の夏期講座を開催するとか、もっと地域社会との交流をはかり大学を宣伝してほしい。香川大学が地味なのは工学部がないという文系大学だということもあるが、工学

部の設置も決まったので大いに期待します。(産業・経済)

- 人間社会に於いて、教育程大切なものはない。香川県に於ける香川大学は、社会に役立つ人材、日本の地域のリーダーとなるべく人材の育成を期待する。(産業・経済)
- 子供の数が少なくなり、大学の運営も大変な時代になってきているので、地域との関わりを深め、門戸を広げ、一般社会人との交流を深め、地域と一体となって学校を開放していくべきであり、特に社会人の為の夜間大学には、非常に興味を持っている。又学生にしても、勉強だけでなく、社会人と接する事により、学問以上の成果もあり、人間性の面に於いても向上出来るものと思っている。(産業・経済)
- 私は、他大学の農学部卒業生ですので、農学部の関係は非常に関心が高く、色々な点で先生方と協議会等で顔をあわせる機会がありますが、先生方も御多忙ですのでゆっくり話し合いの場がなく、若い時は公開講座にも参加させていただきました。研究の成果や、研究の課題でも地域の方々にアピールしたり、公開し、開かれた大学のイメージアップを図って欲しいです。(産業・経済)
- 学部により、地域社会とのかかわり合いが深い学部と、そうでない学部との格差が大きい。もっと地域社会に開かれた大学にすべきである。社会人の再教育の場としての大学のあり方を検討すべきである。(産業・経済)
- 地元の新聞、テレビに登場する機会を大きく増やすことが出来れば、教授の顔が見え、大学の顔も見えてくるのではと思いますが。(産業・経済)
- ほとんど交流した経験がありません。香川大学は、聞くところによると、入学される学生は地元の方は少なく、中国地方の方が多様です。ですから、地域との交流が自然とない感じです。地元の高校生に、魅力ある大学とみられていないのだと思います。(産業・経済)
- 我田引水になるが、高知大・愛媛大・岡山大のように地学、地球等のある充実した理学部の設置を切望する。(産業・経済)
- 香川大学は、地域の教育界・経済界とのつながりは、歴史があり、実績も大きく評価できる。今後は、工学部が地域の産業経済を活性化させる、けん引役を果たすべきであり、産業界としては、大いに期待している。工学部が地域産業活性化に寄与することにより、卒業生の受け皿ができ、人材の流出を防ぐことにもなると考える。(産業・経済)
- 中国人留学生の支援を現在行っている。香川大学教育学部で勉強中であるが、熱心であり将来楽しみである。今後も積極的に受け入れ体制を整えるべきである。勿論、人選が重要。(産業・経済)
- 以前、社会人に開放された講座の講師をさせて頂いたことがあり、それ以後とても親近感のある大学となっています。(産業・経済)
- 経済・農学両学部卒業生が中堅層となって来た。最近、法学部の卒業生も入社して活躍している。法・経・農の先生方には折に触れ、会社で講演などを通じて社員教育に貢献して頂いている。教育学部については、地域密着

度が高い割に、一般になじみがないのではないかと、少子化・教員数の減少などを考えると、教員養成の枠を超えたカリキュラムが必要となるのではないかと。(産業・経済)

- 香川県とか、中・四国地方にこだわった教育・研究をする時代ではないと思います。国際的視野にたった生徒・学生をそだててもらいたいと思っております。(産業・経済)
- 豊かになるにつれて、上級学校の進学率が上昇してきましたが、専門的な知識も技術も身につけず、自分が職業人としてどうありたいのか考えないまま、社会に出てきているのではないかと考えます。これからは、人を多く求めるのはサービス産業でしょうが、そこでもこれからは情報化の急速な進展で少数精鋭のローコスト経営が目指されるでしょう。いずれにしても、専門的な知識と技術を持った人材、マネジメントの専門家が求められる時代ではないでしょうか。(産業・経済)
- 香川大学に理系学部が少なく、私共のような科学系統の会社は地元採用が難しいので、工学部が出来たのはいい事ですが、個性的でないと生き残れない。何処にでもある地方大学では困るし、英語(日本語以外に一つ)くらいは話せる学生にしておかないと、国際化時代には通じない。経済学部があるのに、今回の日本経済のバブル、又、バブル崩壊後の未来を語る先生が一人くらいいても良い。農学部は、農地を持って農業経営をしないと、教育にはならないのではないのでしょうか? 日本語+英語+αでしゃべれる学生を沢山つくらないと、本当に困ります(最低の条件です)。(産業・経済)
- 香川県小豆島地区にも手・足をのばし、ご指導してほしい。(産業・経済)
- 先日教育学部の四回生(中学教員養成)と話をすることがあり、森信三先生の著書を読んだことがあるかと質問したが、著書は勿論、森信三先生のお名前さえ知らなかった。ほんの一部の学生が知らないのか、全般が知らないのかは分からないが、教育者の原点を知らない先生が養成されるのでは不安であります。その他の学部も同様、知識、テクニックよりも夫々の原点に重点をいれるべきでありましょう。モデルは海外にあらず、日本今昔の賢人偉人は多い。(産業・経済)
- (1)元来地方の高等学校(特に県立)の先生方は、進学率に気をとられ、しかもその中でその県の国立大学にどれ位進学するかによって評価しようとする性癖がある。(2)この香川でも香川大学への進学を半端強制的に薦めるキライあり。(3)この為、香川大学は地元の東京大学であるかのような錯覚をしている環境が、地域社会にもあり、全く足元を見ていない(見えていない)。親も学生もその気配が濃厚である。(4)地方から全国に発信するような研究成果発表や、さすが香川大学と言った成果物が何もない為、単に進学を受皿としての価値しか見えない。(5)大学の生いたちもあろうが、少子化を迎えた今、もっと地域文化の発揚に寄与する大学の有り方を模索して欲しい。大学は聖域にあらず。特に国立大学は国民の税金を使っており、成果なければ教授の任期を切っ

てもいいのではないかと。(産業・経済)

- 地域との関連強化とともに、他地域の他大学との異質性(特徴)を明確に打出したものにしたい。どこにでもある地方大学ではなく、日本に、いや、世界にひとつしかないような存在意義を持った大学にする。(産業・経済)
- 学部も増え、昔に比べたら活性化してきたと思う。各種ボランティア活動に多く参加されているが、一般人も参加できるようなパンフを配布すればいいのではと思います。(産業・経済)
- これといった特色もなく、魅力が乏しくなっている。工学部の設立に期待しているが、地元への貢献など、何らかの明確な特色を持つべきであろう。(産業・経済)
- 工学部の開設等により、香川県や四国地方において、「産・学・官」連携の一翼を担う機関として、調査・研究・情報提供、更には人材育成に対し、尽力されることを期待しております。(産業・経済)
- 平素から、余程香川大学と関係のある人以外、このアンケートに正確に答えることは、大変難しいのではないだろうか。同じ国立大学といっても、中央の国立大学と地方の国立大学とでは役割が違うのではないかと。とくに工学部系、経済学部系は、地方国立大学では、地元との密着が不可欠と思われる。地域から隔離されるより、地域の人々と生で接触することは、研究にもプラスになると思われる。(産業・経済)
- (1)地域のプロジェクト、中心市街地活性化、環境問題等、当地でも大きな問題が多々あります。大学の先生方が積極的なリーダーシップを発揮され、各種提言・助言され、地域の発展に貢献願いたい。(2)香大・工学部の新設により、産・学・官の交流が図られることとなり、大変喜んでおります。(産業・経済)
- 国立大学は、各県にあり、本来地域性をもっているものと思われる。従って、地域との交流、地域への貢献が期待されている。これは今後とも継続するものと思う。学問・研究・教育の機関として、限界はあるにしても、当該地域貢献の中核的存在になってくれることを地域住民は希望していると思います。(産業・経済)
- 昨年まで香川大学には工学系の学部が無かったので、小生の関係する仕事とのつきあいがほとんど無く、経済同友会を通じての関係が中心であった。従って前記の評価が適切かどうか疑問である。大学は地域と密接な関係を保ちながら、それを通じて地域を越えた人材の育成につとめるべきである。(産業・経済)
- 少子化の時代を目前にしているため、何よりも地域の行政、企業から頼られる存在感のある大学づくりが重要と思います。このため、(1)地元の優秀な学生をできるだけ採用して、育成し、将来の香川大学の中核、地域の企業・行政の中核として育てる。(2)大学の個性を伸ばし、地域との交流活動を一層活性化。(3)地元の社会人が、随時学びたいようなオープンな、講座づくりなどの施策を、地道に展開してはいかかと思えます。(産業・経済)
- 一層地域のためにも頑張ってください。(産業・経済)

- 昨年・一昨年と香川大学で非常勤講師として、コンピューターによる経営戦略の講義をしました。又、大学の先生方との交流も個人的にはかなりあります。ただ感じることは、今迄は行政とのかわり、かなりあったと思いますが、企業とのかわりは、少なかつたように思います。又、企業側も、積極的な大学へのアプローチをしていなかったように思われます。時代が大きく変わってきている現在、地元大学との交流は、今迄と違って非常に大切になってきたと思っています。(産業・経済)
- 学生の質の向上を図るためにも、地域の中核企業との交流共同研究を大胆に行うべきと考える。(産業・経済)
- 産学官の交流と協調は、より緊密化が必要である。(産業・経済)
- (1)キャンパスの移転、拡充。施設の老朽化(研究室、教室etc)が目立つ。(2)ハコもの建築が多い中で、教育関係の遅れが目立つ。特に香川大学の幸町キャンパス。(3)良い環境には良い教授・良い学生が集る。(産業・経済)
- 総合大学として発展を期待しているので、学生の質、レベルを高めるべきである。そのための定員減は止むを得ない。いわゆるスベリ止め大学から脱却しなければならない。そのため学長には全国的に通用する人材を求め、教員の質の向上も必要である。また、香川医大は医学部として吸収すべきである。(産業・経済)
- 香川大学のみには当てはまる事ではないが、大学で勉強したことが、それ程役立つとは考えられない。それは、フィールドワークが少ないからではないかと思う。卒論のみフィールドワークを行うのではなく、単位取得に行ったり、その他もっと工夫を凝らして、面白味を増すべきである。その為には、教授自身にその体験をさせる必要があると考える。(産業・経済)
- 香川大学教育学部の前身である師範学校の卒業生であるので、教育学部の同窓会の役員をしている関係で、年2回は最低学部内同窓会の会合に出席している。また、近藤学長が満濃町の出身であることから、母校としての親近感がある。教育学部は、香川県内の小・中・高校に多くの卒業生がいるので教育の分野での交流が盛んであるが、他の学部との交流では四国電力との交流ぐらいであり話題がないように思う。工学部が出来たので各方面との交流が期待されると思う。香川県の最高学府として県民は大学に対して大いに期待しております。(教育)
- 私が接する香川大学の先生方は、皆様ご熱心で、地域のことを考えて下さっております。しかし、「香川大学」は、と考えるともう少し、香川県の政治・経済・教育・文化等各部門に積極的にアプローチしてほしいとの感を強くいたします。香川大学に今度工学部が新設されましたので、これまでとは少し、趣きを異にした大学になるのではないかと期待しています。教育現場の教員をもう少し多く、再教育のため受け入れて欲しいと思います。お願いします。(教育)
- 大学教官が、地方の公立学校の研究推進、にもっと積極的にかかわって欲しいと願っている。教育学部にあつて

は、教員としての資質向上にさらにつとめて欲しい。
(教育)

- 仕事の上で香川大学には大変お世話になっているが、それは個々の教員の方々とのつながりであって、「香川大学」という、あるいは「〇〇学部」というトータルなものではない。地域社会と大学の交流といった場合、今後はこうしたトータルなものを志向していくのか否かということ、明確にすべきではないかと思う。それによって、大学側、地域社会側双方のアプローチの仕方が、よりはっきりしていくのではないか。(教育)
- 香川大学は地方大学として、地方の文化・経済・社会と今まで以上に連携をとり、特色ある大学に変革すべきである。ことに教育学部は香川の教育としっかり連携をとり理論と実践の構築をすべきだ。あまりにも大学が地域から離れすぎている。大学教授の考え方を考えるべきだ。(教育)
- (1) 学部の合格定員について、将来的展望に立って、決定すべきである。(2) 県内、四国地区の企業との連携を深め、共同研究や職場研修を大いに進めてほしい。(3) 生涯学習に関し、大学の出前講座をお願いしたい。(教育)
- 香川大学卒業生を講師とする、実務論のカリキュラムの設定を希望する。(教育)
- 大学は学問の府であるが、地方に存在する国立大学として、その地域の動態は無視できないものとする。従って、その地方の将来について感心を持ち、地域振興に寄与できる人材の育成も、大事な大学の役割でないかと考える。そのためには、自治体を含めた地域社会と大学の両者の交流の場を、もっと作るべきだと思う。(教育)
- 香川県・高松市・高松市周辺との係わりが多くあると思うが、県内他町へも、教育関係での交流を深めてほしい。(教育)
- 香川県の教育の中核を占め、県教育行政のリーダーとして、出身者は地域の信望を集め、教育県香川の形成に大きな役割を果たしてきた。その長年にわたる先輩諸兄姉の活躍は、本県教育の教育観形成の核となり、県内の学校教育、特に公教育の振興と公教育への地域住民の信頼を得、最近、他大学出身者が数多く増えた中学校においてもなお、その伝統は脈々と受け継がれている。他府県に比して、私学教育が低迷していることに、その証左があらわれている。(教育)
- (1) 大学が実施している各種講座等について、より多くの県民に周知するための広報の充実。(2) 大学のキャンパス自体を魅力的なものに整備する。(教育)
- ああ、香川県にも大学があったのかと思われるような存在、もう少し地域へ出るべき。勿論、放送教育と生涯教育について、窓か門戸を開いているが、門を開いてバリエーションしている状態。別天地もいろいろだ。私は附属校に長い間勤務したが、大学の先生たちの考え方が、地域的でない。古い先生(師範からの先生)は、地域の実態を考えて行動していた。若い先生は、田舎大学しか行けなかった。がまんしよう。ではダメと思う。香大よ変身せよ。さもなければ滅亡する。(教育)

- 香川大学に限らず国立大の教授・教員は、総じて厳しさに欠けていると思う。時代の変化に対応した研究活動や、人材の養成にもっと力をいれてほしい。また、地域の大学として地元積極的に貢献してもらいたい。講演依頼をしても、理念や理論が先行した話で面白くない。余程民間人の方が真琴に触れる話が聴ける。(無理もないと思うが……) 国立大学も徐々に変容していると思うが、全体的にみて旧態依然としていると思う。地元大学に期待はしているのですが…。(教育)
- (1) 地域社会との関係 香川大学の学部が、教育学部・経済学部は早くからあったが、その他の学部がまだ出来て新しいので、地域社会に十分機能していないと言うか、かかわり方が浅いように思う。(2) 交流について 学部がだんだん増えてきつつある現状で、大学側も未だサービスを提供するまでになってないし、地域社会も十分大学の内容を理解されてない部分があり今後の課題だろうと思う。(教育)
- 設問の意図が分かりにくいものが多かった。特に、問8は大学人でなければ分からない。全体的に“象牙の塔”のイメージが、未だに大学の先生方にはつきまとう。もっと、開かれた大学になって欲しい。(教育)
- 社会人育成の教育機関としての、学生指導の充実を図ることも意を用いられ、地域社会に信頼される大学像を築いていただきたいと思います。(教育)
- (1) 大学の役割として、地域社会に密着した形をとるのか、それとも全国的あるいは国際的貢献の場とするのか、ということは、最初にその理念を掲げると、さまざまな制約を受けることになる。したがって、香川大学の研究や教育が積み重ねられた結果として判断させてほしいと考えている。(2) 地域社会との交流を強く出すぎると、むしろ全国の優秀な受験生の目からはマイナスイメージにうつるのではなかろうか。アカデミックな要素を色濃くにじませながら、結果として深い交流や関係が築かれているという姿勢で臨むことでよかろうと思う。(3) 同じ香川大学といっても、学部によって交流の密度やスタイルがかなり異なっている。このアンケートを回答するに当たって、すべての学部を念頭に浮かべながら行ったので、迷った箇所も多かった。(教育)
- 香川大学が現在実施している講座とか共同研究とかについての情報が、余り届けられていない様に思われる。出来れば、教育学部であれば教員の参加出来る研修等が企画されたり、教育センター等との交流がはかられたりしたら、良いのではないかと存じます。(教育)
- (1) 大学の教授が自分の研究成果を発表公表することは誠に結構なことであるが地域社会との交流に合わせて、公共性に欠けることを吹聴されることや、まだ定かでないことを大いに宣伝されること、はいかかなものであろうかと思われる。(2) 地域社会の一員として、地元の大学との関係を密とし、交流を積極的にすすめることは大切なことであると考えているが、総論のみでなく各論の面で、その振興策を今一層図られることが望まれる。(教育)
- 大学教員と地域社会との交流をもっと積極的にすす

めくください。(教育)

- 町段階(本町に関しては)では、殆ど交流の機会がない。むしろ、隣接市の四国学院大学の教授との交流が深く、町史の編集執筆等でも協力してくれているし、町民講座の講師も気易く引き受けていただいている。同和関係でも、町の総合計画策定、「人権教育のための関連10年」の行動計画の策定も、当初から積極的にかかわってくれている。どうも、そうした点で(距離的にも香川大学は遠隔地にあるため)なじみが薄く、つつい疎遠のまま現在に至っている。唯一、社教主事講習で何年かに1回、お世話になっている程度である。(教育)
- 地元唯一の公立大学として大いに期待している者です。特に近年リカレント教育が叫ばれておりますが、もっと地域に開かれた学校になるよう願うものであります。先生方も気軽に地域の会議に出席頂き、ご指導をお願いしたい時もありますが、敷居が高く感じるのも事実です。地域との交流が一層図られるよう、格段のご努力をお願い致します。(教育)
- 教育委員会として、社会教育の講師として香川大学の先生に大変お世話になっています。大学の講座を受講したい社会人が増加している現状から、それらの人々の受け入れをお願いしたい。(教育)
- もっと魅力的な、県民に親しまれる身近な存在であってほしい。(教育)
- 香川大学は、香川県の研究、人材養成の中心と考えている。教員の考え方を柔軟にして、狭いところでの研究成果を評価するのではなく、住民や地域の評価も視野に入れて活動すべきである。香川大学の生徒に実力をつけるのに、日常の指導や特設の場面を設定して本当の力を養うことに責任を持つべきである。(教育)
- 審議会、運営委員会、専門委員、講演等を委嘱依頼する場合、香大には多分野に亘る専門家が少い。というよりいない。文学・理学・工学部がないことは香川県各分野にとって不幸なことである。女性が少い。同一人物が各校の委員とならざるを得ない。(教育)
- 香川大学の先生方には、審議会委員などに就任していただき、日頃から大変お世話になり感謝いたしております。香川の活性化を図るために、地域に根ざした国立大学として、優秀な人材の育成と先生方にも各分野の指導者として学内以外でも活躍をお願いしたい。(教育)
- 開かれた大学のイメージを積極的にPR。(教育)
- 香川大学は、地域社会との交流等を積極的に行っている方であると思う。今後社会の変化に伴い地域のニーズにこたえる積極的な対応が求められる。もっと広報活動を積極的に行った方がよい。(教育)
- 香川県職員として、現役時には、教育学部教員養成課程の学生を対象に、「行政における福祉的援助」等、臨時講師として10年ほど講義をさせていただきました。現在、囑託として、県立保育専門学院長を承っており、保育養成ということで、専門、一般教養科目ともに、香川大学教職員の協力を得て運営しております。なお、幼稚園教諭2種免許取得にあたっては「香川大学教育学部の指導のもとに」という条件が、文部省より示されており、

全面的に大学に依存した形となっています。今後とも、社会的ニーズをとらえた上で、交流・指導を受けることを計っていきたいと思います。(教育)

- 香川大学が中心になって、香川県内の高等教育機関との間に、教育・研究の交流を積極的に進める必要がある。とくに実力を持った学生を育てる為に、相互に知識の交換をしなければならない。それが、地域社会ばかりでなく、日本を救う。(教育)
- 香川大学とは、全く交流がなく、意見を述べる余地がありません。(教育)
- 香川大学には、地域社会に大きく貢献している教官が多いが、全部ではない。より多くの教官を活動させる組織を地域の諸団体や行政と協力して作成すべきである。(教育)
- 交流を深められ、大いに活躍下さい。香川大学は私の母校ですから、一層思います。高松大学も頑張りたいと思います。高松大学の者が香川大学非常勤講師に十数名、香川大学からは、二十数名の先生方に助けていただいております。また、ご主人が香大教授で奥様が私どもの大学にご勤務の方は2人おられます。(教育)
- 香川大学が学問の源として、何事にもリーダーシップを、もっともっと、とって貰いたい。(教育)
- (1)最近の香川大学は、積極的に勉強しない傾向が強い。(2)昔は、香川大学経済学部の生徒は語学(特に英語)に秀れていたが、今はないのが残念。(3)開かれた大学であるため、経・法・教・農・工ともに高校との連結を強く望む。(4)そのために、高校教員を呼び講演を行う。又、高校へ進んで行って講義をする(近日中に依頼にお伺いする予定)。(5)高校教員の希望者による内地留学的なゼミ(半年、1年か2年)の実施(これが欠けている)。案外希望者がある。(教育)
- (1)地方大学の特色を生かすべく、特徴的な交流を企画し、県民にアピールしていくこと。交流ビジョンが県民によく見えるようにし、そのビジョンに参加しやすいようにする。(2)香川の「社会福祉の充実」について。教育・経済・法学・農学がいかにかして社会福祉というテーマにかかわるか。学部が共同して、一本のテーマに取り組みむ幅が出てきて、県民も得るところが多くなる。もちろん、各学部が存在感のある交流をすることは言うに及ばない。(※選択肢について、おおいに、やや、あまり、全くの4通りであるが、「おおいに」と「やや」の間に大きな差がありすぎる。この中間に一項目あれば、答えやすかった。)(教育)
- 教育・研究の両側面において、これまで以上に地域に開かれた大学づくりを推進して欲しいと考えている。大学の地域交流等に関するビジョンやノウハウの形成に寄与する、広く一般の学識経験者等を含めた研究協議会などの開催も必要である。幸い、本年度から新しい視点に立った工学部が開設され、地域社会からも多大の期待が寄せられている。既存の経済・法学・農学・教育の各学部においても、地域社会の活性化に向けた具体的研究活動等に取り組み、積極的な提言や指導の役割を果たすべきであると考えている。益々大学本来の教育・研究機能

との調和が重要となってくると思われる。(教育)

- 入学者の選抜方法を多角化して、多様な人材を集め、教育してもらいたい。専門高校や総合学科の高校生には、学力試験(いわゆる入試)に代える選考枠を設定して、キャラクターの優れた者を採る制度を考えてほしい。(教育)
- (1) 念願の工学部が創設され、地元企業との交流も一段と行える状況になってきたと思われる。(2) 大学入試志願者に対する、大学のPRパンフレットは大変よくできている。一般社会人には大学における研究内容が伝わりにくく、地域から浮いているように思われる。(3) 職業から、各種会合の講演者、講師、助言者を依頼することが多く、その際は快く引き受けて下さっているので大変ありがたいと思っている(交通費、謝礼が地元の先生であれば少なくとも、大いに助かっています)。(教育)
- “地方大学としての香川大学”の在り方のビジョンが、最近少ないのではないかと感じられる。大学教官自身の姿勢として、地方大学の果たすべき役割の自覚に欠けていないか、中央志向が強くないか、等の疑問がある。昔の教員は、例えば、地域・地元の自然社会に対する基礎・基本的研究にも強い感心があり、ライフワークとしても地域に貢献する研究(仕事)をしている者が多かったと思う。もちろん、その他の研究としても世界的(国際的)仕事に励んでの上のことである。香川県としても地元に着し、郷土に貢献できる人材育成は大切である。その意味から他県(特に東京・大阪等)への大学進学者が多いことは、地元大学として、香川大学のより一層の意識改革と充実、飛躍を期待している。※大学入試での“地域枠”を大いに期待しています。(教育)
- 県内で数少ない国立大学の一つとして、研究と学生の教育という本来の使命を、十二分に果たしていくことが前提だと思うが、香川県の状況からすれば、香川大学の持つ知能集団としての人材・情報・研究機能等を積極的に活用することが必要であろうし、大学としても地域の要請に応えていくことが大切なのではないかとと思われる。そのためには、もっともっと地域各界との率直かつオープンな意見交換、交流の場を設け、地域の人、実態、ニーズ等を正確に知ることが肝要ではないか。何が求められ、何が必要かは、そうした現実の中からつかむこと、それを忘れるべきではない。県民からしても大学の中味は本当に分からないというのが実感でもあり、地域の中の大学をめざすなら、もっと地域と積極的にかかわっていくべきではないかと思う。(教育)
- 大都市圏にある国立大学とは異なって、香川大学は香川という地方にある国立大学であり、地域に根ざした大学の在り方を追求してほしい。(教育)
- 高校では、今「地域に開かれた学校」づくりを心がけています。学生、生徒だけに眼を向けておればよかった今までの在り方は、もう時代遅れというか、支持されなくなりつつあります。アカデミックな面、学問本来の真理を追究する姿勢は勿論必要ですが、国民、地域住民と共に歩むことが大切であろうと思います。時代と共に、

「現在の中に生きている大学」といえばいいのでしょうか。ご発展を卒業生としてお祈り致しております。(教育)

- 学生は、地域をこえた広い視野の学問を身につけるべきだと考えますが、教官は更に、地域への関心を広げる必要があると考えます。香川大学は、地元への情報提供に特に熱心とは思えませんし、例えば高校との情報交換も不足していると思えます。研究水準は高いように見られるし、地元の信頼も厚い大学ですから、いまいし、情報提供に熱心になってほしいと考えます。工学部開設等もあって、大学の機構改革も行われたようですが、それが外部とどう関連してくるのか、いまいし分かりにくいという気がします。(教育)
- 国立大学と一口に言っても、多様であるが、香川大学について考えると、これまで地域社会との関連が、やや希薄であったように思う。最近工学部が設置されたので、今後、相互の交流が一層密になることを期待する。また、県内高校生の進学先として、推薦入学等に、より門戸を拡げてほしいと思う。(教育)
- 地域の方々の声を気軽に聞けるシステムがあれば良いと思います。(教育)
- 大学は次代を担う人材を養成する機関であるから、研究や教育に力を注ぐことが第一であると考えます。私が勤務している職場では、毎年香川大学の法学部・経済学部の学生(他県出身者が中心)を数名教育実習生として受け入れているが、以前の学生に比べて、近年は特にマナー(態度や言葉遣いなど)の低下や感謝の気持の無さ、不勉強ぶりが目につき、正直のところ驚いている。これからの大学は、地域社会への貢献が求められると思うが、そちらの方に時間や労力をとられると、学生の教育が疎かになるような気がしてならない。時代の進展に逆行するような感がないでもないが、まず、大学は本来の仕事である研究活動の充実や、特に学生の資質の向上に努めるべきである。地域社会への貢献は、優秀な学生を送り出すことで、その任を十分に果たすものと考えます。(教育)
- 瀬戸内海を控える地区の大学として、農学部の水産・海洋・海洋資源・環境を学ぶ学科(類型)の充実。(教育)
- 香川県を支えるような人物を送り出すこと。そのための県在住のものを優先的に入学させていただきたい。昔の教員養成大学の看板をはずすこと。工学部に期待している。社会人の再教育の場ともなしてほしい。(教育)
- 現状でよいと思う。(教育)
- 質問内容について回答しましたが、正直なところ、いずれの質問にも自信を持ったものではありません。調査の正確さを期すことを考えれば、誠に申し訳ございません。(教育)
- 香川大学工学部の設置に関連して、香川県内の工業に関する学習内容の連続性と、工業高校の活性化のため、入学の優先枠をできるだけ早い時機に設けていただきたい。(教育)
- 香川大学は、もっとマスコミを活用して、大学内の情報や地域社会との交流についてPRし、地域住民の関心を

- 高めるよう努力して欲しい(香川大学について、1部の人を除き殆んど知識のない人が多いのは残念)。香川大学には、外国からの留学生もかなりいて、国際交流にも貢献しているのは知っているが、その実状は知らない。高校や地域社会は今、国際交流事業を推進しているところが多いが、協力が得られれば大変ありがたい。(教育)
- 香川大学について。優れた研究業績が発表されることもなく、教官は適当に研究、適当に余暇をもっているという感じがする。地域社会との交流について。審議会や協議会の委員や座長になる方も、毎回ほぼ限られた数名の教官のみで、他の教官は地域に余り知られていない。(教育)
 - 香川県の高校生が他県の大学へ進学しなくても、香川大学で学べるような学部・学科を設置できないだろうか。地方分権が叫ばれる時代ではあるが、希望する学問や分野の専門機関が香川大学に完備されていれば、地域社会と大学が更に密接に連携できるはずである。才能ある有為な若者が県外に出ることを阻止するものではないが、そういう人材が県内にとどまることを考える時に来ているように思われる。そういった意味で、香川大学に期待するところ大なるものがある。いろいろな問題点があることは理解できるが、一歩ずつでも地域に根ざした大学へと進んでいってほしいと願っている。(教育)
 - 学んだ内容が社会で役立ち、生きる自信につながる学習内容を構築するのを感じます。たとえば、法学・経済は具体的に生徒が興味関心を持てるよう、現実社会に即した学習内容にする必要がある。即ち、法学部の学生は具体的に法律をまったく知らない。現実即して、分かり易く教えてくれないと言っている。(教育)
 - 香川県、四国地方の情報、文化の発信基地としての役割を期待している。教官もUターン場所として香川大学を考えるのではなく、研究、地域振興等に対しビジョンを持って活躍して欲しい。教育活動(学生、教官)がガラス張り、県民全体が理解し、支援できるよう努めるべきと思う。社会人の再教育の機関となれるよう期待している。(教育)
 - (1)学生に、アルバイトや遊びなどを、なるべくさせないように指導をして、学業に専念するようにさせてほしい。(2)教員は、各市町に積極的に出かけて、実際に地域住民と共に地域の学習に参加してほしい。(教育)
 - 大学開放講座、放送大学、カウンセラー研究はじめ、大学の先生は大いに活躍されておられます。ただ、多くの交流の場はあるのですが、情報が入手しがたく残念に思っています。どうか、地域の大学として、県下にしっかりと根を張って下さい。(教育)
 - 香川大学が地域社会との関係を深めながら、学問的にも発展していこうとしている様子は、大学関係者と接して感じとれます。大学の開放講座などの情報を広く、積極的に発信するようお願いしたいと思います。香川県における高度教育・学問の府の中核としてますます発展されることを願っております。(教育)
 - 大学の先生方が小、中、高、障害児諸学校等での教壇に立ち、それらの学校の先生方が大学で学ぶことができる
- ような交流の機会があれば、すばらしいのではないかと思います。いろいろな意味で互いに垣根を低くすることが、教育改革の実をあげる近道になると思います。大学生が勉強するには、小～高校での学習がかわらなければならないし、大学の持つ意味がかわらなければならないと思います。(教育)
 - 香川大学の実態・教育内容について余り知識がないので、明確な意見を述べることができず申し訳ありません。(教育)
 - 大学の潜在化している知識・技術等が、地域住民に親しみやすく自然な形で動いてくれるとすばらしいなあと考える。ただし、住民サイドでも自らのカラをぬぎ、親密感をもって行動できる環境づくりに努める必要がある。(教育)
 - 地域社会のニーズに応える交流を、具体的に積極的に個性的に推進されることを切望します。(教育)
 - 開かれた大学にして欲しい。大学教員も、もっと地域社会について関心を持って活動して欲しい。(教育)
 - 教育研究会等での共同研究者を香川大学からもお願いしたい。共に教育に携わる者として、共同研究を推進し、香川の教育界に、様々な提言も行っていきたいと考えています。また、お互いの情報も交換しながら、定期的な協議の場も持てればありがたいと考えています。さらに、地域に開かれた大学、教職員組合のあり方も共に考えたいと思っています。今後ともよろしく願います。(教育)
 - 香川大学出身の教員は、私も含め大変多い。しかし、現在、教育学部が香川の教員の母体に、必ずしもなっていない。採用数の激減が大きな原因であるのは違いないが、目標を持って学生が生活できるようになって欲しい。また、卒業後も再度大学で勉強できる制度をさらに充実して欲しい。もっと勉強をしたい。その機会が是非欲しい。(教育)
 - 少子化・高齢化・情報化及び地方分権の進展において、大学の使命である学問研究及び人材養成は、今後、一層深まると思う。生涯学習社会を目前にして、地域社会を育てると共に、地域社会に支えられる、いわば地域社会と共生の大学を願っている。(教育)
 - 学社連携のもとで、小・中学校においても、内外に開く学校経営を進めていく必要がある。香川大学をはじめ、地域の大学として大いにリーダーシップをとって頂きたいもの。(教育)
 - 立派な教授の先生方が沢山おられる香川大学を、行政面では幅広く指導助言者として活用され、成果も大きなものがみられる。しかし、企業面からの活用となれば、大企業のみられない香川では、まだまだの感がする。学部も多くなり、今後の期待は大きいですが、企業側からの積極的な呼びかけが望まれると共に、大学側も、いろんな角度からのPRが必要かと思われる。(教育)
 - 大学人が地球社会との交流に関する関心が薄く、地域社会は大学と交流するノウハウを持っていない。大学側からの情報発信や情報公開、をもっと進めるべきでないかと思う。(教育)

- 全学部ともにかつての勢いが感じられなくなっている。教授には、2年に1度は論文又は、研究の成果を発表させるなど、厳しさが要求されてもよいのではないか。学生の生活面などにも指導力を発揮し、人間として秀れた社会人に育てていただきたい。(教育)
 - 大学の先生方が、どのような分野で活躍されているのか、大学から発信される文章等があまりありません。環境問題・経済問題等、時代の変化・ニーズに必要なことについては、ニュースで知ることはあります。教育関係で今、対応が必要とされる不登校・いじめ問題についても、大学の先生のご指導は、あまりないように受け止めています。地域との交流をしっかりとっていただき、地域にある大学の意味を十分考え、力を発揮していただきたい。大学教官が自分の研究に、即役に立つものを求められるのは分かりますが、長期の見通しをもった、地域へのかかわりが必要と思います。(教育)
 - 教育学部は、もっと香川県教育委員会との関わりを深くもつべきだと思う。(教育)
 - 教育センター等研究機関ともっと連絡をとって(思想信条ぬきの立場で)指導助言をしていただきたい。大学の開放について、公開講座等積極的にして頂きたい。参加した者から、講師によっては、よろこばれている。(教育)
 - これまでの枠組みをはずして、新たな視点から「大学づくり」に取り組んでほしい。入学する学生の質で評価されるべきでなく、卒業する学生の質で大学は評価されるべきである(教育された質の高さが問われる)。(教育)
 - 香川大学の学部によっては、地域社会との関係や交流について、もう少し積極的にと思われる学部がある。どの学部もおおいに関係・交流してほしいと思う。(教育)
 - 国からの予算を多くすることにより、地方の大学として地域住民から親しまれ、活用される大学になってほしい。地方分権時代の学問、教育の中柱となるよう教授の数、力量も高めてほしい。子弟が県内(香川大学)を希望するような大学になることを望んでいる。国立大教授の人事交流を大いにやるべきである。(教育)
 - 県内の大学での中心的な存在であるが、もっと情報公開や一般参加の講演・講座を特に土・日等に開催してほしい。行政から香川大学の先生方に講師や各種の要員をお願いしているが、大学側からも市民や行政の意見・交流を図るようつとめてほしい。(教育)
 - (1) 大学は今まで学生を主体に、すべてのカリキュラムを構成してきた。このことから、地域が大学に対しての期待は限られてくる。(2) 大学が社会に対して真に実践的活動はできず、部分的に高度なものは認められる。このことは、社会との調和として、今後取り組む必要がある。また、教育機関として大学内のきびしさが必要である。(3) 地域と大学の交流は日常的に実行してほしいと思います。(教育)
 - 大学全般についての質問には大変解答が難しい。経済学部は最も歴史があり、全国ネットで活躍されておられる方も多し、狭い範囲での交流より、もっと全国規模での対応が欲しい。教育学部は教員養成のため(一部は改
- 変があったにせよ)どうしても地域密着と成らざるを得ない点など、他大学と余り変わりないと思います。まともな回答となっていませんが、悪しからずお許し下さい。(教育)
 - 地域との交流は、一定の人にだけ集中されている様に思う。また、一部の市民と手を結び、センセーショナル的に行政を攻撃するのは、いかなるものかと思う。何の為の学問かと疑わしく思うことがある。(教育)
 - ゴミ・環境ホルモン・老人・青少年育成・3橋時代と香川…等マスコミ・インターネット・署名入りで積極的な発表を期待しています。(教育)
 - (1) これまで、卒業生は地元で定着する人も多く、地域に貢献してきている(特に教育関係などで)。(2) 最近、学生の出身地がより広域化してきたことから、プラス・マイナス両面の影響が考えられる。このマイナス面の克服が課題である。(3) 大学としては、「魅力ある研究テーマと学風づくり」「県内・外に向けての成果アピールや情報発信」「地域の“文化”に深くかかわる姿勢(経済や技術だけでなく)」などが大切であると考えます。(4) 地域としては、「学生にとって生活しやすい街づくり」「卒業後も親しみの持てる懐かしい思い出の地となる努力」が必要である。そのためには、もっともっと潤いのある県民性を目指して、住民のこころを磨いていく必要がある。(教育)
 - 一極集中(中央)型から地方分権の時代に移行が求められており、本県の特徴を生かし、また、来たるべき21世紀の本県のあるべき姿を真に考える人材は、地元で育成する必要を強く感じている。それが可能な香川大学に期待する。国立大学で、それが無理であれば、県立への移管、若しくは県内の他の大学がイニシアティブを取って、本県独自の文化・経済など、幅広い分野に活躍できる人材育成の中核的役割を担って欲しい。(教育)
 - 香川大学は、香川教育界や産業経済界に優れた人材を送り出し、その発展に寄与してきたところである。今後は、工学部の設置により、産学官の連携による先端技術開発に期待がかかる。(教育)
 - ローカルの希望とグローバルの期待をになう香川大学であって欲しい。このため、まず大学の施設・研究成果・人材・情報等、質的に高い資源を地域や住民に積極的に活用する開かれた大学となるよう期待します。(教育)
 - 今回の調査の選択肢に「わからない。知らない」がないので、回答にこまった。(教育)
 - 香川に在住して丸10年。香川大学の内部が見えない。こちらから求める必要がないからか、大学側のPRが少ないためか。いずれにしても知らないことは不幸である。(医療・保健)
 - 来て未だ1年位なので、あまり交流等については知らない。私は岡山大出身で、寒川町長や天王中学校長は香川大学の出身者であることは承知しているが、周囲の方々の人脈にはくわしくはない。余り回答していないのは、余り知らないためであるが、又は、十分な意見を持っていない。(医療・保健)
 - 友人や、知人には香大卒の方や香大で学んだ人達が多勢

- いると思われる。しかし日常そのことを納得せずに過して、地域の大学の恩恵を受けていることが実感されていないのだと思う。これは香大の広報活動や、とくに卒業生の意識に問題があるのかも知れない。情報発信が日常的に行われていないのだろう。大学も地域住民も相互関係を正面からとらえていないことを感じる。このアンケートは、私の視点を問う契機になりました。(医療・保健)
- 学士入学や、進学時の事情で、大学入学機会を持たなかった、向学心のある人々に、18才(標準)入学が普通との教育常識でなく、試験(入学・入院)も向学心のある社会人用の開発が必要と考える。いつでも大学で学びそこねた科目が学べる。いつでも学びたい科目が学べる大学にしてほしい。このアンケート等を実施することにその芽生えを感じる。健闘し実現を願ってます。(社会・福祉)
 - 視覚障害者の受験(入学試験)ができるように大いに希望する。(社会・福祉)
 - 地域社会と香川大学との関係や交流は、積極的であるべきだと考えますが、国立大学としての理念と誇りをもって教育・研究等に邁進していただきたい。(社会・福祉)
 - 農学部のみでの交流である。(社会・福祉)
 - 大学の主体性を大切に。地域社会の問題点はどんなものか。市民から大学に問いかける窓口が必要。一般人の学ぶ気持を大切にすがる、自由でなく厳選した人達の再教育(入学前の一般常識試験をクリアする)。学士より研究者を作り出す土壌作り。早急の一つからでも実践して下さい。(社会・福祉)
 - 私の周囲に、香川大学の卒業生が小学校か中学校の先生をしています。地域のために教育にも、社会参加にも積極的に対応され、感謝をしています。今後共に、21世紀を造る地域の大黒柱として、貢献をしてもらいたいと思います。(社会・福祉)
 - 私事、役職をお引き受けしてより、まだ日が浅うございますので前会長にお目通しを頂きました。私の思い出はS53年頃より、公民館勤務に就き香川大学から講師をお招きし、夜遅くまで何回となくお勉強させて頂きました。今、目をつむりますと、立派な先生のお顔が新鮮に浮んで参ります。あれから20年余の年月が経ちますが、ボランティアだけは続けています。この世に生を受け元気な間は、何かお役に立てたらとの思い頑張っていますが、もう人のお荷物になっては、いけないと考えております。御指導の数々、ありがとうございます。(社会・福祉)
 - 大学には大変に立派な面と、とんでもないと感じる面を持っている。このアンケートについても、立案されたことは立派であるが、相手の都合も判らぬままに上から民間に命令する様な調査表の送付では、学校と民間とはいつまでも平行線が交わる事ができない気がする。地域の中で地域の学校が、地域の人との交流を考えるならば、両者のコミュニケーション作りから働きかけてくるべきであろうと思う。書類を読む・記入する・返送する、たったこれだけのことで大変に忙しい他の業務をさいています。再考下さい。(社会・福祉)
 - 地域住民との交流をもっと深める行事等を企画、実行すべき。(社会・福祉)
 - 大学の開放講座を受講したことがあるが、余りにもアカデミックすぎて、負担に感じたことがあった。年齢層を問わず、気軽に受講できるシステムや内容があればと思っています。(社会・福祉)
 - 地域に根ざし、地域に貢献する人材を養成することを進学目的とするならば、今後一層地域社会との交流を促進することが望まれる。工学部の拡充発展に期待している。(社会・福祉)
 - 関心がないのかもしれませんが、閉鎖的な雰囲気があります。学生が、地域にもっと出て来る事が期待されます。(社会・福祉)
 - 一部の先生ですが、研修会にご出席いただき、リーダーシップまたは講師としてご活躍下さっていることに感謝しています。今後ともよろしく願います。(市民団体・ボランティア)
 - 地域社会との交流を深めてほしい。(市民団体・ボランティア)
 - (1)工学部の開設されたこともあり、教育・研究の分野でも積極的に地域と交流し、地域に開かれた大学となるよう鋭意努力されたい。(2)専門高校の中には大学生の教員養成の面で教育実習で組織的に協力をしている。地域社会を担う人材の養成に関して、専門高校出身者の特別推薦枠(入学)の拡大を考慮してほしい。(市民団体・ボランティア)
 - とかく大学は、一般の者にとってはかけ離れた所という感じがしていたが、開放講座、放送大学の科目履習、各種委員会に参加して、香大の先生方のご指導を戴くことが多い。先生方のご指導は、専門的視野に立ち、適切なお助言ご指導をいただき、身近な関係として受け入れられ、親近感を強く感じます。(市民団体・ボランティア)
 - 香川大学が、地域住民の再教育に、もっと熱心に取り組んでほしい。再教育講座場所は高松市だけでなく、西讃地方(例えば、観音寺市・善通寺市など地方で)開催して欲しい。(市民団体・ボランティア)
 - 地域主導の研究会に香川大学の先生がおいでくださって指導をくださったときは、本当にすばらしい情報をいただき心がはずみます。もっと多く御指導をいただきたいと思いますが、大学の先生は研究がありますのでご無理を申せないし、また私の市のように財政の苦しいところでは、十分なお礼も出来ないし、いたしかゆしです。でも子どもの指導・母親の指導・老人の自立指導など、いろいろ大学と交流して指導いただければと思います。(市民団体・ボランティア)
 - 地域との交流についての情報が少ないし、情報を得る機会が少ない。学生をもっと外に出し、(社会学・文化等)体験学習させては…! 指導者としても、☆人間雑学を地域で(交流)学ぶ事を望む。(市民団体・ボランティア)
 - 率直に申し上げまして、このアンケート用紙をいただいて戸惑ってしまいました。香川大学に関しましては、ごく一般的なことしか知りませんので…。(市民団体・ボ

ランティア)

- アンケート結果の発表。これらの調査に基づく大学改革計画の作成と実施。期待しています。(報道・出版)
- もともと、教員養成大学であるが、教官達の香川の教育の問題についての関与が少なすぎる。また、教育界に影響力をもつだけの実力者がもっと欲しい。現実の教育問題研究テーマとし、その結果を発言する教員がもっと増えてほしいし、大学としての発言・行動が欲しい。(報道・出版)
- 香川での人材育成機関としての功績は自他共に認める。加えて、教授、教職員の研究成果を大いに期待する。これまでも地方紙としてその研究成果を紙面で紹介すべく努力はしてきたが、今後さらにその傾向を強めたく思う。研究機関としての香川大学の功績が地元紙の紙面をひんぱんに飾ることを願う。(報道・出版)
- 香川大学と報道関係特に支局長レベルの交流は、全くといってない。寂しい限り。大学はキャンパスから打って出るべしと思うのだが…。地域の核として期待されるのは当たり前と言えは当たり前だが、それを踏まえて、もう一つハイレベルの研究も同時にやっていただきたいのだが、これは高望みなのだろうか。(報道・出版)
- 地域に香川大に対する敬意(評価)が、あまりないような気がする。(報道・出版)
- 私は産業界との付き合いが中心の仕事をしているが、香川大学については、とくに工学部に期待している。地元の企業のトップの方々も、共同研究をやりたいとの考えを持っておられるので、積極的な交流をされることを望んでいる。(報道・出版)
- 香川大学もふくめた国立大学全般に対し、なお地域社会が寄せる期待には大きなものがあります。交流に関する調査・研究は引き続き実行されたいが、交流そのものに意を尽くされるよう望みます。(報道・出版)
- 地域にひらかれた香川大学であってほしい。本の上の勉強ではなく、もっと現実の社会問題に根ざした学問の場であってほしい。例えば、瀬戸大橋の利用向上・地場産業の進展・市民の余暇の質向上など、アイデアを行政に出し、交わりを深めてほしい。狭い枠にとじこもった大学は、もう時代遅れではないだろうか。(報道・出版)
- 香川大学のイメージ・特色が全国にアピールできるような特徴を、まず開拓することが大切ではないだろうか。例えば、目の前にある瀬戸内海については、香川大の研究蓄積が全国一であるといったような。そうした蓄積の上に立ってこそ、地域社会との交流のプログラムは生まれてくると思う。研究レベルを上げる努力を重ねないと、今後も進むインターネット時代を考えると、発信の拠点たりえないのではなかろうか。(報道・出版)
- 香川県は、京阪神に近く、昔から大学は京阪神地方の大学への入学が多いですから、香川大学と地域社会との交流は、あまりもたれていないのが現状である。しかし、今後は、情報社会になった今、香川大学と香川県は、もっと強いつながりを持ち、政治・経済・文化の発展につくしてほしいと思う。(報道・出版)
- より積極的なリーダーシップを発揮してほしい。(報

道・出版)

- 高松に住んで2年が過ぎました。香川大学は、他の地方の国立大学と比較して、親しみやすい感じがいたします。香川の県民性もあるのでしょうか(もっとも教職員の方々もみんな香川出身ではありませんが)教職員の方々も何か落ち着いて「讃岐ペース」で研究に勤しんでおられるようです。(報道・出版)
- 文化活動をしている立場より。香川大学だけではなく、学校施設をもっと文化団体にも開放してほしい(スポーツ団体には体育館、グラウンド等と開放している所が多い)。(文化・芸術)
- 退職後、他県私立大学に就職して思ったことは、香大はタコソボ大学性がかなり深い大学ではなかったろうかという点、教員の定期的人事交流が活発になされていないこともその原因の1つだと考えます。市民の大学施設(とりわけ附属図書館および各学部附属資料室)特に講堂の地域的利用が全く閉鎖的な点は、納税者の1人としても、在職中から不満をもっておりました。市内の一等地に孤高をまもっているだけでは、ますます県民から相手にされなくなっていくのではなかろうか。市民の附属図書館利用%はその後どうなっているのでしょうか。風通しのよい明るい香川大学であってほしいと念願しております。少々からいことを申しましたが、他県に勤務するようになって、一層こうしたことを痛感した次第です。(文化・芸術)

福岡県

- (1)大学の理念と地域社会サービスは両立する。何迷うことがあろう。(2)大学も地域も、その存在の活用について相互に意欲が薄弱すぎる。(3)特に大学側の情報公開が極めて不足している。これより手がけよ。(4)九州大学は、九州にロケートする国立大学である。福岡や福岡都市圏のためのローカル大学ではない。九州の課題に十分関心を持ち、交流のあり方を常に点検してほしい。(政治)
- 九州大学はわが国有数の国立大学であり、常に国際社会に対する貢献を目指すべきである。地域社会への貢献も大切ではあるが、それは第二義的なことではないか。グローバルな研究者間の競争に勝ち抜いて、その成果を学生に伝えることが大学教育であって、地域社会との交流を主に考えるのはアカデミックな競争からの逃避になりはしないのか?(政治)
- 九州大学に求めたい課題は多いが、予算の中で特に研究・調査費等が少ない。予算の実態を知る人ほど、依頼することを遠慮するのではないかとと思う。研究材料を求めるにも予算上支障がある、との話しも伺っています。このような状況下では、期待する方に無理がある。国家財政が厳しい中ではあるが、研究費等の増額が先決と私は思います。(政治)
- 科学・技術部門に於いて、民間企業との交流・共同研究が、近年とみに進んできているようだが、民間側から見

た時には、まだまだハードルが高い。どのような人材・研究があるのか、情報公開を、もっと広げれば、“民”の方からも、もっと大学へアプローチしやすくなるのでは。人文系に於いては、非常に印象が薄い。地元マスコミや自治体審議会委員等で教授をお見かけするが、いかにも底が浅い。一昔前の九大のイメージそのままの印象を受ける。もっと良い人材を集めて、幅広い学識や経験を有する人を輩出してほしい。科学者のみの発想でないトータルな発想で、地域社会をリードしてほしいものです。

(政治)

- 九州大学の存在と役割は、今後、益々大きくなるよう期待している。九州大学は、産学官連携・地域との連携・福岡県・九州の大学間連携の中心的役割をはたせるよう、教職員の意識改革・体制の充実をはかるべき。九州大学の研究情報・施策や企画情報・交流情報等積極的開示、PRに力をよりそそぐべき。九州大学のトータルイメージは、ある程度高いと思うが、教授個々人のイメージは、あまり高いとはいえないのではないかと。もっと個々の教授が目に見える形で活躍してほしい(地域的にも、全国的にも、国際的にも)。(政治)
- 大学側は県民に情報公開を積極的に行うべきである。(政治)
- 現在進められている糸島地区への移転については賛成できない。地域的に片寄っているし、福岡一局集中を更に強めることになり、県土の均衡ある発展、九州全体の発展につながらない。移転するなら、九州の中心、交通的にも東西南北高速道が交叉する久留米地区が最適と考える。象牙の塔の時代は過去のこと。せっかく莫大な国費を費やすのだから、地域の政治・経済・文化の中心的役割を果たしてもらいたい。地域に開かれた大学、国際交流の拠点となる大学であってほしい。大学の情報公開をもっと新聞等でも広め、県民に周知させるべきだ。(政治)
- 大学の教官に対しては、高い学問を極めて戴きたいという願いと、地域社会や行政や、企業に対しストレートに役立つ、実践的研究や教育の機会の提供を期待する両面がある。従来の国立大学(九州大学も)はどちらかというとうと、前者で、閉鎖的で地域社会や職場には無縁であったように思う。九州大学が新たに立地するに当り、地域に開かれた大学として、地域と関わりを深めて欲しいと思うが、その余り、それに振り回されることがあってはならない。世界をリードする高度な学問の追求にも全力をあげて戴きたい。公私立の大学生共、勉強が足りない。遊びや友達作りの為に、税金を使われてはたまらない。(政治)
- 環境、バイオ、獣医学分野の充実を。(政治)
- 学生に対し、九州地方の一エリート校としての誇りだけで学究に専念しているかの様な認識が私にある。高校から大学への進学指導に問題があるとは思いますが、大学自らが、公共性、社会性を発揮し、学生達の意識変革を促してほしい。そして(大学自身が)地域社会の一員であることの自覚から、研究材料を地域の中に見出すエネルギーを培ってほしい。(政治)

- 九州大学は一地方大学ではなく、全国的レベルの大学であることを教員も学生もそして卒業生、地域の人々ももっと自覚し、大学のレベルアップに努力して欲しい。国の中央行政の審議委員等には東大・京大・東北大・北大や早稲田・慶応大等の教員は選ばれるが、九大の教員が選任されることは極めて少なく卒業生としては片身のせまい思いをしている。(政治)
- 県行政の各種委員の先生と交流がある。大学教授の中にはマスコミに進歩的に思われたいポーズが多く本音と建前のギャップがある。(政治)
- 九大の移転がすでに決り、新しい場所へと移ります。その条件の一つとして21世紀に向けて魅力ある大学の設備と合せ、地域や県民が生涯教育の一環の窓口の充実、国際化にふさわしい語学の受け入れと留学生や外国人との交流が実施出来るような大学に。※移転のチャンスを生かし予算を切りつめることなく周辺の環境と調和の取れた、ヨユウのある学校環境で国立大学と誇れる九州大学にしてほしい。(政治)
- 大学の移転は福岡空港の玄海沖移転のあと地が Better だったと思う。地域に開かれた大学との期待が遠くなって薄れそう。その意味で人材を地域の中に出前してほしい。大学での学問は都市の発展に貢献するばかりでなく、過疎、活力不足、高齢化の著しい地方の底上げに生かされるべき。(政治)
- 九州大学移転後のキャンパスは、なるべく塀を低くして、見透しのよい大学になりますように、期待します。また中国人をはじめ留学生は、九州大学で学ぶことを大変誇りにしています。バイトなどで苦しくとも活いきしています。今後とも留学生をさらに増やしてほしいことと、留学生に温かい大学の環境づくりに期待します。(政治)
- 各部とも世界一をめざすという目標がないのではないかと。各部とも他の大学には、これだけは絶対まけないぞという内容があるのか。誰にもまけない人間、少々のことでは、へこたれない人間づくりをしているのか。日本、そして世界に貢献できる人間と教育をしているのか(教授の視野がせまいのか? 広いのか?)。(政治)
- 卒業生でないため、又、産業等の関わりがないので地域との交流関係については、率直に言って、分からない。何となく感じていることで設問に答えている。→分からないという欄が必要。ただ、周囲には卒業生も多く、尊敬する人は多いが、現在の九大関係者については、私の知る範囲では良い印象のある人は少ない。審議会委員等でも、行政追従の人が目立ち、地域にとっては、むしろマイナス面がみられる。又、九大卒でなければ…という学問が随所で見られる。地元出身の人との親密度と、他地方から来た人との対応に温度差がある。財界・政界では顕著。九大移転問題など、学内の不統一が著しく、地域との関係は今後問題が起きそうである。(政治)
- 権威至上主義。(政治)
- 九州大学が、地域のさまざまな問題に取り組もうとされている意欲には期待しております。地方自治体についても、より積極的なかわりをもっていただければと思います

- ます。(政治)
- 大学での研究、情報を地域社会に役立ててほしい。(政治)
 - 九州地区唯一の頭脳機関として、総合的に使命を果たして欲しいと期待致しております。(政治)
 - 九大は、永い間エリート校としての地位にあったことから、教授も学生も、庶民感覚を忘れていたと思う。今、学歴社会が崩れつつあり、大学も国立から、個性を重視した教育方針を持つ私立への選択が強まっているように思う。九大はエリート校であるとの思いを改め、もっと地域社会との連携を強めるべきである。地方自治体は行政の方向を定めるに当って、九大からの支援を願っている。(政治)
 - 同じ県内とはいえ、距離的に離れ過ぎているので大学との交流などは、全く、意識をしたことがない。(政治)
 - 九州大学は福岡県のみならず、九州あるいは西日本の大学のリーダー的存在であると感じています。しかし、まず、地元、福岡県の中心部、福岡市のみならず、その存在がある気がしてならず、狭い範囲での地域社会との関係や交流になっている気がいたします。医療の面では、開業医や大手病院で関係・交流はありますが、経済界では、その存在が目に見えるものはありません。今後、地域経済を担う新技術やベンチャー企業の育成を含め、九州大学が持っているノウハウ、人材を、遺憾なく発揮していただき、福岡県下の市町村に、そのネットワークが広がるなら、西日本のリーダーが全国、あるいは、国際的な注目を浴びると思います。シリコンバレーは、日本人はかなりの人が知っておりますし、九州大学が、福岡県下市町村を生きかえらせ発展させるなら、その地位は高まると思います。九州大学の持てる“力”を是非とも地域社会へ還元し、共に発展する大学であって欲しいと思います。福岡県下の小さな市ですが、期待しております。(政治)
 - 九州大学は各分野において、日頃から十分に地域社会に交流等について図られていますので、今後も今までと同様によりしくお願い致します。(政治)
 - 地域社会に開かれた大学として、(1)情報開示。(2)公開講座の拡大。地域社会に貢献する大学として、(1)産学官労の共同研究・開発。(2)地域政策のシンクタンクとしての役割。人材養成は、人間性・個性豊かな、世界に通用する人材を。(政治)
 - 私は北九州市に住んでいます。九州大学が福岡市にあるため、ほとんど接点がありません。九州大学が何をしているかもわかりませんし、交流等もありません。OBとしても、何か連絡があるということもありません。私たちの関心としては、市立の北九州大学の方にあります。しかし大きな方向性等を決定する場合、九州大学の先生方のご意見が重要であるということは理解しています。もっと開放し、九州地域に貢献すべきであると思います。(政治)
 - 研究費を国からもっともらい世界における特色在る国立大学であってほしい。企業との連けいを密にし、企業と地域そして国家の研究機関であってほしい。(政治)
 - 現在、北九州市での議会にたずさわっていますが、九州大学は福岡市との関わりが強く、当地との交流はない様に受け止めています。素晴らしい大学ですので、積極的に北九州市市政にも参画が出来ればと考えています。(政治)
 - 九州大学の入学式や卒業式に、私たち一般市民が出席できて、「地域の若者」として、「地域全体の人的財産」としてその成長を祝うことができれば、理想的だと思います。(政治)
 - 九州大学は福岡市の大学であるようなイメージがある。もう少し広い範囲での交流ははかれないものであろうか。(政治)
 - 九州大学は九州の名門校であり歴史と伝統のある学校だと思います。地域との交流と親善を深め信頼される学校になる様期待致します。(政治)
 - 開かれた大学ではない。地域との交流も特定している。(政治)
 - 九州大学の所在する福岡市及びその近郊にいる場合はより身近に感じるのかも知れないが、日常的には特別な交流もないし、遠い存在という印象である。情報不足なのか、九州大学がどのような対外的なアプローチをしているのかわからない。公開講座の積極的な開催、特に出前による郡部を含めた広域的な事業を望みたい。また、他の公立、私立、国立を含めて、社会人、定年退職者で学問を志す者に積極的に門戸を開いてほしい。(政治)
 - 九州の最高学府として、もっと地域と密着してほしいと思います。ともすれば、地方では鼻につき、中央では卑屈な態度があるのではないかと気になります。(政治)
 - 九大は移転を契機に、“21世紀の在るべき姿の大学”として再編成して欲しい。特に国際交流、情報、文化芸術の力点がどこに在るのか。ダイナミックに交流、変化している福岡地域、日本の対アジア戦略の交流、受入れ拠点として、骨組みを大きく組立て人材を育成して欲しいと思う。校舎が狭く、分散しノ爆音の下で…このままの九大では—Localに沈没してしまうのではないかと！全く期待できないのではないかと。移転先に隣接してマルチメディア city を設け、九大の技術陣と産学共同の Newtown を造り、九大卒を全部東京、大阪にやらんでいい位の町づくりに智恵と実践力を示して欲しい。世界への人材をドンドン輩出して欲しいと思っている。(政治)
 - 北九州市ではなく福岡市にあるので日常は関心が薄い。北九州市は、公立北九州大学を運営しているため北九州大学と北九州市の関係が非常に深く九州大学とは医学部以外は、関係がない。(政治)
 - 行政マンとしては、地域に役立っているが、かたよった立場、考え方で市民団体、又は、マスコミ等で、リーダー的役割をしている者が多い。(政治)
 - 九州大学に限らず、各大学は地域に開かれたものにすべきである。(政治)
 - 個人的な経験からという極めて限られた視点から言わせていただければ、技術も知識も少ない市民ボランティア、特に反権力的な環境保護運動等についての支援はほとんどない。一方、自治体での審議員として、反社会的

行為を行う教員は多い。大学が市民社会にいかに関与できるのか、学術研究という象牙の塔にいて許されるのか、21世紀の社会に対応できる大学についての哲学がほしいものだ。(政治)

- 大学自治を確立し、研究と学問の自主性を実現すること。又地域社会に開かれた大学として社会発展に貢献出来るよう、情報の公開などを制度的に保障することが必要。若い研究者などが、新たな学問的な研究に意欲が持てるよう国による財政措置を行うべきであり、オーバードクターなどの実態を解消するよう国・公立の大学人は努めるべきである。学問研究の立場の大学人から、地域社会との接点、それへの参加貢献の道を考え、絶えず追求し、トータルなその地方の文化レベルの向上へ積極的にとりむべきである。(政治)
- 地域社会との交流を積極的に進め、大学の英知を生かすことが必要である。社会人への門戸を、もっとひろげることが必要である。(政治)
- 九州大学に限らず、広く本町の特性に合った機関(大学、研究所)と交流していきたい。(政治)
- 今後、地方分権時代を迎える中で、地域との交流は、活発に行って欲しいです。(政治)
- 現在も講師等で依頼していることがあるが、地域社会の方がもっと積極的に活用すべき努力を要すると思う。(政治)
- 自由な研究や学問の勉強に努めるべきで、特定の企業や、マスコミに常時関わるべきでない。あくまでも、独自に自由な考えを大切にし、その成果を広く社会に還元すべきである。(政治)
- 福岡県人、否、西日本地方に於いて最も憧れる大学に間違いのないと思う。子弟達が地方大学の雄として入学を熱望していることは周知の事実です。大学側としても、教授、学生が一体となって地域社会に積極的に行動して欲しいと思う、そのシステム、ネットワークを早急に整備を願うものである。(政治)
- これまでの九大は、良くも悪くも大学入試の偏差値レベルの評価に安住していたように思われ、九大独自のものを造ってこうとする意欲が感じられなかった。これからの九大は、学生にとっても地域にとっても、誇りとできる特色のある大学造りを目指してほしい。(行政)
- 一般的に云って、大学での研究生生活、成果は、一般の社会活動にあまり役立っていないように思う。問題意識が、研究のための研究に終わってしまいがちのように見受けられる。九州大学のように人材、整備がハイレベルな大学が、もっと社会活動上必要性が強いテーマに本格的に取り組めば、もっと社会的に有用な研究成果がもたらされる筈と感じている。レベルの低い大学では、身近なテーマを取り上げて「研究」に取り組んでいるケースもあるが、成果は常識的な水準以下の場合が多いだけに、ハイレベルの大学の学問的研究に期待するものは大きい。(行政)
- 大学と地域社会における互いのニーズを探り合い、可能なものは、積極的に協力関係を持てば良いという考え方であるが、基本的には、大学本来の学問追求の姿勢、と

りわけ、基礎的分野の研究は、おろそかにしてはいけな
いと思う。福岡に1年しかいなかったのに、九州大学の
様子はよくはわからないが、地域社会の期待は大きいと
思う。(行政)

- 地域社会との交流、なかんずく、企業、教育等と結びつ
いた研究は今後の大学のあり方として考慮すべき問題
であろう。しかし地場産業や、地方政財界、行政にのみ
に人材を供給するのではなく、世界的視野で判断できる
人を(その人達が地域社会で生きて行くにしろ)育てる
べきと思う。分野によっては大学が必ずしも中心的役割
を担うとも言えないが、その場合はコーディネーターと
しての役割を大学が持つ必要がある。(行政)
- 九州出身者としては、他人に誇れる大学ではあるものの、
九州大学が、地元のためにどれだけ役立っているかとい
うことは皆目見当もつかない。一般的に肩書(箔)をつ
ける大学という感じで見ている者が多いのではないかと
思われる。九州の代表選手という意気込みでもっとも
っと活躍してほしい。移転地の問題で新聞紙上をにぎあ
わせても意味がない。(行政)
- 福岡市に居住して約1年で、勤務先が繁忙なため、九州
大学の知識については、ごく一般的なことしかわかりま
せん。そのため、このアンケートは、あまりお役に立ち
そうもないことをお許し下さい。今後とも地域社会に貢
献されることを希望します。(行政)
- 九州大学は、西日本におけるリーディングユニバスティ
としての役割を求めたい。このため、地域とのつながり
も、福岡県のみならず、九州全体を視野においてもら
いたい。また、研究活動も全国・国際レベルの内容を期待
している。地元自治体企業は、これらの活動が進められ
るよう支援して行く必要があり、交流を通じて、人材の
育成・研究のレベルアップが図られることを期待する。
(行政)
- 九州大学は、九州地域における教育・研究の中核であり、
もっと積極的に地域との交流を図り、地域の発展に寄与
してほしい。(行政)
- 九州で唯一の旧帝国大学であり、今後とも、有能なる人
材の育成に貢献されたい。(行政)
- 公共事業に係る技術的な検討委員会で、九大の先生方に
御指導頂いております。北九州市に在住しているせいか、
九大に関する情報といえば、キャンパスの移転の話ぐら
いしか目にしません。土木学会は地域とのつながりの多
い学会ですが、学会活動をリードすることで九大が福岡
地域と連携していると思っています。(行政)
- 九州地域を代表する学問の府としての認識が強く、福岡
県地域の教育・行政・経済との関わりは薄いと思われる。
また、医療経済分野での研究など、地域との関わりは耳
にすることが多いが、政治・行政の分野では活発な活動
が見られない。(行政)
- 基本的に、九州大学は日本の大学としての重大な責務を
負う大学の一つである。このことから、本アンケート7
頁の事項については、B項が第一の責務と考える。今後
ともその方向で期待する。しかし、一方で福岡県の国立
大学(ユニバーシティ)でもある。福岡県民のニーズに

応えるべき責務があり、九州大学（＝福岡県国立大学）と福岡県（民）の関係のあり様は、佐賀県・大分県等中国地方・九州地方・沖縄地方の国立大学の模範となるべき期待がある。そういう意味で、本アンケート7頁の事項については、A項が第二の（しかしながら重要な）責務と考える。今後とも一層の強化、拡大を期待している。（行政）

- 大学は、就職のための予備軍育成機関となっている。履歴書に学歴を記入し、誇るためでなく、全人教育をみざすべきだ。他の私立大学等との相互で単位を取れる制度や、地域住民が講義を聴講できる枠をもうける。生涯教育や社会人の再教育にも力を入れてほしい。全世界の各国からの留学生も学びやすい環境にする（学生の生活費を含めて）。（行政）
- 長崎県出身で高校卒業まで出身地で教育を受け、九州大学のことは、志望大学としたこともあり、よく知っているつもりである。職業柄日本全国を舞台に勤務し、このたび初めて九州大学の近傍で勤務しているが、勤務期間が短い（今年4月より）こともあって、まだよく理解していない面が多く、設問に対して直感をもって回答しており、たいへん無責任な気もしている。しかし、九州で大学といえば九州大学と信じ込んでいたところ、地元でも九州大学の存在感が薄いような気がしている。さらに地域社会にとけ込んだ九州大学をみざすべきではないでしょうか。（行政）
- 地域社会の発展のためにも地場企業のトップになる人材を輩出してほしい。（行政）
- 地域社会との交流は第一義的に重要。但し全国的な視野も必要であり、又、国際的なビジョンも必要。（行政）
- 優秀な国立大学としての伝統と蓄積された研究資料等を社会に還元することはどの大学においても必要なことであり、どちらかという閉鎖された大学は、将来の新しい時代には必要性が問われることになるでしょう。そうかといってあまりにも実践的な面だけを追求して本来の研究がおろそかになることも如何かと思いますが、そのバランスのとれた地域社会との交流、寄与等は、両方とも必要であり、利のあることと思います。特に学生にとっての地域社会での実習、見学、体験等は幅広い人材教育に必要不可欠のものであります。地域社会ばかりでなく社会全体の将来への多くの面での改革に大学は積極的に係わるべきで、それが国民全体のレベルアップにつながるものと思われます。（行政）
- 基盤研究は大学の特色を生かして、独自にやられるべき。技術開発は、福岡特に北九州地域の産業、又、将来の環境を大事にする、ベンチャーを含めた新しい産業基盤について、実践的に交流・技術開発を学生と共にやられては。（行政）
- 行政改革、規制緩和、地方分権問題等、今から我国は大変革の時代を迎えようとしており、また、少子・高齢化社会への対応や、国際的にも厳しい立場にあり、世界をリードしていく責任国として、各国からも大きな期待をされている。そういう時代を背景として国立大学の積極的な取り組み、推進力（政治、経済、文化、医療、福祉、

教育、研究他）に期待をしています。（行政）

- 行政の審議会等の委員委嘱並びに講師の依頼を考へても、九大の教職員は多忙であろうという先入観をもつ。九大側と地域（地方行政）との交流の不足か、また、我々の大学に関する直接的な情報の収集不足か？（行政）
- 地域との交流を全く無視することは、事実上出来ないことと思われるので、ある程度やむなしとするが、国立大学としての役割に重点が置かれるべきであると考え。地域との関係は、県、市、私立のもので、対応出来るのではないか。（行政）
- 福岡に転勤になってからまだ数ヶ月ですので、意見を述べる程ではありませんが、転勤前は「つくば市」に居ましたので筑波大学との比較でいえば、筑波大学は地域に密着していたように思います（先生も学生も）。（行政）
- 九州大学は、その歴史と伝統、教育・研究レベル等、全国ブランドとしての条件を揃えており、今後も全国的視野の中で大学のあり方を考えていくべきである。東京から見ると、九州大学は「旧九州帝大」という地方大学の一つというイメージが強く、もっと全国に、更に世界に情報を発信していくという積極性が求められるのではないか。地域・日本・世界という、各々のレベルに貢献しうる普遍性を、どう確立していくかが問われているように思う。（行政）
- 九州大学教官の視線で地域社会を眺めるのではなく、地域社会の視点に立って交流を進める姿勢を持たねば、全国的に通用する大学とはなり得ないのではないか（七帝大の最低評価に位置する現実を認識して欲しい）。（行政）
- 福岡県の行政とのかかわり合いは、10年程前までは審議会の委員就任等個人的なものが多かった。その後は、県の産業、研究、計画策定など、色々な分野において、（産・学・官）連けいをとる協力が得られるようになったと思う。大学側においても開かれた大学を目指し、行政においても地域の智恵、ノウハウを得る為にだんだん相互理解が出来つつあると思う。今後とも大いなる交流・協力を期待したい。（行政）
- 研究活動、大学の諸機能が地域、世界に開かれたものとなることが望ましいと思う。さらに、大学の施設がへいに囲まれた閉ざされた空間となるのではなく、地域の居住環境、都市環境の質の向上や、良好なコミュニティーの形成、国際的な交流の場等に資するような空間として整備・管理されるべきである。（行政）
- 九州大学は高い学問的レベルとその多くの成果があるにもかかわらず、地域社会一般に対してはあまり九州大学存在の説明がなされていない。どの様な教員がどの様な研究をしているのか、そしてどのようにコンタクトできるのか。象牙の塔ではなくて、もう少しオープンに情報（研究などの）を提供すべきであります。また、もっともっとマスコミや大学外のオープンステージに進出して九州大学として、九州大学の教員として発言すべきです。大学も宣伝しないと優秀な学生は集まらなくなります。宣伝は学問背景の主張です。基礎研究は極めて重要ですが、それとは異なる「研究の為の研究」「学界の

中だけの研究」は止めて、多くの人々に評価してもらえ
る研究をして欲しい。(行政)

- アンケートに於ける地域社会の範囲が不明です。九州大
学としては係わるべき地域社会をどの様にとらえられ
ているのかを卒業生の1人として関心を持っています。
(行政)
- この調査も含めて、大学側に「地域」と「全国、世界」
の対立概念、又は「地域、市民ニーズ対応力」あるいは
「専門的な研究力」の対立概念がありはしないか。福岡
県や九州が抱えている課題は、即、グローバルな、かつ
本質的なものであり、それらをフィールドとしない「専
門的研究」の姿勢が、世界的な研究にならない原因では
ないか。九州大学を含めて細分化された「専門性」が、
大学の役割をみえなくし、役に立つ人材を養成できなく
なっている。求められているのは徹底した「知の融合」
であり、そのためには、「専門化、細分化された大学人」
が、本質的な課題を抱えている地域や企業人と積極的に
交流すべきである(国立大学内にアメリカの大学のように、
ビジネスコースを設けることも有効)。(行政)
- いわゆる理工系においては、地域企業や地方公共団体の
研究機関との共同研究に積極的に参加していただきたい。
文系、理系とも大学教官が地方公共団体の審議会等に
積極的に参加していただきたい。住民の自発的活動に
有識者としてアドバイスをしていただきたい。(行政)
- 大学は「社会との窓口の小さい部屋にとじこもって、論文
が勝負の世界」という印象。基礎研究も勿論大学の役
割であるが、現代の日本が、社会が必要としている研究
開発、応用にも重視・力点を置いてもらいたい。大学が
持つ研究成果や技術を、例えば中小企業(大企業には
種々の形で参画していると思うが)を中心に、技術援助
共同研究の形で地域社会に、産業に目を向けて、どしど
し学外に飛び出して行ってほしい。例えば北部九州は、
かつて四大工業地帯といわれた時代からの中小企業の
技術の集積があり、それなりに頑張っている企業もあり、
ベンチャー企業も次々に育っている。先端研センターの
強化や各学部・学科がこぞって学外に目を向けることを
期待する。(行政)
- 県の審議会、検討委員会、研究会等の委員に積極的に参
加いただき感謝している。(行政)
- 設問12に現れる、九大でなければ的な発想は如何か。
九大自体に地域に貢献しようという意識あるのかなと
思う。受身の姿勢でなく、積極的な貢献を期待している。
(行政)
- 九州大学は日本有数の頭脳集団であり、九州の最高の大
学として地域の活性化を視野に入れた研究等も行うべ
きだ(新産業の育成、技術開発等)。基礎研究+応用研
究(大いに特許もとってもらいたい)。(行政)
- 全国での比較の中で、九州大学のレベルが相対的に低く
なっている様で(偏差値ではない)九大出身ではないが、
地元民としては残念である。(行政)
- 九州大学は、地域社会、特に福岡県を中心とした九州北
部において、文化・教育、研究、行政等へ多大な貢献を
果たしてきたと思います。しかしながら、地域の産業界、

住民等については、いまだに敷居が高いという感じがし
ているのも事実です。今後は、さらに地域の企業、住民
等との交流を積極的に推進するなど、地域社会へのさら
なる門戸の開放を期待します。(行政)

- 社会保障構造改革が進む中で各種審議会等に九州大学
の教授等関係者に委員として積極的に参画いただいで
おり、今後とも更なるご協力を仰ぐことが必要と思っ
ています。(行政)
- 地域との交流、情報提供等にこだわることはなく、大学
の特徴を画策することが大切。地域住民との交流や企業
との共同研究等は、大学側が主導することが重要。最近
は住民のエゴ・企業の営利主義に、大学や研究機関の独
自性が薄れている。開かれた大学、地域に貢献する大学
という現在流行の言葉は偽善が多い。教育機関・研究機
関として確固たる信念をもち、まい進することを希望す
る。(行政)
- 移転を契機に本格的なCOE化を進めること。また、新
キャンパス周辺に民間R&Dや研究開発型企業を計画
的に配置・導入し、世界トップレベルの産・学・住・遊
が整備された、リサーチ・ペニンシュラ(半島)をめざ
すこと。(行政)
- 今後、実践的な教育の充実に努めるべきだと思いますが、
独自のカラーなり、特色のある大学であることが望まし
いと思われまふ。(行政)
- 九大は、九州の大学という殻が抜けられない面があった。佐
賀・宮崎・鹿児島各大学は昔から地域とのつながりが
あったが、九大は10年程前から福岡県に…という意識
をもつようになったと思う(県の関係審査会委員への参
画など)。九大の卒業生は、専門に対する勉強は出来が
良いかも知れないが、一般的な教養が低い。頭が良いか
も知れないが、その良さを発揮しきれないままタフタ
ンとしている者が目につき、卒業後、会社等へ入ってか
らの努力は他の大学卒業生より低い。頑張るという意識に
弱く、すぐあきらめる者が目につく。頭が良いのだから、
もっと頑張り屋になってほしい。(行政)
- 日本では、今まで学歴社会が長くつづいている。私が30
数年前大学受験の時、大学は名前で選ぶのではなく、学部
や学科、教授陣で選べと助言を得た。近年やっと各大学
ともその特徴、個性を協調する時代になった。九大も伝
統ある総合大学で組織が大きすぎて、動きがとれない部
分もあるかも知れぬが地域に根ざした小まわりのきく
九大ならではの個性の強い大学・地域交流を求めたい!
(行政)
- 地域社会と交流し、貢献することは重要であるが、卒業
生が組織の中で学閥等を利用して利益を図ることは望
ましくない。(行政)
- 正直に申し上げると、これまで大学と地域社会との関係
や交流について、特別な認識はもっていなかった。従っ
て、適切な意見はできないと思うが、勝手な意見として
書かしてもらおうと、現状は企業等の物を創り出す者との
交流を中心としたものになっていると思っている。しか
し、これからは、人の心を中心とした生活者との係わり
を中心にし、環境保全の問題や老人福祉の問題等これま

で歩いて来た社会になかった分野に的確に対応できる生活者を創ることに力を注いで欲しい。(行政)

- 地域社会とのかかわりもある程度必要であるが、グローバルな幅広い視野を失ってほしくない。(行政)
- 大学は地域社会に貢献する一方、地域を超えた、グローバルなテーマの一分野を担うことのできる能力を持つべきである。例えば、今、地球上では、さまざまな問題があるが、「このテーマについては九大が進んでいる」とか、いくつかの分野において特色の持てるような大学になっていただきたい。熊本大学が水俣病で医学の分野の向上があった(と思っていますが)、地域の企業や、自治体の難問と取り組むことによって、研究を進展させ、それが国家的、国際的に貢献できるようなテーマはいっぱいあると思います。結論は、地域社会に重点を置いての大学だけでなく、地域社会を通して、国際的視点も持っていたいただきたい。(行政)
- 九州地域(西日本を含めて)の大学のリーダーとしての指導力を発揮してほしい。(行政)
- 福岡市1極集中になりすぎの感がする。福岡市以外のところに移転して、その地域と一緒に発展するようなことを考えられなかったか。筑波大学も他県でやっているように。(行政)
- 九州大学は、全国的に高いレベルの教育機関だと思います。多分野(医学・物理学その他)に於いて、日本や世界をリードする実力を備えた素晴らしい大学だと考えます。今後においても、そのレベルを更に高次のものとして追求していただきたいし、その一部を地域の発展の為に指導として、支援していただければと思います。一般的には、レベルが高すぎるが故に、地域サイドから近寄り難いものを感じることもあるかと思いますが、必要性に応じ、指導を求めた時に、助けていただければよいのでは…と考えます。大学改革のもとで、あまりシバリすぎると、自由な発想、発展が阻害されることを恐れます。心にゆとりと余裕をもって、伸び伸び仕事のできる世界が、大学教育界ではないでしょうか?日本は、時代によって、特定の者の考え方で、左右されすぎる傾向があり、百年大計の方針で、進めるべきだと考えます。(行政)
- 最近活力が感じられない。しかしながら地域と迎合することが、解決策とは思われない。中央の私立に対抗するためには、受験科目の思い切った縮小が良策と考える。(行政)
- 大学、特に国立大学は基礎研究やその大学の理念に基づき運営すべきだと思います。そして、理科系では国際競争力に打ち勝つ技術の開発に専念するべきではないでしょうか。又、そのための学生の教育(心の教育も含めて)も心掛けるべきだと思います。文化系についてはよくわかりません。地域との大学の交流については、定期的な公開講座の開催(もっと積極的に)や施設、情報の提供を期待しております。(行政)
- 大学に関する情報を広く提供するとともに、広報活動を強化し、公開講座、一般開放、オープンキャンパス、技術相談、技術指導等を通して地域社会との交流を深める。

また、優秀な基礎体力から生み出される研究成果を社会へ積極的に還元する。(行政)

- 福祉の分野においては、今まであまり交流がなかったように思う。医学、法学等が福祉周辺分野として、福祉事業の推進のためいささか交流があったと思います。福岡県下にあつては、福祉を専門とする大学が他にあることから、九大の影響は薄いのかとも思いますが、少子高齢社会の中で、「雨後の竹の子(?)」の様に、福祉関係従事者を養成する大学や専門学校が増えている様に思う。しかし、中核となり、リーダーとなり得る大学は少いので、九州大学の今後の活躍に期待したいと思います。(行政)
- (1)先生方は、あまりにも忙しすぎるのではないのでしょうか? (2)学生には、基礎的知識をしっかりと身につけて欲しい。(行政)
- 問13にも答えましたが、過去、九州大学はあまり地域社会との交流は盛んだとは言えない。しかし、九州大学には世界に通用する大学を期待しており、地域社会に関わり過ぎると足を引っ張られ、本来の教育・研究ができなくなることも考えられる。しかし、もう少し、地域社会と関わりながら発展することを期待する。(行政)
- 農作物の病害虫関係で侵入病害虫等、大変御世話になっています。大学との関係につきましては今までどりの御協力と御指導をお願いします。(行政)
- 技術は本来グローバルなものであり、地域へ真に貢献するためにも世界の水準で競争する研究がなされていなければ不可能である。ただこれまで学術面の成果のみにとらわれ、本来それが人類に貢献してこそ意味あるものという面が稀薄になっており、研究成果の実用化の活動が評価もされないこともあって、おろそかにされすぎたきらいがある。研究成果の実用化は地域にとらわれず全世界的なものではあるが、地域、国という順に考えるのは立地の意味あいから当然である。立地の意味あいというのは大学は地理的、人的、産業的、行政的、社会的に地域との相互交流で成り立っているのは明らかであるとの意である。(行政)
- 大学として普遍的な研究を目指し、国際社会でも高く評価されるような研究業績を上げてもらいたい。それも地域社会の中での実践を通してのものであれば、地域社会との関係、つながりがつよまるものとする。明るく、開放的な大学となってもらいたい。(行政)
- 九州大学の先生で学外でも活躍されている方は、よく知っているが、他の大学に比べて、その数が少ないように思われる。もっと地域社会との交流ができやすい大学のシステムが望まれる。(行政)
- 大学は普遍的な学問、心理を追求する場であり、その事を第一にすべきである。しかしながら、研究の成果は、何らかの形で社会に還元すべきであり、それらを地域にも開放し、施設の面でも人的な面でも、地域に入り込む必要があると思う。それにより「権威を持った近づき難い大学」から「権威を持った親しめる大学」になると思う。問12は、現状は主に九州大学が主な役割を果たしていると思うが、これらの項目は全ての大学が行う必要

があると思う。(行政)

- 九州地方はもちろんのこと、東アジア地域において一定の存在感をもつ大学になってほしい。そのため、(1)アジア地域との交流をもっと促進すること。(2)九州地域内の各地域との具体的な交流は、むしろ他の国公立大学・私立大学に任せ、そのセンター的な機能を強める。ことを期待しています。(行政)
- 地域社会との幅広い人材交流が必要と思う。特に医療分野における人材交流(医師の派遣)を、積極的に行って頂きたい。(行政)
- 市町村職員の教育について協力していただきたい。(行政)
- 九州大学は九州唯一、最大の大学院国立大学である。この大学の繁栄が、九州全体の浮揚にかかわると思う。九州大学にそのような認識が、あるのかどうか判らない。医学部、病院などは相当に貢献していると思うが、全学としてみた場合にはよく見えないと思う。又学生に九州の将来のリーダーとしての自覚を求めるのは無理か？(行政)
- 九州大学は、図書館など諸施設の地域への開放・人的交流に、余り積極的とは見受けられない。他大学では、日常の講座を地域住民に公開している所もある。また、地域の優れた人材を教師として(臨時的にでも)迎えている大学もあるが、これらも、余り積極的とは見受けられない。このアンケートで回答に困ったのは、地域一普遍的学問を二項対立的に捉えすぎていること。普遍的であり乍ら、地域に貢献する学問がありうらと思うが、そのような問いがない。九州大の地域交流・学問の地域還元が、もっと進むことを期待します。(行政)
- 九州に在住3ヶ月のため、まだよく判らない。ただ、今までおつきあひした九州大学の卒業生は、主義主張が一貫していて、好感がもてる人が多かった。(行政)
- 九州大学は、西日本における総合大学として、広く日本各地からの学生を集め、教育研究を推め、その成果を日本及び特にアジアに対し貢献していくべきと思う。この点、各県にある国立大学より一段高い視点から、東大・京大と同じように取り組んでいく必要がある。そのような意味で、現在、福岡市の西部に移転する計画が進められているが、これを機に、世界に通用する大学になってもらいたいと切に思っている。これからは“アジア”である。日本人は、欧米のことは知っていても、アジアのことは、歴史・民族・文化、あまりにも知らなすぎる。九州大学は、そのアジア学を中心とする教育研究機関になってもらいたい。(行政)
- マスコミ業界を定年退社後、にわか役人を勤めているが、マスコミ在職中の九州大学とのつきあひの深さに比べ、地方自治体、とくに福岡市を外れると、格段に疎遠になった。地元にも私立大学はいくつかあるが、どうしても視野が狭くなりがち。せめて福岡県、出来れば九州全体、さらに日本、国際的な関連で行政全般へのアドバイザーがほしいし、その点で積極さが不足しているのではないか。もちろん、当方にも地元大学への遠慮が働く点是否定しないが、九州大学の「出しゃ張り」を期待したい。

(行政)

- 近年、九大をはじめ私立大学において、地域社会に対する貢献度は大なるものがあると思う。それは、大学全体、教員は勿論、学生の積極的な地域社会への係わり方にも表われている。学問、研究をどう地域社会に生かすのか、又役立てていくのか、そしてその場をどう大学側に提案していくのか、これらの諸問題をもっと深くお互いが協議する必要があると思う。(行政)
- 市民大学講座などによる市民への情報の提供や各種審議会、シンポジウムの参加など、一定の関係や交流があることは承知している。しかし、地域社会に九州大学も、もう一步踏み込んだ交流が必要でないかと思われる。地方分権の時代を迎え、住民自治を基本とした地域に根ざした行政運営や経済活動が求められるなか、その成否の重要な要素として人材確保と、地域と大学との情報の共有化を挙げることができる。その視点から従来の枠に捕われない交流のビジョンの確立と九州大学と市民各層、各団体との交流のためのネットワークづくりが必要であると思われる。(行政)
- ゆとりある教育環境整備のため、早期新キャンパスの実現を期待する。また、大学移転跡地の利用については、大局的見地に立った、国際的、地域的な施設がうまく、バランスよく配置できればと思う。(行政)
- 同窓会(九大卒)同門会(医局)以外に九大との交流はあまりない。(行政)
- 多くはないと思うが、何か大学の権威みたいな物をひけらかすような教授がいれば、大学と地域社会との円滑な交流は望めない。(行政)
- 活動の場として、福岡方面にウエイトがかかり過ぎていないかとの素朴な疑問あり。感覚の世界での意見ですので、誤っていわば失礼なことと思いますが…。(行政)
- アンケートに参加しましたが、仕事から、技術的な委員会に九州大学の救援をメンバーにお願いし、そのなかで技術的な交流をおこなっておる程度で、その他の活動はあまり知りませんので、適切な回答となっているか疑問に思っております。私にとって九州大学は、問題が起った時や新しい仕事に取組む時に、ご指導を得ることができ、大へん助かったことが多々ある。大学が地域に密着すべきか、真理探求の場にすべきかむづかしい問題と思うが部門によって区分できるのではないかと思われる。(行政)
- 九州大学は県内だけでなく九州の中の最高教育機関として、全てにわたって自由に交流される様に希望したい。大学のための大学ではなく、地域社会の人間学の基となっていたいただきたい。(行政)
- 九州大学の先生といえば、地域と融合しているのは、行政に反対する先生しか印象がない。行政に反対でなくどうすれば良くなるのか課題である。そのような先生が九大から出ないのは残念である。(行政)
- 個人的には、九州大学との関わりは現在のところありません。言えることは、地域社会との交流を充実することは必要と考えます。(行政)
- 大学の教職員は、もう少し外に出て、地域のあらゆる人

達と交流して欲しい。特に年配の教授の方々に望む。研究一辺倒で、世間の感覚・常識とズレた方も散見されますので、大学が地域のためにあるんだ、という認識を持っていただきたい。(行政)

- 大学はある程度アカデミックでなければならない。しかし、地域で孤立した状態となれば、何の意味もない。市民生活に直結した都市計画、ゴミ、環境、福祉、医療など、いつもそこにデータがあり、課題がある。それらの諸問題に十分応えうる地域に開かれた九州大学を期待します。(行政)
- 地域内の他の大学と協調を図りながら、国立大学としてのリーダーシップの更なる発揮を期待する。(行政)
- 日本の少子化、高齢化、情報化、国際化など地方都市にもきびしさがあり地方分権という(個性あるまちづくり)観点から九州大学との交流が必要だと考えています。とくに市民参加行政は保守、革新の垣根を越え、複雑化した社会の中で住民の利害対立が激しい今日、代議制民主主義(議会)だけでは、対応できなくなっている。市民参加による補完的役割が自治行政に重要な領域となってきた。多様な価値観の中から市民的公共性を求めるという方向づけに或いは市民をどう参加させるのがそこには方式もルールも決まっていなだけに各自治体は模索段階にある。こんな点を大学の交流で研究できればと思う。(行政)
- 最近九州大学の学生(院生を含む)と自治体職員との共同研究が行われ、成果の発表も行われているが、特定の学部にとどまらず九大の各学部の広い範囲で自治体職員との交流を望む。社会人(特に時間的に余裕のある高齢者)で勉学に意欲のある人達に対してもう少し門戸開放をしてもらえたらと思う。(行政)
- 質問Ⅲについては、旧七帝大以外の地方国立大学を想定してアンケートに答えました。(行政)
- 九州大学は以前も現在も、すばらしい大学とほこりに思っています。関係や交流とは直接、かわりはありませんがぜひ、自分に孫ができれば、九大に入学・卒業させたいのが夢です。でも、なかなか、入学できませんね。(行政)
- 九州管内の行政関係については、大都市だけでなく、小さな(かそ)規模の町、村にも、人材を送り出して、それぞれの地域のよい所、人材育成にも、力を借してもらいたい。(行政)
- (1)大学としての level は高いし、地域との交流にも積極的だと思う。(2)ただ、学術文化、研究、あるいは地域との交流のありかたにしても、もっとスゴ味(凄味)が欲しい。(3)九州、あるいは西日本は九州大学がリードしなければならない。国際的にも屹立(きつりつ)する大学になってもらいたい。(行政)
- すべての教官がもっと地域社会を知り、本当の意味でのインテリにならなければ有益な交流はできないのではないかと思います。私は国立大学の教官の経験がありますが概して大学教授というものは、世間知らずが多いようです。(行政)
- 今まで以上に、国際的に貢献する大学をめざしてほしい。

とくに、地域社会においては、アジア地域との交流を最重要課題として取り組んでいるので、九州大学にも全面的な協力を望む。例えば、地域の産官学で設立した(財)アジア太平洋センターや国際交流協会等への積極的参画・支援。アジア学部や中国学部あるいはアジアセンター等の創設等々。(行政)

- 過去に公開講座をたびたび受講したが、現在でもまだまだ大学が保守的、閉鎖的で、地域社会とのかわり「俗学か?」とは無縁のように思う。文系部門に考え方が片寄った方が多く、そのような方は、発言力も強く、地域社会との関係は弱いように思う。(行政)
- 国立大学を含めて、大学、教官のあり方を根本的に変えていく必要があると思っている。開かれた大学とは何か…。(行政)
- もっと九州大学の活動を市・県民又は、企業や行政に情報を発信して欲しいと思います。あらゆるメディアを使って。(行政)
- 九州大学は総体的にみて、学生も教授陣も立派だと思う。北九州市には他の国立大学や私立大学があり、地元の大学との連携を大切にしており、九州大学とはやや疎遠になりがちである。九州大学には施設、スタッフ共、優秀な陣容が揃っているので地域でのリーダー的役割を期待しています。(行政)
- 九州大学は、九州の最高学府であり、施設設備・教授陣等内容の充実を図り、またアジア等海外との交流を積極的に進め、先導的な役割をはたしてほしい。(行政)
- 大学の改革に積極的に取り組まれている姿勢は大いに評価します。しかし、大学は流利的時代の常識に惑わされることなく真理を求め、研究する場と思っているが、これまでの姿勢には、地域ニーズの動向にやや鈍感な気がする。学問的レベルは大学人は地域社会から得る事は少ないと思われるが、地域社会との人的、物的な面から交流を深める中から、また別な視点に立った大学の社会的貢献が拡がり、かつ地域社会、企業行政の支援も増すものと思います。(行政)
- 地域に開かれた大学なのか、大学独自の理念にたった教育、研究機関なのか、がはっきりしない。時代の流れ、社会変化に沿って、教育、研究の内容が変わるのは止むを得ないとしても、いたずらに、学部や学科の名称を変えたり、再編しているような印象を受ける。(行政)
- 情報の提供をよりお願いしたい。特に地域ニーズに応じた大学機能のご紹介やご相談する場合の窓口等について。(行政)
- 西日本の大学の雄として、あらゆる分野のリーダーを養成してきた、歴史と伝統を誇るにたる実績のある大学だということは、衆目の一致するところである。本町には、九大農学部(水産関係)の施設もあり、農業とか水産業の分野で、いろいろ交流が行われている。しかし、九大は余りにも大きくなりすぎ、福岡市西部へ移転することで、本町とも関係も稀薄になっていくことが予想される。淋しい限りである。交通の便をよくして、今迄同様、いろいろ本町などともいろんな面で関係を密にし、今後とも一層交流が続くことを希望するものである。(行政)

- 九州大学の移転問題に関し、様々な会合に参加し、意見を拝聴し、九州大学を始め、他の大学も含めて、大学に対する認識が変わった。それは、このアンケートに対する回答のとおりである。つまり、大学は、学生、研究者のためだけのものではなく、地域・企業とともに成長し、お互いに利益を享受できるものでなければ、米国に代表されるような、地域社会の構築はできないと通感している。要するに、現在感じられるような学・企・地・行の四者が遊離している状況から脱し、四者一体となり得るような努力をお互いが実践しなければならない。(行政)
 - 行政・商工会関係の補助事業で、講師・アドバイザーとして他の大学の教授が多く、勉強の機会ある九州大学は、私達地域との関係は九大病院しかイメージが無く、今後、地域との交流等に一緒にできれば良いと思っている。(行政)
 - 私は林業面で先生方との交流をいただきました。若手の先生方からは有意義な、大胆な提言をいただいたと思います。先輩の先生方からは現実的御指導をいただきました。変化の早い時代、地域への提言・交流いただくことは、地域の発展に役立つことと思います。(行政)
 - 最高学府としての権威と、教育の充実は大切だと思います。しかしながら、地域と非常にかかけはなれた存在のように感じます。学問の府から、地域社会へもっと出て行き、地域に貢献されることを望みます。(行政)
 - 九州大学医学部とは、住民の健康検診にはじまる保健医療の面で、約40年来の交流が続いており、今後も発展的に医療面だけでなく、あらゆる面において九州大学との交流を望んでおります。その場合に大学側にも開かれた大学への変身が求められるようになりますので、キャンパスの移転を機に、新しい大学像を構築してほしいと思います。(行政)
 - 私は県南地域在住の者ですが、九州大学との関係が少ないのが残念です。九州大学でも県南地域に対しての関心が薄いような気がしてなりません。県南地域開発のため交流を深めていただきたい。(行政)
 - 自治体も貴校の培われた智識、技術等に大いに吸収したい。首長の高学歴の自治体と地方の小さい町村の低学歴の首長との間には貴校に対する、関心、認識が多分に違う。此の事は貴校が本県にあるとないと何の感じもない。自分だけが学内の塙の中に閉じこもり、知識を吸収し頭でっかちになって社会に出て九大出身を鼻にかける。社会性を身につけさせ乍ら即戦力になるような人材育成、知識、技術等の出前、講座等の不便な処にも出向く事、お願いいたします。(行政)
 - 九州大学は県内でもリーダー格として活躍して頂きたいし、又、九州内での中心的な役割を果たしてもらいたい。特に地域とのかかわりを多くもち、県下・九州地区・アジアと広範囲で活躍できる人材育成に努め、又、大学も研究等に努力して欲しい。(行政)
 - 交流についての意見は特にありませんが、九州大学が国内で一番魅力ある大学であってほしい。(行政)
 - 大学主催の公開講座などで地域社会への貢献度は誰
- もが認めると思うが、そうしたことが実際に催されていることを知らない地域住民もかなり多いのではないだろうか。今後はいかにして、開かれた大学であることをPRしていくのか。そして、いかにして大学を多くのひとに利用してもらおうかが課題であろう。(行政)
 - こころ豊かな人づくり、うるおいのある街づくり、活気あふれる企業づくりの為には、ぜひ、学社連携を、図るべきである。現在の、歪んだ心、荒んだ街、活のない企業を、もとの心、街、企業に回復させる為に、国が投資している国営大学校は、もっと地域社会を知って、ふれあっていくべきである。(行政)
 - 九州在任期間が短いため、地域と大学との交流といった当アンケートのテーマでは、回答困難な設問が多く、的確な回答になっていないことをお許し願いたい。(行政)
 - 九州地域にある大学の核となるべく、研究・教育共に質の向上をどの様にして計るかを模索してもらいたい。そのためにはまず、人事の交流を計り、硬直化しないことが大切と思われる。そして、開かれた大学となることを希望します。(産業・経済)
 - 九州地域に国立と名が付く大学が多数有るが各大学の独立性については当然尊重しなければならないが、伝統的に此等の範たる位置を考えて、地域の他の大学を取りまとめるべきで有る。(産業・経済)
 - もっと開かれた大学であって欲しい。(産業・経済)
 - 相談ごとについて農学部関係は窓口等ある程度わかるが他の学部については窓口が不明。お知らせ願えたら有難い。(産業・経済)
 - 九州大学は、九州地域で最も優秀な人材が学んでる丈に、九州大学の存在価値も大きい。それだけに、本学の将来の使命は誠に重大である。21世紀に向って、今、地域社会との交流を模索されていることは至極結構なことであり、地域よりの貴重な意見等を汲み入れ、より素晴らしい人材の育成・研究の為、努力されんことを切に願ってやまない。(産業・経済)
 - 職業人の再教育や生涯教育の場として、先頭に立って取り組んで欲しい。(産業・経済)
 - (私の事業所の)業務に関する専門的情報を、九州大学に行けば得られるという時代があったが、情報獲得の手段が多様化した今日では、そのような目的での交流はなくなった。所属する団体が主催する講習会・講演会等の講師として九州大学の先生に依頼するケースは多い。(産業・経済)
 - 九州大学には多くの留学生がいるが、九州大学が中心となって、地域の国際交流の場をもっと作ってもらいたい。(産業・経済)
 - 九州大学の地盤沈下を憂っています。必ずしも、良いことのパロメーターではないが、地元進学校の優秀(?)生徒の第一志望が東京、京都であることetc(産業・経済)
 - 九州大学について。一般論的に。これまで、仕事上関係のあった卒業生についていえば、おおむね「評価が低い、小粒である、スケールが小さい、オタクが多い」実社会

- が期待するのは、学生時代のわずかな学問ではない。とくに九大は帝大という過去があり、実社会ではそれなりの期待がある。哲学（一口にいえば）がない人間は社会では伸びない。九大がカレッジでは駄目である。地域社会との交流など二次的なことである。以上古い人間の考えかも知れない。（産業・経済）
- アジア諸国との交流を世間にPRすべきだし、今後のvisionをopen化すべきだ。（産業・経済）
 - 東北大（工）卒のため、非常勤講師・セミナー参加と、仙台とのつながりが強い。九大とは全く関係なく、何らかの機会に仕事を通じて御指導願いたいと思っています。ただ、業務ハードで余裕なく、申し訳ないと思っています。（産業・経済）
 - 基本的には、大学は教育と研究に専念し、優秀な人材を社会に輩出して頂きたい。ただ、世の中のニーズや情報を知るためには地域社会との交流は必要かと思えます。また、地域企業・行政との交流によって、研究内容施設の、無駄のない有効利用も可能になるかと思えます。大学は孤高にならずに門戸を開放し、極く自然体で地域社会との交流に努力されんことを望みます。（産業・経済）
 - 地域（九州地区）のリーダー格の大学として、地域と充分な交流を持ちながらも、全国的、更にグローバルな感覚を持つ人材を育てる大学となって欲しい。地域社会との交流については、PR不足ではないか？（産業・経済）
 - 大学としての成果はそれなりに実績があると思いますが、一般市民にとって、或いは県民にとって直接目に見えるのは病院位のもの。社会にアピールする方法があると思いますが…。私大とは当然異なった社会への貢献をすべきだと思います。（産業・経済）
 - 一般的に地域交流を図り、存在感をアピールの事。（産業・経済）
 - 大学自体積極的に産学協力的分野に進出すべし。このままだと田舎大学に準じるか？（産のために大学は何をすべきか、学のために産は何をすべきか）→大学のPRに自信（教授陣の国内（海外）level？に疑いを持たれる）がない？（産業・経済）
 - 九州大学の移転に当っては、全国から学生が集まるようなユニークですぐれた施設、ソフト、及び環境（キャンパス）を整備してほしい。（産業・経済）
 - 企業は研究者を自ら生み出さねばならない。税金で研究をやる大学とは根本的に異なる。自分の力で集める必要のない税金を使い、研究する人達は24時間国民のことを考えて良い成果を生むべく努力する必要がある。このマインドさえ変らなければ、あまり将来のことは心配していない。お金の出元を忘れないよう、心がけていただきたい。（産業・経済）
 - 北九州市に住んでいると、九州大学との関係が大変少いことがわかる。九州大学は主として福岡市にかたよった大学ではないかとさえ思う。九州地方全域をカバーするような広域的な活動が希まれる。（産業・経済）
 - 国立大学として、文部省の枠にとらわれることなく、国際化を目指した、独自のカリキュラムを設置されんことを望む。（産業・経済）
 - 私は法学部の出身なので理工系の学部の事はよくわかりませんが、法経に関しては地域社会との交流については、わりかし密接であるように思う。又、医学部についても私自身が倫理委員をしているくらいで、いろんな面でいろんな交流がされていると思います。（産業・経済）
 - (1) 地域社会との交流を深めながら、地方大学とならないよう、全国トップレベルの大学を旨ざしてほしい。(2) 国際化の中で、アジア諸国との学術的交流の場は、名実共に全国一となり、もっとPRしてほしい。（産業・経済）
 - 九州の経済の発展のために、具体的な提案をどんどん行うべきである。企業が上記を行えば、利益のためと受け取られ、政治が行っても選挙目当てと誤解され易い。九州に存在する大学でなければ、本当の意味での九州に役立つ、中立的かつ説得力のある提案はできないのではないかと。（産業・経済）
 - 大学の移転場所について、へんぴな場所（元岡）が計画されているが、これでは九大志望者が減るし、ひいては大学全体のレベルの低下を招き、さらには志望者が減少するという悪循環になる。県内には福岡から北九州にかけて、JR沿線にいくらかでも土地はあるのだから、土地の選定はもっと便利などころにすべきだと考える。教授、研究者の確保にも支障を来す。そもそも場所の選定方法が不純で、福岡市が九大を市街にもついでいかれたくないという動機が強く働いている。（産業・経済）
 - (1) 地域社会と関わりを持つことは大事（特に産学共同）であるが、グローバル化の進展に伴い、九州地方にこだわることはない。全世界に視点をおくべき。特に、理工系（先端技術開発）。(2) 大学関係者が起業しても良い。企業経営者を兼務しても良い。例え国公立大学であっても。（産業・経済）
 - 九州の活性化には産学連携は不可欠であり、九大の役割は今後大変重要になってくると思う。その役割を果たすためには大学当局がしっかり自覚を持って欲しい。（産業・経済）
 - 九州地方、特に福岡県に根を置きながら、広くアジアの学問の府としてのビジョンを持ち、リーダーシップを発揮してもらいたい。（産業・経済）
 - 学部学科によって、交流に差があっても当然でしょうが、基礎研究を主とするところは、大学主導であり、研究を社会に生かすべき内容の学科は、もっと地域社会や社会動向、ニーズの変化等を意識すべきと思う。社会人が学生に対し講義する機会をもっと増やし、企業の早い変化・流れを勉強すべきと思う。（産業・経済）
 - 人材としては、多方面に亘って、世界に通じる教育・修練を行って欲しい。然し、九州人としては、やはり九州が日本の離れ島と成らぬよう、というよりは、九州発展のリーダーとして、アジアとの接点の起爆力となるべく、学術・産業界・政界各方面でのトップリーダーを育成して欲しい。中央に比べると九州は人材不足の感を否めないと。（産業・経済）
 - 福岡県の末端にある豊前市からみると、現状では、県民として九州大学と交流することは一般には考えられない

- い。私の場合は、県の“まちづくり懇話会”のメンバーとして教員の先生に親しくしていただいた経験があるので、大学に、ある程度近親感を持っていますが、一般的に言うと、地域の問題に大学の窓口として、どのようなどが対応してくれるのかも、わからないような状況ではないかと思う。地域社会の方も九州大学に地域問題の相談を作るよう努力するべきですが、大学も、地域のかかわりはこのような窓口がありますよというようなPRを、もっとしてもらいたいと思う。(産業・経済)
- 産・学・官と良く言いますが、特定の人がかかわるだけで一般の研究をしたい…窓口等が気楽に相談できることになれば最高ですね。あまり難しくしないで…。(産業・経済)
 - もっともっと広く地域社会との交流をもって欲しい。(産業・経済)
 - 地域企業の研究開発に活かせる分野が多いと思います。是非協力を願いたい。企業側に、大学との共同研究についてノウハウが判らない。例えば、企業の研究テーマが大学のどの部分が適当か。手続等交流が出来るか。大学に相談窓口か、問い合わせ窓口が判れば好都合ではないかと思ひます。(産業・経済)
 - (1)九大は、西日本における教育・研究のセンターである。その成果は西日本、特に九州・福岡地域に還元されるべきです。(2)その一方法として、研究者の交流(地域の自治体や企業と)を望みます。(産業・経済)
 - 私が今深くかかわっている大牟田市の再建(100年間にわたり当市の基幹産業であった三池炭鉱が昨年3月閉山した)には産学官の連携協力が必要であり、九大に期待したい処であるが現実には大きな期待は無理であろうと考えている。それは、地域に関する九大の関心はやはり福岡市や北九州市の方を向いており又、実際問題として他の地域に関心を向ける余裕もあまりないであろうと思うからである。当地では交流したい「学」は当市に立地する有明工専である(技術的分野に限られるが)。アンケートには期待を込めて回答しましたが、本当に期待するのは有明工専の充実であります。(産業・経済)
 - (1)九州大学に限らず大学時代はあまり勉強せず社会に出て再度再教育しなければつらいものにならない状況にある。もう少し企業との関連について大学時代に厳しく指導すべきである。(2)女性の比重がたかまり男性の労力が少なくなると聞く。女性は家庭と職業との両立が難しく総合職になっても勤務が短い。少子化ともからみ問題がある。(産業・経済)
 - 九州は、公益的事業を除けば、通称支店経済圏といわれる。其れは、基幹産業のソース、その育成の基盤が底の浅さと共に狭いためである。九大が東大的な非生産的学問の府にならず、東北大(の半導体)京大(の原子物理)の如く創造的研究開発の府になるべきである。其れが九州産の新技术を誕生させ、支店経済から脱皮した本籍的経済に転換し、付加価値の高い地域化と知的雇用増加の21世紀に展望のある産学共同の成功地域となるのでは。(産業・経済)
 - 国立の大学にもいろいろと格差があると思うが九州大
- 学は九州では一番であると思うので今後も他の大学におとらない様あらゆる面において行ってもらいたい。(産業・経済)
- 九州大学の教員、事務職員を含んで閉鎖的であり、事務職員の応対も官僚的である。(産業・経済)
 - 九大出身者が当地方に少ないので、あまり交流がない。(産業・経済)
 - 九州大学もその他の大学も、普遍的な学問の研究を深めると同時に産学協同で実社会との関係も更に深め、社会の発展にもっと貢献すべきだと考えます。その為にも大学側からの市民に対する情報発信や情報公開を推進して欲しいと思ひます。(産業・経済)
 - 九州大学は西区元岡に移転するが市民と交流する場を市の中心部(天神周辺)に持つべきだ。(産業・経済)
 - 地域との交流を口では言うが、実際は行おうとしていない(逃避している)。(産業・経済)
 - 北九州市に55年間住んでいるが、九州大学との交流の機会が全くなかったので、関心がない。期待するとすれば、広域的問題の研究であろう。(産業・経済)
 - 文字通り九大は九州を代表する素晴らしい学校と思ひています。又九州大学出身の人達がすべての分野でリーダーとして活躍していることは事実であります。然し一部地域を除くと中山間地域には九大はなじみが薄い、あまり影響がない。願わくば県土、国土のきんこうある発展、国の経済の立直しをやるために、次の事を希望する。大学が学園のみにとどまらず、地方に研究所を置き、各分野、それぞれの地域に相応しい産業開発に貢献するための交流を深めて参って頂きたい思ひます。(産業・経済)
 - 教員の方々の研究テーマや論文等を、地域経済界の目にもふれる場に公開していただくと当方からアプローチしやすくなると思ひます。(産業・経済)
 - 今まで、交流した事がなく、どのような型で交流できるのか考えてます。(産業・経済)
 - 九州大学は九州地域全体を視野に入れ、より高いレベルでの教育・研究に一定の役割を果していると思ひ受けとめてはいる。しかし一方で地域と大学の関わりについては、他の地方大学からすると関わり方が薄いように思ひます。国立大学としてより高いレベルの教育、研究が期待される場所であるが、一方では、地域に開かれた大学ということも求められているように思ひます。そのかぬあいをどう繋合させるかは難しい課題ではある。(産業・経済)
 - 県や市の審議会でご一緒させて頂く事がある程度ですが、今後期待させて頂くとすれば、高齢化社会の中でそれぞれの老人達(男・女共)が生きている事の喜びを実感出来るお手伝いを希望する。例えば法律問題、年金その他の手続きや(法的なものを含む)医療相談等、行政とは別の角度で企画する。もうすでにいろいろやっているけど私が知らないかも知れません。労働界とのご縁は浅い様子ですネ。(産業・経済)
 - 設問を当所の私の処にしたのは疑問である。何故なら、地域とは何処を指すのか?九州全体か、福岡県か、福岡市か、私の処は筑豊地方なので、此の設問が福岡市の住

人へ出したのなら、かなり違った回答になったと思います。あく迄も、私の生活している筑豊地域を主体にして回答しました。ちなみに九大は殆んど、福岡市の人(学生・受験生を含む)以外は、九州全体でも興味と関心は持たれないと思います。なお当地に九工大情報学部、近大工学部等ありますが、地域との交流は殆んどありません(近大には少しはあります)。問4は、福岡市住民だったら、別の回答になったと思います。まあ強いて言えば、九大附属病院には、かなりの人が当地では関心があります。それ以外は遠い存在です。なお、宛名が(殿)になっているが、今では税務署でさえ(様)になっている——注・私の処には此の手のアンケートが年間、数多く来ると、忙しいのでたいていパスしますが、貴研究会のは質問が細いのと、遠い千葉県からですので、書くのに10日間位かかりましたが、出しますのでよろしく。(産業・経済)

- 九州大学出身者とは、電力・ガス及び公務員(福岡県、通産省他)と一緒に仕事をする事が多々あった。九州地区(平成7年6月～9年6月までの2年間)に在住したが、九州人の、人を受入れる人柄の良さに大変助けられました。(産業・経済)
- 「開かれた大学」というが現状は閉鎖社会である。社会との交流を進める教員は学者ではないという風潮がある。個々に技術・見識を持ちながら社会との交流がないため進歩がない(硬直化)。(産業・経済)
- 最高学府として本来の教育研究をもっと充実しながら、地域社会との接点を求め、人から尊敬され愛される、教職者と学生の集団であって欲しい。(産業・経済)
- 特に九州大学にこだわる訳ではありませんが、地域社会もぬきにした学問の発展はありえないと思います。(産業・経済)
- 講座等の開放をもっと積極的にしてほしい。(教育)
- 地域社会が、もっと積極的に交流計画を立案して協力をお願いすべきである。大学は、そのための資料をできるだけ多く提供してほしい。(教育)
- 九州大学は前原市も色々お世話になっている。考古学教授も文化財基本計画策定委員にもなって頂いているし、社会担当の教授には、前原市役所の生涯学習について、管理職から一般職員も6～7回の指導も受けている。将来元岡移転は、前原市の文化歴史学園都市の街づくりにも期待がもてるし、今までの御指導も継続発展して頂けるのではないかと将来を期待している。(教育)
- 学・官・産の協力関係を、もっと密接化すべき。大学は例えば環境・資源再利用、防災等に役立つ研究・資料・情報を持っていると思うが、地方行政機関が行う市民のためのサービスの向上・充実に役立つような研究に、行政は思い切った資金提供をし、大学での研究充実に資さるべきと思う。文部省の大学に配分する予算は不十分だということであり、現在かなり財政的に余裕がある自治体は、大学へ財政的寄与ができると思うので。(教育)
- 九州大学が元岡地区に移転し、本町内にも31ha用地が含まれる。隣接町として、九州大学を視野に入れた学園都市(町)づくりをすすめるべきである。地域に開かれ

た九州大学を期待しています。住民の学習ニーズ等に対し、九州大学との公開講座等生涯学習の推進の上からも、よろしく願いたい。(教育)

- 九州大学とは、本市教育委員会(大牟田市)と共催の公開講座を、以前開催したりしています。また、放送大学のビデオ公開講座も開催させていただいたこともあります。最近では、中央公民館主催の講座などに協力していただいていると聞いています。大牟田市は地理的に県境にあり、交通の便はよいものの九大や熊大も遠く、大学と交流を持つには、むづかしいところもありますが、大学側の協力が得られれば、いろんな交流がもてるのではないかと考えています。大学内にどのような分野の権威者が居られるか、又、地域や行政のニーズや課題に対する適切な理解者等の有無が見えにくいので、大学で一定の人材一覧を作っていただきたい。(教育)
- おおいに地域との交流を深め、地域へ貢献してほしい。情報・人材の面を、行政の中に生かしていきたいと思う。(教育)
- 九州大学は九州地区を代表する学問の府であるという伝統と、その功績は否定できません。九大は全国的にも文化の先導者で、幾多の人材を育成しました。時代の変遷に伴って、大学に対する要請が変化するのは当然のことと考えられます。けれども、学問の精神は必ずしも朝令暮改をよしとするものではない筈です。真理を究め、学問の蘊奥を追求するという大学の意味から、世上の激変する現実的要求に対して手落ちなく対処するという事は、さほど簡単なこととは思えません。然し、地域社会との交流を否定する理由はありませんし、地域の文化水準の向上が大学の活性化とも連繫をもつものであり、同時に大学の開放と地元の人々との交流が、地域文化の質的向上と創造の源泉となることは疑いないことだと思います。(教育)
- 旧帝大系の大学でありながら、地盤沈下の傾向・元気のなさが極めて残念。それに比べ、私学系大学の方が活気があるとみるのはヒガ目か…九州唯一の「旧帝大」の…から脱皮して、新しい伝統を築くの気概で、地域に密着型の、活力ある大学を目指して欲しい。そうならば、地域民(県民)も九大をより身近に感じて、交流も盛んになるだろう。そんな大学にエールをおくります。(教育)
- 九州地区では(昔の帝国大学でもあり)超一流の大学であるというふうと考えている(そのような矜持をもっていただきたいと念じている)。しかし、学問の府というような考えもあって、地域社会との結びつきが少なかったのではないかと(私はそれでもいいと考えているが)。ある程度、地域社会の実態をふまえた(て)地域に貢献する面もあっていいのではないかと。近く移転のようであるが(すでに土地造成がはじまっているが)、最先端の施設・設備を設け、最新の学問・技術を取り入れて研究し、学生の養成にあたっていただきたい。(教育)
- 研究面においても地域社会へのサービスにおいても、更に機動性のある活動を望みます。(教育)
- 特殊な専門分野の新しい知見について、社会人のための開放講座をもっと増設して欲しい。また、産業・社会・

教育等の分野で、実務担当者が将来のビジョン作り等で悩んでいる問題について、窓口を用意し、相談に乗り、処方箋を授けて欲しい。(教育)

- 地域社会の要請に、素直に対応できるシステムがないような気がする。窓口になっておられる教育や職員は充分理解されていても、教授会等の障壁のため、実現できないことがよくあると耳にする。総論賛成、各論反対。(賛成はするが協力はしない)等々。(教育)
- 研究者の一人ひとりについて言えば、企業とのかかわりのある実践的研究に携わる者、純粋学究の者、それぞれあってよい。大きな大学(単科でない総合大学)としては、その両面を含めるべきだと考える。ただ、企業等とかかわりの大きい研究者には企業からの財政支援があるのに対し、純粋学問研究者には僅かな国費だけの研究という体制(?)は、何とかしなければならぬ課題と考える。(教育)
- 生涯学習ニーズへの対応・カリキュラムの改革・教育方法の工夫・入学者選抜の改善等、様々な点で、九州大学は国立大学の中でも大学改革への取組が遅れていると感じている。特に、専門学校卒業生への特別選抜・高等学校での履修状況に配慮した授業科目の開放・シラバスの作成と、入試情報としての提供をお願いしたい。また、公開講座の開設や地域主催事業への参加など、教育面での地域貢献、とりわけ、高大連携事業の拡充を希望する。また、大学院における地域の生涯学習対応も積極的に考えていただきたい。外部評価の委員会を設け、地域の高校関係者も参加させていただきたい。(教育)
- 九州大学での公開講座に参加したことがあるが、たいへん学習の機会をえたことに感謝している。今後も、地域交流、施設開放は大切と思う。また地域での放送大学もすこしは広まっているが、今後ますます推進する必要があると思われる。すべての人に生涯学習の場を。(教育)
- 教官が勉強不足です。もっと勉強に専心するよう祈ります。(教育)
- 両者の関係、交流が深まるよう創意工夫がなされるべきであると思う。(教育)
- 私の長男が九大工学部(大学院)を卒業させていただいたので、企業関係とのかかわりがいくらかわかる程度で行政とのかかわり等はあまりよくわからない。九州には大企業が少ないため卒業生の活躍する場が少ないと思うが子どものお話では中央の大企業でも地方の大学出身者の実力をだんだん見直しているとのこと。(教育)
- 九州大学が学問のレベルが向上し、発展していくことは、県、九州はもとより、日本全体の発展の原動力となる。益々の発展を心から祈念しています。(教育)
- 九州大学に関する情報について、積極的にPRが必要であると感じた。(教育)
- 市町村職員に対する専門講座、教職員に対する公開講座等を積極的に開講して欲しい。(教育)
- 学生運動も落ちつき、本来の研究、学問の追求ができるような環境になってきたと思う。しかし、学生のやる気がどうか心配である。講義にしても、私語が多く、何をしに学校(大学)に行っているかと思うような話をよく

聞く。卒業して、行政や企業に入ってきて、学ぶ意欲を持つような人材、自分のことだけでなく、まわりの人も一緒になって職責がはたせる人材を育成していただきたいと思う。「さすが九州大学を卒業した人は違うな」と言えるように。(教育)

- 本市と九州大学は地理的にも(交通手段的にも)遠距離にあり、産業経済、政治、文化等々ほとんど関係のない位置にある。強いて挙げれば医学部(特に心臓手術)位で、これも久留米大学で用済みである。したがって、本大学については、活動内容等も十分な情報を有しておらず、アンケートの回答についても推測の部分も若干あることを付記しておきます。(教育)
- 地域社会は、九州大学教授等に今後についての診断やご意見をいただきたい意向は十二分に持っているが、何となく敷居が高いというのか依頼しにくいようである。もっと気軽にご相談できないものかと思う。(教育)
- 九州大学には、優秀な学生は揃っているが、社会常識の低い学生が多いと言われている。児童の頃の家庭教育が十分に出来ていないところに原因があると思われるが、大学卒業後、社会に通用する学生の育成に期待しています。(教育)
- 学問としての高い理念と地域に貢献することとを両輪として充実発展されることを望みます。(教育)
- 新キャンパスには是非地域(外部)の者が利用しやすいシステムを作られたい。(教育)
- 地域社会との交流は大切であるが、固執する必要はない。グローバルに研究を展開されればよいと思われる。結果的には地域社会への貢献につながる。(教育)
- 九州大学と地域社会との関係や交流は学部によってばらつきがあり、大学としての一貫性がない。(教育)
- 社会人の再教育課程の拡充。地域の職業系高校卒業生の受入枠の設定。地域の企業、行政との共同研究、交流の促進。大学施設(図書館等)の開放。(教育)
- 時々研修会の講師として来ていただくことがありますが、そのときだけでブツンと人間関係がとだえてしまう。多忙からでしょうか?(教育)
- 九州大学は地域社会に多くの情報を提供してほしい。地道な努力がなされていると思うがその姿を見る機会が少ない。九州大学は、もっと表現力を身につけて地域社会にPRした方がよい。(教育)
- 教育、文化、経済等地域活性化へ積極的にご協力をお願いします。(教育)
- (1)地域振興にもっともっと寄与すべきである。中央でなく、九州に存在する大学の使命は地域と密接につながり、地域を拓き、地域振興のリーダーとして尽力してほしい。(2)ベンチャー事業の育成にも、もっともっと積極的であってほしい。そのエネルギーがないなら、これからは大学としての存立の意味がない。(教育)
- 県内の大学に進学させ、その中より人材(優れた)を中央へ送りこむ。学究的な要素も欠かせないし、必要。しかし、単なる象牙の塔であってはならない。どの分野でも“現場を知る”“現場との交流”は欠かせないベースだ。(教育)

- 質問が抽象的で答えにくい。例えば問5についても (A) 学生がどこから来ているのか数的には全くと言っていいほどわからない。只合格者が新聞にのるのが地元の高校が多いのがわかる程度。(C) 卒業生がどこにどのくらいいるのか全くわからない。(B) については、九州大学は日本でも有数の優れた大学だと日頃思っているが、それでは具体的にどんなものがあるかと問われると、医学部、島原地震火山観測所の活躍ぐらいしか知らない(社会教育主事講習会等たくさんやっていると思うがよく知らない)。(教育)
- 九州大学について知っていることは(1) 附属病院にかかると安心感があること。(2) 社会教育指導主事の講習会があること。(3) 心理学に関する講師として教授に依頼したことがあること。(4) 県内の進学校としては、最も入学困難な学校という印象があること。(5) 率直に言って、地域社会と九大のかかわりは、直接体験していないのでわからないこと。※私は有識者に該当しないと思うこと。従って回答は想定が多いこと。(教育)
- もう少し地域の交流並びに開かれた大学としての機能を担ってほしいと考える。(教育)
- 相互に情報発信をもっと積極的に行う必要がある。生涯学習の場と機会(講座等)をもっと増す必要がある。地域との交流がやや福岡市とその周辺地域に偏っているようなので、更に広げることが期待する。(教育)
- 医学部は病氣・義兄の母校で関心を持っている。他の学部については殆んどかかわる機会もなかった。(教育)
- もっと具体化してほしい。(教育)
- 現在、生涯学習関係についての町民(市民)のニーズが高まっています。また、地域では、生涯学習社会の構築に力を入れています。大学も、生涯学習の振興という視点から、大学の在り方、また、地域社会との関係づくりに創意工夫をしてほしいと思います。教育委員会の業務では、教育大学(国立)との交流が九州大学より多くなっています。(教育)
- 国際的に評価の高い大学の発展を目指して、実績を上げて欲しいと、強い期待をもっています。(教育)
- 九州大学は、箱崎・六本松キャンパスから、福岡市西部の歴史と自然に包まれた、元岡・桑原地区へ移転する。この移転を契機に、福岡市西部地域の私立大学と学術研究における連携を推し進め、同大学を中心に計画されている「九州大学学術研究都市構想」のもとに、産官学のより密接な関係をつくり、九州における学術研究の拠点、更にはアジアを視野に入れた世界的水準の学術研究都市が、この福岡の地に築かれることを望む。それと同時に、九州をリードする国立大学として地域社会の声に耳を傾け、地域の人々に親しまれる魅力的な開かれた新キャンパスづくりも忘れてはならない。(教育)
- 九州大学は、その沿革・構成・実力等から、全国的、さらには国際的に貢献する大学を目標にすべきものと考えられるが、そのことと地域社会にも貢献する大学ということとは、矛盾するとは思われません。大は小を兼ねるとえて、要は意図とその意図実現のためのシステム作りにあると思います。(教育)
- 地域社会と大学との在るべき関係は一概には言えない。自然科学と社会科学とでも異なる。最低限言えることは、営利企業の利害に直接関わるのではなく、より広範に地域の特性や地域住民の福祉に貢献することを目指すことが望ましい。(教育)
- 九州大学は九州地方の中心大学としてもっと研究活動を活発化して多くの業績を挙げて欲しい。国際的に高いレベルの研究業績を望みます。(教育)
- 九州大学は、県内はもちろん、九州あるいは西日本の大学の代表として率先して新時代の大学像形成に挑戦してもらいたい。その意味で質問Ⅲは便宜上、どちらかに○印をつけたが、実際は両面好バランスをとりつつ、しかも両面とも大きくレベルアップしてもらいたい。Ⅲの(5)(6)等も決して矛盾する問題ではないと思う。内容を吟味して行うべきことと思う。つまり全国第一級の大学を目指しつつ、地域へ十分配慮する大学を実現してもらいたい。(教育)
- 基幹大学としての使命、役割を果たしてもらいたい。(教育)
- 地域に軸足をおかなければ、従来通りの抽象的な研究・教育しかやれないだろう。視野は広くもつべきだが、具体的な研究テーマはもっと地域に密着してやって欲しい。教育もしかり。(教育)
- 2つの政令指定都市の福岡市と北九州市の中間に移転して欲しかった。そうすれば地域社会や地元企業との関わりも広がり、より良い発展が期待できたとされる。西区元岡への移転では良い学生が集まらなくなり、質的低下が心配される。(教育)
- 他学部はよくわからないが、医学部は研究に診療にわが国の水準以上にあると見ている。更に発展は望まれているが。(教育)
- 九州大学は、西日本地域の国立総合大学として重要な役割を果たしている。しかし、学問・研究はその時代の政界・財界の意向に盲従するのではなく、21世紀を開拓するグローバルな視野で取り組まれるべきだと考える。各県各地域に所在する小規模の国立大学や私立大学と競合するのではなく、独自の理念着想を持って世界に貢献する人材の養成に、一層たずさわって欲しい。頭脳明晰なれど、全人格面で問題を有する者も結構見受けられ残念である。九州大学に在る者としての誇りを持つと共に、人間としての謙虚さも兼ね備えるような教育が望まれる。地域社会とのかかわりに於いても、指導者となるよりもサポーターとなるような意識の改革が望まれる。九州大学の発展を望む者として率直な意見を書きました。(教育)
- イデオロギーを超えて、福岡県のあり方、九州はどうあるべきか、勇気ある提言を期待しています。マスコミを通じ、オピニオンリーダーと在ってもらいたい。このようなことを基点として諸講座を開いていただければ、今の九州大学より、より以上期待のもてる大学となると思います。多くの者が黙っているけど期待しているのです。発展を祈念しています。(教育)
- どのように九州大学が地域社会との関係を深めようと

しても、仲々理解されないと思う。日本全国からのレベルの高い人達との交流を深め、日本のトップの人達の育成を図った方が良いと思う。(教育)

- 大学の情報の開示を始め、施設・整備や人的資源の積極的な開放を行い、地域社会に開かれた大学となるよう努めて欲しい。(教育)
- 仕事や研究、あるいは住民運動などで、九州大学の先生とは色々と交流させていただいた。地域の課題について、前向きに思考・行動される姿に、昔のような理論のくりかえしを聞くような印象は少なくなった。出会いと課題(地域的)にもよるが、なかには他県の大学教員からの助言や発想に感謝したこともある。まだ背広で地域にかかわっているような感じもある(但し、私の友人はノーネクタイのつきあい)。一般的に、大学の先生は話がていねいで、まわりくどくて、庶民的でない印象は、まだ少し残っている。地域の概念が明確に把握出来ないが、九州大学は西日本から東南アジアまでを地域交流と言った時、感じさせてほしい。一方、社会人を受け入れる開かれた大学への歩みは、確実に感じることが出来る九州大学である。(教育)
- 教育に関しては、九州の他の大学(教育学部)の中心としての働きがなされるように期待しています。(教育)
- 少し、現実を無視したところがある。それかといって、極めて高い理論をもっているとも言えない面がある。(教育)
- 大学の在り方として、高学歴社会を迎えた現在、地域とのかかわりが無くなれば、その使命を失うと思う。地域社会へ積極的に開放し、その機能を社会へ還元する時代だと思えます。私共の高等学校も、体育祭等では保育園の子どもを招待したり、地域へ開かれた学校作りに努力しています。九州工大が出前講座を導入したり、その努力を評価したいと思えます。(教育)
- 九州大学に対する地元民の関心は大である。しかしながら大学の素顔が見えないし、見えるような努力が大学側には不足している。このアンケートにおいても、素顔の見えない中で回答したので、的はずれの感もあるのではないかと不安を覚える。(教育)
- 学校の特徴を示し、地域社会に活用させる方向で進んでほしい。世界的な視野での教育を考えることが大事と思う。(教育)
- 九大は九州での学問研究分野の第一人者としての自覚と責任を持って、今後の在るべき姿を考えるべきで、地域との交流も大切ではあるが、そちらに重点を置くべきではない。日本自体が沈没しようとしている現状を、政治行政が救えないなら、学問研究の分野で救うのだという自負を持ってほしい。(教育)
- 専門高校に勤務し(筑豊地区)、九州大学については、皆無といっているほど接触はない。九州工大・近畿大工等については地方版等で紹介等があり、また、地域活動等も報道されている。大学も子供達の少子化の中での今後の大学のあり方に、悩んでおられると思います。自分の子供も、九大には行きませんが、はたして4年間も大学生活がいののかなあとと思っています。公務員・

学校勤務者・研究者(各分野)の人達は、専門職として4年も5年も鍛え、学び、研究する必要があると思いますが…? 専門高校(昔は職業高校)としても、学校生き残りをかけ、活性化・特色化に取り組んでいます。学力の低下・遊び優先の世の中、親子関係も崩れている現在、内情は生徒指導に追われています。アンケートは、単独とそうでない部分もあります。(教育)

- 教授等(特に医学部)に専門能力は高いものを有しているかもしれないが、中には人格的にどうかと思われる人が時々見られる(社会的な視野が狭い)。したがって、研修会(地域交流)の講師にお願いしても、困ることがある。(教育)
- 将来のスペシャリストの育成を図る上から、現在の普通高校生を対象とした入試制度を改め、専門高校生が入学出来る入試制度(特別枠)を進めてほしい。(教育)
- この調査書には、国立九州大学だけについて、地域との政治経済・技術医療研究体制などが問うてありますが、国立大学は、その地域、地域で協同研究などに連携すべきで、九州大学だけについての答ではカバーできません。また、大学の政治経済のリーダー役としては、地方でなく、国に対するリーダーシップを大きくしていただきたいと期待するものです。この不況の折、経済学者の声が全く聞えないのが残念です。(教育)
- 福岡(博多)地区にとって、九大は「主」となるべきものだと思いますが、もう一つの政令指定都市である北九州市に対して、ブランチャ・アンテナ大学を設けてもいいのではないのでしょうか。又、私学に対しても、要請の問題もあるとは思いますが、積極的なオピニオン・リーダーとなって欲しいと思えます。そして、審議会等の最先端の情報と、それに対して問題点・課題を素直に提示して下されば、私学は私学の独自性の中で、それらを焼き直していくことができると思えます。(教育)
- 九大の移転(医学部を除く)については、県民最大の関心事である。これを契機に県民に情報を公開し、地域交流のビジョン等を明示してほしい。また、地域に根ざし、国際的(主にアジア諸国)な研究開発の核としての九大の在り方を、移転前にも推進してほしい。(教育)
- (1)九州大学がこれからも日本の基幹大学であり続けるためには、優れた能力をもつ学生を受け入れる必要がある。その努力を積極的に行わなければいけないと思う。
(2)九州大学が世界的な教育と研究の機関であるために、インターネットを積極的に利用しなければ時代おくれになるし、見向きもされなくなることは明らかである。学生の指導のためだけでなく、大学全体の情報発信のセンターを設ける必要がある。(教育)
- 九州地区にある国立大学の中心校として、また、九州の拠点である福岡にある唯一の国立総合大学として、政治・経済・文化等あらゆる分野において、指導的役割を果たして欲しいと思う。そして、元気のよい福岡の地にある大学にふさわしく、また、アジアに開かれた福岡にふさわしく、種々の分野で世界的に活躍する人材の育成に努めて欲しい。九州大学の世界に、そして、地域に開かれた大学を目指した取組みに、大いに期待しています。

(教育)

- 戦後 52 年が経過し、社会的混乱や無秩序が見られる今日、日本人としてのアイデンティティの回復を図り、世界に貢献し世界をリードする人材育成を目指し、そのため地域社会を啓発するオピニオンリーダー的な存在であることを期待したい。(教育)
- 高等学校と九州大学との人的・物的資源の活用を期待します。生徒及び教員の施設利用や出前授業・講演また教員の研修等高等学校と九州大学の連携が出来ればと願っています。(教育)
- 地域社会の一員として、教育や研究の成果や課題について提起して欲しい。国民の意識形成にマスコミ(特に低俗番組)の影響を凌駕するようなものを発揮してほしい。(教育)
- 大学移転を機にもっと地域社会と密着してほしいと思います。されているのかもしれませんが、なかなか見えません。(教育)
- 地域との交流の中から世界への窓を開いて戴きたい。地域の中で超然とせず、地域と交流し、その実践の中で実践的な学問を広げて行く。それが生きた学問であるし、又学問の基礎が理解できるのではないかと思います。(教育)
- 地域の企業等と協同研究をすすめると共に、やはり九州大学は国際的な評価を得るような研究を行っていくことが地域の期待であると思う。(教育)
- (1) 昨年九州大学での研修会に参加しました。先生方の熱心な講義を聞く機会に恵まれましたが、具体的に地域との関わりがない、むつかしい内容のものでした。市民を対象とした解り易いお話であればと考えた次第です。(2) 施設設備の老朽化した建造物が多いのに驚きました。先生方の御苦労が理解できます。(教育)
- 同級生(高校時代)の中には、九大に学んだ者が幾人もいますが、私の知っている者にあまり活気がない。組織の中に組みこまれて存在がうすれている。九大で学んだ者は、もう少し、誇りをもってリーダーシップをとって行動してもよいのではないかと。細かくは視ていても、大局を捉えてない者もいる。九大には期待しているが、あまりアカデミックになるのではなく、今後は地域に出てゆくべきだ。要請に応じてでなく、自分から降りてゆくべきだ。「降りてゆく」こと自体、遅れている。自ら、出て活動すべきだ。(教育)
- 九州大学の卒業生として九州大学に大きな関心を持っている。在学中は、日本を代表するような恩師に恵まれ、高いレベルの教育を受けたことを誇りに思っている。大学設置基準の改正を承けて、現在各大学では改革が行われているが、専門教育と同時に一般教養の充実にも努力してほしい。地域社会との交流については、各研究室の独自のアプローチや個人レベルのもので良いと思う。大学の使命は、真理の探求にある。大学全体の教育レベルを高めることが、これからの社会に予想される多くの課題を克服していくためにも最も大切であると考えている。特に大学の入試制度及び入試の内容は、高校教育に大きな影響を与えている。大学教育の充実のためにも、大学教育に耐えうる学力を計るにふさわしい入試にしてほしい。現行の入試制度(特に共通テスト・センター入試)は高校生想像力・思考力の育成に逆効果を与えていると思う。改善を切に願っている。大学院の重点化にしても、それにふさわしい学生の育成が前提になる訳で、その意味でも高校教育と大学教育は十分連携していかなければならないと考えている。(教育)
- 地元から全ての面で期待される大学であって欲しい。(教育)
- 21 世紀の社会を目前にして、もはや大学は大学独自に存立することは無理ではないかと思う。地域社会の多様なニーズに応じて地域の信頼を得ることが必要であると思う。地域の教育課題、過疎・過密、環境問題、人権問題、外国人流入問題、農業と食料問題など現実の課題が山積している。これらの問題に対して、産・官・学、地域社会が一体となって取り組む system 作りが急がれる。現実の目前の課題に対して、大学はやや無力ではないかと思う。全て行政の不十分な対応に任されているように思う。自己の狭い分野の研究のみでなく、地域社会を活性化させる研究が必要であると同時に教育機能が極めて弱いので、学生の教育にも力を入れていただきたい。(教育)
- 入試制度の改革について。入学者定員にかかわらず、ある一定水準の受験者は全て合格とし、入学後に真に意欲と学力と適正ある者を進級・卒業させるようにされてはいかかかと考えます。今の制度は学力(受験の)さえあれば、(他の要素は全て切りすてられ)合格します。偏差値 up のみが高校や受験者の目標となります。社会や個人にとって大切な要素を身につけさせる教育を進めるためには、学力は大学教育を受けるに必要最少限を要求し、学力より人間性・社会性・意欲 etc をじっくり見極める制度が必要と思います。(教育)
- お見舞いのために何度か九大病院を訪ねたことがあります。規模の大きさから言っても、その貢献度は非常に高いと思います。これからも、医療面での貢献をお願いします。他の学部とは直接かわりがないので、このアンケートにお答えできないところがたくさんあります。福岡という土地柄に根差して「人」を育てることをこれからも大切にさせていただけるとありがたい。九大は何と言っても九州一の大学だと思います。学生の「使命観」を育てて欲しい。社会に奉仕する人として。あまりお役に立てることが書けなくて申し訳なく思います。(教育)
- 地域に根ざした伝統ある大学として、政治・経済・社会・文化に将来ビジョンを提示し、県民・市民をリードする役割りを認識して欲しい。(教育)
- 難関を突破して希望に燃える入学生を十二分に指導して頂きたい。最近の学生の特徴とは言え、入学後の勉強、人格形成の課程が、他の大学と同じ様になりつつあるのではと案じて居ます。大学の内部の状況や研究内容は教育に携わる私共の勉強不足もありますが、意外と判っていません。まして地域社会の人々には殆んど理解されていない事と想像されます。公開講座、大学施設の一般開

放、研究活動の公開などを数多く実施されますようお願い致します。(教育)

- 地域社会との関係や交流について、取り組まれていると思いますが、その内容が分かり難く、一般的に承知していません。(教育)
- 地方の大学として、地域の発展協力することは、当然であるが、あくまで、理念的学問の自由研究を主とすべきである。(教育)
- 学問・研究はそれ自身が地域性を超えて普遍性をもつものと思うが、九州大学に関しては地域への還元度において他大学に比べて劣っているとの感触がある。地域社会の人材再教育を含めた社会に対し無関心な教員・事務官が多すぎる。私は、資格、ライセンス取得の為に大学院への入学乃至学部教育への聴講等に付、照会した折担当者からその様な不純な動機で九大には来ないでくれと云われガッカリした。→他大学へ依頼して上級ライセンスを取得するのに便宜をはかってもらった経験がある。(教育)
- 九州の高校生が最も多く志願する大学として、国際的にレベルの高い研究を旨としてほしい。しかも、色んな学部での研究については九州と日本あるいは世界との比較を主とした課題を設けることにより、地域との関わりを深め、ひいては地域の人々と国際社会との関わりが深まれば幸いと思います。九州(福岡)の子供たちが地域から世界へはばたく道(夢)を描けるような大学であってほしいと願っています。(教育)
- 教育界、産業界等々、全ての分野で研究だけでなく実働の面でも地域(九州全域を含む)の核となる大学であってほしい。私も研究生で3年程大学に居ましたが、地域から程遠い大学の感がした。(教育)
- 国民が国の為何がやれるのか、我々、国民(県民)に、サークルを通じて立派な県民育成と、地域に対する交流(文化・技術面)も深めていただきたい。為にするのではなく、今後の若い青少年にも指導をしていただきたい。(教育)
- 地域の・アジアの中心校として、高い研究水準・教育水準を保ち、文化を発信し続けてほしい。(教育)
- 生涯学習に対応するために、公開講座(やさしく)をしてくれるとありがたい。(教育)
- 地域社会との交流は大切なことであると思うが、大学本来の研究機関としての役割はそれ以上に大切なことだと思う。とにかく十分なる研究、次に交流という具合に考えていきたいし、またそう願っている。(教育)
- 研究については世界的視野で実践し、そのノウハウを地域に貢献すべきである。(教育)
- 昨年度は高大連携「ジョイントセミナー」を文部省の委託で実施し九大には大変御世話になりました。これは学問接続(カリキュラムマッチング)をめざすもので今後ますます重要になると思います。(教育)
- 九州大学が地域社会との交流についてどのような視点に立ちどのような vision を持っているのかが明確に見えないので一般論になるが、大学は地域社会とのつながりやサービスよりも学問、研究に専念することが本来の

姿であるように思う。目先の問題にとらわれず、広い視野で、人間の生活の安全を見守るような分野での成果を期待する。(教育)

- より地域に根づいた大学(私が知らないからかも…)であってほしい。(教育)
- 地域社会に開かれた、地域社会に奉仕する大学であってほしい。(教育)
- もっと多数のマスメディアを活用し、広報、交流、研究成果の発表等を行い、開かれた九州大学を望む。一例として広報課を設置し、テレフォン相談(サービス)からインターネットまで大学が一体となって情報の提供をすべきと考えます。現在は各研究室や研究者の個人的なものが多く、総合的、共通的なものとしていない。この点では九州工業大学が一步リードしていると思います。(教育)
- 医学の面では、九州で一番という感じがします。しかし、その他の分野ではあまり成果、結果が見えない。地方というハンディを打ちやぶる、力量が不足しているとしか考えられない。学校の中で活動していても、外には何も見えないし、存在感さえ感じない。工学関係、経済関係、文学関係の学部は、長崎の火山爆発で見た九大の存在を、もう一度出してほしいと願っています。あまりに大学の塀の中にとじこもっているように感じます。(教育)
- 生涯学習の観点から、席に空きがあれば聴講できる(だれでも)制度があつてよいのでは。また、社会人を対象とした教養講座(やさしい)等を多く開催してほしい(文化、科学など多方面にわたり)。(教育)
- このアンケートの中でも、Aor Bという問でなく、大学運営上、あるいは、研究体制、組織などにおいて、Aの分野があつてよし、またBの分野も持ちあわせることが必要ではないか。県民(国民)は、各大学の特色ある分野に関心を示し選択していくと考える。九州大学も総花的でなく、各学部に九州大学ならではの特色づくりをお願いしたい。(教育)
- 日本の教育制度改革に大学の改革(入試制度も含め)が不可欠である。鋭意努力していただいていることは分るが、高校以下の学校からすれば、「よりよい学生確保」という観点からどの国立大学も特に入試のあり方にメスを入れようとしていないように感じる。日本の将来のためにも入学後の教育に力点を置き、「入学は易く、卒業はむずかしい」という、人材を鍛え育む大学になってほしいと切に思います。(教育)
- 糸島地区へ移転する場合、一般市民も自由にキャンパス内を往来できるようにして欲しい。一つの公園みたいにして親しめる所として欲しい。決して高い塀をめぐらして、自らを刑務所みたいに隔離し、外部との接触を遮断することがないように希望する。(教育)
- 卒業生を送り出す先としてだけの理解で同じ教育現場にありながら交流がないのを大変残念に思いました。(教育)
- 九州地区唯一の旧帝大であり、九大の名声が高まることが九州全域の各大学の刺激にもなり、九州全域のレベル

アップにつながると思う。九大にはそれだけの力がある。地域社会との交流が進めば、外の大学も右へならえするだろうと思う。積極的とまではいえないが、交流を望む所以である。(教育)

- 地域と関わりをもちながら教育を行って下さい。これからは大切なことだと思います。(教育)
- 地域社会と交流して、学問研究の中心大学になること。(教育)
- 福岡県のみならず九州地区の最高学府としての大学の威厳を持ち、研究分野での一流を目指して欲しいし、社会に於けるリーダーの養成にも、より一層尽力して頂きたい。(教育)
- 今後は地域交流が大切である。国立・公立は学校案内・紹介不足、私立大学と同じようにピーアールが大切と思う。(教育)
- 経済的にアジアのリーダーシップをとれるのが地理的に福岡である。そういう意味で、今後の福岡のあり方を示す時、貴大学が一つのビジョンを示し、それに沿った形で、学部学科を整備し、知的文化的な先進性を全面に打ち出して欲しい。(教育)
- 福岡市を離れると、九大との交流が急速に低下します。福岡市から離れた主な都市に出張所や研究所などを開設して、交流の機会を増やしたらいかがでしょうか。(教育)
- ハード、ソフト(人材)の充実を図り、学問の府としての地位の向上に積極的に取り組んでほしい。大学の研究成果や活動状況等の情報を積極的に市民に提供すべきである(PRの時代)。単なる地域や産業界へのサービス、迎合ではなく、大学の研究、学問を社会に生かす(貢献)のため、また研究・学問を生きたものとして高めるための地域・経済界との交流を進めることが意義があると思う。特定企業等との連携は慎重に。(教育)
- 現在の大学生、社会生活における基礎・基本が充分とはいえない。大学の情報不足。(教育)
- 最近では地域社会への様々なサービス事業が色々な形で行われているものと思われるが、それらのサービス事業(開放講座・教室、地域との共同研究やその成果の公表等々)のPRが不足していると思われる。ほとんど知られていない。研究者と地域との交流もさることながら、大学院生や学部学生の地域における実践的活動への派遣・参加等がむしろ大切ではないか。(教育)
- 教育・研究の場であるべきと思いますが、(1)施設の提供・開放。(2)研究等の情報開示。(3)一般への大学活動の広報、を積極的に行なえば、地域社会の理解と交流が生まれるのではないのでしょうか。(教育)
- 九州大学は、福岡県はもとより九州・山口全域の最高の人材育成機関であり、将来ともそのことを期待します。九州大学の学生であるとの自信と誇りを持つこと。国際化、情報化、高齢化等現代的課題に対応した積極的な教育の展開。生涯学習社会を迎えた今日、地域との交流、学校が持っている資源の積極的解放。(教育)
- 九州大学の最近の地盤沈下は著しい。教育・研究・医療など、すべての面で九州が、そして日本が誇れる国際的

に評価される大学・大学院になってもらいたい。そのような力がなければ、地域社会は評価しないし、協力も得られない。真に世界的レベルの大学になってもらいたいと切に希望する。国立大学の数が多すぎる。九大が率先して、九州にある国立大学の統合と特殊化をすすめることを希望する。社会との対応も、広域的に考える必要がある。(教育)

- 特に人文科学分野における研究者の中には研究そのものや現実的課題についての意見が抽象的過ぎる。又中には理論が極端で非現実的であり、実際の行政(企業活動)とは相いれない者も少なくない。(教育)
- 九州全域のリーダー大学になって頂きたい。(医療・保健)
- 北九州市に在住のせいか九州大学との関係は非常に稀薄である。従って、この調査に回答することも困難である。大学が地域社会と交流して、開かれた大学となることは大いに賛同するが、地域社会のための大学とならないよう、教育、研究機関としての根幹を忘れないように願いたい。(医療・保健)
- 私自身が福岡市以外に居住しておりますせいか、九大の情報量が少なくよく判りません。仕事の関係で看護職の研修会には、各専門の先生方に講演をお願いして、ご協力いただいております。県の委員会でも学識経験者として大いに貢献されています。これまで、九大はもっと地域との関わりを深めるべきと思っていましたが、問13などで、国立大学のあり方について改めて考える機会となりました。地域に住む者としては、身近なところとの関わりを通しての教育や研究が成されることは、地域も共に高められることとなり歓迎の気持は変わりません。(医療・保健)
- 歯科業界においても情報の公開と交流が望ましいと思います。具体的には講演会等を公開することと、大学施設を一般に使用できる体制を整備してほしい。(医療・保健)
- 医学部に関していえば、私立に比べて元気がないような印象をうける。(医療・保健)
- 九州大学医学部とは関係・交流が深い。現在は地域医療にがんばっているが、当院の医師は九大医学部及び福大医学部の医師が多く、非常勤医も派遣してもらっている。医療及び医学研究のための交流も深い。(医療・保健)
- 九州大学としての研究論文は、大変多い方と聞いているが、それが世界的に、あるいは地域に還元(利用)されて大いに貢献できているという話は、あまり聞かない。マスコミにおもねる必要は全くないが、九大の業績があまり伝わって来ないのは、やはり淋しいように思う。大いに人材の交流を行い、行政や企業にも入りこんで九大の活力を示してほしいと思う。(医療・保健)
- (1)国立大学は、設立目的をはっきりさせた格差をつけるべきだと思う。(2)九大は、普遍的な学問、研究のための大学であってほしい。九州では九大一校で充分と思う。(医療・保健)
- 10年前まで九州大学の教官であった経験から推測し、ま

た現在においても在職している教員の志向性を考慮しても地域社会との交流の意識は非常に少ないと思われる。国立大学であり、文部省の所管であるという立場がそうさせている部分があるが、地域特性から発生する、研究テーマなどが一部の分野を除いて少なすぎると考える。まず第一に研究をとおして地域とさらに密接な交流を深めてもらいたい。(医療・保健)

- 主要地域社会(例、福岡市)との交流は盛んであるが、他の地方との関係は少ないように感じる。大学人が地方に出て来て欲しい。現在福岡県下にはそれぞれ設備の整ったコミュニティーセンターがあるので…。(医療・保健)
- 大学では教育・研究に追われ、研究費にも恵まれておらず、大学自身が主体となって長期的な交流計画を持つのはかなり無理である。地域社会にもそれ程の財力を持ち、計画をサポートする組織はあまりないように思われる。大学と地域社会との交流と言っても、基本は個人的な接触の機会がうまくもてるかどうかであると考えてるので、現在のロータリー活動のような形で、大学教授や地域要人が頻りに顔を合わせる機会が持てるようにすれば、そのなかから自然に相互関係が生まれてくるのではないかと考えている。福岡市で経済人、行政の要人それに大学人などの交流の場がフォーマルでインフォーマルにも存在していないのは、地域社会にとって大きなマイナス要因と考える。(医療・保健)
- (1)アメリカには以前からあるが、地元の民間TVで地元大学の教授からの講義がきけるようにして欲しい。最終的には大卒の資格がとれる。日本の大学生は、勉強する気がない。(多くの場合)留学生はあきれている。しかし仕事についてから大学教育を受けたがる人(大抵は熱心)が多くいるので、この方たちに教育の機会を与えて欲しい。(2)語学教育(主に英・中国・朝鮮語)を開放して欲しい。10年英語教育を受けて、喋れる人は、僅か。今までの教育はまちがっている。(医療・保健)
- (1)海外からの留学生をもっと受入れるべきである。(2)そのためにもっと充実した住居etcを提供すべきである。(3)経済至上主義でない社会の模索についてもっと提言すべきである。(医療・保健)
- 地域の問題も純学問的問題も共に発展させてもらいたい。(医療・保健)
- 世界的な研究・教育をする大学であって欲しい。一方、地域とも密着して欲しい。(医療・保健)
- 九大は我々が学生の頃に比べ全国的ないわゆる有名大でなくなった。もっと個性的な大学になれないものだろうか。(医療・保健)
- 積極的に地域又、国際社会へ出て、交流を深める努力が必要である。(医療・保健)
- 福岡市及びその周辺都市の住民にとっては、九大が身近に感じられるが地方にとっては、九大の活動が見えない。九大がどういうところで地域に貢献しているか地方(都市圏外)の住民に分かる活動をして欲しい。(医療・保健)
- 九州大学の地域における立場上、止むを得ないと思う。

反面、余りにも学閥意識が強すぎて、他大学出身者に対し排他的(地域交流においても)と思う。(医療・保健)

- 私の知識不足かもしれないが、国内外でトップクラスの実績を上げている研究が少ない。又は、広く知らしめていない。九州のトップであることは、ゆるぎないことであるが、それに満足せず、世界的レベルで、健闘してほしい。それが、地域社会に貢献することに通じると思う。(医療・保健)
- (1)九州大学に限らず、学生教育が真剣に、科学的に、効率的に行われているとは考えられない。従って卒業生に魅力を感じない。才能のある人達が入学しているので立派な卒業生はもちろんいるが、全体としての能力の開発が十分できていないのではないかと。(2)日常生活の中に応用科学の芽は無限に存在するし、基礎科学も無縁ではないはず。もっとフィールドワークを重視し、社会に貢献する一方で、そういう方面の科学を作り上げるという獨創性を大事にしてもらいたい。(医療・保健)
- 現状を詳しく知らないので答えようがない。(医療・保健)
- 大学の方から積極的に地域にでられる努力をされたらよいと思います。(医療・保健)
- 学問の府として理想を高く持ってほしいと思うが、実社会に出て行く人達を地域のニーズに合わせた教育をしてほしい。多数いる優秀な学生及び研究者を地域のニーズに合った高度な知識と技術を持てるようなシステムにしてほしい。一方地域社会・企業等も研究資金など種々の援助をして積極的に大学と交流すべきだと思う。地域に還元される質の高い研究成果を期待したい。(医療・保健)
- 九州大学は九州域、西日本における旧帝大のプライドと実績をもって、九州・沖縄でのリーダーシップをとるべきであろうけれども、九州・沖縄内の他大学の充実も必要であろうと考えます。これからの大学は狭いところに閉じこもることなく、他大学とも、また、地域社会とも広く交流を進めていくのがよいと思います。(社会・福祉)
- 九州大学には、地域社会のために大いに貢献していただきたい。しかし、養成する学生は、地域を超えて活躍する全国区の人材であって欲しいと願います。(社会・福祉)
- 特に、九州大学のOBに対しては、九州大学が保有している研究情報(大学図書館や研究室の資料を含む)の開示・提供をできる限りして欲しい。(社会・福祉)
- (福岡県)地域社会とあるが福岡市が主で北九州市とは余り交流があるとは思えない。ほとんど関わりがない。(社会・福祉)
- (1)安易に解放しては駄目だと思います。民間のヒントは助成して発展育成することは文字では、簡単に云えますが、実現させるには、永い伝統と歴史の上に立つ学府の権威が、そう安易には同調出来ないと思料されます。(2)解放・協力と、言葉では語れますが、相互の理解と協調、思いやりの心が肝要でしょう。(3)特に、各専門分野に於ける閉鎖性と権威が、仲々、門戸を開けること

- に、協力することが難しいことでしょう。(4)相互の譲り合いと、尊重が期待されます。(社会・福祉)
- 一般的に言って、国立大は私立大に比べ、卒業生の卒業後の組織づくりに冷淡であるように思う。もっと各界に活躍している人達を入れてネットワークをつくり、そのネットワークを核にして、地域社会と大学の交流を拡大してゆくべきである。学生と教授と社会で活躍している我々との懇談会等を企画すれば、学生の社会への関心も深まり、将来に向かって、大学と地域社会との関係や交流にプラスになると思う。(社会・福祉)
 - 大学の学生教育は、地域をこえた人材の養成を目的とすべきだと思うが、大学の職員教官は、地域社会のさまざまな問題に積極的に関わり、特に市民活動において理論的な助言・指導を行うことが、今後ますます求められると思う。その為には、各学部各研究室の情報公開が必要で、それにより、市民の側からアクセスすることが可能となる。(社会・福祉)
 - 優秀な人材の宝庫として受け取っており、地域とは、かけ離れた大学のような感がある。もっと地域に根ざした交流の場があることを期待します。(社会・福祉)
 - 九州大学への地域の期待は、近年ますます高まっていると思います。国際的に高いレベルの研究内容と教育内容を持ちながら、地域社会への貢献を御願います。(社会・福祉)
 - 永年にわたって培われた九大の伝統を発展させて欲しい。雲仙普賢岳の観測等の実績、医療に於ける活躍、私達は信頼を寄せています。義弟と姪と九大卒です。誇りと自信を学生につけて下さい。(社会・福祉)
 - 近い将来、糸島の方にキャンパスが移転しますが、開かれた学際都市として整備されることを希望します。(社会・福祉)
 - 子供が九大卒ぐらいで、その他については医師として、久留米、北九州市に勤務した範囲での知識しかないので、よくわからない。(社会・福祉)
 - 医学部以外の学部の活躍がみえない。医学部偏重ではないか。(社会・福祉)
 - 大学で研究しているものの中には、社会福祉の学部や学科だけでは、できないものがたくさんあると思います。特に障害者や高齢者のための日常生活で使う機器やコミュニケーション用の機器などを研究されているようですが、このような研究についての情報を社会福祉関係者にも提供してほしい。(社会・福祉)
 - あまり九州大学のことは知りません。(社会・福祉)
 - 私は、北九州市役所に30年勤務いたしましたが、地理的にみても市内の大学との関係が90%以上でした。九州大学だけというユニークな研究があれば、別ですが…。(社会・福祉)
 - 社会の中で九州大学の存在感が薄い。それはとりもなおさず、大学、地域側双方に交流を積極的に推進しようという熱意とビジョンがないからである。九州大学側から行政、地域産業などに強力なアプローチがなされなければ進展はあまり望めない。地域は平板、雑然としたもので学問的集積がない。大学側の力強い取り組みを期待するや切なるものがある。(社会・福祉)
 - 大分地域社会との協力関係が深くなってきたが、いまいちという感じ。(社会・福祉)
 - 地域社会(特に福祉)との交流は殆どない。一部行政の審議会の委員を引受ける程度。福岡市に限定せず広い範囲で“開かれた大学”としてのイメージを育ててほしい。現状では国立大学でなくてもよいのではないか。(社会・福祉)
 - 九大は飛行場に近く、騒音が非常に激しい場所にあるが、どうしてその対策を取らないのでしょうか。(社会・福祉)
 - 長男・次男とも九大卒。然し東京方面在住、福岡に帰福出来ず、さみしさを感じる事もある。市か県の重要なポストに就かれる事が望ましい。然し専攻課目上致し方ない。福大・西南大は、比較的に地域との交流がある。公民館を中心にして動く各種団体は、健全育成の為、小学校・中学校を交流の場として、家庭・地域・学校3者で大いに連携をとっている。人間形成が出来た後は、大学側と地域とがビジョンを作って交流したい。お互いが望む事である。(市民団体・ボランティア)
 - 21世紀が間近です。情報通信の高度化・経済の長びく低迷・国際化、そして少子・高齢化などが社会に大きな変化を求めています。変化の時代を生きるには、流れの方向的確にとらえながら行動することが大切です。大学もこれからは地域との連携によって連帯し、貢献し地域と共存することが重要になってくると思われまます。(市民団体・ボランティア)
 - かつて象牙の塔といわれたように、研究に専念することが大学の使命だと、教授側に考えられているのではないか。一部、市の審議委員等に進出されている例もあるが、地域社会のためにという意識が大学側に少ないと思う。大学生は入学までが大変で、あとは遊んでいるといわれる(一般に)。アメリカのように入学はもっとゆるやかにして、卒業の際、一定の研究ができない者は卒業の資格を与えないようにすればいい。国が給料を払っているのだから、災害とか地域の開発とか生涯学習とか、もっと学外にでて地方の実根を把握し、地域に役立つ大学として活動してほしい。外野から勝手な意見をのべました。(市民団体・ボランティア)
 - この度の調査は私の様な者には、理解がむずかしく思いました。しかし、次の世代の為に、最大の御努力を御願い致します。常に世の為人の為、限り有る命です。人の喜びを、人の痛さを解る人を育てて下さいませ御願い致します。御希望の意見でなくて申し訳ございません。(市民団体・ボランティア)
 - 私の知っている教授や学生は地域との交流によく協力していただいています。国際交流にもよく、協力していただきますがもう少し学生としてのパワーが少し足りない様な気がします。若いのでもう少し前向きにがんばって不景気を景気の方に向けてくれる学生の意欲を期待します。(市民団体・ボランティア)
 - 九州大学が多くの外国留学生を受けいれているのは知っているが、私達の地域等での活動の場では、殆ど九大

にかぎらず、あまり大学の名を聞かない。上部、又は会社等内の関係については分からない。一般住民についても、もっと大学と地域社会との関わりをはかってほしい。(市民団体・ボランティア)

- 近い処にある大学ですが、あまり身近に感じられないのが残念です。(市民団体・ボランティア)
- 地方分権の時代ですから九大で勉強された能力をもっと地方に貢献して下さい。エリート意識の強い人が多いことを考え直して下さい。(市民団体・ボランティア)
- (1)一般的に九州大学卒業生は知的能力は優れているが、企画力、応用力、先見性に欠ける傾向がある。(2)一般的に九州大学の教員は学術的評価は高いが、現実社会の諸問題の分析、解決策に名案をもたない。(3)現在、九州大学が地域社会で高い信頼を受けているのは医療関係、郷土文化事業への協力である。(市民団体・ボランティア)
- 放送大学に平成4年より在籍し、生涯学習と社会福祉活動に参加しているため、福祉全般の基礎理論、並びに多数の人々との交流を行っているので、各種心理学を基礎より学び、日常的福祉活動の参考とし、少しでも社会のため役立ちたい。特に、九大主催の種々の研習会・ゼミナールに積極的に参加することで、社会活動の理論的裏付けを得る点多く、また、現在の如く荒廃した日本の将来に、特に深い憂慮を感じずにおられません。高齢である私達有志が、戦後日本の復興に出した力を再びお互いが発揮し、社会道徳の立直しに寄与すれば、経済力の活性化により、工業力の発達発展に大いに寄与するものと思考する。(市民団体・ボランティア)
- 私の回りの学生を見て思うのか知れませんが、プライドばかり高く自分さえ良ければ…という様な人が多い様に思います。もっと学生に九大生としての本当の意味でのすばらしい生徒になっていただき地域の為になる人材育成を主にしていただきたいと思っております。大いに期待しております。(市民団体・ボランティア)
- 仕事上、九州大学との関わりが他の大学よりも薄い感じで、なんとなく遠い存在といった感がある。(市民団体・ボランティア)
- 理工系のことはわからないので文系を念頭に回答した。地域に強い関心を持ち、研究対象としている先生はいるが、一部に限られるのではないかと。政治、行政、経済、農学などの分野で、現在求められている課題に取り組む先生が少ない。もっと時代との緊張感がほしい。(報道・出版)
- 香港の雑誌がまとめたアジアの都市人気ランキングで福岡市はシンガポールや東京を抑え第一位に選ばれた。その理由は交通の便がよく、自然が手近かにあることなど大都市と田園都市の要素が適度に織り交わっていることが挙げられる。福岡市の立地の良さが大きな得点になった。普通、都市の魅力は、その経済文化の集積の高さが大きな目安になる。その中でも柱の一つになるのは大学である。残念ながら九大に対する魅力度は九州以外の人にとっては低い。海外では、その知名度は東北大にも劣るのではないかと。いたずらに人気度を比べても無意味

である。だが、恵まれた福岡の立地環境の中であるだけに、九大はもっと奮起しなければならない。一番欲しいのは教官陣(とくに文系)の精神の柔軟さと自由さである。(報道・出版)

- 基本的に地域交流は、各県庁所在地にある国立大学が担うべきものと考えます。九州大学は、その他に九州地区の国立大学をまとめ、中心となる任務も同時に背負っていると思います。福岡県の場合は、他にも公立、私立の大学が多いのですから、地域交流の面に於いては、そうした他大学にも分担してもらうことが可能だと考えます。では、九州大学は、その余った分を何に使うべきか、たとえば、もっと地域社会に向けて開かれた大学のありようを実験する試みとか、独創的な手法の開発とか、ある意味で九州地区の大学のリーダーたるべき方法論を追求することが必要だと考えます。これは何も九大を権威付けすることではなく、学問でも地域交流の面でも常に先頭に立つてもらいたいとの、小生の願望からです。(報道・出版)
- 九州地区だけに限ると、各県の国立大学は、地域性を重視しながらより地域密着型の研究・教育・地域との交流を重視すべきだが、九州大学はその視点も大切だが、国際水準を意識した研究・教育をし、九州全体のレベルアップに貢献すべきだと考える。(報道・出版)
- 九大は私の出身校ですので、今後大いに発展することを祈念しています。公開講座等もあるようですが、なかなか忙しくて出席できないのが残念です。(報道・出版)
- 「大学」というものを教職研究者中心に考えるか、学生の存在を含めてのものとするか——イメージが作りにくいので回答しづらい。九大がある程度、先達の役割を地域で果たすことは望ましいが、一方であまり特別扱いの存在とすべきでない。大学が地域とどう連携しているか——その活用可能の実態についてもっとPRし情報公開した方がよい。(報道・出版)
- 以前に比べれば、地域社会とのかかわりの機会は増えていると思う。大学である以上、教育と研究の軸は守りつつ、その成果を地域社会に還元することに努力してほしい。(報道・出版)
- 九州大学が何を狙っているのか、学長の発言と全学が実行する活動が、不一致と思う。北部九州出身に偏った学生の構成、九大出身者が大半を占める教員が、大学の像を造っているように思う。アジアとか世界とか以前に全国のイメージはない。九州大学の関係者が、戦後地域に送った強いメッセージは、三池斗争であり、奥田県政であるが、これは地域産業に、歓迎されたとは思えない。(報道・出版)
- アジアにおける九州という視点から10年後、20年後の地域ニーズを把握し、九大の役割のビジョンを地域社会に示すべき。地方の大学が、地方の人材についての各地方から中央への経由地に過ぎないという性格が弱い間は、中央の大学に比べ、地盤沈下の速度が増して行かざるを得ない。地方の大学が生き残るためには、地域社会との交流、共同研究等に重点を置き、必要な活動費・研究費等の確保についても地元自治体・企業と緊密な連携を図

るべきである。すでに様々な面で、福大・西南大に遅れをとっていることを自覚し、危機感を持って欲しい。

(報道・出版)

- 地域社会との交流はできれば深いにこしたことはないと思うが、地域を意識して何かをやるのではなく、今あるもので地域に還元したり活かせるものがないかを見つけるスタンスで良いと思う。九州大学だから、国立大学だから地域に対して何をすべきかなどと構えて考えることそのものが、すでに溝をつくっているように思えてならない。(報道・出版)
- “九州大学”と特定しての意見はありませんが、大学は、地域と交流を深め、お互いにエネルギーを吸収し合うべきだと思います。国立大学の方が閉鎖的に見えます。(報道・出版)
- 九大の研究情報を地域へ流し、交流を深めてほしい。(文化・芸術)
- 社会人のための教育課程の充実を図るべきと思う。(文化・芸術)
- 産・学・官というのでしょうか、お互いの良さを学び合う機会が多い程、良い様に思います。(文化・芸術)
- 全く知らない。今回、九州大学が、地域交流に関して関心があることをはじめて知った。(文化・芸術)
- 九州大学全体についての認識は、あまり正確なものをもっているとは言えません。ただ、私の関わっている仕事を通して見える九州大学像(文学部系)は、残念ながら、地域に開かれた研究機関としての役割が非常にうすいというのが強い印象としてあります。全体として、閉鎖的なイメージのつよい大学です。個人として、諸々の審議会やマスコミで名前が売れた方がありますが、そのはんいを越えず、もっと時代のニーズにかみ合った実践的な研究や情報提供が欲しいと思っています。新しい時代に向けて、地域における大学、研究機関のあり方が検討されることを期待しています。(文化・芸術)
- 卒業生と関係学部職員との交流親善の場が全くないのは淋しい。(文化・芸術)
- 現在行われている公開講座等は良いと思います。今後もっと地域に開かれた地域に役に立つ大学へと変わっていくことを期待します。例・教育学部の公開講座(アクロス文化キャンパス)等公開講座が行われること等をもっとアピールして欲しい。(文化・芸術)
- 直接に接触する機会がないので、余り具体的なことが言えません。先生の中には地域の問題によく参加される方もあると思いますが、そういう先生の数がもっとふえればよいと思います(ボランティア的に)。(文化・芸術)
- 九州大学も国立大学なので、普遍的な学問研究に重点を置くことが大切であるが、社会と結びつきの深い実学的な分野については、地域社会と積極的にかかわってほしい。地域の人が自由な気持で大学の諸教育機関を活用できるシステムと雰囲気を作ってほしい。(文化・芸術)
- 九州大学は九州における国公立大学の中核として、大変重要な役割を期待されている。行政、産業、文化、教育、医療など、各分野に対する九州大学の影響から当然

のことであろう。そのような期待に対して、九州大学がどのような地域との交流をはかり、また、どのようなサービスを提供しているか、寡聞にして承知している。私がかかわる「地域文化の振興」は教育や地方行政、国際関係などと深くかかわっているが、残念ながら、大学の協力は殆んど無い。今後の地域社会を展望するとき、九州大学への期待は大変大きい。(文化・芸術)

佐賀県

- (1) 地域社会への貢献・交流を図るためには、まず大学教員のレベルアップが必要。佐賀大学は、労農派の影響が強い九大の影響があるためか、政治・経済学の分野で、いささかバランスに欠ける面があり、また時代にあった研究者がいない。もっと幅広い観点から(他大学、中央官庁等)教員を、短期間でもよから入れるべきだ。(2) 私が労働政務次官の折り、大学教授の任期制採用、兼職制を文部省と協議を行った。今年の法改正によるTLO組織などは、今後の大学教員の活躍の場を広げることになると思う。もっと頑張ってもらいたい。(政治)
- 佐賀大学は特にハイテク研を通して地域のニーズをくみあげつつ普遍的な価値、真実をめざす意欲的な研究者がそろっています。国会で私も取り上げましたがTLO等の技術移転のモデルとなるとりくみも数多くみられます。佐大のある佐賀市は全国一自殺の少ない市であり、これからの心の教育、特に心の癒しの研究拠点を作ることができないか努力を続けたいと思います。(政治)
- 地域社会との交流をもちながらも、独自の研究も続けるような心の広い、又心豊かな人材を育てて欲しいと思う(表現力が乏しいのであしからず)。(政治)
- 郷土の大学として大いに期待している。(政治)
- 佐賀大学卒業の方々を見ると、優秀な人材が多くおられます。しかし、地域社会のために積極的な大学の情報を広く開示しているか疑問でならないし、積極的に活動されていると思えない。地元の大学として、地域に愛され期待される活動を希望する。(政治)
- 地方議員の議員としては、あまりにも佐賀大学を知らなかったことが設問では解り愕然としました。佐賀大学といえば、教員養成の大学との印象が深い、成績優秀な高校生は東京を中心とした他県の大学へ流出、それだけ、佐賀大学の評価は県内では低い。このような評価を引き上げていくためには、地域との交流は欠かせないと思うし、特異な学問、研究で成果をあげ地域への理解を深めて行ったらと思う。(政治)
- アンケートの主旨について、一定の理解は感じたものの、その回答は一貫性を欠いていると思います。それだけに主催者の意図に沿えたかどうか疑問です。世間では、特に、地元の親は佐賀大学を選ぶ場合、教育費の負担割合から選抜しているのが現状と思います。聞きかじりですが「勉強しない大学生」が多いという風評は当たっているのかも知れません。公権力といわれるマスコミ等の論調に惑わされずに「あるべき姿」は徹底して追及すべき

では…。(政治)

- 佐大OBですが、自分の反省をふくめて、在校生、佐大とかかわりたいと思いつつも思うような機会にめぐまれません。地方の時代の進展に伴い、都会よりも、地元で働きたいという学生がふえて来ている時だけに、もっと大学と地域が相互に協力し、お互いに貢献しあっていくべきだと思います。(政治)
- 質問内容がどちらも正しいようで難しい(判断が)、佐大は地域との交流はよくやっているとします。しかし、地域の方が十分に生かすだけの(力)がないのではないか。企業の集積や、研究・調査的なコンサルの発達が一部の業種を除いて弱いのではと思います。これからは農業関係や国際交流、教育の分野等で活発な交流を期待しています。(政治)
- (1)教育の本来の目的は地域社会に適合したリーダーの養成を図って頂きたい。特に、理論のみ先行し社会の現実に対応出来ない人は必要ない。(2)大学卒業生は近年自己中心的な面が強く、国のためや社会に対するボランティア精神が欠落しているため人格的教育の充実を望みたい。(3)上記2項と関連するが卒業生には中味が伴わない。特権意識が強過ぎる。・大学内部を出来る限り公開し透明性を高めて頂きたい。(政治)
- 本市においては、佐賀大学に留学されている外国の学生さんとの交流が、ここ数年前から行われています。本市から、市長他三役全部出席します。私も楽しみにしております。(政治)
- 学生達が青春時代の4年間を佐賀の地で過ごしてくれることに対し、大いなる親近感と、歓迎の念を覚えて居ります。また彼等を通して、海外からの留学生の存在と実情を知り及んで留学生達の為にも何かお役に立ちたいと願って居る者の一人です。(政治)
- 地域の活性化に対する積極的な提言が欲しい。(政治)
- 自治体との交流、関わりを深くしてほしい。(政治)
- 大いに地域との交流を進めて、佐賀県の発展に一翼を願いたい。(政治)
- 交流はございません。佐賀県民の心の大学として地域社会の発展のため支援したい。(政治)
- (1)小さい事でも結構です。実用化をめざしてほしい。(2)農学部の研究に期待と評価が高い。新しい技術開発と人材育成を更に望む。(政治)
- 福岡や熊本では、地域の大学対抗のスポーツ交流試合等が毎年実施され、伝統となっている。佐賀は大学等の数が少ないこともあるが、そのような姿勢で取り組まれてはどうか?→大学・地域の活性化の一助(行政)
- 地域の発展に役立ちながら、世界に通用する人材の養成を願いたい。(行政)
- (1)教授陣に、企業や研究機関出身者が目立ち多彩である。そのためか、企業や地域との交流に前向きな姿勢が見える。(2)学風は上品ではないが、実行・実力派の教授が多い。研究テーマも他の大学に比べて、地域ニーズに根ざした特色ある研究分野に取り組んでいる。(3)自治体・財団・企業など外部との積極的な交流を旨とする

勢は評価できる。今後はその具体的な成果を期待したい。(行政)

- 唐津市と佐賀市は交流があまりないので回答しづらい。むしろ福岡市との交流が深い。(行政)
- 地元の高校生が、魅力を感じる特色のある学部を期待しております。特に、海水発電の研究、文化教育学部(教育学部から変更)を期待します。(行政)
- 佐賀に住んでいても、あまり佐賀大学が何をしているか、何に貢献しているかを知る機会が少ないので、もっとPRすべきだと思う。また、夜間講座などの、一般公開教室等がもっとあれば、地域と大学との関係が、より身近なものになるのではないかと期待しています。(行政)
- 地域社会、企業、住民と教育・文化の面において交流を作ってほしい。又、県内の学生を優先的に入学させ、地域の国立大学というイメージを県民に与えてほしい。(行政)
- 新聞紙上などで、佐賀大学の地元企業との共同研究のことや有明低平地対策の研究のことなどを見ることがありますが、又、公開講座等もあっているようですが、働く社会人としては、なかなか参加することが困難です。又社会全般がそういうことのできる基盤ができていません。永久(とわ)に職業生活の中で、知識再装備するためにも又、職業(労働力)の流動化という見地からも、大学が4年間の学生生活の場から進んで、社会人の再教育、知識拡大の場として、役割を担ってもらいたいと思っています。(行政)
- 卒業生の視野小さい、スケールも小、可も無し不可も無しの個性に?(行政)
- 本県にとって佐賀大学の存在は大変大きなものがあります。低平地の問題等、本県独自の環境なりに即した研究等も手がけられており、特に技術関係では産・学・官一体となつての推進が図られております。光シンクロトンに関する国事業の取り込み等も、理工学部の肝いりで、県商工労働部が取り組んでおり、これから益々関係が深くなって行く予感がします。(行政)
- 地方の国立大学は、地域の産業、生涯教育の中核施設として、国の人材育成が基幹であるが、地域の特性や産業を生かして、地域に於いてしかできない、佐賀大学の研究・学問を創出することがひいては、個性や創造性を生み出すこととなると考えられる。大学自体が文化であり、社会的なことに無理にとけ込むことはなく、地域を生かし、国内外との学際としての情報受信基地としての役割を果たしてほしい。最高学府として門戸はオープンに。(行政)
- 理工学部:かなり地元企業の指導等もやってもらっているが、人材養成も含め、複数の企業の技術者と大学の共同研究等幅をもって活路指導願いたい。農学部:最近新しい研究成果が少ないのではないかと。頑張ってもらいたい。文化教育学部:美術専攻はハイレベルと聞いていたが、最近の美術館での展示等みると低下していないかと心配。技術・実技中心の入試で人材を集めたらどうか。全般的に若い研究者を集めて、研究意欲のある大学にして

ほしい。(行政)

- 佐大は地方大学としては、将来が活発な大学(しかし、意外と知られていない)。更に今後の発展をのぞむ。佐賀県内で生まれ育って、佐大を卒業して地元就職というパターンが多いが、へたをすると世の中の広さをしらずに視野の狭い社会人になってしまう。大学で視野をオールジャパン、国際的などころまで広げるような教育を是非してほしい。佐大から大学ベンチャーを続出させてほしい。これからはそれが地域経済発展の起爆剤のひとつになる。(行政)
- 大学の先生方が地域との交流を通して色々活躍されて有り難いと思っているが、未だ一部の様な気がしないでもない。多くの分野で多くの人の交流が望まれる。(行政)
- 佐賀大学は、総合大学として年々充実が図られています。しかしながら、現在地は市街地にあり環境的にふさわしくないの、将来的には移転等を含めて、学部および施設の充実を図ることが必要かと思えます。(行政)
- 佐賀大学は優れた教職員の養成や農業振興等地域社会の発展に大きく貢献してきた。また、総合大学としてその内容も充実しつつある。しかし、今日地方大学として特色に欠け、その顔が見えてこない。特定の研究部門、あるいは学部については他の地方大学にない独創的かつ先進的な学術研究がなされ、国際的にも注目される大学となるよう期待したい。私見ではあるが、特に期待したいのは、情報・環境・農業の分野、今後、地域の振興発展はもとより国際的に貢献しうる大学として、大きく育ててもらいたい。(行政)
- 佐賀大学は他大学と比べたら地域との交流は活発な方である。企業との共同研究、ニュービジネスの創出等についても支援をいただいているが、社会人向けの公開講座をもっと活発に数多く開いてもらいたい。(行政)
- 一般論として、大学は基本的には心理を追求する場、或いは科学する力を養う場(人材の養成)と考えるが、一方生涯学習社会の今日、地域との交流ないしは市民への開放等は今後も積極的に進めていく必要があると思う。(行政)
- 大学として、品位と権威を持ち、地域から尊敬を受けるような教育・研究機関となってもらいたい。(行政)
- 佐賀県特有の課題、例えば、有明海の干潟、有明粘土層軟弱地盤、食糧供給基地としての農業等についての研究の拠点としての役割を今後とも果たしていただきたい。今年7月28日に佐賀空港が開港し、今後アジアとの交流が深まっていくことから、アジアとの学術交流への貢献がますます重要な使命となっていくと思われる。(行政)
- (1)もっと地域の問題に対して、研究・調査を行い、積極的な提言を行っていくべきである。(2)その際、県や市等は情報を有しているので、大いに情報交換をして行く必要がある。(3)県や市も、もっと大学と共同調査や研究をするように、努力しなくてはならない。特に、調査費等をケチってはいけない。(4)県や市の職員の中には、優秀な人材もあるので、講師で招へいする等教育の

面でも、協力関係を作っていく必要がある。(行政)

- 近年、地域社会との関係・交流は、大変良好な状況にあると思います。先生方とも今より以上に、行政機関や民間団体に入って行って頂きたいと思います。そして大学の研究水準の向上を図られると同時に、地域の生活の向上に寄与されることを期待します。私自身は佐賀大学文理学部法律科の出身であり、そのことに強い誇りを持っています。(行政)
- 佐賀大学の先生も、行政との係わりを積極的に持ちたいとの意気込みから各種の審議会、委員会等に積極的に参加してもらっている。その席で、地域づくり等への提言、意見等をいただいている。(行政)
- 多くの先生方は、県(国)の頭脳トップとして研究成果や、知見を地域に展開すべく努力をなされている。先生方の研究成果(工学・理学・生物学 etc)をその展開応用、事業化の可能性まで含めた形で一般公開発表会をして頂いたら、更に地域との交流も深まるのではと考えます。勿論有料でも構いません。(行政)
- 地域社会との交流をもっと活発に行うべきと考えます。(行政)
- 地域交流よりも、もっと教育研究に力を入れ、優秀な学生を社会に送るべきである。(行政)
- 大学の付属研究施設が少ない。特に大学院生を対象とした研究室や地域教育・社会人教育用のシステムやビジョンがない。地域社会の研究機関と人事交流をもっと行ったらどうか。大学から県などへは移動した例はあるが、その逆は全くない。もっと地域の人材を登用し、改革するとよいと思う。(行政)
- 出身大学で、用事がある時のみしか研究室を訪問しませんが、地域社会との交流が深まることはきわめてよいことだと思います。(行政)
- (1)地域社会に開かれた大学であって、地域社会の問題や課題についても十分対応出来ること。(2)国際交流特に、アジア地域との交流が必要と思う。(行政)
- 今後とも佐賀大学が独自性(地域文化 etc)の研鑽を積みながら、地域への還元・手法を模索され続けられる事を期待します。また、過去・現在の佐賀県の歴史文化等を踏まえ、100年先の体系(長期的ビジョン)を提示、プロローグを指導して頂きたい。(行政)
- 多種の専門研究分野において、地域におけるグループ研究の促進(企画、人材組織化等)についてリーダーシップを発揮していただきたい。(行政)
- 大学の講座を社会人向けに一般開放してもらいたい(夜間での社会人向けの講座)。(行政)
- 佐賀大学と地域自治体・企業との共同研究を積極的に推進して頂きたい。(行政)
- 学部によって教授等に格差がある。交流事業に熱心な先生が限定されている。特定の団体に偏重し、一般市民に嫌悪感を与える先生が大学への不信を与えている。(行政)
- 土木事務所の技術職員という立場から、大学の理工学部との関係が深いと思われるが、その内容或いはカリキュラムが一般には判らない。利用又は活用或いは教授の助

言を得るにしても手だてがないのが現状ではないだろうか。水文解析、基礎地盤対策工法など、これまで民間にすぐ委託してしまう傾向がある。その点気楽に簡単に大学の研究室にある資料が常時に公開されていれば（費用も安く）もっと利用できるのでは！（行政）

- 地域に密着したより一層の研究と、研究のスピードアップ。また、地域との交流、促進と、大学の先生が関係する分野への積極的な参加による地域の現状の把握と的確なアドバイスをお願いします。（行政）
- 大学と県民との交流を深めるために、県民気質を十分考慮した教員の人選をしてほしい。（行政）
- 各学部、講座等については、学生の指導をはじめ、優れた研究がなされているが、それが全国的にも関係者の範囲内に伝えられるだけで、地域への紹介等が少ないと思う。今後、佐賀大学が地域社会との交流を深められていく考えであるならば、従来の活動に加えられて地域へのPR、情報の発信等について、職員（教授等も含めて）学生が一体となって取り組んでいかれることを期待します。（行政）
- 地域社会に積極的にかかわってもらいたい。熱心にかかわっておられる方もおられるが、全体的に少ない。したがって地域社会に対する発言力も弱く、インパクトが少ない。又独創性のある研究も進めてもらいたい。卒業生に対する就職活動にも積極的にかかわっていただきたい。他大学はもっと積極的に、親身になって世話をしているところもある。頭の下がる思いだ。教官と学生との間に距離がありすぎる。（行政）
- 回答に当たり、私と佐賀大学とのかわり合いについて、思いをめぐらしましたが、大学以外の場所で何人かの先生方と会う機会がありますが、それも本来の教育・研究と関連してということではありません。佐賀大学設置目的の中あるいは延長線上でのかわりの少ないことに驚いたところ。なかなか優秀な学生と多くの海外からの留学生を教育し、研究を進めているThink Tankとしての佐賀大学に、佐賀県勢の発展につながるような活動をしていただけたら、有り難いものと思うものです。（行政）
- 新世紀をひらくアカデミズムの使命観に立ち、大学のカベをこえて、雄々しく展開してほしい。めざすはワールド・スタンダードにかなう開かれた大学でしょう。（行政）
- 単なる知識の習得に終わることなく、実社会でその知識を応用できる様な、実践的な講座（授業）カリキュラムにすべきであると考える。又、それを生かすための就業の場の確保のためにも、もっともっと積極的になるべきと考える。（行政）
- 佐賀大学の充実＝佐賀県の発展と思っています。特色を生かした研究・地位への貢献に努めていただきたいと思っています。（行政）
- 地方の時代に合った教育を。（行政）
- 各自治体には、行政面・文化面それぞれに特徴がある。大学から、その自治体専門分野で研究生を派遣し、その自治体との交流を図っていきたいし、ビジョンも研究し

てみたい。長期間にわたり、進めて行くべきです。（行政）

- 全体的にみて、佐賀県、市行政に積極的に協力、指導をいただいていると思う。年に一回、学長、学部長との交流も行っている。しかしながら、一般の先生方の一部とは、地域に対する考え方に乖離を感じる場合がある。（行政）
- 開かれた地域の「知の拠点」として、又地域活性化に積極的に寄与されることを期待します。（行政）
- より地域に開かれた大学として、地域住民との交流を深め、地域産業との連携を強めて、地域づくりに貢献されることを期待します。（行政）
- オンブズマン（日本版）＝特定な政党と組んで、しかもリードするような教授は排除すべき（本来のオンブズマン制度であればいいが）。広くは福祉という部類に入るか。高齢化社会へ入るので、「高齢産業」と言われるように介護等に関する研究・開発に地元企業と連携して進めてほしい。身体の不自由な方の機器（具）等の開発・研究も早急にしてほしい。（行政）
- 地域の活性化を図る為に、産業の活動各分野に亘って、専門的なノウハウを指導頂きたい。地理的にも大学が遠い為に、どうしても親しみが薄く、交流が少ない。従って大学の窓口を明確にして、分野毎にアプローチが、やり易い様に啓蒙をしてほしい。（行政）
- 率直に言って、大学との係わりが少なく、マスコミや人伝による情報の判断であるので、特別なコメントはできない。（行政）
- 国際性を備え、地域の枠にとらわれず人材の育成と研究に取り組んでいただきたい。地域との交流については、佐賀大学の理念が県民に理解する土壌を養生することにより可能であると思います。時代におもねることなく、学問の場としての確立に期待します。当町としてもアドバイザーへの就任などを依頼しており佐賀大学の教授陣の優秀さについては敬意を表しております。今後益々のご発展を祈念いたします。（行政）
- 佐賀大学と特定するものではありませんが、元来大学の在り方は、社会とは距離がおかれていた、所謂学問の府として特別視されていたと思います。これからは、大学も地域社会に開かれたものとして、例えば体験学習、ボランティア学習等情報交換すべきと思います。また市町村行政も今日非常に多様化し、新しいセンスで近代的発想が要求される時代です。即ち、地域社会の進展のためには、学問の府と、行政現場との連携プレーが功を奏するものと思います。そういう意味で佐賀大学の海浜台地生物生産研究センター等は、時代を先取りしたものとして、大いに評価するものです。（行政）
- 住民の学習意欲、レベルも高くなっていると思います。昔ながらの公民館からの脱皮を試行中だと思います。学社融合とかで、大学も学問の塔から、我々の野において、社会教育等のレベルアップに貢献してもらいたい。（行政）
- 私も佐賀大学を卒業して十数年たちますが、社会人となった今が、もっと勉強しておけば良かったと実感してい

ます。学生時代に地域と交流することでもっと社会を身近に感じておけば、もう少しは、勉強していたかと思えます。今勉強したいとは思いますが、チャンスにも恵まれず、また公私共に忙しく困難です。地域住民の方への講座等のチャンスがあれば参加したいと思っています。

(行政)

- 地域の特性を知っていただくこと。(行政)
- 私達が若いころの佐賀大学は相当レベルの高い人でないと入学出来ない様でしたが、今では他(福大等)の大学がレベルアップし学生の資質が低下している様に思われますが？(行政)
- 佐賀大学と聞いて、何ら大学のイメージがわからない。これは地域社会との交流が卒業生あるいは、一部地域(事業所)に限られているためと思われる。(行政)
- 今日の激しい競争の中にありながらも、佐賀の人、特に若者達の仕事に対する意欲と情熱に欠けているように思われます。地域の大学として、人材育成をはじめ、地域振興を図るために大学が持っているノウハウを地域に生かしていただきたい。そのための交流会及び講演会を開催し、又、地域で開催されるイベント等にも参加していただきたい。私達も、佐賀大学を別世界の存在として考えていたことを反省しているところです。(行政)
- 地域社会の文化教養の向上に更に貢献されることを、期待する。地域社会が大学に何を望んでいるのかを正確に把握されることを期待する。地域社会のニーズに柔軟に対応できる環境を整備されることを期待する。(行政)
- 地域社会にもっと参画していただきたい。(行政)
- 若者の都会志向が強まり、また国民生活が豊かになった中では、地方の国立大学のあり方は見直しが必要。具体的には地域性を生かした特長のある大学とし、これを売りものにして学生を集めて行く必要(教育学部・医学部のような職業教育専門学部+特徴のある学部であれば良く、総合大学である必要はない)。(行政)
- 佐賀県更には、九州地区の大学として大いに頑張ってもらいたいと思います。期待しています。(行政)
- 大学の先生方(家族)で地域社会行事・活動に積極的に参加頂く人もあれば、全く参加頂けない方もいる。もっと積極的に参加をして頂きたい。(産業・経済)
- 農業団体に勤務しているが、佐賀農業の確立、発展方策の検討、具体的には、他の地域にはない品種等の育成。既流通体制の枠以外での流通の確立方策。公開講座等実施されているが、誰でもが参加しやすいような条件。(産業・経済)
- 有田地区の場合、文化講座及び町民大学講座、教育委員会、福祉センターに於ける登校拒否、非行の指導に積極的に貢献されていると思います。但し、一般の方には目立たないと思いますので、マスコミ(新聞・テレビ等)を通じて広報をされたらと考えます。(産業・経済)
- 佐賀大学が所在する佐賀市とその周辺は、教育の場としては優れた条件を備えていると考えております。京都的な風土をもつ佐賀の地において秀れた研究者の養成を推進していただくことと同時に、そうした個性的な方々が秀れた発表や情報発信のうちに地域に影響をおよぼ

し活力ある高度化社会、成熟化社会が形成されることを望んでおります。19世紀に見られた佐賀の爆発ともいえる活性化は鍋島直正による産官学の高揚であったと思われませんが、このような活性化の引き金をひくのは佐賀大学ではないかとひそかに期待しておるところです。

(産業・経済)

- 最近の学生はアルバイトに熱心で、あまり勉強していないように思われるので、専門的な知識は期待できない。それなら地域との交流、地域に役立つ人材育成に方向づけをして、県内よりの入学者を増やして地元の中小企業向けに人材を送り出してほしい。最近、学内での地元企業への就職セミナー等を開催していただき、ありがたく思っております。県内には男子学生がいる四年生大学は佐賀大学だけと言ってもいい状況で、私大もありませんので、国立大学であっても地域を視野に入れた運営を期待しております。(産業・経済)
- 共同で、研究すべきテーマが存在しておれば、将来の商品化のシーズの一つとして協力しながら取り組みたいと常々思っています。大学 or 大学院でどのようなテーマに組み込まれているのかの情報が開示され、企業としての興味と合致するものがあれば、経済的な支援も含めて共同研究の形で取り組みたいと考えます。(産業・経済)
- 九州地方において、もっと産業・経済界との交流を深め、地域社会へ貢献されることを期待する。(産業・経済)
- 地域社会(産業を含め)の各種の研究会・交流会に積極参加を望みます。実社会の時代の流れを敏感にとらえてもらいたい。(産業・経済)
- 地域社会と交流し、各企業との研究開発にフランクに係る。しかし、大学としての尊厳と、中立性を守り、国際的、全国的な視野を持つ大学を希望します。(産業・経済)
- 弟が佐賀大学を卒業しているが、佐賀大学の活動については、良く承知していない面がみられた。今後は注意ぶかく見まもりたい。(産業・経済)
- 現住所は大学と同じ本庄町佐住で自営業です。大学祭等には時たま出かけますが、おみこし等で賑わいます。地域社会との交流はそれなりに出来ているのかナー。地域にとっては色々な意味でプラスになっていると思います。(産業・経済)
- 学生の募集に就いては、日本国のみならず、世界の各地から優秀な人材が集まれる環境を作って戴いて、優秀な学生が一生懸命に勉強できるようにして貰いたい。特に、佐賀大学しか学べないと言う特色のある学校にして、学生と教官が協力して、素晴らしい実績を上げて貰いたい。現在は、情報化の時代であるので、中央にいなくとも勉強したい情報は自由に入ると思うので、誰でも自由に手軽に情報を得ることの出来る施設、設備を充実して戴きたい。(産業・経済)
- 燃える地方大学として、その活動は目ざましいものを感じます。教授陣容、施設の拡充、充実はずばらしい。地方大学の先端に行く大学として、益々発展されることを希望します。(産業・経済)

- 私自身、佐大教育学部の出身ですが、教育実習等がほとんど、附属や市内の学校でおこなわれる為、地域との関わりが少ないと思われま。また、佐賀県の教員採用試験においても学力重視の為、個性を生かす教育をめざしているにもかかわらず、教師に個性が全くないのではないのでしょうか。もっと佐賀大学の授業においても1人1人の個性を生かした授業を展開していく必要があると思います。(産業・経済)
- 行政の審議会等の委員として参加される機会には、研究の成果と地域の実態を実践的に結びつけた提言とその実現を図ってほしい。つまり意見のみの委員でなく提言の実現を要求し実施させる活動を行って欲しい。現在ある一部の人に片寄せた関係のようですが、今後は大学全体としての幅広い人脈との交流が必要と思われる。その為にも大学側も教育・研究(大学内の)のみでなく、その成果を地域に活かす人材作りも必要と考えます。(産業・経済)
- アンケート本文の設問にも答えたように、地域社会と佐賀大学の相方に共通して交流についてのノウハウや意欲みたいなものが不足していると感じる。また、大学に対する要望として、市民や地域社会に対して、様々な交流活動について、もっと広報を行うと共に門戸を開いて、親しみのある大学になってほしい。(産業・経済)
- 大学審での論議や、佐大に対する文部省の対応を聞くにつけ、いよいよ国は、「国立としての佐大ではなく、地域が必要であれば、その地域で支える高等教育の場として存続を考えてはどうですか?」という立場になっていると思います。個人的には、税金の使い方を変えていただいて国立大学をより充実させ学費も安くし、存続させるべきだと思います。しかし、国の政策が変わらなければ、地方で生き残るしか道はないので、地域(行政・企業など)で財政的にも支えていってやるよというようになるべく、もっと地域社会に貢献していくしか道はないと思います。(産業・経済)
- 佐賀医大を除いて唯一の県内所在の佐賀大学は、県民にとっては非常に期待をしているものが多い。子弟の教育についてはやや消極的な面があることも否めない。佐賀大学は、独自の教育理念のもと、普遍的な学問の発展・教育研究に当たることは当然であるが、地域の特性に応じ、地域社会・住民とさらに連帯した活動を深め、地域に信頼される大学として努力されることを期待する。(教育)
- 県内高校卒業生が、県外よりも佐賀大学を第1目標にするような魅力ある大学として、また期待に応えられる大学として、内容充実、改革を期待したい。(教育)
- 生涯学習、魅力あるまちづくりを推進していく上で、人と人のネットワークが今まで以上に必要になってくると思います。現時点で私が考えていることは、佐賀大学を初めとする高等教育機関の調査を行うことにより、今後どのような部分で連携ができるかを検討し、活動に活かすということです。これまで蓄積された知識や技術を地域社会のためにお借りしたいと考えていますので、よろしくお願ひいたします。(教育)
- 佐賀県、唐津市・東松浦郡の地域は、福岡市への交通が便利のため、福岡志向が強く、大学進学希望も、佐賀市より福岡方面の方が多い。そのため唐津、東松浦地元出身の教職員が少なく、教育上数々の問題がある。大学は、唐津、東松浦地区への配慮をお願いしたい。(教育)
- 大学は地域との交流を密にしてもらい、その中で地域を乗り越えた情報を地域の人に与えてほしい。地域に期待される学校であってほしい。(教育)
- マスコミ或いは研修会・講習会等で、一部、研究しておられる教授のお名前を知る程度であります。私の知る範囲が狭いからでもあります。私が教育に関する限りでは、県内短大の先生が多数ございます。また、佐賀大学の学生の地域との交流の場、機会も考えられたら、地域の発展の一助にもなるかも知れません。失礼しました。(教育)
- 地域社会との交流について、教職員間の意識の差が感じられる。学問の最高機関としての専門的研究の向上に努めながらも、地域の発展に寄与する方策を、積極的に推進してもらいたい。地域の個性を活かした、特色ある学問・研究の構築を図ることによって、大学と地域との相互依存の関係を模索することが、必要だと思う。(教育)
- 農学部におかれては、はやくより農業県佐賀の発展に貢献してこられた実績がある。教員養成を本務とされるはずの教育学部において、地元の期待に応える教員採用合格者をだしえず、採用しない地元で理解がないようないかたをされるが、大学の体質として佐賀大学は総合大学だからと大学に教員を養成するという気概が感じられない。大学と云えども地元のニーズに応えるときは応える。学問だけの府ではないと思う。佐賀大学教育学部は学者養成期間とはおもっていない。(教育)
- 1つの学部、学科でもよいから、全国的に特色のある、注目される研究を行ってほしい。全国にアピールする学問研究を期待する。(教育)
- 佐賀大学が大学入試(佐大)に関し高校側と接触しておられるのは知っているが、他の分野でどんな係わりをしておられるのか情報が新聞等の断片でしか判らない。従って、殆どやっておられないような印象をもっている。佐賀大学ニュースを地元の佐賀市にはもっと流すべきではなからうか。それは月刊で良い(或いは季刊でも良い)そのような捨て金をされる処に市民の見直し、好意、協力が生まれるような気がする。そのニュースも読めるものでありたい。(教育)
- 学生に対して特定の思想に拘泥しない、発想豊かな薫陶を望みたい。(教育)
- 佐賀大学卒業生として現状、将来像について大きな感心を持っています。とりわけ教育界での学部の改組による名称変更にとちょっとばかり寂しさを感じています。社会の変化に対応した学部としての役割を見直すことも必要だとは思いますが、教育養成の意義が採用枠の減少に起因して薄められた感じがします。この調査の趣旨とは離れますが、佐賀大学は外国人留学生の受入が盛んだと聞いています。その子供さんが保育園に入っています。私のところにも数名います。地域の子育て支援活動が重

- 視される今日、地域に密着して勉学、(就労)に励む外国人の子供の保育についての支援活動を、大学としてどのようにお考えなのか、機会があればお聞きしたいと思います。(教育)
- 優秀な若者を育てる工夫、地域との交流を促進する点に欠けている。現場の実態をあまり知らないで、マスコミ等にコメントする傾向がある。(教育)
 - 今後、少子化に伴い、大学の学生不足により、大学のあり方の面から、ますます大学と地域社会との関係は多くなり、大切になっていくのではないのでしょうか。いろんな分野について、大学が地域に貢献できることを、積極的にすすめていくことが必要だと思います。(教育)
 - 教職員の資質向上のために、行政が行う研修会等の講師として、積極的に手をあげて活動してほしい。県内の他の私立大学と比べて、佐大の先生の活動に見劣りがする。(教育)
 - (1) 地域社会(県内に住む高校生やその保護者)から評価される(行きたい大学NO. 1)レベルの高い大学を目指して頑張っていたきたい。(2) 地方大学としての存在価値(特色等)を明確に打ち出していきたいような大学運営を期待します。リストラ(受験生サイドからの)の対象とならないように先生方全員で頑張ってください。(教育)
 - 地方の学問の中心であり、地方の先生が魅力をもって参加できるよう期待しております。(教育)
 - 大学は本来学生の教育と研究が主任務と思いますが、教育は地域と共にあるべきもので、地域住民の生涯学習の観点からもまた、地域企業の発展の為にも、学外に積極的に関与、活動されるべきだと思います。(教育)
 - 佐大を高いレベルに…思いは遠大に広がりますが、新しい教育を受けて、学生に指導していただける先生方に、「まかせるしかない」というのが現実でしょう。～大変でございましょう～。専門分野を深く自信が持てる学生であれば、地域に出たからは折々の挫折にも対応できるものと思います。教員でしたけれど、佐大卒の先生が少なくなっているのにさびしさを感じています。先輩・後輩の関係(卒業後の研究や生き方などでの結束)がうすく感じて手をさしのべようにも個での行動が多いので…何かあったらすぐ尋ねられる母校(先生)がとくに働いている間は、いける母校、いって話せる先生がいつでもいてほしいと思うことです。(教育)
 - (1) 教育行政について、多大のご協力をいただいているので感謝しています。(2) 願わくば教育研究のリーダーとして、さらに先導的な役割を多くの分野で、活躍を期待します。(3) 教育行政も多岐にわたって問題点が山積していて、大学の多くの先生に頼ることありで、多くの新しい情報が提供されることを願う。(教育)
 - 大学の先生の中にイデオロギー面からのみ活躍されている方があり、大学そのものに対するイメージが、地域社会との交流に影響している。(教育)
 - 地域に一番密着した佐賀大学に愛着と期待を持っています。教育センター勤務中、講師招へいについては、協力いただき、現職の先生と交流を深め、各教科研究会の特別講師にも快く、参加をしていただいた。その実績からアンケートに回答させて貰いました。(教育)
 - 地区社会に密着した研究・活動を今以上必要だと思います。独自の特色ある大学として発展することをのぞみます。(教育)
 - 県内教職員にもっと採用できるよう、大学も学生も努力してもらいたい。(教育)
 - 今回、佐賀大学が唐津に設立した海浜台地生物生産研究センターの様な地域の特性とニーズに応える研究と生産につながる施設の設置は、地域に期待と安心を与え佐大の頼もしさを感じる。研究施設の分化(地域)と地域講演等積極的に推進してほしい。(教育)
 - 毎年佐賀大学の就職担当の先生から「佐賀大学の卒業生を積極的に活用して下さい」旨の依頼をいただく。大いに期待して待っているが、ふたを開けてみると、佐大卒で採用試験に合格した人が、非常に少ない状況です。特に東松地区には、地元の出身者が少なく、他地区より来ていただくのですが、4～5年経過すると出身地へ帰るので、困っています。特に教育に関する入学者については東松出身の希望者を入れて、教育養成をしていただくよう切望します。(教育)
 - 佐賀大が県内唯一の国立大として機能しているか。産学協同の時流的交流 etc. 人的派遣の件など柔軟性を望みたい。(教育)
 - 佐賀大学は、地域社会の学術・産業(特に農業、工業)の中心的役割をにない、積極的に共同研究をして地域の発展に寄与している。又、教育面においては、義務制学校の教員の7割が佐大卒業生でしめ、児童生徒の教育に果たす役割は大きい。このような現状から、佐大なくしては、佐賀県の教育・産業経済の発展、進歩は考えられません。(教育)
 - 佐賀大学へは本県高校卒の占有率が低いが、高校生は魅力を感じていないためのものである。大学生にはアンケート調査しておられると思うが、高校生にも尋ねて改善を図り、優秀な学生を集められるようにされたらどうだろうか。大学の先生方が、文化や技術をリードして下さるのを期待するとともに、大学生諸君が、社会に貢献する活動に参加されることも、大学の評価につながると思う。(教育)
 - 時に、個人的に又教育委員会としても指導を願いたいと思うことがあるが、大学はやはり敷居が高いし、又どの先生がどのようなご専門なのか、わからず困ることが多い。こんな専門の、こんな先生がいらっしゃるといふ広報をぜひお願いしたい。(教育)
 - 質の高い大学としての特色をもった佐賀大学を作してほしい。地域社会の向上に高度な情報源を目指して、その存在価値を発揮してほしい。(教育)
 - (1) 佐賀大学内部での学生の教育を充実すべき(授業時数の確保を含めて)。(2) 地域の人材を大学の内部に多くに活用すべき。他大学との人材交流等を考える。教官に刺激を。(3) 広いビジョンを実現させる努力(改革)を、県内唯一の国立大学です。県民の期待は大きいのです。私も期待している一人です。御大学の発展を祈念します。

(教育)

- (1) 学生が就職をされるよう、十分な活動をお願いしたい。(2) 地域社会を開発していくための、ビジョンの研究や提言を多くをお願いしたい。(3) 特に、教育に関わる研究や提言をお願いしたい。(教育)
- 一度公開講座に申し込んで参加しましたが、あまりにもレベルが高かったので、率直に意見を言った翌年から開かれませんでした。レベルも色々考えて入門とか、中、高とかに分けて実施されるといいなと思いました。私が参加したのは、数学の公開講座でした。夜の講座をもっと開設してほしいですね。働きながらでも参加できるようにしていただけたらと思います。(教育)
- 県内教職員にもっと採用できるよう、大学も学生も努力してもらいたい。(教育)
- 佐賀大学はあまり色が無い大学のイメージが強い。今後地域の特性を活かした個性ある研究や教育が展開されることを望む。(教育)
- 佐賀大学は地域社会とかなり交流の努力をしておられると思います。研究、教育面で県内他大学との交流をやって頂ければと思います。(教育)
- 佐賀大学の様々な活動がほとんど耳に入らない。施設については、図書館を利用したいが、一般の人々も本をかりることができるのか？ また、一部をコピーするときは一枚10円か？ ただ単に、図書館は開いているでは、活用できない。又、読みたい本等が、貴大学教員にかし出されていると、絶望なも理解できない。なぜリコール等の処置をとらないのか？ 教員と専門分野、及び研究内容等の情報を提供してもらいたい。土・日も勿論全施設も開放してもらいたい。一般の人にとっては、土・日が一番利用しやすいと思う。(教育)
- 少子化に伴い、親も子も大学進学最大の理由として、安定した職業につけるかどうかをあげる。従って、出口の情報で不利な材料がマスメディア等で流されると、その大学を避ける傾向にある。佐大でも出口教育にも力を入れられたらどうかと思う。立派な教育がなされれば生徒(学生)の質も上がってくるのにと、卒業生としては歯がゆいばかりである。(教育)
- 佐賀大学は、地域というよりは世界各地からの留学生が多く、世界に開かれた大学として評価している。地域としてもその留学生の方々をもっと利活用したらと思う。(教育)
- 大学のPR活動をもっとやって、地域社会との距離感を小さくすべきで、せっかく多分野にわたり企画されていることが、十分浸透していないような気がして残念に思う。(教育)
- 佐賀大学は佐賀医科大学とともに、県民が大いに期待している大学である。学生については広く門戸を開き、他県の学生も歓迎してほしい。地域との交流についてはできればもっと県民が大学の施設等を利用できる機会を作っていただければ幸いと思う。また、一つの提案として大学の1年次、2年次において県内の企業等での体験実習等を考えていただければ、学生が佐賀県を知ってくれる機会となるし、将来の就職選択等にも大いに役に立

つのではないかと思う。(教育)

- 佐賀大学といっても複数の学部があり、学問の分野も多岐にわたっているので「佐賀大学」と一括しては論じられない。私は教育にたずさわっているので、教育関係についてのみいえば、佐賀大学は、佐賀県の教育界(教育委員会、学校現場)に大いに貢献していると言えるし、相互の交流もうまくいっていると思う。しかし、教育学部が文化教育学部と改組されたことに伴い、佐賀大学と本県の教育界とのつながりがどう変化するか、変化しないのか、よくわからない。21世紀(少子時代)の佐賀県の教育の在り方について、佐賀大学関係者と本県教育関係者の忌憚のない意見交換の場がほしい。(教育)
- 佐賀大学はもっともっと地域に貢献していただきたい。そのためには、地域住民が大いに佐賀大学へ足を運ばなければならぬと思う。(教育)
- 地元に住んでいながら、佐賀大学についてあまり知らないのではずかしい。小・中・高のように地元ももっと密着し、オープンな活動をしてほしい。そのためにも、PRをもっとやって欲しい。(教育)
- 佐大の事についてPR不足である。大変立派な仕事、地域貢献がなされていると思うが、地域に伝わってこない(情報公開)。(教育)
- 地域社会と大学の関係や交流については耳新しく、理解が浅いので今後勉強させてください。(教育)
- 就職率が圧倒的に悪いようなことを耳にします。それでは、学生が夢をもって進学することが少ないと思います。学生諸君の努力はもちろんですが、大学教職員諸氏の就職先開拓の熱意を示してほしい。全国的にも“良い”“充実した”大学にいつそうなしてほしい。(教育)
- 以前は、もっと地域の課題について研究され、大きく地域に貢献されていたと思います。近年は、研究の内容も高度化・細分化されているのか、目立ちかたが少ないように感じます。今後とも、地域に貢献されるとともに、その研究を通じて立派な学生の教育をされることを望んでいます。(教育)
- 佐賀大学が改革に着手され、時代に即応した変革を目指し取り組んでおられることに敬意を表します。時代を読み、あらゆる分野で地域や関係機関と連携され、山積する問題の解決、新たな時代を拓く研究等、地域に根ざした学問の府として躍進されることを期待しております。(教育)
- 地元の高校生に門戸を広くする方策をお願いします。経済的に負担を感じている高校生もいます。(教育)
- 先進的で意欲的な教官が多いと思っています。私達ももっと佐賀大学の潜在力に気づき、指導を受けなければならぬと思います。高校生の多くが、中央の大学に進学する傾向があり、申し訳なく思っていますが、今後とも優秀な教授陣を整え、魅力に富む地方大学になっていただきたい。いっそうの改善向上に努められるよう期待します。(教育)
- 地域との関係を含め21世紀の学生の有り様について研究され、すばらしい学部改組がなされていると思う。(教育)

- 地元の大学として、地元へ寄与する部分が多くあってよいと考えます。もちろん「大学」としての普遍性は保ちながら。近年、地元との係わりが多くなり、深まってきていると実感する者の一人ですが、「シンクタンク」としての自覚の下に、様々な面で、地元を引っ張っていただければと思っています。(教育)
- (1)佐賀大学文化教育学部の先生と佐賀の近代史や生活科の勉強をさせて頂き、大いに助かっています。(2)県の青少年野外教室事業の審議会で貴重な発言を伺っています。(3)平成8・9年、佐賀市就学指導委員会の委員になった時に、佐大の先生が座長を務められ、専門的知識をいかしながら適切な処置をとられ感心しました。(教育)
- 私自身が、幼児教育に関係しているので、佐賀大学の先生方に、今後も幼児教育の振興のために、一層のご協力をお願いしたい。(教育)
- 大学内の様子がまだ地域の住民には見えてこないのも、大学の情報をマス・メディア等を通して大いに流し、地域社会に関心をもたせることが大切である。(教育)
- 地域社会に出て活躍の先生が少ない。いろいろの分野でご指導いただく先生方がすくない。(教育)
- 研究、進学、情報を積極的に提供して欲しい。(教育)
- 大学・学生と教育現場との交流を今以上に高めたい。(教育)
- 21世紀を目前に生涯学習時代にふさわしい大学として地域社会の中核として親しまれる、ひらかれた大学として交流も出来、又教育的役割も大きいものと思います。地域のリーダーとしての役割を發揮してほしい。(教育)
- これまでは佐賀大学は、地域の核となる大学としてではなく、他県の人が行ける大学として選ばれている様に感じる。一部の学部では評価されている面はあるが、有望な人材はほとんど地域には残らず、地域の発展に貢献していない。但し、大学教授の方々は良く地域社会に深く関わりを持ち、活躍されていると思います。又、交流をされておられます。従って、大学としてはある程度の地域社会との関係は結びつきも評価するが、養成される人材(学生)の地域社会との関係は余り良くないと思う。(教育)
- 社会人が大学入学できるように通信制度をつくることは、国立大学系では無理なのでしょうか。(教育)
- (1)教員として中堅の頃は、佐大に内地留学したこともあり、大学の先生に相談したり、教えを受けたこともあった。今は、その先生も退官され、ほとんど交流もなくなった。できるだけ多くの社会人を受け入れること。大学の先生ができるだけ地域に出ていくことが大切ではなからうか。(2)企業の研究所をもっと多く誘致して、佐大と連携を図り、卒業生がその研究所に残れるようにすることが、佐賀県及び、佐大の発展につながるのではないだろうか。(教育)
- 今後の大学のあり方は、地域社会へどれだけ貢献できるかが一つの大きな課題であると思います。佐賀大学では、その施策の一部を実施されかなりの成果を得られていますが、この施策の実施に当たっては大学全職員の共通した理解と積極的な意志のもとにすすめられて行く必要があると思います。現況では必ずしもそうではないような気がいたします。どこの職域でも見られますが、施策を担当する職員については積極的に努力されその成果をあげられています。一方その他の職員の方は無関心の方です。(教育)
- 総合大学化を期待する。(教育)
- 大学が地域に根ざしていない。学生も意欲を感じられない。(教育)
- 学生時代、社会人講師による特別講義に影響を受けて、現職への道を選んだという記憶があります。(教育)
- 大学のもつ資源、特に国立大学のもつ資源が、もっと円滑に地域社会に活用できるような方策を、地域の関係機関と協力して作成、実施してほしい。(教育)
- 地方にある国立大学の使命は、今日では大変むずかしいものがあるでしょう。その中にあって、大学の特性を發揮するためにはどのような課題ととりくめばよいのでしょうか。佐賀県民にとって、佐賀大学の中身がよく見えるPRが欲しいと思います。研究内容やその成果など一般に公開して広く知ってもらおうなどの活動もその一つでしょう。県民と佐賀大学でもう少し連携が深められ、また親密感が醸成されればと願っております。抽象的表記ですみません。お許し下さい。(教育)
- 問10でも回答したが、地域のニーズと大学の研究がミスマッチする分野がある。(教育)
- 大学から遠いこともあって、大学を知らず利用することが少ない。近所の子弟の様子しかわからない。図書館に大学の情報は流れてこない。(教育)
- 大学について知らなすぎるように思いました。佐賀大学は母校ですが、もっと私達に情報がほしい。(教育)
- 大学の研究者、教育者としての自由な発想から地域社会にアプローチしていただきたい。(医療・保健)
- 今後の発展に大いに期待している。(医療・保健)
- 県内の代表的な大学として、更なる地域との交流の為、大学のアピールが必要ではないかと思います。教育学部のイメージが強く他の学部の顔が見えにくいイメージがあります。以前心理学の教授のお話を聞く機会がありましたが、大変勉強になりました。大学での研究・知識を広く、公開できる方法を考えて頂ける事を期待いたします。(医療・保健)
- 佐賀大学は地域社会とよく交流していると思いますが、もう少し他県との交流も必要と思います。(医療・保健)
- あまり感心がなかったのも、意見もあまりない。(医療・保健)
- 地方官、公立大学は積極的に地域にだけこんだ教育機関であるべき。情報公開を行い、地域住民にキャンパスを含めて開放すべき。地域と共に発展すべきである。(医療・保健)
- アジアからの留学生を当地区のロータリークラブで受け入れておりますが、大多数の学生が優秀で、学問に対し真剣に取り組んでいると思います。佐大は、中国をはじめ多くのアジアからの留学生が在籍しておりますの

で、彼等優秀な学生の存在をもっと地域に知らしめ、交流を深める施策が必要ではないでしょうか。また、佐賀師範の伝統により、有能な教職員養成も地域の教育水準（学識も心身も）を上げる意味で重要だと考えます。

(医療・保健)

- 佐賀医科大学は仕事上にて情報を得る事はできますが、佐賀大学は新聞にて理解するだけです。地域的にも県北部のため、まったく知りません。ただ、上場台地海辺植物センター？は、地域新聞にニュースがありますと、気にかけて読んでいます。佐大の地域における存在感がまだまだ薄い感じがする。県内で開かれている研修会、講演会等で、貴校教職員の活動がもっとあっていい。地域のシンクタンクとして大いに期待している。そうした場に学生諸君も参加し、社会へ足を踏み出してみれば、勉強になる面もあるのではないか。産業界との共同研究による成果を時々耳にするが、いわゆる“地方”においては佐大のそうした力に頼るところ大。一民間企業と捉えず、地域産業の支援と考え、今後も協力を願いたい。(医療・保健)
- 職業上国立佐賀医科大学とは密接な関係にあるも、佐賀大学との接触なし。地域的にも離れている為、マスメディア上でのみの情報しかない。佐賀市内以外の居住者はおおよそこんなものであると思われる。(医療・保健)
- ふだんから佐賀大学の情報を殆ど知らないの、アンケートの内容には正確にお答えできなかったところがあります。これからの国立大学のアイデンティティーが問われる時代。駅弁大学から脱却する時代が来たのは確かでしょう。佐賀大学は、佐賀県内に居住する者を優先的に教育すべきだという発想など、志望動機別や、社会人入学などをもっと広い門戸を開けたら如何でしょうか。(医療・保健)
- 大学受験、合格の能力がない人でも向学心のある者に対して、教育・研究・受講の場を提供して欲しい。(医療・保健)
- 学問・研究は勿論とても大切であり、それが本旨と思えますが、地域との交流又は各種団体、企業等との交流により、地域住民への学問の恩恵あるいは、人材育成への貢献、更に佐賀大学の存在価値そのものを県民に知らせる事になるのではと思います。一県民としては、縁遠い存在のような感じが致しておりましたが、先立って機会がありまして、佐賀大学教授の講話を拝聴し、且つ直接お話させて頂き大変感動致しました。地域住民への公開講座を開催されている事と思いますが、PRを積極的に行って頂けるようになれば、住民の感心も高まり、交流も盛んになるのではと思いました。佐賀大学に関して余りに無知、無関心だった事を深く反省しています。(医療・保健)
- (1)大学の指導者(教授・助教授・講師等)は、各分野のオーソリティとして、大学生の指導が第一であるが、地域の生涯教育講座や各種団体組織等へ、講師や指導者として積極的に入り込んで頂きたい。(2)大学の教授(国公立)は講師(講演会)として外で収入を得てはいけないといわれているのがこれが外へ出るのをばばんでいな

いか。(3)又外部から見ると大学の先生は講演を依頼した場合高額ではないかと思われている。・・・を考慮に入れて、国際交流等では語学を活かして頂き、婦人団体の組織などには低額の講演料で売り込んで頂くとかすると、大学が地域の一部として地域の人が認めると思う。

(医療・保健)

- 保健・医療・福祉については、佐賀医科大学との交流が従来強かったのですが、今後、佐賀大学が福祉の分野、又、教育と医学に関連する分野において、もっと交流が深まることを期待しております。今からの時代は、専門分野・専門職種にとらわれずに関係・交流を深めていくことが重要と考えています。(医療・保健)
- お忙しいでしょうが、極力地域との交流をお願いしたいと思います。(社会・福祉)
- 佐賀のスペシャリスト・政界・行政・企業・産業界 etc の育成に力を注いで欲しい。どうしても優秀な人材は中央へ出ていってしまうので中堅として地方に残って地域の中心となって活躍をしてくれる人材を集めて欲しい。(社会・福祉)
- 地域の学校は、特色を生かしもっと地方との交流の場を作っていく方がいいと思います。(社会・福祉)
- (1)学部毎あるいは学科毎の公開講座の開催。・郷土の歴史、文化、芸術、農業、漁業等に関する共同研究、発表の推進。(2)いろいろな情報の集積地と発信地となり、その情報を地域と共有できるものに。(3)県外からの留学生の協力を得て、留学生の出身地と県内地域との交流活動の促進。(社会・福祉)
- 県の審議会や委員会に佐大の先生達が多く出て来られている事に「おや！」という思いがしました。又普通交流がない先生方の素晴らしい意見が聞けて大変参考になり、又嬉しい思いをしています。いろいろな場面で地域との交流をしていられる事を拝見してとても良い事だと思っています。今後どんどん地域へ出て来て頂きたいと思います。女性団体との交流もお願いします。(社会・福祉)
- 全ての分野で、佐賀大学と地域社会との交流は、あまりされてないように感じます。私自身も、佐賀大学とあまり接触していませんので、個々の問題について、具体的に適確にお答えできかねますので、意見はひかえさせていただきます。(市民団体・ボランティア)
- 地域の中心的な大学として、その地域のさまざまな要望に応え、地域の発展に貢献することは必要であり、大切なことであろうと考えます。しかし、大学には大学でしかできない(できにくい)分野の学問研究があることも自覚していただきたいと思います。地道な基礎研究や直接今日の役には立たないと思われる研究は、民間ではなかなか続けられないものです。今日、明日といった短い単位ばかりでなく、100年先を見すえた研究も大学には不可欠ではないでしょうか。そういった意味で、大学の独自性を保つこともまた、大切であろうと考えます。高く広い視点で、地域に刺激を与え、社会をひっぱっていくリーダーであってほしいと願います。(市民団体・ボランティア)

- 私自身が佐賀大学についての情報を積極的に得ようとする意欲が足りないせいがあるかも知れませんが、大学側においても、大学が地域社会なり行政と、どのように関わっていこうかという方法や理念が乏しいように思います。地域住民の中には、永年培ってきた知識や経験を持っている人がいると思います。そういう人たちから学生に知識を与えるという方法も考えてはよいのではないのでしょうか。(市民団体・ボランティア)
- なかなか協力出来ませんが、更に市民・県民と交流を深めて頂き、世界の佐賀大学として活躍して頂きたいです。(市民団体・ボランティア)
- 佐賀大学の先生方の専門的な知識を、地域社会の中で、手軽に学べる事は私にとって、大変有意義であります。ただ地域社会で活躍されている先生方が、少ないようにも感じますのでもっと多くの先生方がネットワークを軽くして、地域に顔を出してほしいと願っています。(市民団体・ボランティア)
- 私が生活している唐津地区は、元々大学はなく、佐賀大学の上場台地の研究機関のみである。その研究施設が新築されたが、多くの市民は、その内容について承知していない。文書等で、一度は各世帯に配布されている市報等では見た事があるが、施設の方々と、地域の人々との交流が非常に少なく思う。研究内容にかかわりなく、多くの地域住民への情報を発信すべきだと思う。(市民団体・ボランティア)
- (1)地域社会の人々の(佐大のみならず)大学観が高度なもので一般庶民の及び難いものであるという諦観(通念)が根強い。(2)大学がもっと一般の社会に対して呼び掛けてほしい。(3)地域社会と佐賀大学お互いが知らなすぎる観がある。(4)呼び掛ける機会が少なすぎる。壁が高すぎる。(市民団体・ボランティア)
- もう少し、貢献すべきである。(市民団体・ボランティア)
- 大学というと、やや敷居が高い気がします。県内各地(7市を中心)で移動公開講座があれば良いと思います。(市民団体・ボランティア)
- 婦人会や各種団体の研究会や講演会等に講師をお願いする事がありますが、大変好評で喜んで居ります。地元で大学のあると言う事は、受験生にとって強味だと思います。(市民団体・ボランティア)
- 県内唯一の大学であり、地域の失われゆく貴重な文化・歴史・自然を守り・研究し世界に伝えていくべきなのに、案外、地元が目がむいていない先生が多い。学生も、関心がとても薄いようだ。(報道・出版)
- グローカルという言葉がありますが、徹底して地域・地方にこだわる中で、グローバルな視点・姿勢を身につけさせる、そういう人材をつくるのが地方の国立大学の使命だと考えています。(報道・出版)
- 佐賀大学の教員が、その専門分野の研究を究めることは当然だが、それを学生だけでなく地域にどう生かしていくかを常に考えてほしい。地元新聞に仕事している関係から、地元新聞をそれら情報伝達の手段として活用方法を、積極的に考えていいのではないか。(報道・出版)
- 印象論だが、市民・県・市などが「我が郷土の大学」という強いイメージを持っていないような感じがする。PRを含め積極的に地域の大学、市民と交流できる大学を打ち出すべきだと思う。(報道・出版)
- 国立大学と見た場合、単に佐賀だけでなく、国際的、全国的にも、人材を養成すべきだが、現実的には地方大学は、地域とのかかわりも多く、一面は地域に役立つ人材養成も必要。理想的には地方大学でも、東京・大阪・京都・一橋・筑波大学などと同様になれば良いのだが簡単ではないと思う。従って、上記大学に負けない一つで良いから特色を出すことから初めてはどうか。(報道・出版)
- 総勢100名程度のローカルテレビ局です。本来なら多くの佐賀大学出身者が活躍する職場である筈ですが、佐大出身者は5指に入る程です。これまで期待して入社させますが、マスコミが苦手なのか?目立った活躍がないままです。「こじんまり」まとまった人が多く不満です。また、取材現場のアルバイトとしても同様ですが、覇気を感じる学生が少ないようです。あくまで小生の私見です。地域社会との関係・交流が目立つ事は、低湿地関係の研究・情報処理関係などですが、最近は農学部関連で目を引く研究がない様ですが(取材不足でしょうか?)。また、佐賀は古代から大陸との交流が盛んな所で、県全域に多くの遺跡が広がっています。ただ、考古学関連学部がなく、何かにつけ「九大」というのはざんねんです。(報道・出版)
- 地域社会との接触も重要であるが、国際的に通じる学問の研究機関であってほしい。(報道・出版)
- 一般の企業では、主義主張の異なる考え方を持つ人は排除され、十分な活躍の場が与えられないのが普通です。私の知る限りでは、佐賀大学には多彩な考え方を持つ方が、それぞれの場で活躍していच्छやると思います。大学は学問を追求する場でもあり、これからの若者に、多くの影響を与えるところでは、そういう意味でも自由な発想、発言、思考をさまたげないすばらしい大学をこれからも目指して頂きたいと思います。(報道・出版)
- 大学の特色を出すためには、佐賀大学の場合は地域についての研究交流が欠かせない。大学自体もそれを意識され、かなりの分野で積極的に地域研究・交流活動を進めてこられていると思う。(報道・出版)
- 佐賀県文化団体協議会では、佐賀大学の先生方にいろいろご指導をいただき感謝しております。また、県の行政審議会、委員会に委員として出席する機会も多かったのですが、そうした会議の席上で佐賀大学の先生方の熱心なご発言にたいへん教えられる事が多かったと思います。これからは県や市町村にお力をかけていただくよう、大いに期待いたします。(文化・芸術)
- 現在どのような交流が行われているか、よく知らないのだが、回答も現在自分がいたい漠然とした感じで行いました。大学との交流や関係は、どうしても中央地域に片寄る傾向にあり、中央よりはなれた地域、特に西部地域に対する交流が少ないように思う。例えば地域的な、県民大学講座等の開設が欲しいと思う。(文化・芸術)

術)

- 地域の人々は地元大学をもっと大切に思うべきである。また大学側でも地域の人々の信頼に応じられる存在でなければならない。(佐賀県)「読書グループ連絡協議会」の講師としてよくお願いすることがあるが、なかなか簡単には来て戴けない場合が多い。もっと民間との交流をよくして戴きたい。佐大は学部によっては地方色の濃い研究をするべきであるが、一般的には、日本中どこにでも通用する高度な学問をさせる学校であってほしい。(文化・芸術)
- 佐賀大学概要等は勿論、大学広報誌を地域にも紹介いただき、もう少し身近な大学と地域社会との交流を深めていただきたい。佐賀県は佐賀大学、医科大学のみで、県民意識向上のためにも“開かれた大学”として専攻の成果をお願いします。共同利用施設の豊富、留学生が多く、アジアをはじめ世界の頭脳の学府として伸展されることは県民の誇りであります。(文化・芸術)
- 県内唯一の国立大学として自信を誇り、オリジナリティを時代の流れ変動に応じて考えてほしい。旧態然とした雰囲気現代性は感じられない。学生が明るくない自由ではない又、固定観念にとらわれているような気がする。大学に入って秀れた教授との出会い、リベラルな空気が流れることに期待したい。教授陣にも若い人をどんどん登用すべきだと思う。そして質の向上も大切、年功序列は弊害も多いと思う。(文化・芸術)
- 地域文化のリーダーとしての魅力に乏しい。殊に施設面に於ける充実が欲しい。(文化・芸術)
- 地域との交流を望む。(文化・芸術)
- 商店街診断・地域活性化事業・システム化事業等々国県の補助事業推進の中核となる学識者として、佐大教授の指導をうけ大変恩恵をうけ推進する事が出来、大変感謝致して居ります。(文化・芸術)
- 他の大学に比べ、キャンパスが荒れている。学生の一般的な教養を高める様にして貰いたい。キャンパス内の自転車の放置、煙草、ごみの放置は校門を這入り、各室へ通じる路上等甚だしい。学生一人ひとりの事と思うが、指導の関係部長・学長の指導の欠力とも思われる。(文化・芸術)
- 佐賀大学の職員が友人にいます。又、卒業生も数人いますが、学校について、又、それらしい話はしないので、具体的にはよくわかりません。(文化・芸術)
- ごく最近のことは、つぶさに知りませんが、県内唯一の国立大学として、教育関係の仕事に関わる人々の養成機関といったイメージを感じます。もう少し、幅広い活動を期します。(文化・芸術)